

会津若松市斎場新築工事

建築主体工事



会津若松市斎場 新築工事 設計図

建築主体工事



図面目録

会津若松市斎場新築

No.	図面名称	縮尺	No.	図面名称	縮尺	No.	図面名称	縮尺
A - 01	表紙		A - 37	男子、女子 便所 矩計図	S=1/30	S - 01	鉄筋コンクリート配筋標準図 No. 1	
A - 02	図面目録		A - 38	炉前ホール、告別ホール 平面詳細図	S=1/50	S - 02	鉄筋コンクリート配筋標準図 No. 2	
A - 03	工事概要書 No. 1		A - 39	炉前ホール、告別ホール 展開図	S=1/50	S - 03	鉄筋コンクリート配筋標準図 No. 3	
A - 04	工事概要書 No. 2		A - 40	収骨室、前室 平面詳細図、展開図	S=1/50	S - 04	鉄筋コンクリート配筋標準図 No. 4	
A - 05	特記仕様書 No. 1		A - 41	収骨室前室 展開図	S=1/50	S - 05	鉄筋コンクリート配筋標準図 No. 5	
A - 06	特記仕様書 No. 2		A - 42	男子、女子 便所 平面詳細図、展開図	S=1/50	S - 06	鉄筋コンクリート配筋標準図 No. 6	
A - 07	特記仕様書 No. 3		A - 43	便所前室、湯沸室 展開図	S=1/50	S - 07	福島県鉄骨仕様標準図 No. 1	
A - 08	特記仕様書 No. 4		A - 44	待合ホール 平面詳細図、展開図	S=1/50	S - 08	福島県鉄骨仕様標準図 No. 2	
A - 09	特記仕様書 No. 5		A - 45	エントランスホール 平面詳細図、展開図	S=1/50	S - 09	福島県鉄骨仕様標準図 No. 3	
A - 10	屋根防水工事、下地及び押入コンクリート工事仕様書		A - 46	事務室 平面詳細図、展開図	S=1/50	S - 10	福島県鉄骨仕様標準図 No. 4	
A - 11	内装工事仕様書 No. 1		A - 47	便所、シャワー室、湯沸室 平面詳細図、展開図	S=1/50	S - 11	福島県鉄骨仕様標準図 No. 5	
A - 12	内装工事仕様書 No. 2		A - 48	車庫、倉庫 平面詳細図、展開図	S=1/50	S - 12	福島県鉄骨仕様標準図 No. 6	
A - 13	木製建具工事標準図		A - 49	階段 詳細図	S=1/30	S - 13	基礎、地中梁伏図	S=1/100
A - 14	案内図		A - 50	建具KEYPLAN 1階	S=1/100	S - 14	1階柱、2階梁伏図	S=1/100
A - 15	敷地面積求積図	S=1/200	A - 51	建具KEYPLAN 2階	S=1/100	S - 15	2階柱、R階梁伏図	S=1/100
A - 16	配置図	S=1/200	A - 52	建具表 No. 1	S=1/50	S - 16	柱 配筋リスト	S=1/30
A - 17	新築部分 面積計算図	S=1/200	A - 53	建具表 No. 2	S=1/50	S - 17	梁 配筋リスト No. 1	S=1/30
A - 18	既存建物、解体建物 面積計算図	S=1/200	A - 54	建具表 No. 3	S=1/50	S - 18	梁 配筋リスト No. 2	S=1/30
A - 19	室別 面積計算図 排煙 面積計算図	S=1/200	A - 55	建具表 No. 4	S=1/50	S - 19	梁 配筋リスト No. 3	S=1/30
A - 20	現況 平面測量図	S=1/200	A - 56	建具表 No. 5	S=1/50	S - 20	基礎詳細図 No. 1	S=1/30
A - 21	現況 断面測量図	S=1/200	A - 57	建具表 No. 6	S=1/50	S - 21	基礎詳細図 No. 2	S=1/30
A - 22	敷地 横断面図	S=1/200	A - 58	建具表 No. 7	S=1/50	S - 22	軸組図 No. 1	S=1/100
A - 23	敷地 縦断面図	S=1/200	A - 59	部分詳細図 No. 1		S - 23	軸組図 No. 2	S=1/100
A - 24	外構工事 平面図	S=1/200	A - 60	部分詳細図 No. 2		S - 24	軸組図 No. 3	S=1/100
A - 25	外部、内部 仕上表		A - 61	部分詳細図 No. 3		S - 25	軸組図 No. 4	S=1/100
A - 26	1階 平面図	S=1/100				S - 26	ラーメン詳細図 No. 1	S=1/30
A - 27	2階 平面図	S=1/100				S - 27	ラーメン詳細図 No. 2	S=1/30
A - 28	屋根伏図 断面図	S=1/100				S - 28	スラブ、壁 配筋リスト	S=1/30
A - 29	立面図 南面 西面	S=1/100				S - 29	ベタ基礎 詳細図	S=1/30
A - 30	立面図 北面 東面	S=1/100				S - 30	各部配筋詳細図	S=1/30 S=1/20
A - 31	1階 天井伏図	S=1/100				S - 31	車寄 構造図	S=1/100 S=1/30
A - 32	2階 天井伏図	S=1/100				S - 32	渡り廊下 構造図	S=1/30 S=1/50 S=1/20
A - 33	一般矩計図	S=1/30						
A - 34	炉前ホール、告別ホール 矩計図	S=1/30						
A - 35	作業室 矩計図	S=1/30						
A - 36	車寄、エントランスホール 矩計図	S=1/30						

工 事 概 要 書

1. 工事名称その他

工事名称	会津若松市斎場新築工事	建築主	会津若松市長 早川広中	建設地 地名地番	会津若松市門田町大字黒岩 字石高甲833番地	主要用途	火葬場	工事種別	新築・増築・改築・改修・模様替・その他
------	-------------	-----	-------------	-------------	---------------------------	------	-----	------	---------------------

2. 敷地状況

敷地面積	都市計画区域	用途地域	防火地域	道路種別幅員	都市計画道路	規制地域等の指定	その他の許可届出等（根拠法令等・届出・許可番号・年月日）
3,343.0805 m ²	○内 ・市街化区域 ○市街化調整区域 ・外	・第1種住専・第2種住専 ・住居・近隣商業・商業 ・準工業・工業・工業専用○無	・防 火 ・爆防火 ○無	○前面 市道 m ・背面 道 m	・右側面 道 m ・左側面 道 m	○無・計画決定・事業決定 ・名称幅員 ・処置	・騒音規制 ・振動規制 ・その他

3. 構造・規模面積

		計 画 部 分	計 画 以 外 の 部 分	合 計	棟 別 名	構 造	基 礎 工 法	階 数	建築面積	床 面 積					備 考
										1 階	2 階	地 下 階	合 計		
建築面積		1,120.9285 m ²	332.51265 m ²	1,453.44115 m ²	火葬場	RC 2F	直接 独立	1	1,120.9285	947.3575	56.20		1,003.5575		
延べ面積		1,003.5575 m ²	332.51265 m ²	1,336.07015 m ²											
各種高さ	最高高さ	7.7 m	増築予定 ○有 ・無	建ぺい率 43.48 %	その他（ビロティ・バルコニー・ドライエリア・屋外階段・テラス・ぬれえん・吹抜等）										
	最高軒高	6.7 m													
	居室の床高	20 cm													
	その他														
				容 積 率 39.97 %											

4. 法規制概要

項 目		規 制 概 要	計画実施概要	適否	備 考 (参照図面等)	項 目		規 制 概 要	計画実施概要	適否	備 考 (参照図面等)	項 目		規 制 概 要	計画実施概要	適否	備 考 (参照図面等)
一般事項	建 ぺ い 率		43.48			防火規制	屋 根		727mm防水 コンクリート押入	適		消防規制					
	容 積 率		39.97				延焼のおそれのある部分	外 壁									
	斜線制限	道 路					防火区画	軒 裏									
		隣 地						位 置	異種用途区画	車庫	適						
	北 側 (日影規制)							構 造	耐火構造	RC造	適						
	最 高 の 高 さ						区画部の外 壁	耐火構造	RC造	適							
	最 高 の 軒 の 高 さ							貫 通 部 の 処 理	不燃材料	実施	適	その他の					
	床 高					防火戸	防火戸	乙種防火戸以上	甲種防火戸 常時閉鎖式	適							
	地域規模による構造 (耐火・簡耐火等)						防火戸 感知器とその位置	他用途境界部分	実施	適							
一般構造及び設備規制							内 装 制 限	要 延1.00m ² 以上	実施	適							
	階 段	幅 員 (踊 場)	75 cm 以上	適		避難規制	廊 下 の 幅 員	除外		適	3室以下専用						
		廊上・踏面	22 cm 以下 21 cm 以上	適			階段の数及び種類	除外			管理用						
		手 摺 高	110 cm 以上	適			階段との歩行距離	除外			管理用						
	屋上広場等の手摺高 (バルコニー含)					非常用照明	排 煙	令第13-2-1 要S47条-33-3	居室以外 100m ² 以内 居室 自然排煙	適							
	有効採光面積の算定		A/20 以上	適			非 常 用 照 明	要 延1.00m ² 以上	実施	適	居室、通路						
	居 室 の 換 気		A/10 以上	適			非 常 用 の 進 入 口	不要									
	電 気 計 画						敷地内の避難通路	要		適							
	便 所 ・ 浄 化 槽		1-1 集会所	50人槽単独処理	適		非常用出口の解説方法及び表示	要	実施	適							

5. 工事範囲

種 別	有 含む	無 別途	備 考
電 気	受 変 電	○	
	自 家 発 電	○	
	蓄 電 池		○
	非常照明	○	
	電 灯 ・ コ ン セ ン ト	○	
	照 明 器 具	○	
	避 雷 針		○
	電 話	○	
	イ ン タ ー ホ ン	○	
	拡 声	○	
	電 気 時 計	○	
	表 示 警 報		○
	テ レ ビ ・ ラ ジ オ 共 同 受 信	○	
	火 災 報 知	○	
給 排 水 衛 生	住 宅 情 報 機 器		○
	給 水	○	
	給 湯	○	
	排 水 ・ 通 気	○	
	衛 生 器 具	○	
	消 火 栓		○
	ガ ス	○	
	し 尿 浄 化 槽	○	
冷 暖 房 換 気	空 気 調 和	○	
	暖 房	○	
	冷 房	○	
	換 気	○	
昇 降 機	エ レ ベ ー タ ー		
	ダ ム ウ ェ タ ー		
準 備	敷 地 造 成		○
	既 存 物 件 の 処 理	○	
	擁 壁		○
	道 路 補 償		○
	解 体 工 事	○	
仕 上	移 転 工 事		○
	可 動 間 仕 切		○
外 構	造 付 家 具	○	
	カーテンボックス	○	
	造 園		○
そ の 他	構 内 施 設		○
	門		○
	塀		○
	外 灯	○	
	屋 外 排 水	○	
	駐 車 場 設 備		○
	シャッター	○	
	自 動 ド ア		○
	エアーカーテン		○
	非常用救助袋		○
	移 動 家 具		○
	そ の 他 の 備 品		○
	カーテン類	○	
	カーペット類	○	
	マ ッ ト	○	
	ダストシュート		○
	郵便受		○
	靴 洗 器 具		○
	表 示 板 文 字	○	
	掲 示 板	○	
	装 飾 物		○

6. 建築・機械
電気各工事の
分担区分表
(※適用欄○印
が該当する。)

工 事 区 分	建 築	空 調	衛 生	電 気	昇 降 機	対 外 機	備 考
各 工 事 共 通	機械搬入口の設置 (ELV用含む)	○					開口部補強及び搬入後閉鎖含む
	機械搬入用吊り下げビーム又はフック	○					位置、t数
	ボイラー用自家発電用煙突工事 (接続フランジ含む) (耐火被覆の穴明けを含む)	○		○	○		煙突までの煙導及び接続は各設備工事
	梁の貫通スリーブの補強	○					スリーブ及び周辺モルタル充填は設備工事
	床・壁の貫通穴及び貫通スリーブ		○	○			周辺補強は建築工事
	各壁面ガラリ、フード並びに通風板	○					機械換気用については設備工事
	パイプシャフト及び点検口、シャフト内デッキ	○					パイプユニット取付用金物は設備工事
	天井・壁・床の改め口 (点検機作用)	○					
	天井・壁・床・貫通パイプ等の穴埋め		○	○			
	屋内外トレンチ及び便所ビットの築造	○					
電 気	外装関連貫通パイプ等周辺のコーキング	○					
	電ケーブル引込みマンホール			○			特殊なものは建築工事
	電力ケーブル引込みマンホール			○			
	電気等の床ビット及びセパレータ、蓋工事	○					
	変圧器等床ビット基礎工事	○					
	自家発電機器の床補強・機器基礎工事	○					
	の床ビット及び蓋工事	○					
	の天井ビーム・フック工事	○					
	の地下ケーブル・オイル配管工事	○					自家発電室内は電気工事
	の水配管工事		○				
昇 降 機	埋込照明器具及びスピーカの取付用地下地盤補強	○		○			切込み並びに補強共 (墨出しは電気)
	軽鉄間仕切壁に取付ける熱パイプ貫通の補強	○					
	電動シャッターの配管配線 (接続迄)			○			本体は建築
	オートドアの電源供給配管・配線 (接続迄)			○			
	防火戸の煙遮断制御盤及び配管・配線 (接続迄)			○			
	可動間仕切内配管工事 (接続迄)			○			
	アンテナ・マスト等基礎工事	○					
	蓄熱槽の築造工事	○					断熱工事、連通管、マンホール クラップ、清掃を含む 躯体は設備工事
	オイルタンク基礎及び外廊のコンクリート工事	○					機器アンカー並びに仕上工事は空調
	冷凍機・冷却塔の床補強・機器基礎工事	○					
空 調	ポンプ、空調機、ファン等の機器基礎工事	○					
	天井、吹出し等の取付用下地枠	○					切込み補強共 (墨出しは空調)
	照明器具併設吹出し口			○			
	吸気用ガラリ	○	○				
	窓下ファンコイルユニットの化粧部	○					吹出口、点検口を含む
	ファンコイル用配管配線 (3Pコンセント迄)			○			100V電源
	手元調整器		○				
	自動制御関係計器類		○				
	自動盤 (現場) 以降の配管配線		○				
	天井換気扇 (100V単独運転の電源は電気工事)	○					全熱交換形のコントロールス イッチは空調
機 械	壁換気扇	○	○				
	地下各種水槽及びビットの躯体	○					マンホール・クラップ 清掃を含む
	地上受水槽基礎、フェンス築造	○					
	高架水槽、貯湯槽ポンプ等の床補強及び機器基礎	○					機器アンカー及び仕上工事は衛生
	機械室厨房等の排水溝及び蓋工事 (車庫)	○					パイプユニット及びセパレータは衛生
	天井・床・壁の点検口	○					点検用梯子・保守台を含む
	造り付流し、ガス台 (配管の特殊な穴あけを含む)	○					台内配管の周辺ふさは衛生
	便器取付開口部	○					切込み・補強共 (墨出し・枠は衛生)
	雨 樋	○					立樋受以降の横引配管は衛生
	フロートスイッチ、フロートレススイッチ取付			○			
設 備	同上用配管配線			○			
	浄化槽用動力工事			○			
	鏡及び化粧棚 (洗面器上部)			○			意匠図に図示した特殊なものは建築
	屋外防火用水槽	○					
	屋外浄化槽躯体兼用貯水タンク築造	○		○			
	軽鉄間仕切に取付ける消火栓湯沸器等の補強 (パイプ貫通含む)	○					切込み並びに補強 (墨出しは衛生)
	機械室・シャフト・ビット躯体	○					機械室軽量コンクリート打設含む
	出入口・インジケーター押釦の穴あけ			○			補強は建築
	機械室床機械据付用穴あけ	○					(墨出しは昇降機)
	機械室内配線ダクト穴あけ	○					(は電気)
昇 降 機	機械室内仕上及び天井機械吊り上げ用フック	○					
	出入口等取付後の床・壁・天井仕上	○					
	換気設備及び付属電気設備			○			
	電源引込			○			
	接地工事			○			
	昇降路外の監視盤・機作用線及びインターホン用配線引込み			○			配管は電気
	BGM用配線引込工事			○			
	機械室ビット内コンセント工事			○			
	エレベーター監視盤製作及び据付			○			
機 械							
設 備							

⑧ コンクリートの所要スランブ ⑨ コンクリートの所要空気量 10. 寒中コンクリート ⑪ 無筋コンクリートの割合 ⑫ コンクリート仕上面の種別及び精度	(住5.3.1)(営6.3.1) <table> <tr> <th>箇 所</th><th>ス ラ ン ブ (cm)</th></tr> <tr> <td>床 版、壁、柱、梁</td><td>※ 18・21・()</td></tr> <tr> <td>基 礎、地 中 梁</td><td>※ 15・18・()</td></tr> </table> (住5.3.2表)(営6.3.2) <table> <tr> <th>種 別</th><th>空 気 量 %</th><th>許 容 量 %</th></tr> <tr> <td>普通コンクリート</td><td>4.5</td><td>± 1</td></tr> <tr> <td>軽量コンクリート</td><td>5</td><td>± 1.5</td></tr> </table> ※適用しない・適用する(適用期間 月) (住5.8.1)(営6.8.1) (住5.9.1表)(営6.9.1表) <table> <tr> <th>設計基準強度 (kg/cm²)</th><th>スランブ (cm)</th><th>適用 箇 所</th></tr> <tr> <td rowspan="2">※150 ・180</td><td>・12 ○15 ・18 ・()</td><td>土間コンクリート 街きよ、縁石、側溝等のコンクリート及びこれらの基礎コンクリート。</td></tr> <tr> <td>・12 ○15 ・18 ・()</td><td>機械室などで用いる配管埋設用コンクリート 防水押えコンクリート</td></tr> </table> ※外構整備工事にかかる場合には〔第20章〕外構整備工事による。 <table> <tr> <th>部 位</th><th>種 別</th><th>用 途</th><th>仕上がり精度 (mm)</th><th>こて仕上げ回数</th></tr> <tr> <td rowspan="3">床</td><td>・1種</td><td>居室の敷物、張り物等の下地</td><td>+3</td><td>1 2</td></tr> <tr> <td>○2種</td><td>通路等の仕上げ、アスファルト防水等の下地</td><td>±5</td><td>1 2</td></tr> <tr> <td>○3種</td><td>屋根防水押えコンクリート仕上げ</td><td>+5</td><td>1 1</td></tr> <tr> <td>壁、天井、柱、梁</td><td>4種</td><td>塗装及び吹付(仕上げ塗材)、壁紙張りの下地、S工法(あと張)RC工法の下地</td><td>+3</td><td>—</td></tr> </table> (注) 1. 仕上がり精度は、仕上げ面の高低、凹凸のいずれの部分も、長さ2m以内における設計基準面からの測定とする。 2. 種別4はJISA6916(セメント系下地調整塗材)で処理した後の仕上がり精度とする。	箇 所	ス ラ ン ブ (cm)	床 版、壁、柱、梁	※ 18・21・()	基 礎、地 中 梁	※ 15・18・()	種 別	空 気 量 %	許 容 量 %	普通コンクリート	4.5	± 1	軽量コンクリート	5	± 1.5	設計基準強度 (kg/cm ²)	スランブ (cm)	適用 箇 所	※150 ・180	・12 ○15 ・18 ・()	土間コンクリート 街きよ、縁石、側溝等のコンクリート及びこれらの基礎コンクリート。	・12 ○15 ・18 ・()	機械室などで用いる配管埋設用コンクリート 防水押えコンクリート	部 位	種 別	用 途	仕上がり精度 (mm)	こて仕上げ回数	床	・1種	居室の敷物、張り物等の下地	+3	1 2	○2種	通路等の仕上げ、アスファルト防水等の下地	±5	1 2	○3種	屋根防水押えコンクリート仕上げ	+5	1 1	壁、天井、柱、梁	4種	塗装及び吹付(仕上げ塗材)、壁紙張りの下地、S工法(あと張)RC工法の下地	+3	—	② 鉄筋の継手 (住7.2.1)(営5.2.1) <table> <tr> <th>接 合 方 法</th><th>径 (mm)</th><th>施 工 箇 所</th></tr> <tr> <td>※重ね 継 手</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>○ガ ス 圧 接</td><td>20、25</td><td>はり、柱の主筋</td></tr> <tr> <td>・()</td><td></td><td></td></tr> </table> ③ 溶接金網 ※JIS規格品・() (住7.1.3)(営5.1.3) 使用箇所 ○(床版) 車椅子 <table> <tr> <th>形 状</th><th>○正 方 形・長 方 形</th></tr> <tr> <th>寸 法</th><td>・50・75 ○100・150・()</td></tr> <tr> <th>鉄 線 の 径</th><td>・2.6 ○3.2・4.0・5.0・6.0・()</td></tr> </table> 福島県土木部監修「福島県鉄筋コンクリート配筋標準図」(昭和61年版)による。 ○耐久上不利な箇所などの鉄筋のかぶり厚 <table> <tr> <th>施 工 箇 所 等 (注)</th><th>最小かぶり厚さ (mm)</th></tr> <tr> <td>コンクリート床版 (中央部、壁・柱等)</td><td>30・35・60・()</td></tr> <tr> <td>・塩分含有量が0.1%を超える細骨材を使用する場合</td><td>※配筋標準図4.1.1表の値+10 (床版を除く)・()</td></tr> </table> (注) 壁外に面するコンクリート打放し箇所、海水の作用を受ける箇所、化学実験室等の箇所 ④ 配筋 福島県土木部監修「鉄骨仕様標準図」(昭和61年版)による。 規格 ※規格品 (住8.2.7-2)(営7.2.7(b))の試験に合格するもの。 ※特殊高力ボルト(セットの種類はJIS高力ボルト2種同等) ・JISの高力ボルト 製造所 監督員の承諾を受けたもの。(住8.2.3)(営7.2.3) ⑤ スタッド溶接用材料 5. 溶接部の検査 <table> <tr> <th>試験の種別</th><th>試験箇所</th><th>試験数</th><th>備 考</th></tr> <tr> <td>・超音波探傷試験</td><td></td><td></td><td>抜取率、抜取方法は(住8.3.9(a)(5)(4))、(営7.5.9(a)(5))による。</td></tr> </table> ⑥ JIS K5622 1種 塗付量0.19kg/m² (JIS K 塗付量 kg/m²) 鉄面の素地ごしえ <table> <tr> <th>工 程</th><th>種 別</th><th>塗 料</th><th>面 の 処 置</th><th>備 考</th></tr> <tr> <td rowspan="4">1 汚 れ、付 着 物 除 去</td><td>○</td><td>—</td><td>スクレーパー、ワイヤブラシなどで除去</td><td>—</td></tr> <tr> <td>○</td><td>—</td><td>揮発油ぶき、石けん水洗い又は弱アルカリ性液加熱処理湯洗い。水洗い。</td><td>—</td></tr> <tr> <td>—</td><td>○</td><td>揮発油ぶき。</td><td>—</td></tr> <tr> <td>—</td><td>○</td><td>酸づけ、中和、湯洗いにより除去。</td><td>—</td></tr> <tr> <td rowspan="2">2 油 類 除 去</td><td>○</td><td>—</td><td>揮発油ぶき。</td><td>—</td></tr> <tr> <td>—</td><td>○</td><td>酸づけ、中和、湯洗いにより除去。</td><td>—</td></tr> <tr> <td rowspan="2">3 さび落とし</td><td>○</td><td>—</td><td>ブラスト法により除去。</td><td>—</td></tr> <tr> <td>—</td><td>○</td><td>ディスクサンダー又はスクレーパー、ワイヤブラシ、研磨紙#100~180で除去。</td><td>—</td></tr> <tr> <td rowspan="2">4 化学処理</td><td>○</td><td>—</td><td>りん酸塩溶液に浸せき処理後湯洗い乾燥。</td><td>—</td></tr> <tr> <td>—</td><td>○</td><td>りん酸塩溶液に浸せき処理後湯洗い乾燥。</td><td>—</td></tr> </table> (注) A種の場合は工程4、B種の場合は工程3の後放置せず、ただちにジョブプライマー塗りを行い、次の工程に移る。但し、ジョブプライマーは上塗りに適したものである。	接 合 方 法	径 (mm)	施 工 箇 所	※重ね 継 手			○ガ ス 圧 接	20、25	はり、柱の主筋	・()			形 状	○正 方 形・長 方 形	寸 法	・50・75 ○100・150・()	鉄 線 の 径	・2.6 ○3.2・4.0・5.0・6.0・()	施 工 箇 所 等 (注)	最小かぶり厚さ (mm)	コンクリート床版 (中央部、壁・柱等)	30・35・60・()	・塩分含有量が0.1%を超える細骨材を使用する場合	※配筋標準図4.1.1表の値+10 (床版を除く)・()	試験の種別	試験箇所	試験数	備 考	・超音波探傷試験			抜取率、抜取方法は(住8.3.9(a)(5)(4))、(営7.5.9(a)(5))による。	工 程	種 別	塗 料	面 の 処 置	備 考	1 汚 れ、付 着 物 除 去	○	—	スクレーパー、ワイヤブラシなどで除去	—	○	—	揮発油ぶき、石けん水洗い又は弱アルカリ性液加熱処理湯洗い。水洗い。	—	—	○	揮発油ぶき。	—	—	○	酸づけ、中和、湯洗いにより除去。	—	2 油 類 除 去	○	—	揮発油ぶき。	—	—	○	酸づけ、中和、湯洗いにより除去。	—	3 さび落とし	○	—	ブラスト法により除去。	—	—	○	ディスクサンダー又はスクレーパー、ワイヤブラシ、研磨紙#100~180で除去。	—	4 化学処理	○	—	りん酸塩溶液に浸せき処理後湯洗い乾燥。	—	—	○	りん酸塩溶液に浸せき処理後湯洗い乾燥。	—	⑩ 柱底ならしモルタル 工法・A種・B種 (住8.7.2表)(営7.8.2表) 無収縮モルタルの製造所 監督員の承諾を受けたもの。 ・吊足場・() 監督員の承諾を受けたもの。 ⑪ 鉄骨足場 ⑫ 鉄骨の製作所 ⑬ 空洞コンクリートブロック 1) 種 別 <table> <tr> <th>適用箇所</th><th>種 別</th><th>厚 さ</th></tr> <tr> <td>間仕切壁、地下二重壁、外壁、耐力壁</td><td>・C種・普通</td><td>○100 ・150 ・()</td></tr> <tr> <td>外壁(化粧積み)</td><td>・C種・防水</td><td>・120 (H=2m未満) ・150 (H=2m以上)</td></tr> </table> ※異形鉄筋SD30・() (住9.1.2)(営8.1.2) 設計基準強度(kg/cm²) ※180・() (住9.1.5)(営8.1.5) <table> <tr> <th>用 途</th><th>主 筋</th><th>配 力 筋</th></tr> <tr> <td>内 壁</td><td>D10-400 @</td><td>D10-400 @</td></tr> <tr> <td>外 壁</td><td>D13-400 @</td><td>D10-400 @</td></tr> </table> 2. プレキャストコンクリート版 3. ALCパネル 1) 種 別 2) 目地用鉄筋 3) 外壁パネルの取り付け工法 <table> <tr> <th>種 別</th><th>工 法</th><th>取 付 け 方 法</th></tr> <tr> <td>・A種</td><td>パネル縦使いスライド</td><td>(1) パネル上端は長辺接合部を可動となる目地用鉄筋付き特殊金物(径9mm以上、長さ500mm以上)で接合し、モルタルを充てんする。 (2) パネル下端は長辺接合部を固定されたパネル受け金物(厚さ6mm以上)に目地用鉄筋(径9mm以上、長さ500mm以上)をそう入し、モルタルを充てんする。</td></tr> <tr> <td>・B種</td><td>パネル縦使いそう入筋</td><td>(1) パネル上端は長辺接合部を固定された上部取付金物(厚さ6mm以上)に目地用鉄筋(径9mm以上、長さ500mm以上)をそう入し、モルタルを充てんする。 (2) パネル下端は長辺接合部を固定されたパネル受け金物(厚さ6mm以上)に目地用鉄筋(径9mm以上、長さ500mm以上)で溶接接合し、モルタルを充てんする。</td></tr> <tr> <td>・C種</td><td>パネル横使いカバープレート</td><td>パネルの左・右端はカバープレート(厚さ2.3mm以上)で接合する。</td></tr> <tr> <td>・D種</td><td>パネル横使いボルト留め</td><td>パネルの左・右端はボルト(径9mm以上)で接合する。</td></tr> </table> 4) 間仕切壁パネルの取り付け工法 <table> <tr> <th>種 別</th><th>工 法</th><th>取 付 け 方 法</th></tr> <tr> <td>・A種</td><td>パネル縦使い</td><td>(a) パネル上端は下記のいずれかによる。 (1) はり、床版などの下面にパネル厚さに応じた溝形鋼を通しに取付ける。この場合パネルの建入れに先立ちロックウールなどを厚さ20mm程度充てんする。 (2) 上記(1)の工法で、溝形鋼のかわりに、一方は通しの山形鋼を、他方は同材のピースで取付ける。 (b) パネル下端は各目地ごとに長さ500mm以上の目地用鉄筋をそう入して取付ける。</td></tr> <tr> <td>・B種</td><td>パネル縦使い</td><td>外壁パネル工法のB種による。</td></tr> <tr> <td>・C種</td><td>パネル横使い</td><td>外壁パネル工法のC種による。</td></tr> <tr> <td>・D種</td><td>パネル横使い</td><td>外壁パネル工法のD種による。</td></tr> </table> 4. レンガ積 普通レンガの種類JIS R1250 (住9.3.1) ※1種・2種・3種 (営8.2.2)	適用箇所	種 別	厚 さ	間仕切壁、地下二重壁、外壁、耐力壁	・C種・普通	○100 ・150 ・()	外壁(化粧積み)	・C種・防水	・120 (H=2m未満) ・150 (H=2m以上)	用 途	主 筋	配 力 筋	内 壁	D10-400 @	D10-400 @	外 壁	D13-400 @	D10-400 @	種 別	工 法	取 付 け 方 法	・A種	パネル縦使いスライド	(1) パネル上端は長辺接合部を可動となる目地用鉄筋付き特殊金物(径9mm以上、長さ500mm以上)で接合し、モルタルを充てんする。 (2) パネル下端は長辺接合部を固定されたパネル受け金物(厚さ6mm以上)に目地用鉄筋(径9mm以上、長さ500mm以上)をそう入し、モルタルを充てんする。	・B種	パネル縦使いそう入筋	(1) パネル上端は長辺接合部を固定された上部取付金物(厚さ6mm以上)に目地用鉄筋(径9mm以上、長さ500mm以上)をそう入し、モルタルを充てんする。 (2) パネル下端は長辺接合部を固定されたパネル受け金物(厚さ6mm以上)に目地用鉄筋(径9mm以上、長さ500mm以上)で溶接接合し、モルタルを充てんする。	・C種	パネル横使いカバープレート	パネルの左・右端はカバープレート(厚さ2.3mm以上)で接合する。	・D種	パネル横使いボルト留め	パネルの左・右端はボルト(径9mm以上)で接合する。	種 別	工 法	取 付 け 方 法	・A種	パネル縦使い	(a) パネル上端は下記のいずれかによる。 (1) はり、床版などの下面にパネル厚さに応じた溝形鋼を通しに取付ける。この場合パネルの建入れに先立ちロックウールなどを厚さ20mm程度充てんする。 (2) 上記(1)の工法で、溝形鋼のかわりに、一方は通しの山形鋼を、他方は同材のピースで取付ける。 (b) パネル下端は各目地ごとに長さ500mm以上の目地用鉄筋をそう入して取付ける。	・B種	パネル縦使い	外壁パネル工法のB種による。	・C種	パネル横使い	外壁パネル工法のC種による。	・D種	パネル横使い	外壁パネル工法のD種による。	⑬ 防 水 工 事 ① 一般事項 ② アスファルト防水 1) アスファルト防水層の種類別 <table> <tr> <th>施 工 箇 所</th><th>工 法</th><th>種 別</th></tr> <tr> <td>屋 根</td><td>屋根保護防水層</td><td>・A-1・※A-2・A-1-1</td></tr> <tr> <td></td><td>屋根露出防水層</td><td>・A-1-2・B-1・B-2</td></tr> <tr> <td>屋 内</td><td>地下室、貯水そう及び屋内防水層(密着工法)</td><td>・C-1・※C-2・D-1・D-2</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td>※E-1・※E-2</td></tr> </table> ※4種・() (住10.2.2)(営9.1.2) 2) 防水工用のアスファルトの種類 3) アスファルトフーフィング (住10.4.1)(営9.2.1) <table> <tr> <th>分 類</th><th>厚 さ</th><th>使用分</th><th>表面仕上</th><th>施 工 箇 所</th></tr> <tr> <td>※加 硫</td><td>※1.2</td><td>・非歩行</td><td>・カラー</td><td rowspan="2">・保護コンクリート(mm)</td></tr> <tr> <td>ゴ ム 系</td><td>・1.5 ・2.0</td><td>・軽歩行</td><td>・シルバー</td></tr> <tr> <td>・非 加 硫</td><td>※2.0</td><td>・非歩行</td><td>・カラー</td><td rowspan="2">・保護コンクリート(mm)</td></tr> <tr> <td>ゴ ム 系</td><td>・</td><td>・軽歩行</td><td>・シルバー</td></tr> <tr> <td>・塩化ビニル</td><td>※2.0</td><td>・非歩行</td><td>・カラー</td><td rowspan="2">・保護コンクリート(mm)</td></tr> <tr> <td>樹 脂 系</td><td>・2.5</td><td>・軽歩行</td><td>・シルバー</td></tr> </table> 4. 塗膜防水 (住10.3.1)(営9.3.1) <table> <tr> <th>分 類</th><th>厚 さ</th><th>使用分</th><th>表面仕上</th><th>施 工 箇 所</th></tr> <tr> <td>ノ ン ター ル</td><td>※2.0</td><td>・非歩行</td><td>・カラー</td><td rowspan="2">・保護コンクリート(mm)</td></tr> <tr> <td>ウ レ タ ン 系</td><td>・</td><td>・軽歩行</td><td>・シルバー</td></tr> </table> 5. コンクリート防水 ④ 水張り試験施工方法及び保証書 (住10.5.1)(営9.4.1) <table> <tr> <th>施 工 箇 所</th><th>水 張 り 試 験</th><th>施 工 標</th><th>保 証 書</th></tr> <tr> <td rowspan="2">・A種</td><td>○行・行わない</td><td>・あり・なし</td><td>※提出する・しない</td></tr> <tr> <td>・行・行わない</td><td>・あり・なし</td><td>※提出する・しない</td></tr> <tr> <td rowspan="2">・B種</td><td>○行・行わない</td><td>・あり・なし</td><td>※提出する・しない</td></tr> <tr> <td>・行・行わない</td><td>・あり・なし</td><td>※提出する・しない</td></tr> </table> ⑤ シーリング <table> <tr> <th>種 別</th><th>材 質</th><th>施 工 箇 所</th><th>寸 法</th></tr> <tr> <td>・A種</td><td>※シリコーンシーリング材(1成分形) 高モジュラス系</td><td>・ガラス突き合せ目地 ・ステンレス金具目地 ・プラスチック金具目地 ・バスタブ、洗面所まわり ・()</td><td rowspan="2">4×7 10×15</td></tr> <tr> <td>・B種</td><td>・シリコーンシーリング材(1成分形) 低モジュラス系 ・シリコーンシーリング材(2成分形) 高ポリサルファイドシーリング材 ・(2成分形)</td><td>・金属カーンクォール目地 ・サッシまわりの目地 ・()</td></tr> <tr> <td>・C種</td><td>・シリコーンシーリング材(1成分形) 低モジュラス系 ・シリコーンシーリング材(2成分形) 高ポリサルファイドシーリング材 ・(2成分形)</td><td>・PC板目地 ・サッシガラスとの目地 ・サッシまわりの目地 ・コンクリート目地 ・()</td></tr> <tr> <td>・D種</td><td>・ポリウレタンシーリング材(1成分形) 高ポリウレタンシーリング材(2成分形)</td><td>・ALC板の継ぎ目の目地 ・ALC板と地盤との目地 ・()</td></tr> <tr> <td>・E種</td><td>・エポキシ樹脂系アクリルシーリング材 ・エポキシ樹脂系SRシーリング材</td><td>・ALC板目地 ・()</td></tr> </table>	施 工 箇 所	工 法	種 別	屋 根	屋根保護防水層	・A-1・※A-2・A-1-1		屋根露出防水層	・A-1-2・B-1・B-2	屋 内	地下室、貯水そう及び屋内防水層(密着工法)	・C-1・※C-2・D-1・D-2			※E-1・※E-2	分 類	厚 さ	使用分	表面仕上	施 工 箇 所	※加 硫	※1.2	・非歩行	・カラー	・保護コンクリート(mm)	ゴ ム 系	・1.5 ・2.0	・軽歩行	・シルバー	・非 加 硫	※2.0	・非歩行	・カラー	・保護コンクリート(mm)	ゴ ム 系	・	・軽歩行	・シルバー	・塩化ビニル	※2.0	・非歩行	・カラー	・保護コンクリート(mm)	樹 脂 系	・2.5	・軽歩行	・シルバー	分 類	厚 さ	使用分	表面仕上	施 工 箇 所	ノ ン ター ル	※2.0	・非歩行	・カラー	・保護コンクリート(mm)	ウ レ タ ン 系	・	・軽歩行	・シルバー	施 工 箇 所	水 張 り 試 験	施 工 標	保 証 書	・A種	○行・行わない	・あり・なし	※提出する・しない	・行・行わない	・あり・なし	※提出する・しない	・B種	○行・行わない	・あり・なし	※提出する・しない	・行・行わない	・あり・なし	※提出する・しない	種 別	材 質	施 工 箇 所	寸 法	・A種	※シリコーンシーリング材(1成分形) 高モジュラス系	・ガラス突き合せ目地 ・ステンレス金具目地 ・プラスチック金具目地 ・バスタブ、洗面所まわり ・()	4×7 10×15	・B種	・シリコーンシーリング材(1成分形) 低モジュラス系 ・シリコーンシーリング材(2成分形) 高ポリサルファイドシーリング材 ・(2成分形)	・金属カーンクォール目地 ・サッシまわりの目地 ・()	・C種	・シリコーンシーリング材(1成分形) 低モジュラス系 ・シリコーンシーリング材(2成分形) 高ポリサルファイドシーリング材 ・(2成分形)	・PC板目地 ・サッシガラスとの目地 ・サッシまわりの目地 ・コンクリート目地 ・()	・D種	・ポリウレタンシーリング材(1成分形) 高ポリウレタンシーリング材(2成分形)	・ALC板の継ぎ目の目地 ・ALC板と地盤との目地 ・()	・E種	・エポキシ樹脂系アクリルシーリング材 ・エポキシ樹脂系SRシーリング材	・ALC板目地 ・()
箇 所	ス ラ ン ブ (cm)																																																																																																																																																																																																																																																																																					
床 版、壁、柱、梁	※ 18・21・()																																																																																																																																																																																																																																																																																					
基 礎、地 中 梁	※ 15・18・()																																																																																																																																																																																																																																																																																					
種 別	空 気 量 %	許 容 量 %																																																																																																																																																																																																																																																																																				
普通コンクリート	4.5	± 1																																																																																																																																																																																																																																																																																				
軽量コンクリート	5	± 1.5																																																																																																																																																																																																																																																																																				
設計基準強度 (kg/cm ²)	スランブ (cm)	適用 箇 所																																																																																																																																																																																																																																																																																				
※150 ・180	・12 ○15 ・18 ・()	土間コンクリート 街きよ、縁石、側溝等のコンクリート及びこれらの基礎コンクリート。																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	・12 ○15 ・18 ・()	機械室などで用いる配管埋設用コンクリート 防水押えコンクリート																																																																																																																																																																																																																																																																																				
部 位	種 別	用 途	仕上がり精度 (mm)	こて仕上げ回数																																																																																																																																																																																																																																																																																		
床	・1種	居室の敷物、張り物等の下地	+3	1 2																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	○2種	通路等の仕上げ、アスファルト防水等の下地	±5	1 2																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	○3種	屋根防水押えコンクリート仕上げ	+5	1 1																																																																																																																																																																																																																																																																																		
壁、天井、柱、梁	4種	塗装及び吹付(仕上げ塗材)、壁紙張りの下地、S工法(あと張)RC工法の下地	+3	—																																																																																																																																																																																																																																																																																		
接 合 方 法	径 (mm)	施 工 箇 所																																																																																																																																																																																																																																																																																				
※重ね 継 手																																																																																																																																																																																																																																																																																						
○ガ ス 圧 接	20、25	はり、柱の主筋																																																																																																																																																																																																																																																																																				
・()																																																																																																																																																																																																																																																																																						
形 状	○正 方 形・長 方 形																																																																																																																																																																																																																																																																																					
寸 法	・50・75 ○100・150・()																																																																																																																																																																																																																																																																																					
鉄 線 の 径	・2.6 ○3.2・4.0・5.0・6.0・()																																																																																																																																																																																																																																																																																					
施 工 箇 所 等 (注)	最小かぶり厚さ (mm)																																																																																																																																																																																																																																																																																					
コンクリート床版 (中央部、壁・柱等)	30・35・60・()																																																																																																																																																																																																																																																																																					
・塩分含有量が0.1%を超える細骨材を使用する場合	※配筋標準図4.1.1表の値+10 (床版を除く)・()																																																																																																																																																																																																																																																																																					
試験の種別	試験箇所	試験数	備 考																																																																																																																																																																																																																																																																																			
・超音波探傷試験			抜取率、抜取方法は(住8.3.9(a)(5)(4))、(営7.5.9(a)(5))による。																																																																																																																																																																																																																																																																																			
工 程	種 別	塗 料	面 の 処 置	備 考																																																																																																																																																																																																																																																																																		
1 汚 れ、付 着 物 除 去	○	—	スクレーパー、ワイヤブラシなどで除去	—																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	○	—	揮発油ぶき、石けん水洗い又は弱アルカリ性液加熱処理湯洗い。水洗い。	—																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	—	○	揮発油ぶき。	—																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	—	○	酸づけ、中和、湯洗いにより除去。	—																																																																																																																																																																																																																																																																																		
2 油 類 除 去	○	—	揮発油ぶき。	—																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	—	○	酸づけ、中和、湯洗いにより除去。	—																																																																																																																																																																																																																																																																																		
3 さび落とし	○	—	ブラスト法により除去。	—																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	—	○	ディスクサンダー又はスクレーパー、ワイヤブラシ、研磨紙#100~180で除去。	—																																																																																																																																																																																																																																																																																		
4 化学処理	○	—	りん酸塩溶液に浸せき処理後湯洗い乾燥。	—																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	—	○	りん酸塩溶液に浸せき処理後湯洗い乾燥。	—																																																																																																																																																																																																																																																																																		
適用箇所	種 別	厚 さ																																																																																																																																																																																																																																																																																				
間仕切壁、地下二重壁、外壁、耐力壁	・C種・普通	○100 ・150 ・()																																																																																																																																																																																																																																																																																				
外壁(化粧積み)	・C種・防水	・120 (H=2m未満) ・150 (H=2m以上)																																																																																																																																																																																																																																																																																				
用 途	主 筋	配 力 筋																																																																																																																																																																																																																																																																																				
内 壁	D10-400 @	D10-400 @																																																																																																																																																																																																																																																																																				
外 壁	D13-400 @	D10-400 @																																																																																																																																																																																																																																																																																				
種 別	工 法	取 付 け 方 法																																																																																																																																																																																																																																																																																				
・A種	パネル縦使いスライド	(1) パネル上端は長辺接合部を可動となる目地用鉄筋付き特殊金物(径9mm以上、長さ500mm以上)で接合し、モルタルを充てんする。 (2) パネル下端は長辺接合部を固定されたパネル受け金物(厚さ6mm以上)に目地用鉄筋(径9mm以上、長さ500mm以上)をそう入し、モルタルを充てんする。																																																																																																																																																																																																																																																																																				
・B種	パネル縦使いそう入筋	(1) パネル上端は長辺接合部を固定された上部取付金物(厚さ6mm以上)に目地用鉄筋(径9mm以上、長さ500mm以上)をそう入し、モルタルを充てんする。 (2) パネル下端は長辺接合部を固定されたパネル受け金物(厚さ6mm以上)に目地用鉄筋(径9mm以上、長さ500mm以上)で溶接接合し、モルタルを充てんする。																																																																																																																																																																																																																																																																																				
・C種	パネル横使いカバープレート	パネルの左・右端はカバープレート(厚さ2.3mm以上)で接合する。																																																																																																																																																																																																																																																																																				
・D種	パネル横使いボルト留め	パネルの左・右端はボルト(径9mm以上)で接合する。																																																																																																																																																																																																																																																																																				
種 別	工 法	取 付 け 方 法																																																																																																																																																																																																																																																																																				
・A種	パネル縦使い	(a) パネル上端は下記のいずれかによる。 (1) はり、床版などの下面にパネル厚さに応じた溝形鋼を通しに取付ける。この場合パネルの建入れに先立ちロックウールなどを厚さ20mm程度充てんする。 (2) 上記(1)の工法で、溝形鋼のかわりに、一方は通しの山形鋼を、他方は同材のピースで取付ける。 (b) パネル下端は各目地ごとに長さ500mm以上の目地用鉄筋をそう入して取付ける。																																																																																																																																																																																																																																																																																				
・B種	パネル縦使い	外壁パネル工法のB種による。																																																																																																																																																																																																																																																																																				
・C種	パネル横使い	外壁パネル工法のC種による。																																																																																																																																																																																																																																																																																				
・D種	パネル横使い	外壁パネル工法のD種による。																																																																																																																																																																																																																																																																																				
施 工 箇 所	工 法	種 別																																																																																																																																																																																																																																																																																				
屋 根	屋根保護防水層	・A-1・※A-2・A-1-1																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	屋根露出防水層	・A-1-2・B-1・B-2																																																																																																																																																																																																																																																																																				
屋 内	地下室、貯水そう及び屋内防水層(密着工法)	・C-1・※C-2・D-1・D-2																																																																																																																																																																																																																																																																																				
		※E-1・※E-2																																																																																																																																																																																																																																																																																				
分 類	厚 さ	使用分	表面仕上	施 工 箇 所																																																																																																																																																																																																																																																																																		
※加 硫	※1.2	・非歩行	・カラー	・保護コンクリート(mm)																																																																																																																																																																																																																																																																																		
ゴ ム 系	・1.5 ・2.0	・軽歩行	・シルバー																																																																																																																																																																																																																																																																																			
・非 加 硫	※2.0	・非歩行	・カラー	・保護コンクリート(mm)																																																																																																																																																																																																																																																																																		
ゴ ム 系	・	・軽歩行	・シルバー																																																																																																																																																																																																																																																																																			
・塩化ビニル	※2.0	・非歩行	・カラー	・保護コンクリート(mm)																																																																																																																																																																																																																																																																																		
樹 脂 系	・2.5	・軽歩行	・シルバー																																																																																																																																																																																																																																																																																			
分 類	厚 さ	使用分	表面仕上	施 工 箇 所																																																																																																																																																																																																																																																																																		
ノ ン ター ル	※2.0	・非歩行	・カラー	・保護コンクリート(mm)																																																																																																																																																																																																																																																																																		
ウ レ タ ン 系	・	・軽歩行	・シルバー																																																																																																																																																																																																																																																																																			
施 工 箇 所	水 張 り 試 験	施 工 標	保 証 書																																																																																																																																																																																																																																																																																			
・A種	○行・行わない	・あり・なし	※提出する・しない																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	・行・行わない	・あり・なし	※提出する・しない																																																																																																																																																																																																																																																																																			
・B種	○行・行わない	・あり・なし	※提出する・しない																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	・行・行わない	・あり・なし	※提出する・しない																																																																																																																																																																																																																																																																																			
種 別	材 質	施 工 箇 所	寸 法																																																																																																																																																																																																																																																																																			
・A種	※シリコーンシーリング材(1成分形) 高モジュラス系	・ガラス突き合せ目地 ・ステンレス金具目地 ・プラスチック金具目地 ・バスタブ、洗面所まわり ・()	4×7 10×15																																																																																																																																																																																																																																																																																			
・B種	・シリコーンシーリング材(1成分形) 低モジュラス系 ・シリコーンシーリング材(2成分形) 高ポリサルファイドシーリング材 ・(2成分形)	・金属カーンクォール目地 ・サッシまわりの目地 ・()																																																																																																																																																																																																																																																																																				
・C種	・シリコーンシーリング材(1成分形) 低モジュラス系 ・シリコーンシーリング材(2成分形) 高ポリサルファイドシーリング材 ・(2成分形)	・PC板目地 ・サッシガラスとの目地 ・サッシまわりの目地 ・コンクリート目地 ・()																																																																																																																																																																																																																																																																																				
・D種	・ポリウレタンシーリング材(1成分形) 高ポリウレタンシーリング材(2成分形)	・ALC板の継ぎ目の目地 ・ALC板と地盤との目地 ・()																																																																																																																																																																																																																																																																																				
・E種	・エポキシ樹脂系アクリルシーリング材 ・エポキシ樹脂系SRシーリング材	・ALC板目地 ・()																																																																																																																																																																																																																																																																																				
⑬ 鉄 筋 工 事	① 型枠の種別 ② コンクリート面の仕上がり程度 (住6.2.1)(営6.13.1) ③ 鉄筋の種別 (住7.1.1)(営5.1.1) <table> <tr> <th>類 別</th><th>種 別</th><th>径 (mm)</th></tr> <tr> <td rowspan="4">※異形鉄筋</td><td>○SD30</td><td>10 ~ 25</td></tr> <tr> <td>・SD35</td><td></td></tr> <tr> <td>・SD40</td><td></td></tr> <tr> <td>・()</td><td></td></tr> <tr> <td rowspan="2">・丸 鋼</td><td>・A 種</td><td>・()</td></tr> <tr> <td>・B 種</td><td>・()</td></tr> </table>	類 別	種 別	径 (mm)	※異形鉄筋	○SD30	10 ~ 25	・SD35		・SD40		・()		・丸 鋼	・A 種	・()	・B 種	・()	④ 耐火被覆 (住8.7.1表)(営7.7.1) <table> <tr> <th>性能</th><th>30 分</th><th>1 時 間</th><th>時 間</th><th>時 間</th></tr> <tr> <td>壁</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>柱</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>梁</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> ・A種・B種・C種 (住8.7.1表)(営7.8.1表)	性能	30 分	1 時 間	時 間	時 間	壁					柱					梁					⑭ 石 工 事 ① 花こう岩類の石張り (営10.2.2)(営10.2.1表)(営10.2.2表) <table> <tr> <th>施 工 箇 所</th><th>石 材 の 品 質</th><th>種 類・産地・名称</th><th>仕 上 げ の 種 類</th></tr> <tr> <td>※1等品</td><td>※1等品</td><td>花こう岩</td><td>※本みがき</td></tr> <tr> <td>※1等品</td><td>※1等品</td><td>花こう岩</td><td>※本みがき</td></tr> </table> 2. 大理石張り 石材の品質、石、仕上りの種類 (営10.3.2)(営10.3.1表) <table> <tr> <th>施 工 箇 所</th><th>石 材 の 品 質</th><th>石 厚 寸 法 (mm)</th><th>種 類・産地・名称</th><th>仕 上 げ の 種 類</th></tr> <tr> <td>※1等品</td><td>※1等品</td><td>※20</td><td>大理石</td><td>※本みがき</td></tr> <tr> <td>※1等品</td><td>※1等品</td><td>※20</td><td>大理石</td><td>※本みがき</td></tr> </table> ③ テラゾブロック張り 種石の種類、大きさ ※大理石の類 12mm以下 (住11.2.1) ・花こう岩類 6mm以下 (営10.4.2) ・() ④ 敷石及び階段石 石の種類・花こう岩類・大理石 (住11.3.1) 石の品質・1等品・2等品 (営10.6.2) 仕上りの種類 ※粗みがき・() ⑤ テラゾタイル張り 種類 ○大理石・花こう岩類・() (住11.4.1)(営10.6.1)	施 工 箇 所	石 材 の 品 質	種 類・産地・名称	仕 上 げ の 種 類	※1等品	※1等品	花こう岩	※本みがき	※1等品	※1等品	花こう岩	※本みがき	施 工 箇 所	石 材 の 品 質	石 厚 寸 法 (mm)	種 類・産地・名称	仕 上 げ の 種 類	※1等品	※1等品	※20	大理石	※本みがき	※1等品	※1等品	※20	大理石	※本みがき	⑮ 防 水 工 事 ① 花こう岩類の石張り (営10.2.2)(営10.2.1表)(営10.2.2表) <table> <tr> <th>施 工 箇 所</th><th>石 材 の 品 質</th><th>種 類・産地・名称</th><th>仕 上 げ の 種 類</th></tr> <tr> <td>※1等品</td><td>※1等品</td><td>花こう岩</td><td>※本みがき</td></tr> <tr> <td>※1等品</td><td>※1等品</td><td>花こう岩</td><td>※本みがき</td></tr> </table> 2. 大理石張り 石材の品質、石厚寸法、石、仕上りの種類 (営10.3.2)(営10.3.1表) <table> <tr> <th>施 工 箇 所</th><th>石 材 の 品 質</th><th>石 厚 寸 法 (mm)</th><th>種 類・産地・名称</th><th>仕 上 げ の 種 類</th></tr> <tr> <td>※1等品</td><td>※1等品</td><td>※20</td><td>大理石</td><td>※本みがき</td></tr> <tr> <td>※1等品</td><td>※1等品</td><td>※20</td><td>大理石</td><td>※本みがき</td></tr> </table> ③ テラゾブロック張り 種石の種類、大きさ ※大理石の類 12mm以下 (住11.2.1) ・花こう岩類 6mm以下 (営10.4.2) ・() ④ 敷石及び階段石 石の種類・花こう岩類・大理石 (住11.3.1) 石の品質・1等品・2等品 (営10.6.2) 仕上りの種類 ※粗みがき・() ⑤ テラゾタイル張り 種類 ○大理石・花こう岩類・() (住11.4.1)(営10.6.1)	施 工 箇 所	石 材 の 品 質	種 類・産地・名称	仕 上 げ の 種 類	※1等品	※1等品	花こう岩	※本みがき	※1等品	※1等品	花こう岩	※本みがき	施 工 箇 所	石 材 の 品 質	石 厚 寸 法 (mm)	種 類・産地・名称	仕 上 げ の 種 類	※1等品	※1等品	※20	大理石	※本みがき	※1等品	※1等品	※20	大理石	※本みがき																																																																																																																																																																																							
類 別	種 別	径 (mm)																																																																																																																																																																																																																																																																																				
※異形鉄筋	○SD30	10 ~ 25																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	・SD35																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	・SD40																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	・()																																																																																																																																																																																																																																																																																					
・丸 鋼	・A 種	・()																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	・B 種	・()																																																																																																																																																																																																																																																																																				
性能	30 分	1 時 間	時 間	時 間																																																																																																																																																																																																																																																																																		
壁																																																																																																																																																																																																																																																																																						
柱																																																																																																																																																																																																																																																																																						
梁																																																																																																																																																																																																																																																																																						
施 工 箇 所	石 材 の 品 質	種 類・産地・名称	仕 上 げ の 種 類																																																																																																																																																																																																																																																																																			
※1等品	※1等品	花こう岩	※本みがき																																																																																																																																																																																																																																																																																			
※1等品	※1等品	花こう岩	※本みがき																																																																																																																																																																																																																																																																																			
施 工 箇 所	石 材 の 品 質	石 厚 寸 法 (mm)	種 類・産地・名称	仕 上 げ の 種 類																																																																																																																																																																																																																																																																																		
※1等品	※1等品	※20	大理石	※本みがき																																																																																																																																																																																																																																																																																		
※1等品	※1等品	※20	大理石	※本みがき																																																																																																																																																																																																																																																																																		
施 工 箇 所	石 材 の 品 質	種 類・産地・名称	仕 上 げ の 種 類																																																																																																																																																																																																																																																																																			
※1等品	※1等品	花こう岩	※本みがき																																																																																																																																																																																																																																																																																			
※1等品	※1等品	花こう岩	※本みがき																																																																																																																																																																																																																																																																																			
施 工 箇 所	石 材 の 品 質	石 厚 寸 法 (mm)	種 類・産地・名称	仕 上 げ の 種 類																																																																																																																																																																																																																																																																																		
※1等品	※1等品	※20	大理石	※本みがき																																																																																																																																																																																																																																																																																		
※1等品	※1等品	※20	大理石	※本みがき																																																																																																																																																																																																																																																																																		

12、
タ
イ
ル
工
事

1. 陶磁器質タイル張り

1) 材料、工法

2) 伸縮目地

3) 保水剤

4) 検査

2. 陶磁器質タイル型わく先付

1) 種別及び材料

2) タイル型わく先付け面のせき板

3) 伸縮目地

4) 検査

13 木
工
事

1. 木材の含水率

2. 木材の材質

3. 造作材の等級

4. 木材の樹種

5. 表面仕上げの程度

6. 集 成 材

7. 防 腐 材 塗

8. 防 蟻 処 理

9. ラワン材

10. 屋根野地板

14、
金
属
工
事

1. 長尺亜鉛鉄板

2. 折板

3. 屋根工事専門業者

4. とい

5. とい受け金物の工法

6. ルーフドレイン

7. ステンレスの表面仕上

8. アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理

9. 鉄の亜鉛めっき

10. 軽量鉄骨天井下地

11. 軽量鉄骨壁下地

12. 手すり及びトラップ

15、
金
属
成
形
板
張
り

1. 金属形成板張り

2. インサート

3. ノンスリップ

4. 床用見切材

5. コーナービード

6. 物干金物

7. カーテンレール

8. 点検口

9. 屋上丸環

10. 屋上点検口

11. 防火材料など

12. モルタル塗り

13. 仕上塗材仕上げ

16、
塗
装
工
事

1. 防火材料

2. 一般塗料

3. 素地ごしらえ

4. 防 火 材 料

5. 一 般 塗 料

6. 素地ごしらえ

7. 防 火 材 料

8. 一 般 塗 料

9. 素地ごしらえ

10. 防 火 材 料

11. 一 般 塗 料

12. 素地ごしらえ

⑤ 塗装工程	鉄面合成樹脂塗合ベント塗り			・A種 ※B種 (営17.4.4表)
	さび止め塗装	屋外の階段、さく、手すり、 アングの類	※A種 (JISK)	(H)
		鋼製の建具	※B種 (JISK)	(H)
	亜鉛めっき面油性塗合ベント塗り (鋼製の建具及び屋外のさく、手すり、 といの類)			(営17.4.5表)
	さび止め塗装	屋外の階段、さく、手すり、 アングの類	※A種 (JISK 2種)	(H)
		鋼製の建具	※B種 (JISK 2種)	(H)
	亜鉛めっき面合成樹脂塗合ベント塗り (鋼製の建具及び屋外のさく、手すり、 といの類)			(営17.4.6表)
	さび止め塗装	屋外の階段、さく、手すり、 アングの類	※A種 (JISK 2種)	(H)
		鋼製の建具	※B種 (JISK 2種)	(H)
	亜鉛めっき面合成樹脂塗合ベント塗り (鋼製の建具及び屋外のさく、手すり、 といの類)			(営17.4.7表)
⑥ 鉄骨工事のさび止塗装	多層複層塗料塗り (鉄面及び鋼製建具)			(営17.7.2表)
	さび止め塗装	屋外の階段、さく、手すり、 アングの類	※A種 (JISK)	(H)
		鋼製の建具	※B種 (JISK)	(H)
	塩化ビニル樹脂エナメル塗り			(営17.8.1表)
	アクリル樹脂エナメル塗り			(営17.9.1表)
	フタル酸樹脂エナメル塗り (木部)			(営17.10.1表)
	ウレタン樹脂ニス塗り			(営17.12.1表)
	クリヤラッカー塗り			(営17.12.1表)
	ウレタン樹脂ニス塗り			(営17.13.1表)
	ウレタン樹脂ニス塗り			(営17.13.1表)
7. マスチック塗料塗り	工場及び止は、鉄骨工事による。			
	区 分	さび止めの塗料	回 数	
		※A種 (JISK)	1 回	
	工 事 現 場	※A種 (JISK)	1 回	
		※A種 (JISK)	1 回	
	種 別			・A種 ・B種 ・C種
	A種の凸凹処理仕上			・行方 ・行わない
	C種の仕上材塗り			・アクリル樹脂エナメル2回塗り ・有光沢合成樹脂エマルジョンペイント2回塗り
	監督員の承諾を受けたもの。			
	監督員の承諾を受けたもの。			
⑧ 塗装業者	監督員の承諾を受けたもの。			
	監督員の承諾を受けたもの。			
	監督員の承諾を受けたもの。			
	監督員の承諾を受けたもの。			
	監督員の承諾を受けたもの。			
	監督員の承諾を受けたもの。			
	監督員の承諾を受けたもの。			
	監督員の承諾を受けたもの。			
	監督員の承諾を受けたもの。			
	監督員の承諾を受けたもの。			
⑨ 金属性建具	性能の種別			(住17.2.1)(営16.2.1~16.2.3)
	性 能	性 能	適 用	
		・A 160kg/m ² 以上 ・B 200kg/m ² 以上 ・C 240kg/m ² 以上 ・D 280kg/m ² 以上 ・E 360kg/m ² 以上	戸先強さは、5kg時のたわみが面外方向3mm以下、面内方向1mm以下(厚さ5mmガラスを使用して試験)	
	強 さ	・A 120mm/hm ² 以下 ・B 30mm/hm ² 以下 ・C 8mm/hm ² 以下 ・D 2mm/hm ² 以下	JIS A 4707 (鋼製及びアルミニウム合金製サッシ) (すべり出し及び内倒し)で気密性を必要しないもの 鋼製建具一般のもの アルミ建具引違い、滑り出し一般のもの 引寄せ型片引き、軸回転、開き等の防音タイプの建具 はめ殺しエヤタイト型	
		・N -	性能の種別における気密の区分Nに同じ	
	気 密	・A 10kg/m ² ・B 15kg/m ² ・C 25kg/m ² ・D 35kg/m ² ・E 50kg/m ²	性能の種別における気密の区分Nに同じ	
		・N -	性能の種別における気密の区分Nに同じ	
	水 密	・A 10kg/m ² ・B 15kg/m ² ・C 25kg/m ² ・D 35kg/m ² ・E 50kg/m ²	性能の種別における気密の区分Nに同じ	
		・N -	性能の種別における気密の区分Nに同じ	
	透 音	・A 25 ・B 30 ・C 35 ・D 40	性能の種別における気密の区分Nに同じ	
		・N -	性能の種別における気密の区分Nに同じ	
⑩ 建具ガラス工事	1) 性能			(住17.2.1)(営16.2.1~16.2.3)
	性 能	性 能	適 用	
		・A 160kg/m ² 以上 ・B 200kg/m ² 以上 ・C 240kg/m ² 以上 ・D 280kg/m ² 以上 ・E 360kg/m ² 以上	戸先強さは、5kg時のたわみが面外方向3mm以下、面内方向1mm以下(厚さ5mmガラスを使用して試験)	
	強 さ	・A 120mm/hm ² 以下 ・B 30mm/hm ² 以下 ・C 8mm/hm ² 以下 ・D 2mm/hm ² 以下	JIS A 4707 (鋼製及びアルミニウム合金製サッシ) (すべり出し及び内倒し)で気密性を必要しないもの 鋼製建具一般のもの アルミ建具引違い、滑り出し一般のもの 引寄せ型片引き、軸回転、開き等の防音タイプの建具 はめ殺しエヤタイト型	
		・N -	性能の種別における気密の区分Nに同じ	
	気 密	・A 10kg/m ² ・B 15kg/m ² ・C 25kg/m ² ・D 35kg/m ² ・E 50kg/m ²	性能の種別における気密の区分Nに同じ	
		・N -	性能の種別における気密の区分Nに同じ	
	水 密	・A 10kg/m ² ・B 15kg/m ² ・C 25kg/m ² ・D 35kg/m ² ・E 50kg/m ²	性能の種別における気密の区分Nに同じ	
		・N -	性能の種別における気密の区分Nに同じ	
	透 音	・A 25 ・B 30 ・C 35 ・D 40	性能の種別における気密の区分Nに同じ	
		・N -	性能の種別における気密の区分Nに同じ	
⑪ 取付方法	※現場後付 ・現場先付 ・工場製作先付			
	※B.Lマーク表示品 ・B.L製品以外			
	※B.Lマーク表示品 ・B.L製品以外			
	※B.Lマーク表示品 ・B.L製品以外			
	※B.Lマーク表示品 ・B.L製品以外			
	※B.Lマーク表示品 ・B.L製品以外			
	※B.Lマーク表示品 ・B.L製品以外			
	※B.Lマーク表示品 ・B.L製品以外			
	※B.Lマーク表示品 ・B.L製品以外			
	※B.Lマーク表示品 ・B.L製品以外			
⑫ アルミニウム製建具	1) 表面仕上			
	種 別	皮膜厚さ(μm) 耐食性の種類	塗膜厚さ(μm) 透明合成樹脂塗料	
		L ₂ KL ₁	7 以上	
	※無着色陽極酸化皮膜	※9 ・ ※6 ・	7 以上	
		※9 ・ ※6 ・	7 以上	
	※着色陽極酸化皮膜	※9 ・ ※6 ・	7 以上	
		※9 ・ ※6 ・	7 以上	
	※ステンレス (SUS304) ②2.0mm ・()	※ステンレス (SUS304) ②2.0mm ・()	※ステンレス (SUS304) ②2.0mm ・()	
		※ステンレス (SUS304) ②2.0mm ・()	※ステンレス (SUS304) ②2.0mm ・()	
	※ステンレス (SUS304) ②2.0mm ・()	※ステンレス (SUS304) ②2.0mm ・()	※ステンレス (SUS304) ②2.0mm ・()	
		※ステンレス (SUS304) ②2.0mm ・()	※ステンレス (SUS304) ②2.0mm ・()	

③ 鋼製建具

1) 出入口部くつづり

4. 鋼製軽量建具

5. ステンレス製建具

1) 出入口部くつづり

6. 自動とびら

7. 重量シャッター

8. 軽量シャッター

⑨ 木製建具

1) 建具材の種類別

2) 工法

⑩ 網戸

⑪ 建具用金物

1) 丁番

2) マスターキー

3) 本締り付モノロックシリンダー箱錠シリンダー本締り錠ドアチェックフローベンジオートベンジ棒かぎ錠ピボットベンジ表示付空錠

4) 押板把手

⑫ ガラス

⑬ ガラス留め材

⑭ 建具周囲のシーリング材

⑮ 建具の製作所

16. ガラスブロック

※B.Lマーク表示品 ・B.L製品以外 (住17.2.1)

※ステンレス (SUS304) ②2.0mm ・()

召合せ、縦小口包み板などの材種 ※鋼板 ・() (営16.4.2)

焼付け塗装 ・行方 ※行わない (営16.4.3)

鋼板の曲げ加工 ※普通曲げ ・かど出し曲げ (営16.5.2)

※ステンレス (SUS304) ②2.0mm ・()

駆動力 ・電気式 ・油圧式 (営16.6.2)

開閉方法 ・引戸 ・片開き戸

検知装置 ・マツスイッチ ・超音波 ・光線 ・()

機能による種類 ・防火シャッター ・防煙シャッター (営16.7.1)

シャッターケース(防火、防煙以外の場合) ・設ける

開閉機能による種類 ※上部電動式(手動併用)

・手動式(上部 ・下部)

開閉機能による種類 ※手動式 ・上部電動式(手動併用) (営16.8.1)

建具材の種類別 (住17.3.1)(営16.9.1表)

種 別	建具材の等級	加工、組立て時の含水率
・ A 種	1 等	15/wt以下
※ B 種	2 等	天然乾燥18/wt以下、人工乾燥15/wt以下
・ C 種	3 等	18/wt以下

フラッシュ戸の表面板の厚さ ・5.5 ※4.0 ・2.5

福島県土木部監修「福島県木製建具工作標準図」(昭和61年版)による。

形 式 ※外面納まりの可動式 ・固定式 ・() (住17.2.2)

網の材種 ・ステンレス製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 (営16.2.5)

・合成樹脂製

メッシュ寸法 ※16 ・18

監督員の承諾を受けたもの。 (住17.5.1)

マスターキー ~~※要~~ ○要 (ヶ所) (営16.10.3)

コンストラクションキー ・不要 ※要 (ヶ所)

処分方法、監督員の立会のもとに処分する。

ドアクローザ ※B.Lマーク表示品 (※1型 ・2型) ・()

(住17.6.1)(営16.11.1)

みがき板ガラス ※フロート方式、B級品 ・みがき方式、B級品

網入りガラス ※網入り型板ガラス ・網入りみがき板ガラス

合せガラス ・普通合せガラス

・フロート、みがき板合せガラス

強化ガラス ・普通板強化ガラス ○みがき板強化ガラス

熱線吸収板ガラス ・熱線吸収普通板ガラス 熱線吸収みがき板ガラス

熱線吸収網入り板ガラス

色調 ・グレー ・ブルー ・ブロンズ

複層ガラス ・普通板ガラス ・みがき板ガラス

・()

種 別	ガラスの留め材
アルミニウム製建具	※引違い建具及び片引き建具の障子はガスケット その他はC種シーリング ・シーリング材C種 ・()
鋼製建具 鋼製軽量建具 ステンレス製建具	※シーリング材C種 ・()

網入りガラス及び線入りガラスの留め材 C種シリコンシーリング (防火認定品)

材料 ※C種 ・D種 ・()

幅×深さ ※9×7以上 (目地棒9×9) ・()

監督員の承諾を受けたもの。

JIS A 5212の規格品とする。

型 状 寸 法 (mm)	ガラスの色	模様による種類
・正方形 ()	・無 色	・拡散ガラスブロック
・長方形 ()	・()	・指向ガラスブロック

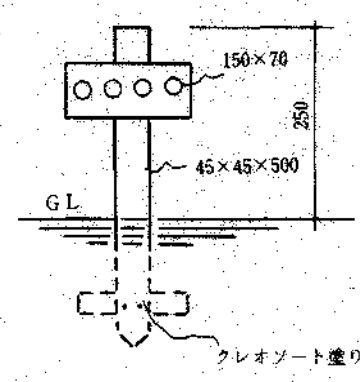
① ビニル床シート張り	(住18.6.1)(営18.1.1)		
	材 種	材 質	厚さ(mm)
		※一般用	※2.5
	材 質	※一般用	※2.5
		※一般用	※2.5
	材 質	※一般用	※2.5
		※一般用	※2.5
	材 質	※一般用	※2.5
		※一般用	※2.5
	材 質	※一般用	※2.5
		※一般用	※2.5
② ビニル床タイル張り	(住18.7.1)(営18.2.1)		
	材 種	材 質	厚さ(mm)
		※半硬質	※2.3
	材 質	※半硬質	※2.3
		※半硬質	※2.3
	材 質	※半硬質	※2.3
		※半硬質	※2.3
	材 質	※半硬質	※2.3
		※半硬質	※2.3
	材 質	※半硬質	※2.3
		※半硬質	※2.3
③ ビニル幅木	(住18.7.1)(営18.2.1)		
	材 種	材 質	厚さ(mm)
		※軟質	※2
	材 質	※軟質	※2
		※軟質	※2
	材 質	※軟質	※2
		※軟質	※2
	材 質	※軟質	※2
		※軟質	※2
	材 質	※軟質	※2
		※軟質	※2
④ 塗り床材	(住18.8.2)		
	材 種	材 質	厚さ(mm)
		※軟質	※2
	材 質	※軟質	※2
		※軟質	※2
	材 質	※軟質	※2
		※軟質	※2
	材 質	※軟質	※2
		※軟質	※2
	材 質	※軟質	※2
		※軟質	※2
⑤ 天井見切線	(住18.9.1)(営18.4.2)		
	材 種	材 質	厚さ(mm)
		※軟質	※2
	材 質	※軟質	※2
		※軟質	※2
	材 質	※軟質	※2
		※軟質	※2
	材 質	※軟質	※2
		※軟質	※2
	材 質	※軟質	※2

15. 波形石綿スレート	(住18.2.1) (管13.3.1, 13.3.2)		
	種 別	寸 法	
	・大波規格品 ・中波規格品 ・小波規格品	ボルト締め工法としボルトは屋根面丸頭とし受材ナット止めとする	
	留付け金物その他		
	名 称	受材が鋼材の場合	受材が木材の場合
	留付け金物	亜鉛めっきボルト 呼び径6mm	亜鉛めっきスレート用くぎ穴5mm (受材に打ち込める長さが40mm以上)又はねじくぎ径5mm (受材に打ち込める長さが25mm以上)。
	座 金	小波 径25mm 中波 径30mm 大波 径35mm	厚さ1.6mm以上の亜鉛めっき鉄製。 厚さ5mm以上のアスファルトを浸透した牛毛フェルト製。
	銅 い 物		19×3 (mm)程度の平鋼とし、継手は60mm以上折曲げて重ね掛け、径4mm程度のボルト又はぶよう2本締めとし、塗装を行う。
	鼻 が ら み		
	スレートの重ねなど		
	区 分	重 ね 横 (mm) 縦 (mm)	留付け金物の本数 (受材当たり板幅1枚につき)
	一 般	中波 1.5 大波 1.5 リ波 0.5	150程度 3
	軽 易 な 吹 抜 き 廊 下	中波 1.5 大波 0.5 リ波 0.5	150程度 3
19. そ の 他	1. 鏡 板	厚さ ※5mm () mm (住19.1.1) (管22.1.3)	(管22.1.4)
	2. 黒 板	種 別	色 彩
		※鋼製黒板 ・木製黒板 ・ほうろう黒板	※緑 ・黒 ・白
	3. ス リ ー プ	材種 ・亜鉛鉄板 ・つば付き鋼管 () (住19.2.3) (管22.2.1表)	
	4. カ ー テ ン	(管22.3.1) (管22.3.1表) (管22.3.2) (管22.3.3)	
		施工箇所 名称・品質など	ひだの種類 型 式 引分け装置
		シャワー	シャワーテン
			・A種※B種・C種
			・片引き・引分け
			・有・無
	5. ブ ラ イ ン ド	(管22.4.1)	
仕上ユニット・その他工事		形 式	※縦形ブラインド
		材 種	※アルミニウム合金製
		開 閉	※ギヤー式○コード式
		スラットの形状	※C形・S形
		スラットの幅 (mm)	○25※35・50・ () ※100 ○80又は75
	6. カ ー テ ン ボ ッ ク ス	○アルミニウム製	・鋼製
	7. ア コ ー デ ィ オ ン ド ア	表 面 材	形 式
		※ビニルレザー張り (防炎加工)	・両 開 き
		・ ()	・片 開 き
			() mm
	8. ス ラ イ デ ィ ン グ ド ア	パネル厚さ (mm)	表面仕上げ
20. 外 構 整 備 工 事	9. 鋼製書架及び	・固定式	・可動式 (・手動 ・電動)
	10. カウンター	○固定式	・移動式
	11. か ぎ 箱	・30本 ・60本 ・120本 () (市販品)	
	12. くつふきマッ	・塩化ビニル製 (受わく ステンレス SUS304)	
	13. 旗 ざ お	・硬質アルミニウム合金製 (受わく 硬質アルミニウム合金)	
		○ステンレス製 SUS304 (受わく ステンレス SUS304)	
		材 種	形 式
		※アルミニウム合金製	・テ ー パ ー 式
		・ ()	・同 一 断 面 式
	14. 旗ざお受金物	※ステンレス製 SUS304 ()	
21. 植 栽 工 事	15. 非常用救助袋	・傾斜式	・垂直式
		垂直降下式緩降機は、消防法に基づく国家検定に合格したもの。	
	16. 定 礎	材 種 (ミカゲ石)	寸法 ()
	17. 成形パイプ	材 種	大 き さ
		φ	mm
		厚 さ	mm
	18. トップライト	材 種	寸 法
		・アクリル製 ○ポリカーボネート製 ()	1,300×1,300

21. 植 栽 工 事	1. 舗 装 工 事	シャ断層 ※川砂又は海砂 () (住21.2.2) (管19.2.1)	
		凍上抑制層 ()	
		盛土材料 ()	
	2. 路床土の支持力試験	※行わない ・行う (※乱した土 ・乱さない土)	(住21.2.2) (管19.2.3)
	3. 路盤材料	※切込砕石 0~40 () (住21.2.3) (管19.3.1)	
	4. 支持力係数試験	※行わない ・行う (所要支持力係数 コンクリート舗装 $R_{90}=8\text{kg/cm}^2$ 以上 アスファルト舗装 $R_{90}=16\text{kg/cm}^2$ 以上)	(住21.2.5) (管19.4.2)
	5. アスファルト舗装	加熱混合物の種類	(住21.2.5) (管19.4.2)
		一 般 地 区 (浜 通 り)	密粒度アスファルト混合物 (13)
		寒 冷 地 区 (浜・中通り)	細粒度アスファルト混合物 (13)
		積 雪 地 区 (中通り)	細粒度アスファルト混合物 (13)
22. 排水工事		アスファルト混合物の抽出試験 ・行う ・行わない (住21.2.5) (管19.4.4)	
	6. コンクリート舗装	早強セメント (住21.2.4) (管19.5.1)	
		・使用する ・使用しない	
	7. 特殊舗装	溶接金網 () (住21.2.6) (管19.6.2)	
		カラ・舗装の種類	
		※顔料を使用した加熱アスファルト混合物 ()	
		コンクリート平板の JIS による呼び名	※300 ()
		コンクリート平板のクッション材	※砂 ・から練りモルタル
		インターロッキングブロックの種類	・ ()
		インターロッキングブロックのクッション材	※砂 ・から練りモルタル
23. 緑 石	8. 緑 石	歩道境界ブロックの JIS による呼び名 (住21.2.7) (管19.7.1)	
		・A ・B ・C ・ ()	
		地先境界ブロックの JIS による呼び名	・A ・B ・C
		現場打ちコンクリートの設計基準強度 F_c (kg/cm 2)	※ $F_c=150\text{kg/cm}^2$ ・ $F_c=135\text{kg/cm}^2$
	9. コンクリート側溝	鉄筋コンクリート L 形の JIS による呼び名 (住21.2.7) (管19.7.1)	
		・250A ・250B	
		コンクリート L 形の JIS による呼び名	・250A ・250B
		鉄筋コンクリート U 形の JIS による呼び名	・150 ・180 ・240
		現場打ちコンクリートの設計基準強度 F_c (kg/cm 2)	※ $F_c=180\text{kg/cm}^2$ ・ $F_c=150\text{kg/cm}^2$
	10. 白線引き	・白色溶着 (JIS S565溶着型)	
24. 排水工事		・白色ペイント	
		※幅15cm ※実線 ()	
	11. 視覚障害者用誘導ブロック	材質	・塩化ビニル系
		・レジンコンクリート系 厚さ (mm) ※30 ()	
		・ () 厚さ (mm) ()	
	2. 排水工事	排水管その他材料 (住21.3.3) (管20.1.1)	
		材 種	規 格
		遠 心 力 鉄 筋	JIS A 5303 (遠心力鉄筋コンクリート管) の JIS マーク表示品
		コンクリート管	
		鉄 筋	JIS A 5302 (鉄筋コンクリート管) の JIS マーク表示品
25. 植 栽 工 事		鋼 管	JIS G 3442 (水道用亜鉛めっき鋼管)
		(ねじ込み式排水用継手)	JIS B 2303 (ねじ込み式排水用継手) の JIS マーク表示品
		硬質塩化ビニル管 (排水用硬質塩化ビニル管継手)	JIS K 6741 (硬質塩化ビニル管) の JIS マーク表示品
		塩化ビニル管継手	JIS K 6739 (排水用硬質塩化ビニル管継手)
		陶 管	JIS R 1201 (陶管(直管))
		直 管	JIS R 1202 (陶管(異形管))
		異 形 管	並 管
		側溝の形状、寸法 ()	
		排水ます、ふたの種類、寸法 ()	
		埋戻し土 ※根切り土の中の良質土 ・山砂	
	3. 植 栽 工 事	(住21.4.1) (管21.1.1)	
26. 芝張り、吹付けは種	1. 植 栽	1. 材料	植込み用土 ※現場発生土の良質土 ・山砂
		2. 工法	支柱
			種類 ・三脚 ・四脚 ・鳥居形
			・布掛け ()
			防蟻処理 ※防蟻剤塗り ・焼丸太
		3. 樹木の移植	活着率 ()
		1. 材料	芝の種類 ※こうらひ芝 ・野芝
			土壌改良剤種別及び適用 ※する () ・しない
		2. 工法	(1)芝張り
			工法 ※平地は目地張り、切り土のり面はべた張り、盛土のり面は筋芝張り
27. 芝張り、吹付けは種		客土 ※する (厚100) ・しない	
		(2)吹付けは種	酸性及び硬度の測定 ・する ・しない
			種子の量 g/m 2
			被覆養生 ※する ・しない

28. 敷地境界石	3. 承 認	・植栽にあたって、品質、寸法、形状並びに植栽位置は監督員の承認を受けて施工する。	
	4. 施 肥	・植栽施工時に指定量の施肥 (油かす、バーク堆肥) を行う。	
	5. 銘 板	・支柱のある場合にはプラスチックプレート (白) 150×70の3に黒エナメルで樹木名を記入して釘止めのこと。	
		・支柱のない場合には上記プラスチックプレート (白) を杭に釘止めとする。 (下図参照のこと)	
29. 敷地境界石	4. 間知石及びコンクリート間知ブロック積み	(住21.5.2) (管22.6.2)	
		種 別	・間知石
		材 種 等	※花コウ岩 ()
			・面形状
			・長方形
			・正方形
			・目形
			・六角形
		地 業	※割石及び砕石 ()
		コンクリート	※基礎 $F_c=180\text{kg/cm}^2$ 表込 150kg/cm^2 ()
30. 敷地境界石		積 み 方	※谷積み ・布積み
		目 塗り	・行う ※行わない
		目 地 材	材種 ()
31. 敷地境界石	5. 敷地境界石	※A種 ・B種 (住21.7.1) (管22.7.1)	
	6. 砂利砕石敷		
		区分	適用箇所
			厚さ
			砂利砕石の大きさ
			工 法
32. 敷地境界石		・通 路	・100
			下敷き
			切込み砂利又は切込み砕石で45mm以下
			(1) 下地は、水はけよくこう配をとり、地均しのうえ転圧機で締固める。
			(2) 下敷きは、厚さ60mm程度に敷込み、きょう雑物を除いた粘質土、砕石ダストなどを100mm当り2mmの割合で敷均し、転圧機で締固める。
			(3) 上敷きは、厚さ30mm程度に敷均して仕上げる。
33. 敷地境界石		・建物周囲	・60
			砂利又は砕石で40mm以下
			(1) 下地は、水はけよくこう配をとり、地均しのうえ転圧機で締固める。
			(2) 砂利又は砕石を、厚さ60mm程度に敷均して仕上げる。

34. 敷地境界石	1. 材料	植込み用土 ※現場発生土の良質土 ・山砂	
	2. 工法	支柱	
		種類 ・三脚 ・四脚 ・鳥居形	
		・布掛け ()	
		防蟻処理 ※防蟻剤塗り ・焼丸太	
	3. 樹木の移植	活着率 ()	
	1. 材料	芝の種類 ※こうらひ芝 ・野芝	(住21.4.2) (管21.2.1)
		土壌改良剤種別及び適用 ※する () ・しない	
	2. 工法	(1)芝張り	
		工法 ※平地は目地張り、切り土のり面はべた張り、盛土のり面は筋芝張り	
		客土 ※する (厚100) ・しない	
35. 芝張り、吹付けは種		(2)吹付けは種	酸性及び硬度の測定 ・する ・しない
			種子の量 g/m 2
			被覆養生 ※する ・しない



福島県屋根防水(アスファルト、合成高分子ルーフィング等)工事 下地及び防水押えコンクリート工事仕様書 (昭和61年版)		③ 溶接金網の施 工		⑦ 養生	
I. 共通仕様 福島県建築・設備工事共通仕様書(昭和62年版) 図面及び特記仕様に記載されていない事項は、「建設省住宅局監修公共住宅建設工事共通仕様書建築編(昭和60年版)」及び「建設省住宅局監修公共住宅建設工事共通仕様書設備編(昭和60年版)」(以下「共通仕様書」という。)による。 II. 特記仕様 1) 章及び項目は番号に○印を付けたものを適用する。 2) 特記事項は◎印を付けたものを適用する。ただし×印と◎印を記したものは適用しない。 ◎印のない場合は※印を付けたものを適用する。 ◎印と◎印を付けた場合はともに適用する。 3) 項目及び特記事項に記載の()内表示番号は「共通仕様書」の当該項目を示す。		(a) 屋根スラブは全面に溶接金網を敷込む。 (b) 溶接金網の施工は、コンクリート打設に先立ち、上端鉄筋に緩みをもって結束し、コンクリート打設の進捗に並行して、金網の許容応力厚さ内で、できるだけ持ち上げ、定着させる。 (c) 溶接金網の継手は1節半以上かつ150mm以上とする。 (d) 溶接金網の結束隅部は、原則として結束する。中間は原則として1ヶ所以上結束する。		① 養生 金ゴテ仕上げ完了後、なるべくすみやかに、初期の急激な乾燥を避けるための適切な養生を行う。	
① 一般事項 ① 適用範囲 この仕様は、アスファルト防水、合成高分子ルーフィング防水工事、並びに下地コンクリート及び防水押えコンクリート工事に適用する。 ② 施工業者 防水工事の施工業者は監督員の承諾を受ける。		④ かぶり厚さ		⑧ 押えコンクリート ① 種別 (注5.9.1表、第6.9.1表)の ・A種 ※B種 とする。 ② コテ仕上げ 3種(木ゴテ1回、金ゴテ1回、精度+5mm)とする。 ③ 伸縮目地 伸縮目地の構造は、保護層に達する幅25mmの合成樹脂発泡材の目地板を設け、コンクリートを打設し、表装仕上後、防水層に使用したアスファルトを仕上げ面よりやや低くまで注入したものを用いる。―― ドラフマイト M25 (H-60) 粘着剤	
② 材料 ① セメント・水・骨材 共通仕様書(注5章2節、第6章2節)による。 ② 混和剤 AE剤又はAE減水剤標準型とする。 ③ 鉄筋 屋根スラブに使用する鉄筋は異形鉄筋とし、JIS G3112の規格品とする。 ④ 溶接金網 JIS G3551の規格品とし、網目の形状、寸法及び鉄線の径は下記による。 (1) 網目の形状 正方形 (2) 網目の寸法 100mm (3) 鉄線の径 3.2mm (アスファルト防水は6mmとする。)		⑤ パラベットの構造 (a) パラベット及び底立上り壁は3.5.1図により、厚さ150mmとし鉄筋はダブル配筋とする。 (b) 外部打放しの場合、鉄筋のかぶり厚さは30mmとする。 (c) 溶接金網は、パラベット等の立上りがある場合、3.5.2図によりパラベット等の立上り壁内に50mm以上差し込ませる。 3.5.1図 3.5.2図		⑨ その他 ① ベントハウス等の立上り部の打継ぎ ベントハウス等の立上りのコンクリートは、屋根スラブ仕上げ面より300mm程度で打継ぎことを原則とする。 ② ルーフドレイン ルーフドレインは、その周囲の水はけがよく、低く堅固に屋根スラブコンクリートに9.2.1図により取付けるものとする。 ③ パラベット部のおさまり 9.3.1図を標準とする。 9.3.1図	
③ 屋根スラブ ① 構造 (a) コンクリート厚さは160mm以上とする。 (b) 水勾配は1/100以上の片流れ又は両流れとする。 (c) 増築工事を行う場合、接合部には、3.1.1図により、せい150mm幅600mmのスラブハンチを設ける。又、増築用上端筋にD13-200@で補強する。		④ コンクリートの調査 ① 水セメント比及び呼び強度 60%以下とする。(Fe=210kg/cm²以上) ② 単位セメント量 最少値は280kg/m²とする。 ③ スランプ 18cm以下とする。 ④ 単位水量 共通仕様書(注5章3節、第6章2節)による。 ⑤ 計画調査 共通仕様書(注5章3節、第6章2節)による。		④ 水張り漏水試験 (a) コンクリート工事全工程完了後、水張り漏水試験を行う。ただし、試験を行うことが困難な場合は、省略することができる。 (b) 試験時間は24時間とする。	
② 配筋 (a) 屋根スラブは、1スラブ単位に対して各角部に下記及び3.2.1図による補強をした構造とする。ただし長辺短辺の上下筋共径10mm以上で200mm以内の間隔に配筋した場合は、補強を省略することができる。 (1) 補強筋の範囲 各角部から短辺長の1/4の線で囲まれる範囲 (2) 補強筋の径及び本数 タテヨコ共3-D10 (3) 補強筋の長さ 短辺長の1/4、ただし最大1.20m (b) 屋根スラブの中央部分は、上端筋をタテヨコ共径10mm、間隔300mm以内に配筋する。		⑤ コンクリートの打込み ① 打込み (a) 屋根スラブコンクリートの打込みは、躯体コンクリートを屋根スラブ下端まで打込み、これが十分に落着いた後、打込むことを原則とする。 (b) 打込みには振動機を使用することを原則とし、コンクリートが分離しないように注意する。 (c) コンクリートを所定の厚さに打込んだ後、定規等を使用して厚み、水勾配をみながら、水下から水上へと打上げる。 (d) コンクリートの打継ぎ箇所はつぎの通り。 (a) コンクリートの打込み後、たたきにじれん、ショベル等で荒ならしし、粗骨材が表面より沈むまで、タンピングしながら水勾配をくみ、平らにならす。 (b) 打込み後、60分前後にコンクリートのおちつきを見計らい、再びタンピングを行う。 (c) タンピングには90~100mm(長さ3m~4m)の角材又は振動タンパー等を使用する。		⑤ 施工標準 (a) 工事完了後、監督員の指示する位置に取付ける。 (b) 施工標準に記載する事項は下記による。 (1) 防水施工業者名 (2) 工事を行った期間	
		⑥ 表面仕上げ ① 表面仕上げ (a) 下地コンクリートの仕上げは、3種(木ゴテ1回、金ゴテ2回、精度+5mm)とし、工法は共通仕様書(注5.11.3、第6.12.1)による。 (b) 立上りのコンクリートは打放し仕上げとし、仕上りの程度はB種とする。 (c) 金ゴテ仕上げにあたりセメント、水などを表面に散布してはならない。		⑥ 保証書 工事完了後、契約権者あて、保証書を提出する。	

福島県内装工事仕様書 (昭和61年版)

I 共通仕様

福島県建築・設備工事共通仕様書 (昭和62年版)

図面及び特記仕様に記載されていない事項は、建設省住宅局修繕公共住宅建設工事共通仕様書建築編 (昭和60年版) 及び建設大臣官庁官庁庁舎修繕建築工事共通仕様書 (昭和60年版) (以下「共通仕様書」という) による。

II 特記仕様

特記事項は◎印を付けたものを適用する。ただし◎印のない場合は※印を付けたものを適用する。

章	項 目	特 記 事 項												
①	ビニル床シート ビニル床タイル ゴムタイル張り	① 材料 (a) 接着剤の種類及び施工箇所は下表による。 <table><thead><tr><th>種 別</th><th>施 工 箇 所</th></tr></thead><tbody><tr><td>酢酸ビニル樹脂系 ビニル共重合樹脂系、 合成ゴム系</td><td>・一般の床</td></tr><tr><td>エポキシ樹脂系</td><td>・地下部分の最下階、玄関ホール、ローカ・流し等及び便所 入口部分等の周囲2 m ・湯沸室、便所、洗面所、特別実験室及び同準備室などの水を使用する床 ・海岸より4 km範囲の建物の床 ・階段（踏面） ・貯水槽及び浴室の直上床 ・その他湿気の影響を受ける恐れのある箇所</td></tr><tr><td>酢酸ビニル樹脂系 溶剤系（垂直面用）</td><td>・幅木、階段のけあげ</td></tr></tbody></table> ○ 全床、エポキシ系接着剤を使用する。 ② 工法 (a) モルタル塗り下地は、施工後14日以上、コンクリート下地は、28日以上放置し、十分乾燥したものとする。 (b) 木造下地は下表による。 <table><tbody><tr><td>下張りがある場合</td><td>・下張りは合板厚さ12mmとし、受材心で突付け乱に継ぎ、くぎ打ち又は木ねじ留め。留付間隔は継手部は150mm程度、中間部は200mm程度とする。</td></tr><tr><td>下張りがない場合</td><td>・下張り用床板の上に、合板厚さ5.5mmを受材心で突付け、継手位置は、下張りと同じ箇所を避け、くぎと接着剤併用又は木ねじで留付ける。留付け間隔は下張り用床板による。</td></tr></tbody></table> (注)（合板の規格） 1、合板は「普通合板の日本農林規格」の規格品とし1類2等を標準とする。 (c) 版敷（シートの場合） ※作る ・しない (d) 割付け図（タイルの場合） ※作成する ・作成しない (e) 張付け時の室温が5℃以下又は接着剤の硬化前に5℃以下になる恐れのある場合は、施工を中止する。やむを得ず施工する場合は、採暖をするなどの養生を行う。 (f) 表面仕上げ 1) ビニル床シート、ビニル床タイル 接着剤の硬化を見計らい（1～2週間）、全面を水ぶき清掃し、乾燥後は水溶性ワックスを用いてつや出しを行う。 2) ゴムタイル張り 湿潤なところなどを散布し、ポリッシャーを用いて清掃つや出しを行う。	種 別	施 工 箇 所	酢酸ビニル樹脂系 ビニル共重合樹脂系、 合成ゴム系	・一般の床	エポキシ樹脂系	・地下部分の最下階、玄関ホール、ローカ・流し等及び便所 入口部分等の周囲2 m ・湯沸室、便所、洗面所、特別実験室及び同準備室などの水を使用する床 ・海岸より4 km範囲の建物の床 ・階段（踏面） ・貯水槽及び浴室の直上床 ・その他湿気の影響を受ける恐れのある箇所	酢酸ビニル樹脂系 溶剤系（垂直面用）	・幅木、階段のけあげ	下張りがある場合	・下張りは合板厚さ12mmとし、受材心で突付け乱に継ぎ、くぎ打ち又は木ねじ留め。留付間隔は継手部は150mm程度、中間部は200mm程度とする。	下張りがない場合	・下張り用床板の上に、合板厚さ5.5mmを受材心で突付け、継手位置は、下張りと同じ箇所を避け、くぎと接着剤併用又は木ねじで留付ける。留付け間隔は下張り用床板による。
種 別	施 工 箇 所													
酢酸ビニル樹脂系 ビニル共重合樹脂系、 合成ゴム系	・一般の床													
エポキシ樹脂系	・地下部分の最下階、玄関ホール、ローカ・流し等及び便所 入口部分等の周囲2 m ・湯沸室、便所、洗面所、特別実験室及び同準備室などの水を使用する床 ・海岸より4 km範囲の建物の床 ・階段（踏面） ・貯水槽及び浴室の直上床 ・その他湿気の影響を受ける恐れのある箇所													
酢酸ビニル樹脂系 溶剤系（垂直面用）	・幅木、階段のけあげ													
下張りがある場合	・下張りは合板厚さ12mmとし、受材心で突付け乱に継ぎ、くぎ打ち又は木ねじ留め。留付間隔は継手部は150mm程度、中間部は200mm程度とする。													
下張りがない場合	・下張り用床板の上に、合板厚さ5.5mmを受材心で突付け、継手位置は、下張りと同じ箇所を避け、くぎと接着剤併用又は木ねじで留付ける。留付け間隔は下張り用床板による。													
2	合成樹脂塗り床	1. 材料 (a) プライマー、下塗り材、トップコート、有機骨材などの材料は、製造所の指定する製品とする。 2. 工法 (a) 施工場所の気温が5℃以下及び湿度80%以上又は換気が十分でない場合は、原則として施工してはならない。やむを得ず施工する場合は、採暖、換気などの養生を行う。												
③	せつこうボード その他ボード及び合板張り	① 材料 (a) 天井及び壁に使用されるものは、すべて防火材料の認定表示のあるものとする。 (b) 合 板 (i) 無塗合板 (i) 合板の表面の品質は1等。両面見え掛りとなる場合は、裏面も表面と同程度のものとする。 (ii) 木掛り箇所は、接着性の種類が1類、その他は2類とする。 (iii) 樹脂は生地のまま又は透明塗料塗りの場合はラワンとし、不透明塗料塗りの場合はしなとする。 (c) 小ねじ・くぎ (i) 浴室、洗面所、便所、湯沸室、厨房などきびやうい箇所を使用する小ねじ、くぎなどは、黄銅又はステンレス製（SUS305の類）とする。見え掛りとなる小ねじ、くぎなどの頭は、仕上げ材と同色のものとする。												

② 工法

(d) 接着剤

- (1) 壁面の場合はJIS A5538 (壁用ボード用接着剤) による。
- (2) 天井面の場合はJIS A5539 (天井用ボード用接着剤) による。

(a) ボード類合板などの張付け

- (1) 下地及びボード類の小ねじ、くぎなどの留付間隔

(i) 木造壁下地

	せつこうボード	石綿セメント板の類	難燃合板、特殊合板の類
間隔			
くぎ間隔			
断面寸法	間隔は24×45 (mm) 板継ぎ位置の野縁は24×90 (mm)		
化粧取付け	柱、間柱に木込又は添付けくぎ打ち。添付けの場合は板継ぎ位置の柱、間柱と銅線とのすき間は銅木を当てくぎ打ち。 内装材を直接取付ける壁銅線の取付け面は、機械かん1回削り。		
化粧目地	化粧目地となる場合は、銅線又は裏当て材にあらかじめ仕上塗装又はテープ張りを行った後、仕上げ材を張付ける。		

(ii) 軽量鉄骨壁下地

寸法	板継ぎ位置の筋線は24×90 (mm)
胴縁の取付け	柱、間柱に木釘又は添付けくぎ打ち。添付けの場合は板継ぎ位置の柱、間柱と胴縁とのすき間には細木を当てくぎ打ち。 内装材を直接取付ける壁胴縁の取付け面は、機械かんな1回削り。
化粧地	化粧地となる部分に、胴縁又は裏当て材にあらかじめ仕上塗装又はチープ張りを行った後、仕上げ材を張付ける。

(iii) 木造天井下地

	下地張りのある場合	仕上げ材料をじか張りするか壁紙又は塗装下地の類を張付ける場合
間柱間隔		

新材	スタッド	ランナ	振止め	出入口及びこれに準ずる開口部の補強材	補強材取付用金物	スタッドの高さによる概要
65形	65×45×9.8	67×40×9.8		□-60×30×10×2.3	L-30×30×3	高さ3.7m以下
90形	90×45×9.8	92×40×9.8	25×10×1.2	□-75×45×15×2.3		高さ3.7mを超え4.5m以下
100形	100×45×9.8	102×40×9.8		□-75×45×15×2.3	L-50×50×4	高さ4.5mを超え5m以下

(注) 1. ダクト等の小規模な開口部の補強材は、それぞれ使用した種類のスタッド又はランナとする。

2. スタッドの高さに高低がある場合は、高い方を適用する。

振止めは、間隔1mの程度にスタッドに引通し設ける。

小ねじ間隔		
野縁及びくぎ間隔		

(iii) 木造天井下地

野縁及びくぎ間隔		
断面寸法	40×45 (mm) ただし、せつこうボード、石綿セメント板の板継ぎ位置の野縁は55×45 (mm)。	
継手	野縁、野縁受けさん共、交差箇所を避け、乱に両面添板を当て、くぎ打ち。	
野縁受けさん	@900mm	野縁 @450mm

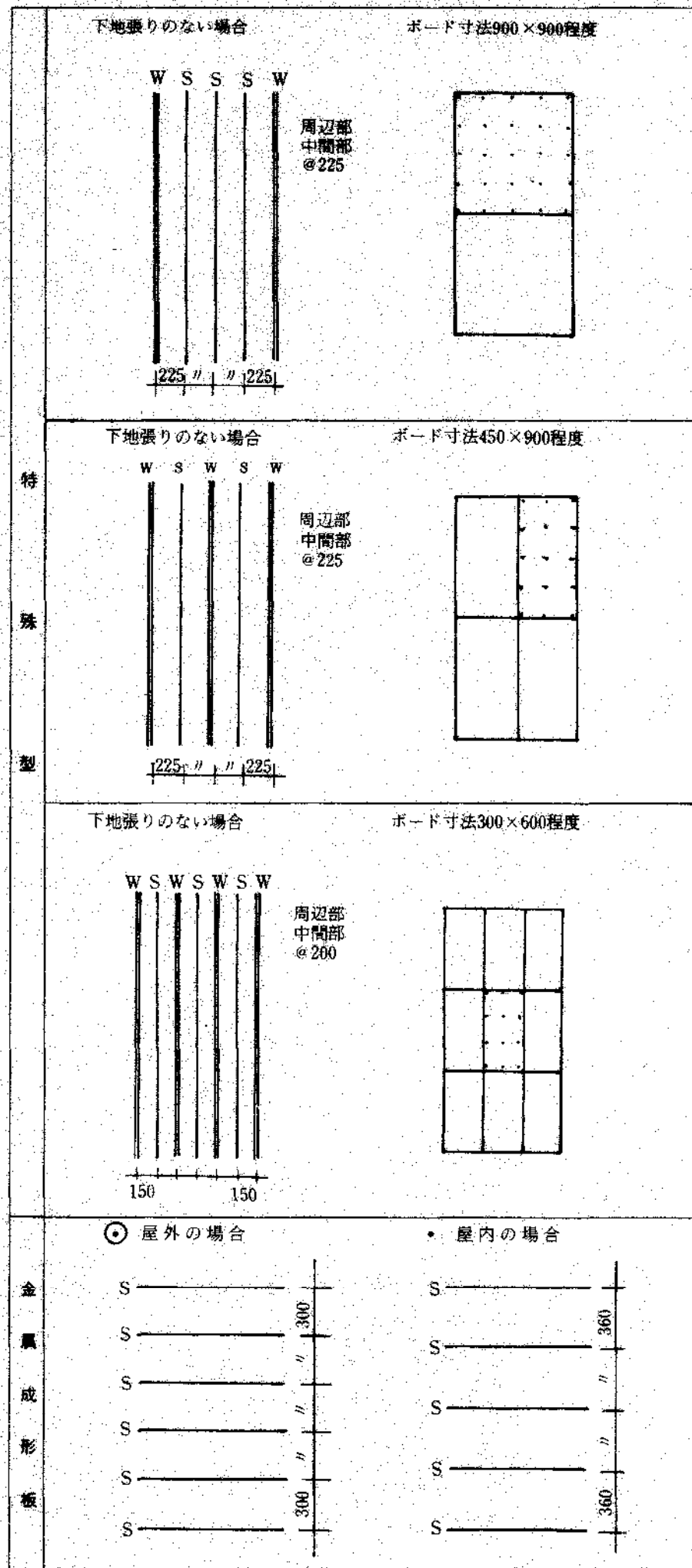
野縁取付け	難燃合板、特殊合板、せつこうボード、石綿セメント板の類の天井野縁は、下端をろえ、450×450 (mm) の格子組とし、くぎ打ち組固め。なお、野縁格子組の場合は、野縁受けさんを省略することができる。 内装材を直接取付ける野縁の取付け面は、機械かん1回削り。
-------	---

(iv) 軽量鉄骨天井下地

一般型 (小ねじ)	下地張りのある場合 ボード寸法900×1,800程度 小ねじ間隔による 野縁間隔による
-----------	--

一般型	下地張りがない場合 ボード寸法 900×1,800程度 野縁間隔による
-----	---

一般型	下地張りがない場合 ボード寸法 900×900程度 野縁間隔による
-----	---



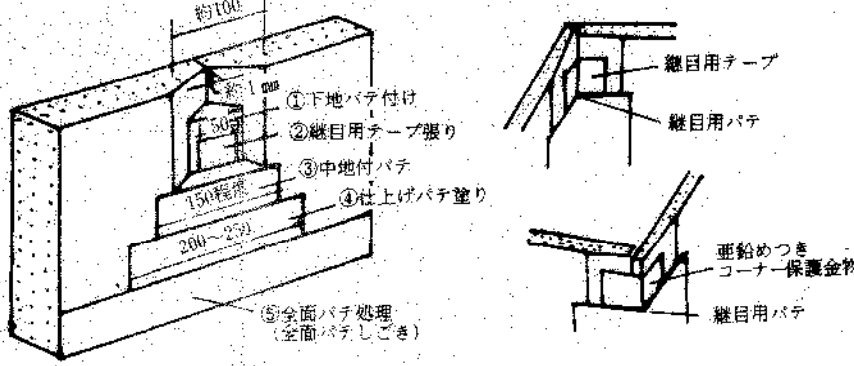
野縁などの種類	部材	種類	● 19形 (屋内)	● 25形 (屋外)
	シングル野縁		25×19×0.5	25×25×0.5
	ダブル野縁		50×19×0.5	50×25×0.5
	野縁受け		38×12×1.2	38×12×1.6
	野縁受けハンガ		厚さ 2.0mm以上	
	野縁受けクリップ		厚さ 0.6mm以上	厚さ 0.8mm以上
	インサート		鉄製	
	吊りボルト		呼び径9mm (転造ねじ、ブランク径8.1mm以上)	
	ナット		ホームーナット厚7.7mm以上、防せい処置済	
(注) I. 仕上げボードを接着剤とクッカーによるステープル又はくぎ留めで じか張りとする野縁は、19形にスリット加工したものとする。				
野縁受け、つりボルト及インサートの間隔			900mm程度、周辺部は端から150mm以内	
天井ふところが、屋内1.5m以上、屋外1.0m以上の場合は、縦横間隔1.8m程度に丸鋼φ又は□19×10×1.2mm以上を用いてつりボルトの振止め補強を行う。				

(b) ボード類を下地張りの上に張る場合は、接着剤を主とし、必要に応じて小ねじ、くぎ、クッカーによるステープルなどを併用して張付ける。

合板類の張付けは下表による。

種別	張付け工法
・A種	接着剤を使用し、沈めくぎ打ちして張付け、くぎ穴は表面仕上げ材と同色のパテ詰めとする。
・B種	くぎ又は木ねじを使用し張付けるか、これと接着剤を併用して張付ける。

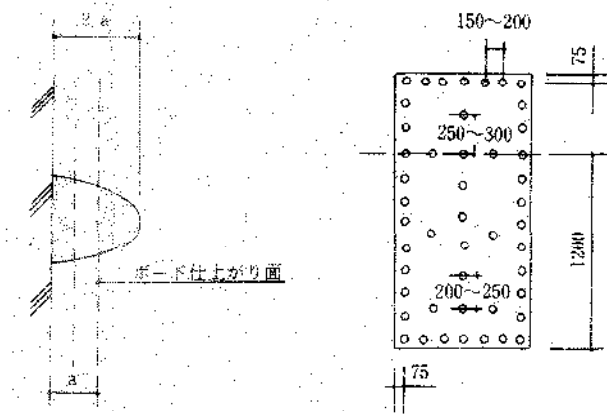
(c) セッコウボード (テーバー付き) の継目処理工法



(d) セッコウボードのセッコウによるじか張り工法

(i) 張付け用接着剤の間隔は下表による。

ボード周辺部	150～200
床上1.2m以下の部分	200～250
床上1.2mを超える部分	250～300



4. フローリング張り

1. 材 料

(a) 「フローリングの日本製規格」の規格品とする。

(b) フローリングボードの産種、等級及び寸法は下表による。

樹種	等 級	板 厚	板 幅	平均板長さ	備 考
ぶな	1,2等混合、ただし2等は50%以下	15mm	64～75mm	500mm以上かつ平均の長さが820mm以上	下張りがない場合は裏面に防湿加工を行ったものとする。

(注) フローリングボードには、積層フローリングを含む。

(c) 天然木化粧複合フローリング張り

(i) 種別については、下表による。

種 別	厚 さ	表 層	備 考
・A種	15mm	ひき板の厚さ2mm以上	下張りがない場合は、裏面にアスファルト系高粘度防湿塗料などの塗布による防湿処理
・B種	下張りがある場合 12mm 下張りがない場合 14mm		裏面にアスファルト系高粘度防湿塗料などの塗布による防湿処理

(注) A種の場合

- 下張り用合板は、合板厚さ15mm、1種2等とする。
- 表面及び裏面は単板の厚さ2mm、内部積層単板は、材厚2mm内外のぶな2層、ラワン層の互層で、計7層熱圧加工したものとし、加圧力は15kg/cm²とする。板そば、木口とも本表加工及び面取りとする。

(ii) 工 法

割付け	標準寸法 (幅99mm又は150mm、長さ909mm) を千鳥に割付け施工する。
取付け	根太に直角に張り、小口継手は根太上とし、根太当り雄太上からスクリークを隠しくぎ打ち、さらに接着剤をくぎ打ち部の裏面にダンゴ付、隅部は必要に応じて鋸製スクリークをポンチ締め又は裏面に接着剤付けとする。

(d) フローリングブロックは、裏面に防水処理を行い、垂鉛めつきを行った鋼板製足金物 (厚さ0.7mm以上) 付きのものとする。

⑤ 壁紙張り

① 材 料

(a) 壁紙は、建築基準法に基づく防火材料の認定表示のあるものとし、品質及び防火性能の級別は下表による。

材料名	検定級別	下 地	防火性能	建設大臣認定番号	重量制限 (g/m ² 以下)	種別
紙壁紙	1級	不 燃	不 燃	化粧(不燃) 第0001号	300	1
	2級	準不燃	準不燃	化粧(不燃・準不燃) 第0001号	450	2
織物壁紙	1級	不 燃	不 燃	化粧(不燃) 第0002号	900	3
	2級	準不燃	準不燃	化粧(不燃・準不燃) 第0003号	400	4
ビニール壁紙	4級	不 燃	不 燃	化粧(不燃) 第0003号	500	5
	5級	準不燃	難 燃	化粧(不燃・準不燃) 第0003号	800	6
化繊壁紙	(1) 2級	不 燃	準不燃	化粧(不燃・準不燃) 第0004号	350	7
	(2) 2級	準不燃	準不燃	化粧(不燃・準不燃) 第0004号	350	8
無機質壁紙	1級	不 燃	不 燃	化粧(不燃) 第0005号		9
		準不燃	準不燃	化粧(準不燃) 第0005号		

(b) 材 料 名

紙 壁 紙	加工紙壁紙、紙布壁紙、金属箔壁紙、合成紙壁紙等
織 物 壁 紙	レーヨン壁紙、麻壁紙等セルローズによる壁紙
ビ ニ ール 壁 紙	塩ビレザー壁紙
化学繊維壁紙(1)	アクリル壁紙等含窒素系の化学繊維による壁紙
化学繊維壁紙(2)	ポリクラル繊維、ポリ塩化ビニル繊維等含塩素系の化学繊維による壁紙
無 機 質 壁 紙	ガラス繊維、アスベスト、蛭石等無機質を主とした壁紙

(c) 建設大臣認定番号下地 (例) 化粧 (不燃) 第0001号の場合は (不燃) の下地使用。

(不 燃)	金属及び不燃セッコウボードを除く、法定不燃材料
(準 不 燃)	法定準不燃材料(法定準不燃セッコウボードを含む)及び法定不燃セッコウボード
(不燃・準不燃)	金属を除く法定不燃材料及び法定準不燃材料

2. 工 法

(a) 素地ごしらえ

- モルタル及びプラスター面
- セッコウボード面
- 石綿セメントけい酸カルシウム板面

・A種 ※ B種
・A種 ※ B種
・A種 ※ B種

(a) じゅうたんは、消防法に定める防炎性能を有するものとし、認定表示のあるものとする。

(b) 種別は下表による。

(i) ウイルトンカーペットの種別

種 別	パイル糸の品質	糸の番手・本数	密度 (25.4mm当り)	パイル長 (mm)
・A種	そ毛糸	10番手2本より4本引きそろえ	8×9	12
・B種	紡毛糸	7番手2本より3本引きそろえ	8×8	10
※C種	紡毛糸	5番手2本より2本引きそろえ	8×8	7

(注) 糸の番手は、そ毛糸は英国番手、紡毛糸はメートル番手とする。

(ii) タフテッドカーペットの種別

種 別	表面の形状	パイル糸の品質・規格	パイルの重さ (g/m ²)	パイル長 (mm)
・A種	レベルループ	BCFナイロンフィラメント 1225～1300デニール	250以上	4
・B種	マルチレベルループ	同 上	375以上	4～6

(注) パイルの重量は、JISL1021 (数物試験方法) によるパイルの質量とする。

福島県木製建具工作標準図 (昭和61年版)

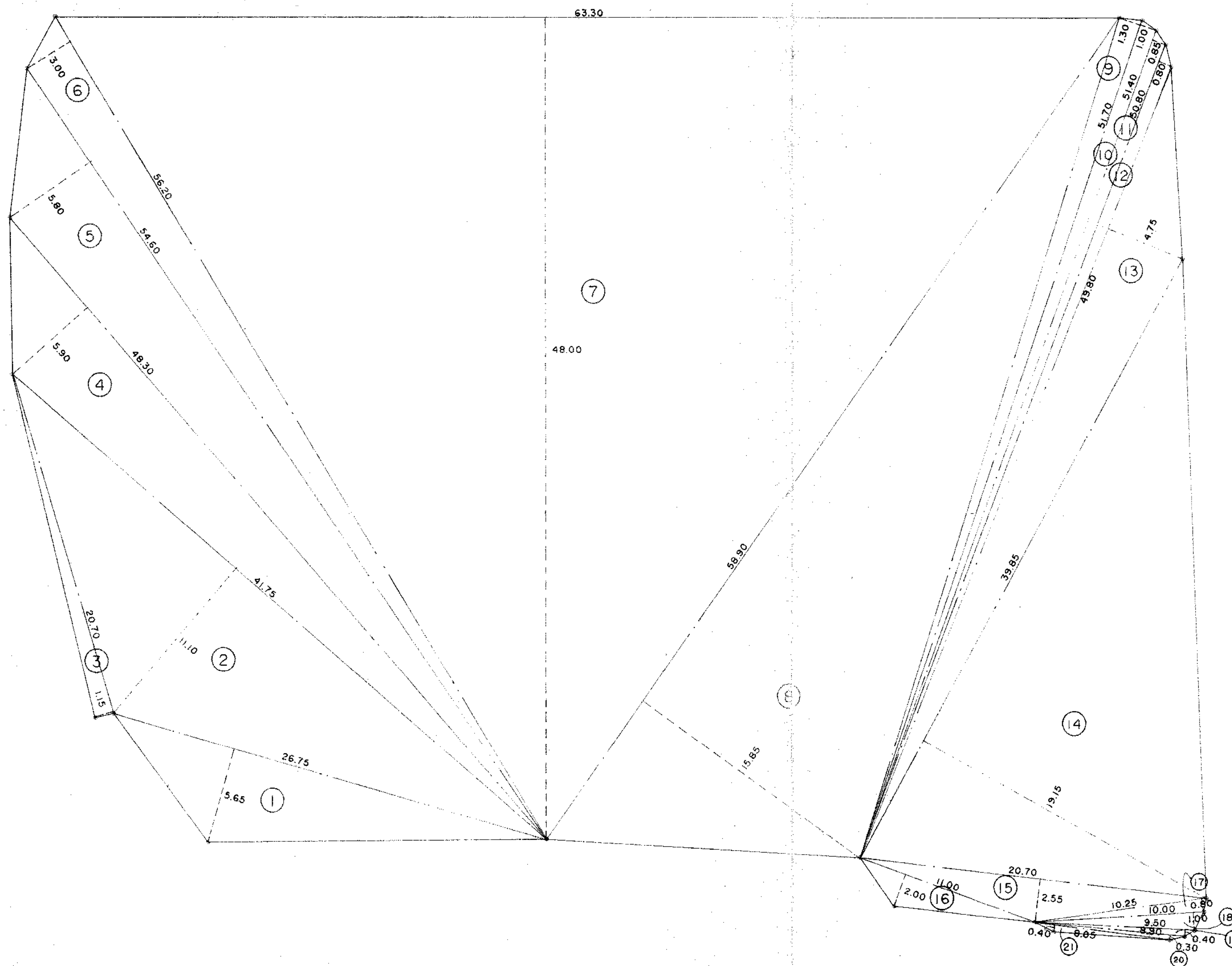
工作図の使用取扱いについては次による。

1. 特記事項は○印を付けたものを適用する。ただし○印のない場合は※印を付けたものを適用する。
2. 建具寸法は「設計図面」による。
3. フラッシュ戸については庁舎等に適用する。

項 目	特 記 事 項																																												
1. 材 料	(a) 木材の等級、含水率及び樹種 (1) 木材は、原則として「建具材の日本農林規格」に準じる。 (2) 建具材の種別は1表による。																																												
	1表 建 具 材 の 種 別																																												
	<table><tr><th>種 別</th><th>建具材の等級</th><th>加工組立て時の含水率</th></tr><tr><td>・A 種</td><td>1 等</td><td>15' /wt 以下</td></tr><tr><td>※B 種</td><td>2 等</td><td>天然乾燥18' /wt 以下、人工乾燥15' /wt 以下</td></tr><tr><td>・C 種</td><td>3 等</td><td>18' /wt 以下</td></tr></table>	種 別	建具材の等級	加工組立て時の含水率	・A 種	1 等	15' /wt 以下	※B 種	2 等	天然乾燥18' /wt 以下、人工乾燥15' /wt 以下	・C 種	3 等	18' /wt 以下																																
	種 別	建具材の等級	加工組立て時の含水率																																										
	・A 種	1 等	15' /wt 以下																																										
	※B 種	2 等	天然乾燥18' /wt 以下、人工乾燥15' /wt 以下																																										
	・C 種	3 等	18' /wt 以下																																										
	(3) 樹 種 (i) 樹種は2表による。																																												
	2表 樹 種																																												
	<table><tr><th>名 称</th><th>樹 種</th><th>代 用 樹 種</th></tr><tr><td>つり元となる部材及び定規縁</td><td>ひのき</td><td>ひば、米ひ、米ひば、台ひ</td></tr><tr><td>フラッシュ戸の上下横、縦 框、中骨</td><td>す ぎ</td><td>紅松、ねずこ、米すぎ、米とうひ、 米つが、米もみ、えぞ松</td></tr><tr><td>その他建具の上下横、縦框、 組子等</td><td>す ぎ</td><td>紅松、米すぎ、もみ、ねずこ、米とうひ</td></tr></table>	名 称	樹 種	代 用 樹 種	つり元となる部材及び定規縁	ひのき	ひば、米ひ、米ひば、台ひ	フラッシュ戸の上下横、縦 框、中骨	す ぎ	紅松、ねずこ、米すぎ、米とうひ、 米つが、米もみ、えぞ松	その他建具の上下横、縦框、 組子等	す ぎ	紅松、米すぎ、もみ、ねずこ、米とうひ																																
名 称	樹 種	代 用 樹 種																																											
つり元となる部材及び定規縁	ひのき	ひば、米ひ、米ひば、台ひ																																											
フラッシュ戸の上下横、縦 框、中骨	す ぎ	紅松、ねずこ、米すぎ、米とうひ、 米つが、米もみ、えぞ松																																											
その他建具の上下横、縦框、 組子等	す ぎ	紅松、米すぎ、もみ、ねずこ、米とうひ																																											
(b) 合 板 (1) 合板は、普通合板、特殊合板、難燃合板及び防火用合板の日本農林規格 の規格品とする。																																													
2. 金 物	(a) 木製建具の丁番など (1) 丁番は、3表により材質は軸を含めステンレスとする。形式と金物の種 類は共通仕様書による。																																												
	3表 木 製 建 具 用 丁 番																																												
	<table><tr><td rowspan="3">庁舎 学校 等</td><td>使 用 個 所</td><td colspan="2">枚 数</td><td colspan="2">大きさ%</td><td colspan="2">木 ね じ</td></tr><tr><td></td><td>建具のHが 1.80 m 以下</td><td>建具のHが 1.80 m を超える</td><td>長さ</td><td>厚さ</td><td>本数(本)</td><td>径(%)</td></tr><tr><td>出入口</td><td>2 枚</td><td>3 枚</td><td>127</td><td>2.5</td><td>10</td><td>4.1</td></tr><tr><td rowspan="3">住宅 公舎 等</td><td>使 用 個 所</td><td colspan="2">枚 数</td><td colspan="2">大きさ%</td><td colspan="2">木 ね じ</td></tr><tr><td></td><td>建具のHが 1.80 m 以下</td><td></td><td>長さ</td><td>厚さ</td><td>本数(本)</td><td>径(%)</td></tr><tr><td>出入口</td><td>2 枚</td><td></td><td>102</td><td>2.5</td><td>8</td><td>4.1</td></tr></table>	庁舎 学校 等	使 用 個 所	枚 数		大きさ%		木 ね じ			建具のHが 1.80 m 以下	建具のHが 1.80 m を超える	長さ	厚さ	本数(本)	径(%)	出入口	2 枚	3 枚	127	2.5	10	4.1	住宅 公舎 等	使 用 個 所	枚 数		大きさ%		木 ね じ			建具のHが 1.80 m 以下		長さ	厚さ	本数(本)	径(%)	出入口	2 枚		102	2.5	8	4.1
	庁舎 学校 等		使 用 個 所	枚 数		大きさ%		木 ね じ																																					
				建具のHが 1.80 m 以下	建具のHが 1.80 m を超える	長さ	厚さ	本数(本)	径(%)																																				
		出入口	2 枚	3 枚	127	2.5	10	4.1																																					
	住宅 公舎 等	使 用 個 所	枚 数		大きさ%		木 ね じ																																						
			建具のHが 1.80 m 以下		長さ	厚さ	本数(本)	径(%)																																					
		出入口	2 枚		102	2.5	8	4.1																																					
	(2) 戸車は JISA5512 (引戸用戸車) により、断面は4表による。																																												
(3) レールは JISA5509 (引戸用レール) により、断面は4表による。																																													
4表 木製建具の戸車とレール(%)																																													
<table><tr><td rowspan="3">使 用 個 所</td><td rowspan="3">戸車の外径</td><td colspan="2">レールの断面</td></tr><tr><td>断 面 の 形</td><td>幅 × 高さ</td></tr><tr><td rowspan="2">甲 丸</td><td>7.0 × 9.0</td></tr><tr><td>一 般 の 窓</td><td>30</td><td>5.6 × 7.0</td></tr></table>	使 用 個 所	戸車の外径	レールの断面		断 面 の 形	幅 × 高さ	甲 丸	7.0 × 9.0	一 般 の 窓	30	5.6 × 7.0																																		
使 用 個 所			戸車の外径	レールの断面																																									
				断 面 の 形	幅 × 高さ																																								
	甲 丸	7.0 × 9.0																																											
一 般 の 窓		30	5.6 × 7.0																																										
(b) 握り玉、押板類の取付け位置は5表を標準とする。																																													
5表 握玉押板類の取付け位置(mm)																																													
<table><tr><th>金 物 の 種 類</th><th colspan="3">床 上 端 か ら 金 物 ま で の 高 さ</th></tr><tr><td>握玉・とっ手類</td><td>建具H2m以上</td><td>1.0</td><td>建具H2m以下建具Hの1/2</td></tr><tr><td>押 板 類</td><td>〃</td><td>1.1</td><td>〃 1.0</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	金 物 の 種 類	床 上 端 か ら 金 物 ま で の 高 さ			握玉・とっ手類	建具H2m以上	1.0	建具H2m以下建具Hの1/2	押 板 類	〃	1.1	〃 1.0																																	
金 物 の 種 類	床 上 端 か ら 金 物 ま で の 高 さ																																												
握玉・とっ手類	建具H2m以上	1.0	建具H2m以下建具Hの1/2																																										
押 板 類	〃	1.1	〃 1.0																																										
4. その他 (特記)																																													

3. 建具種別

1 フラッシュ戸 (中骨、縦横の場合)	2 フラッシュ戸 (中骨、横方向の場合)	3 フラッシュ戸 (ペーパーコアの場合)	4 いんろうふすま	5 付 縁 ふ す ま
縦 框 25%程度3枚はぎ、千鳥すじ切り@300程度 上下横 25%程度4枚はぎ、同 上 中 骨 見付25%以上、間隔150%程度 縦横交差部は相欠き、中骨には空気孔を設ける。間隔300%程度。 吊 元 ビボットヒンジ、丁番当りは2枚以上ひのき又はひば材とし、錠前当りドアチェック当り3枚以上増骨 框 取 合 い ぼぞ差しまたは両面金物固定	縦 框 25%程度3枚はぎ、千鳥すじ切り@300%程度 上下横 25%程度4枚はぎ、同 上 中 骨 見付10%以上、間隔100%程度 中間2ヶ所の中骨は分増し前後、中骨は空気孔を設ける。 吊 元 ビボットヒンジ、丁番当りは2枚以上ひのき又はひば材とし、錠前当りドアチェック当り3枚以上増骨 框 取 合 い ぼぞ差しまたは両面金物固定	縦 框 25%程度3枚はぎ、千鳥すじ切り@300%程度 上下横 25%程度4枚はぎ、同 上 中 骨 中横2ヶ所25%程度2枚はぎ、空気孔を設ける。 吊 元 ビボットヒンジ、丁番当りは2枚以上ひのき又はひば材とし、錠前当りドアチェック当り3枚以上増骨 框 取 合 い ぼぞ差しまたは両面金物固定	周 囲 骨 16.5%×21%すみずみ入り輸入釘打ち 縦 子 12%×13.5%3本内1本分増し力骨 横 子 " 11本 " 紙 貼 り 骨しぼり 1回 " べたばり 1回 " 袋 ばり 1回 3枚がけ以上 " 上 ばり 1回 見本提出 周囲縁はカシュー樹脂塗料ぬり。片面の場合(押入等)は裏面雲花紙貼り仕上。金物等は見本品提出。	周 囲 骨 16.5%×21%すみずみ入り輸入釘打ち 縦 子 12%×13.5%3本内1本分増し力骨 横 子 " 11本 " 紙 貼 り 骨しぼり 1回 " べたばり 1回 " 袋 ばり 1回 3枚がけ以上 " 上 ばり 1回 見本提出
6 片面、両面、板ふすま	7 片面ブリン、板ふすま	8 障 子 戸	9 障 子 戸	10 各 個 所 取 付 寸 法
横 横 4本以上 紙 貼 り 下 貼 り 1回 " 上 貼 り 1回 見本提出 釘 亜鉛メッキ	横 横 4本以上 紙 貼 り 下 貼 り 1回 " 上 貼 り 1回 見本提出 釘 亜鉛メッキ	縦 框 紙じゃくり 上下横 " 規格紙幅に合わせる。片組とする。 組 子 規格紙幅に合わせる。片組とする。	縦 框 紙じゃくり 上下横 " 規格紙幅に合わせる。片組とする。 組 子 規格紙幅に合わせる。片組とする。	建具金物 見本品提出 材種形状 JISによる (注) 便所、洗面所、浴室、厨房等の金物はステンレス鋼、亜鉛合金、黄銅、または青銅製とする。ステンレス以外のものはクロムめっきを行ったものとする。



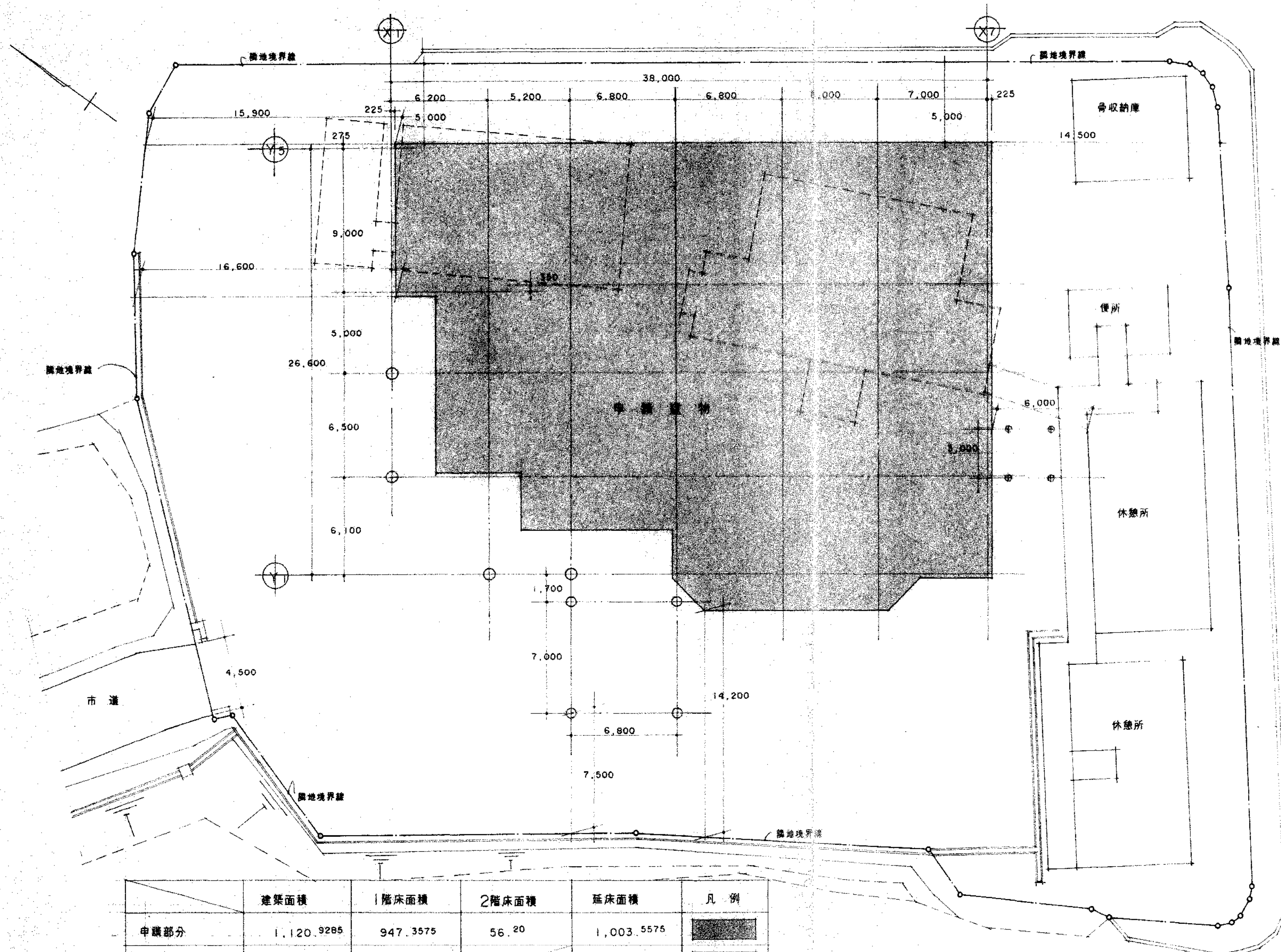
敷地面積

①	26.75	×	5.65	=	151.1375
②	41.75	×	11.10	=	463.4250
③	20.70	×	1.15	=	23.8050
④	48.30	×	5.90	=	284.9700
⑤	54.60	×	5.80	=	316.6800
⑥	56.20	×	3.00	=	168.6000
⑦	63.30	×	48.00	=	3,038.4000
⑧	58.90	×	15.85	=	933.5650
⑨	51.70	×	1.30	=	67.2100
⑩	51.70	×	1.00	=	51.7000
⑪	51.40	×	0.85	=	43.6900
⑫	50.80	×	0.80	=	40.6400
⑬	49.80	×	4.75	=	236.5500
⑭	39.85	×	19.15	=	763.1275
⑮	20.70	×	2.55	=	52.7850
⑯	11.00	×	2.00	=	22.0000
⑰	10.25	×	0.80	=	8.2000
⑱	10.00	×	1.00	=	10.0000
⑲	9.50	×	0.40	=	3.8000
⑳	8.90	×	0.30	=	2.6700
㉑	8.05	×	0.40	=	3.2200

6,686.1750

× 1/2 = 3,343.0875 M²

敷地面積 求積図 S=1/200

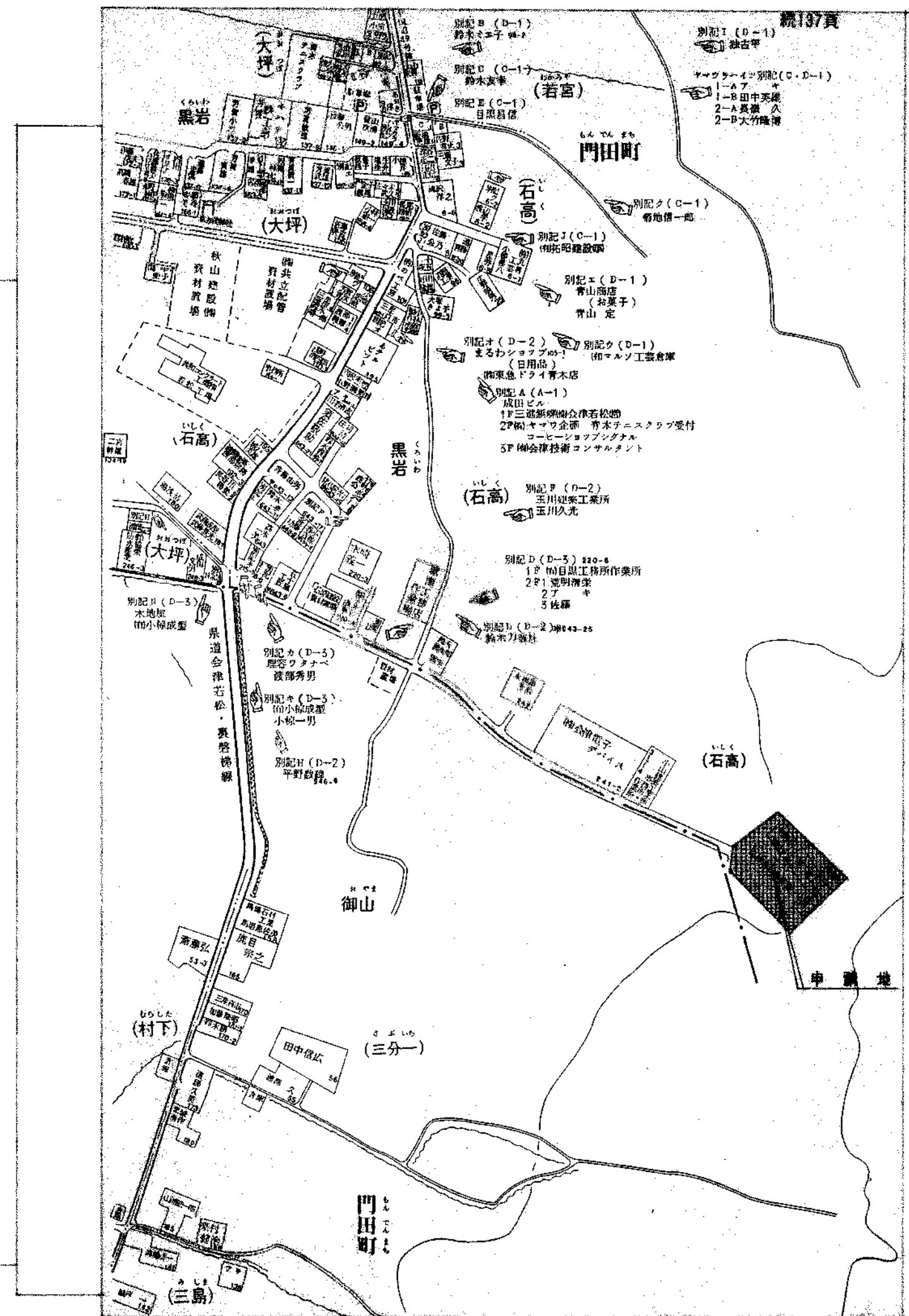
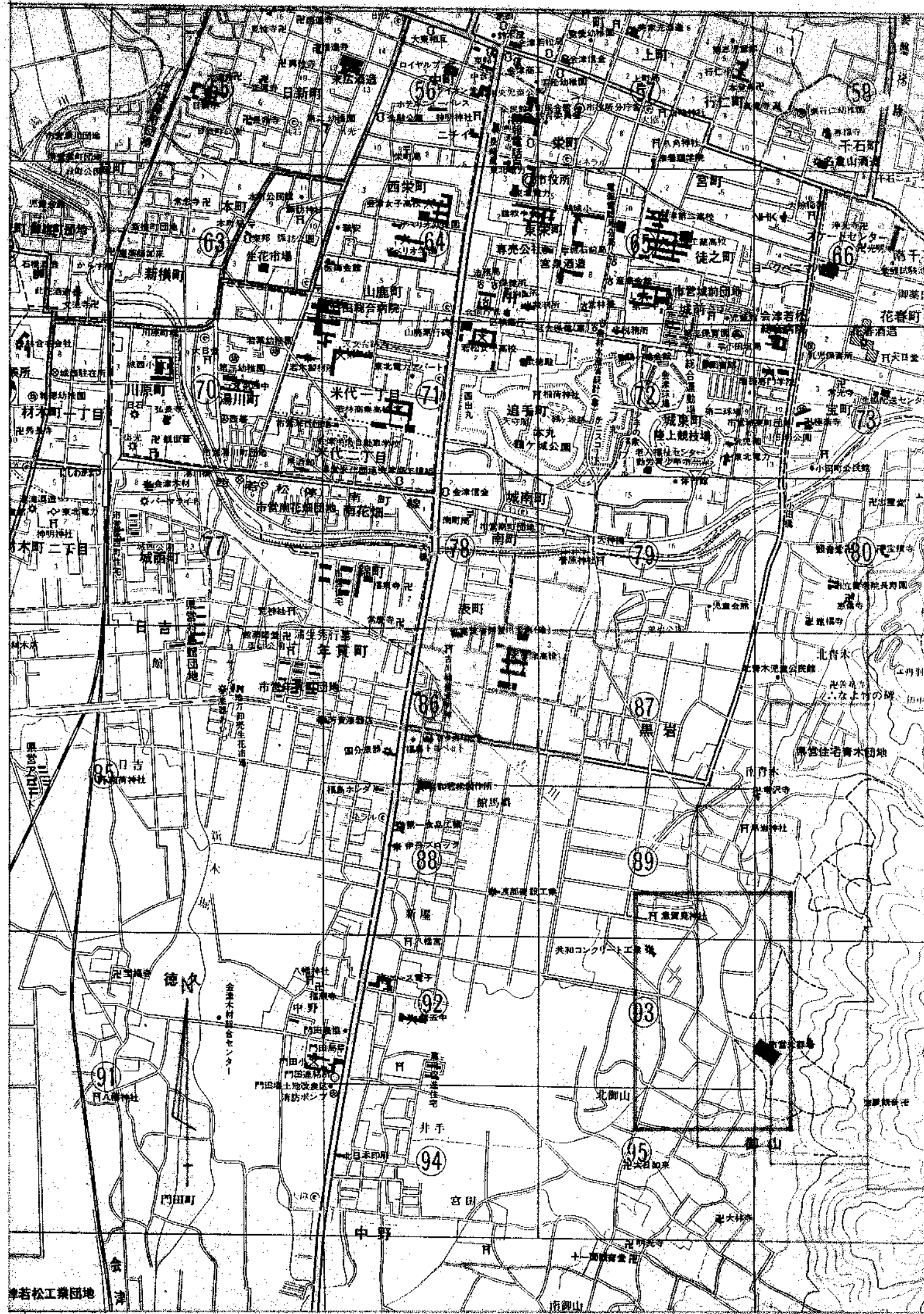


	建築面積	1階床面積	2階床面積	延床面積	凡例
申請部分	1,120.9285	947.3575	56.20	1,003.5575	
申請以外部分	332.51265	332.51265		332.51265	
合計	1,453.44115	1,279.87015	56.20	1,336.07015	

解体部分	351.4685	332.1485		332.1485	
------	----------	----------	--	----------	--

建坪率	1,453.4415	43.48 %
容積率	3,343.0805	39.97 %

配置図 S=1/200



案 内 図

会津若松市斎場新築

工事設計図

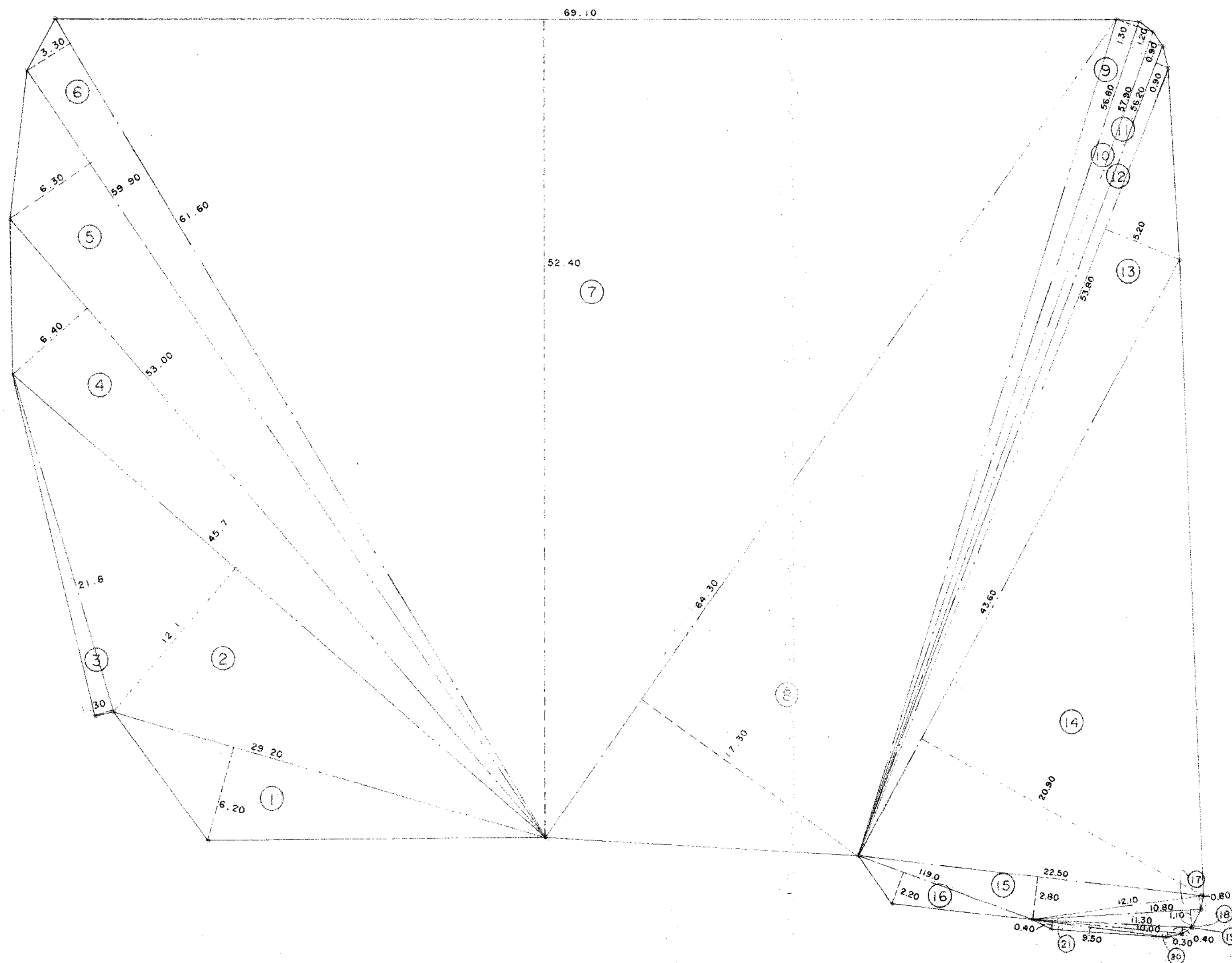
No

製

図

案 内 図

A-14



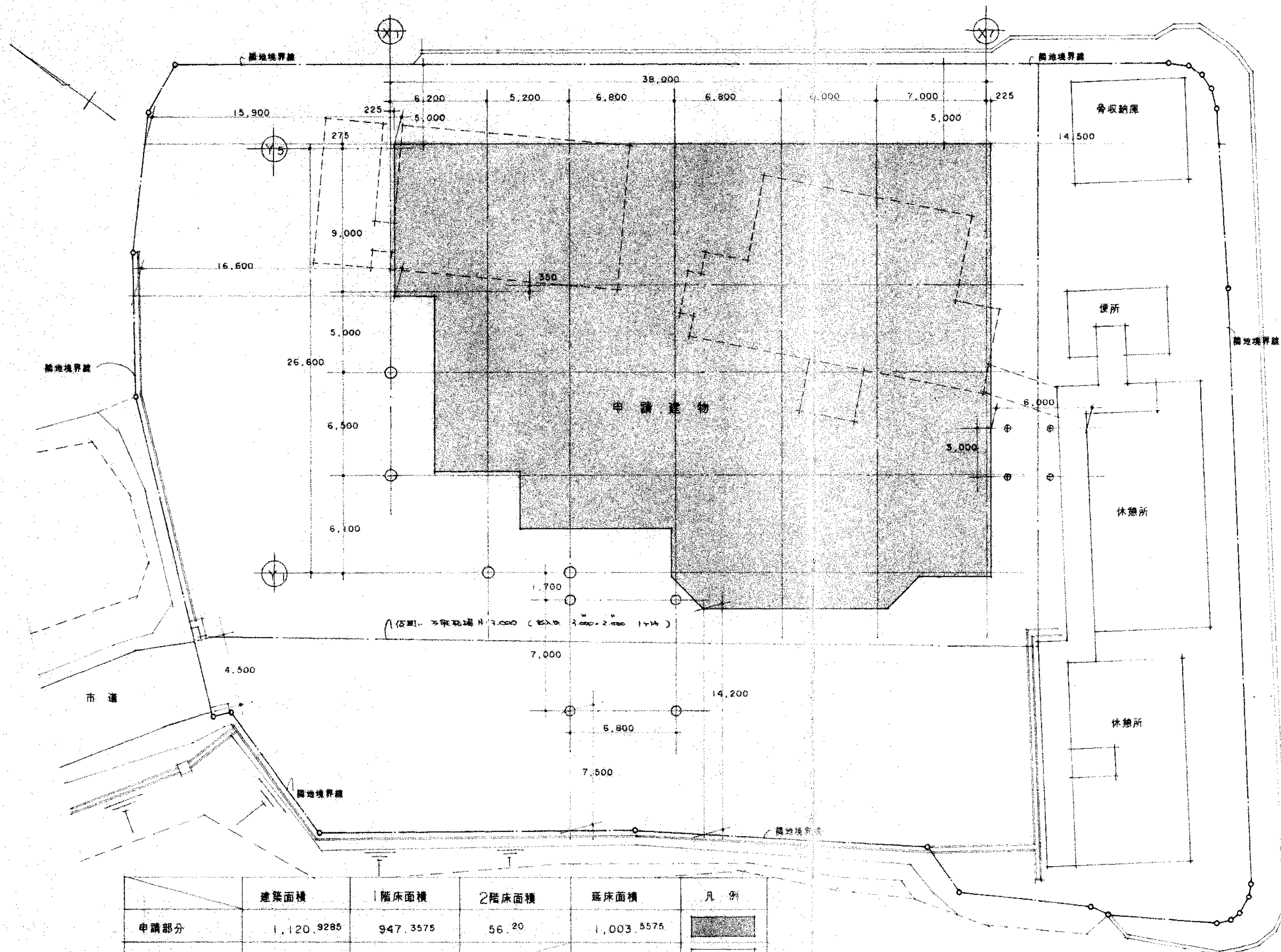
敷地面積 求積図 S=1/200

敷地面積

①	29.20	×	6.20	=	181.04
②	45.70	×	12.10	=	552.97
③	21.80	×	1.30	=	28.34
④	53.00	×	6.40	=	339.20
⑤	59.90	×	6.30	=	377.37
⑥	61.60	×	3.30	=	203.28
⑦	69.10	×	52.40	=	3,620.84
⑧	64.30	×	17.30	=	1,112.39
⑨	56.80	×	1.30	=	73.84
⑩	56.80	×	1.20	=	68.16
⑪	57.90	×	0.90	=	52.11
⑫	56.20	×	0.90	=	50.58
⑬	53.80	×	5.20	=	279.76
⑭	43.60	×	20.90	=	911.24
⑮	22.50	×	2.80	=	63.00
⑯	11.90	×	2.20	=	26.18
⑰	12.10	×	0.80	=	9.68
⑱	10.80	×	1.10	=	11.88
⑲	11.30	×	0.40	=	4.52
⑳	10.00	×	0.30	=	3.00
㉑	9.50	×	0.40	=	3.80

7,973.18

× 1/2 = 3,986.59 M²

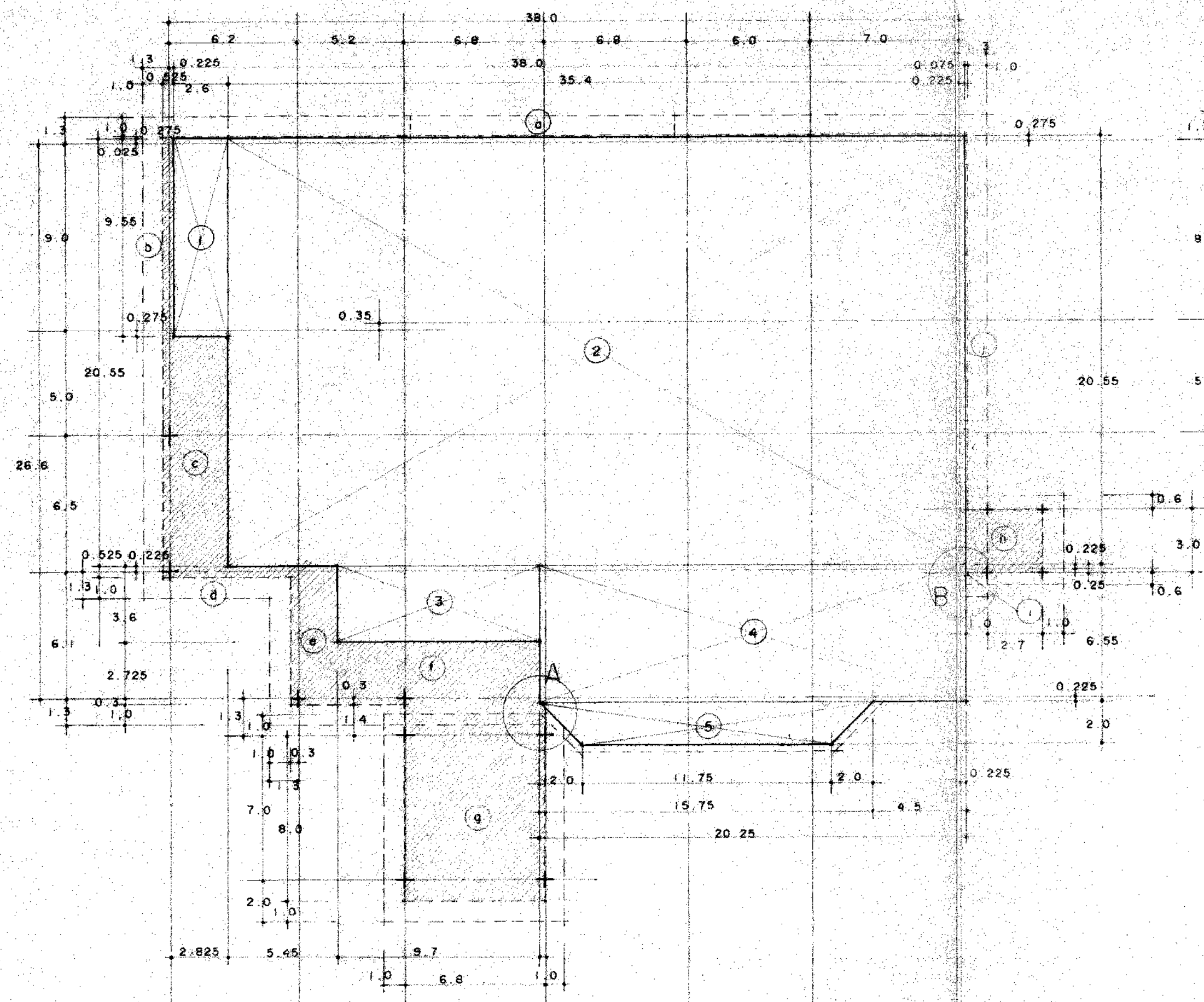


	建築面積	1階床面積	2階床面積	延床面積	凡例
申請部分	1,120.9285	947.3575	56.20	1,003.5575	
申請以外部分	332.51265	332.51265		332.51265	
合計	1,453.44115	1,279.87015	56.20	1,336.07015	

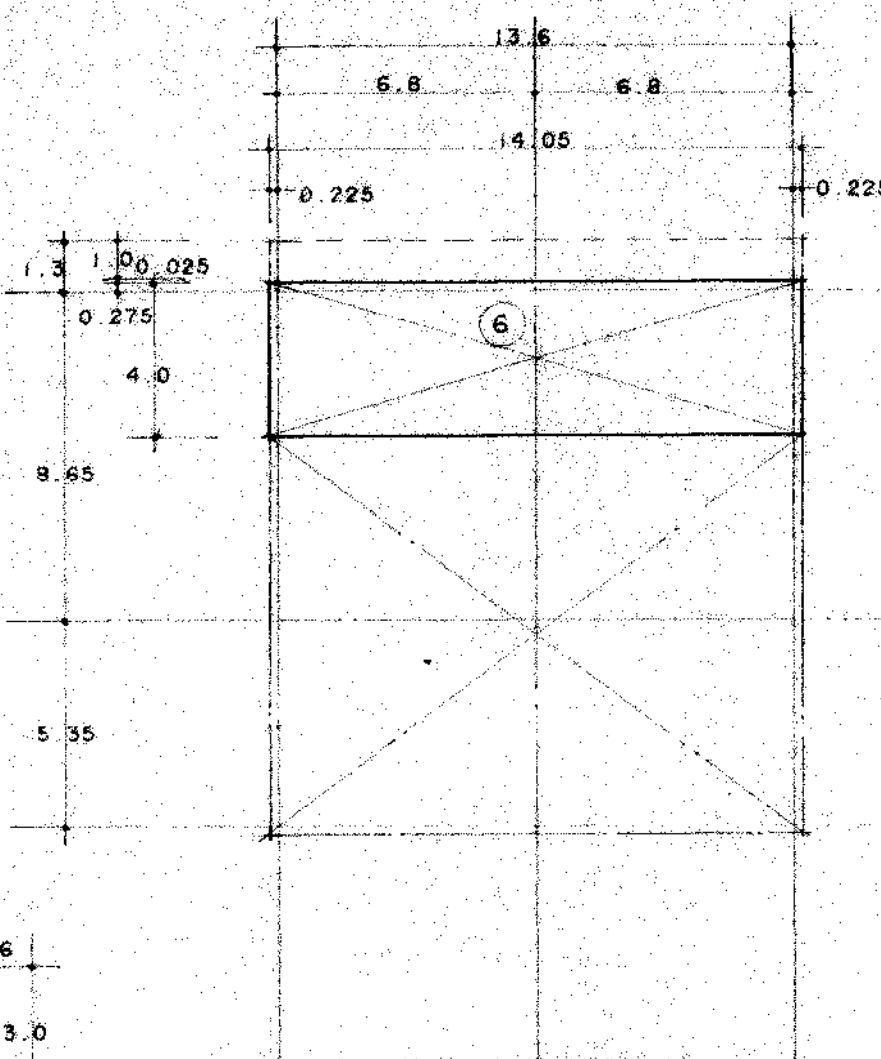
解体部分	351.4685	332.1485		332.1485	
------	----------	----------	--	----------	--

建坪率	$\frac{1,453.4415}{3,986.590}$	36.45 %
容積率	$\frac{1,336.07015}{3,986.590}$	33.51 %

配置図 S=1/200

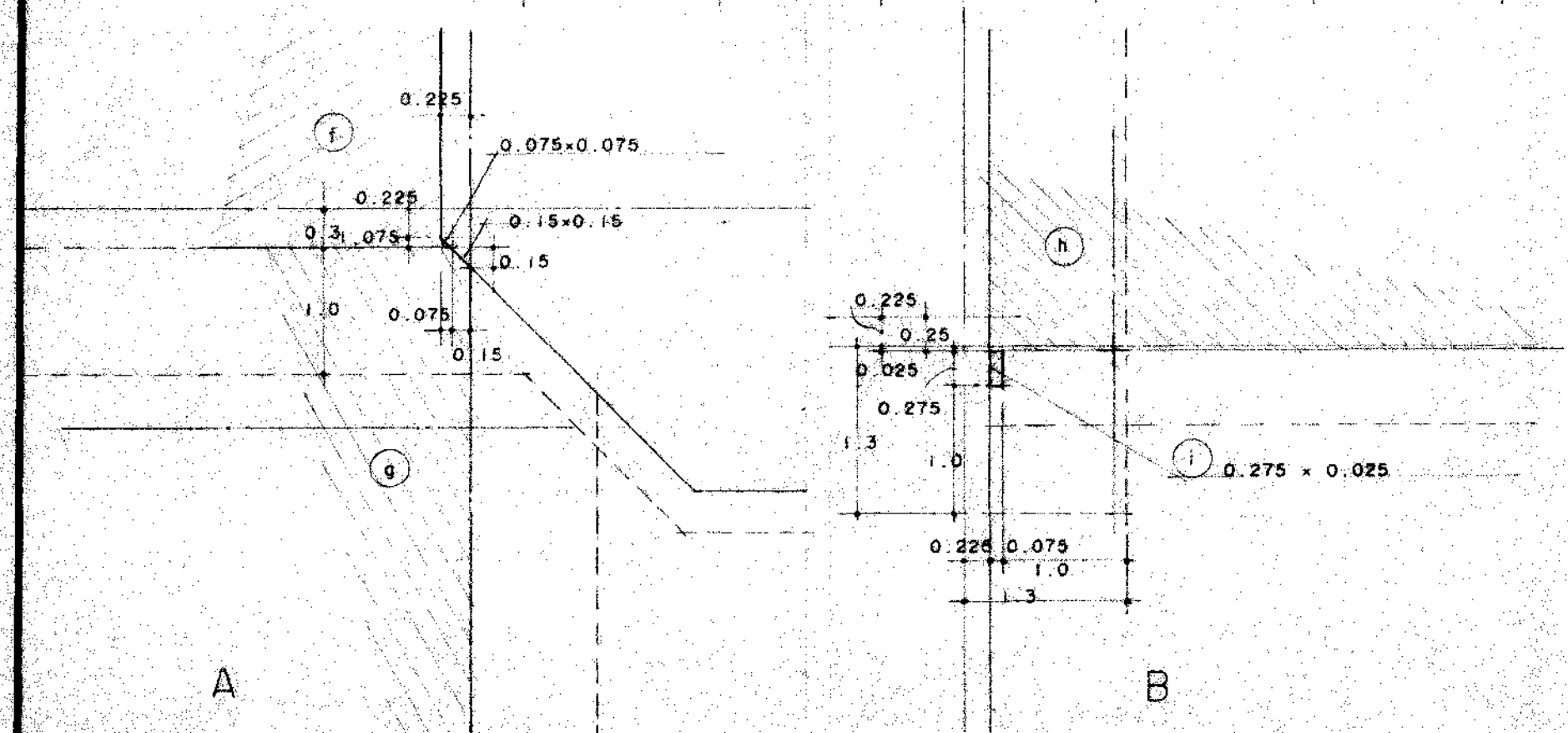


1階床面積計算図 S=1/200



2階床面積計算図 S=1/200

面積計算表 (M ²)			新築部分
1階 床面積	①	2.5 × 9.55	24.83
	②	20.55 × 36.4	727.47
	③	9.7 × 3.6	34.92
	④	20.25 × 6.55	132.6375
	⑤	(11.75 + 15.75) × 2.0 / 2	27.50
2階 床面積	⑥	14.05 × 4.0	56.20
延床面積			1,003.5575
建築面積	a	38.6 × 0.25	9.65
	b	9.55 × 0.525	5.01375
	c	10.95 × 3.125	34.21875
	d	6.2 × 0.525	3.255
	e	2.375 × 6.625	15.734375
	f	9.7 × 3.025 + 0.075 × 0.075	29.348125
	g	6.8 × 9.4 + 0.15 × 0.15	63.8975
	h	3.7 × 3.0	11.10
	i	0.275 × 0.075	0.020625
	j	17.785 × 0.075	1.333875
173.571 + 947.3575			1,120.9285



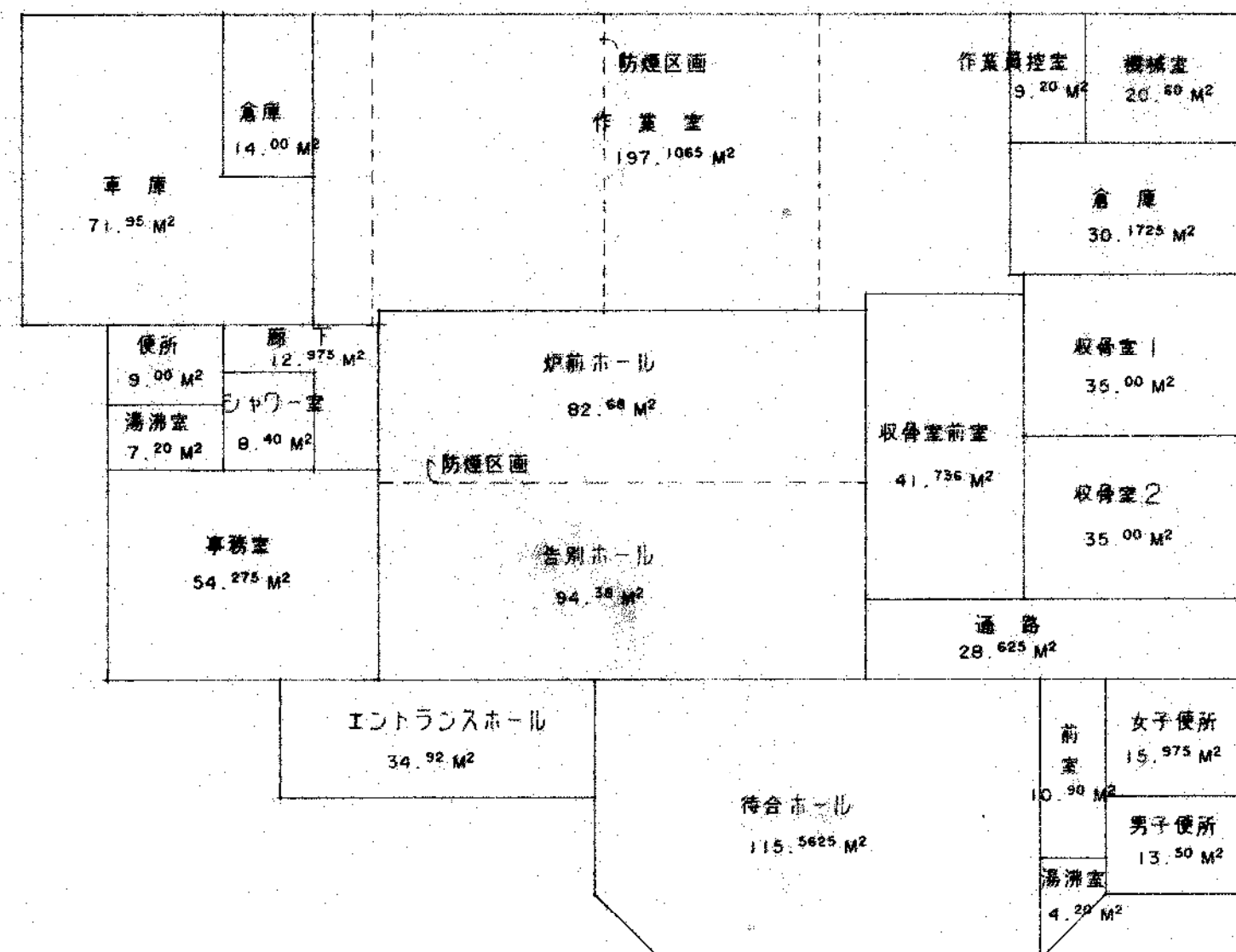


既存建物、解体建物面積計算図

S=1/200

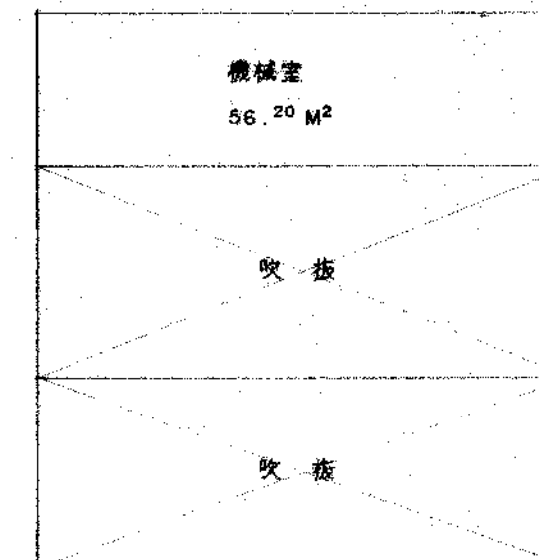
既存建物 面積					
区 分	符号	用 途	構造	建築面積	床面積
解体建物	①	事務所車庫	S IF W IF	167.986	167.986
	②	倉場	RC IF	175.45	164.1625
	③	ワタリ廊下	S IF	8.0325	
	小 計			351.4685	332.1485
既存建物	A	休憩所	W IF	116.7621	87.7786
	B	全上	W IF	140.777	104.3406
	C	便所	RC IF	29.39755	22.77275
	D	骨収納庫	RC IF	45.576	45.576
	小 計			332.51265	260.46795
				683.98125	592.61645

凡 例		
解体建物		床面積
		建築面積
既存建物		床面積
		建築面積



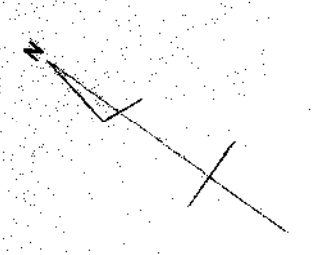
1階 面積計算図 S=1/200

面積表	
建築面積	1,120.9285
1階床面積	947.3575
2階床面積	56.20
延床面積	1,003.5575

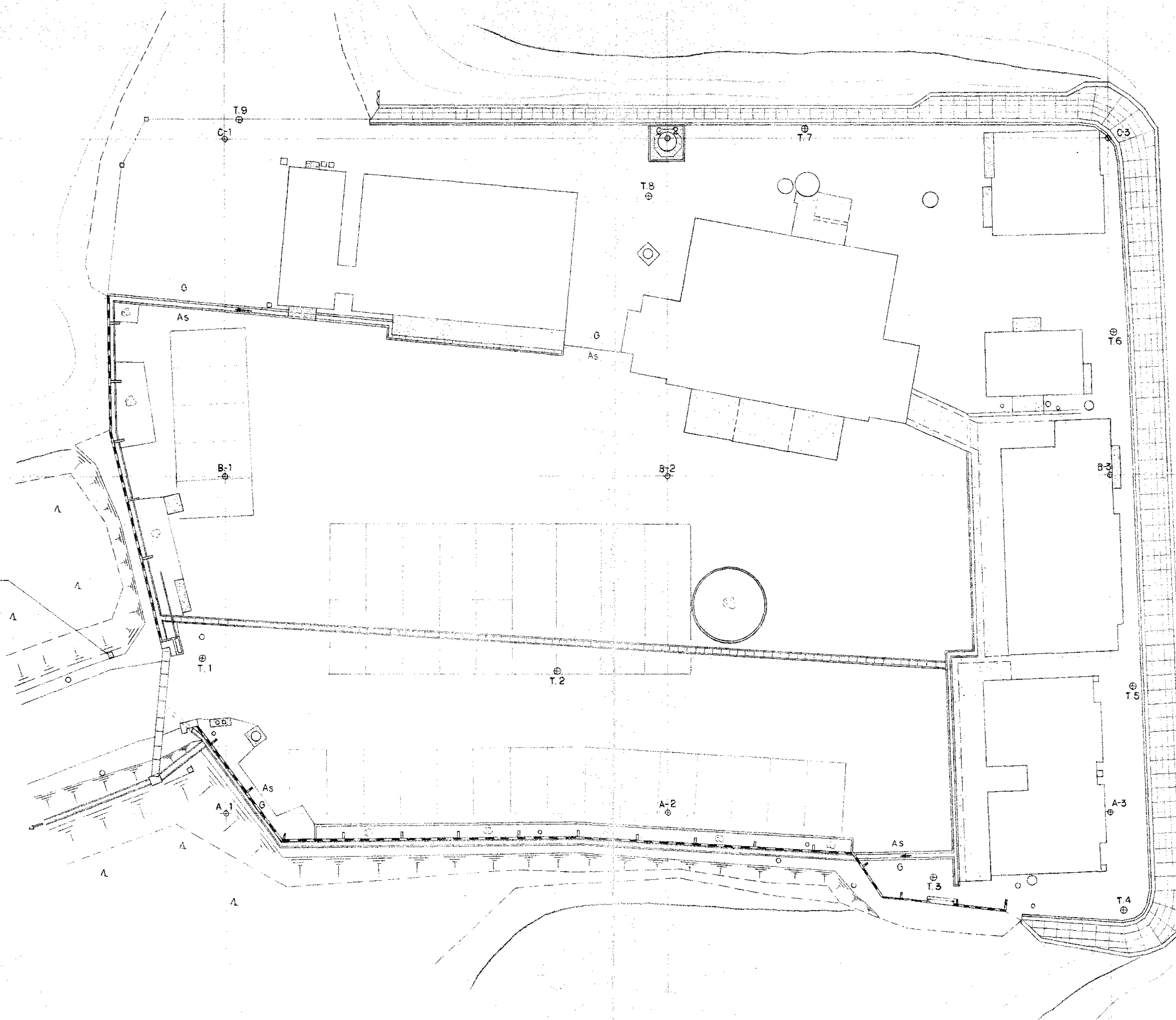


2階 面積計算図 S=1/200

換気、換気計算表 (採光計算 省略)			
室名		採光計算	換気計算
事務室	A/50 AW-2 AW-4 A= 54.275 M²	1.085 1.7×10.56×0.11×2×0.561 1.7×10.56×0.11×2×2=1.122 1.683	A/20=2.713 AW-2 1.7×10.56×1.11×2=1.411 AW-4 1.7×10.56×1.11×2×2=2.822 AW-11 1.61×0.6×2×0.483 4.716
待合ホール	A/50 AW-7 A= 115.5625 M²	2.311 1.8×0.8×2×5=3.60 3.60	A/20=5.678 AW-1 1.8×1.96×2×5=8.82 8.82
作業員控室	A/50 AW-7 A= 9.200 M²	0.184 1.6×0.76×2×0.608 0.608	A/20=0.46 AW-7 1.6×1.2×2×0.96 0.96



BM = 235.00



現況 平面測量図 S=1/200

会津若松市斎場新築

工事設計図

No

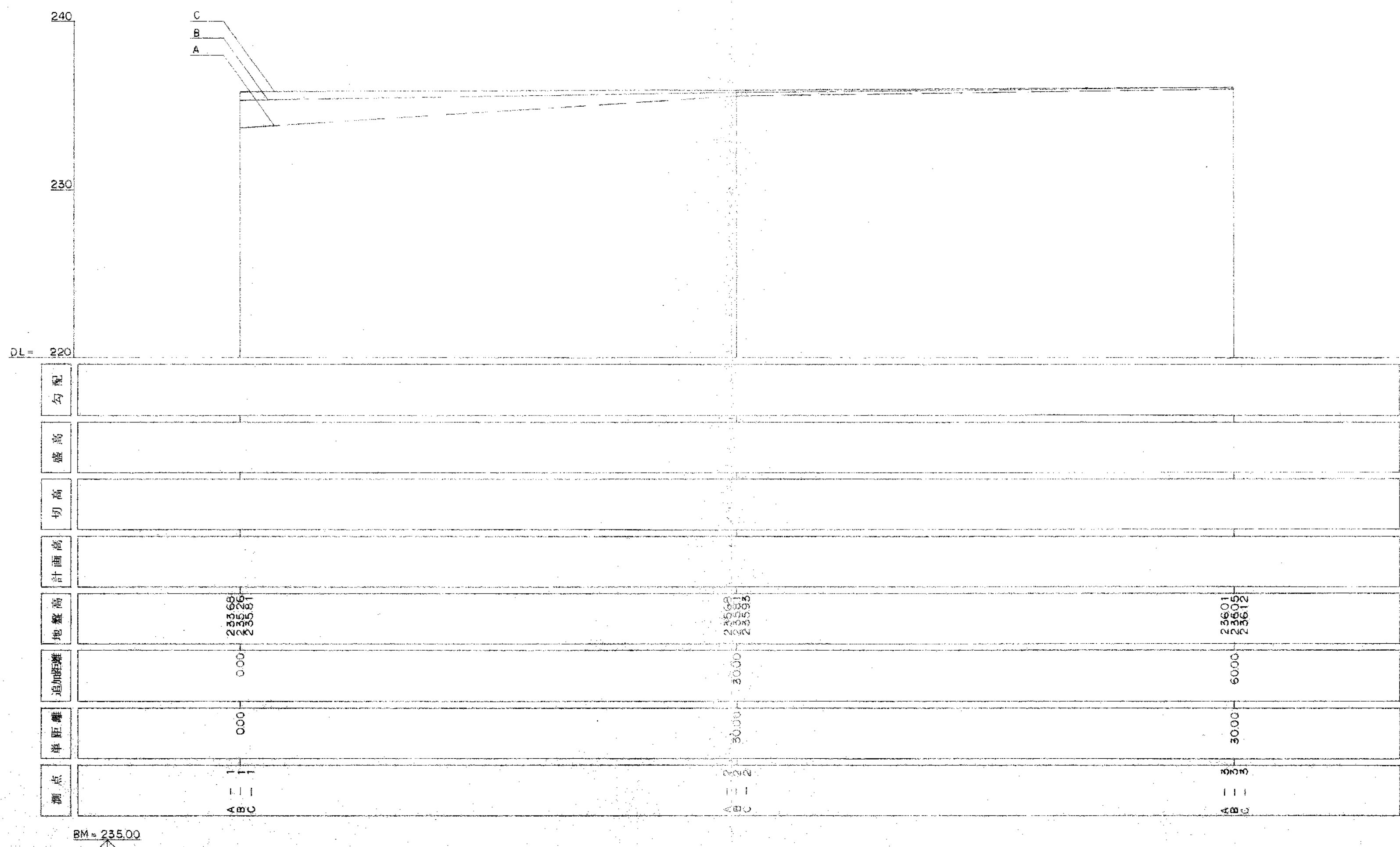
A-20

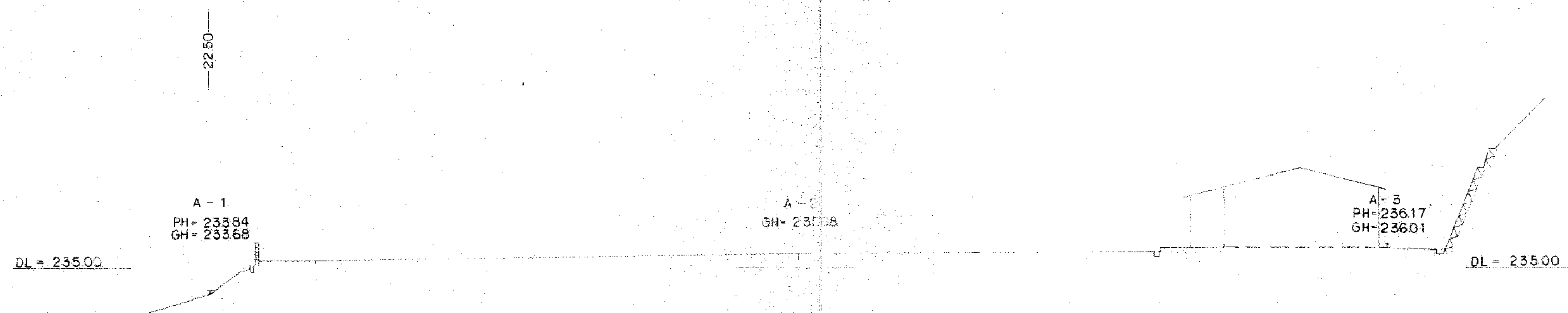
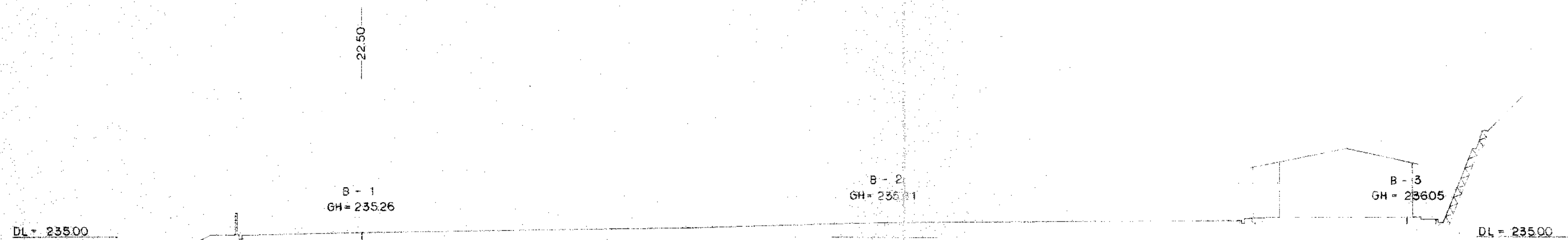
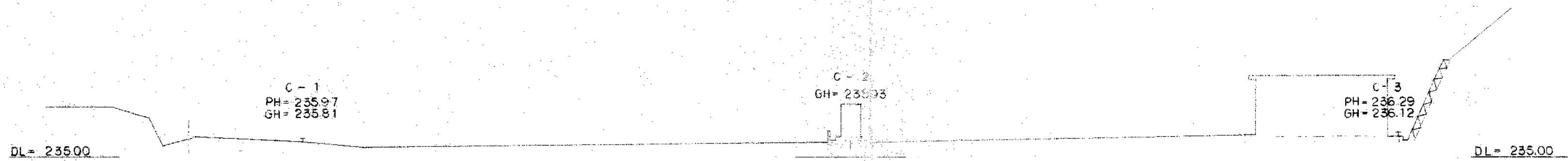
製図

測量

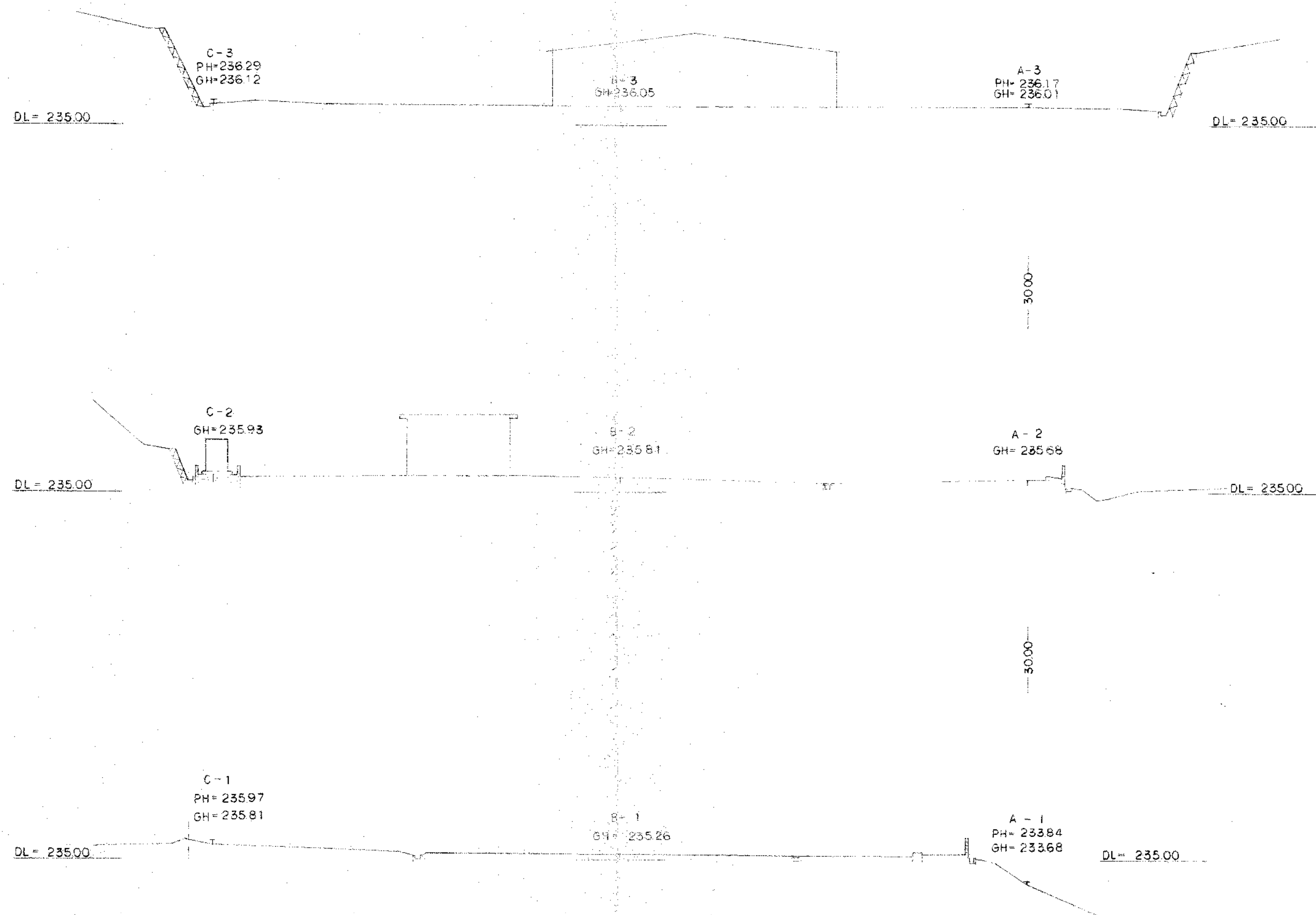
現況 平面測量図

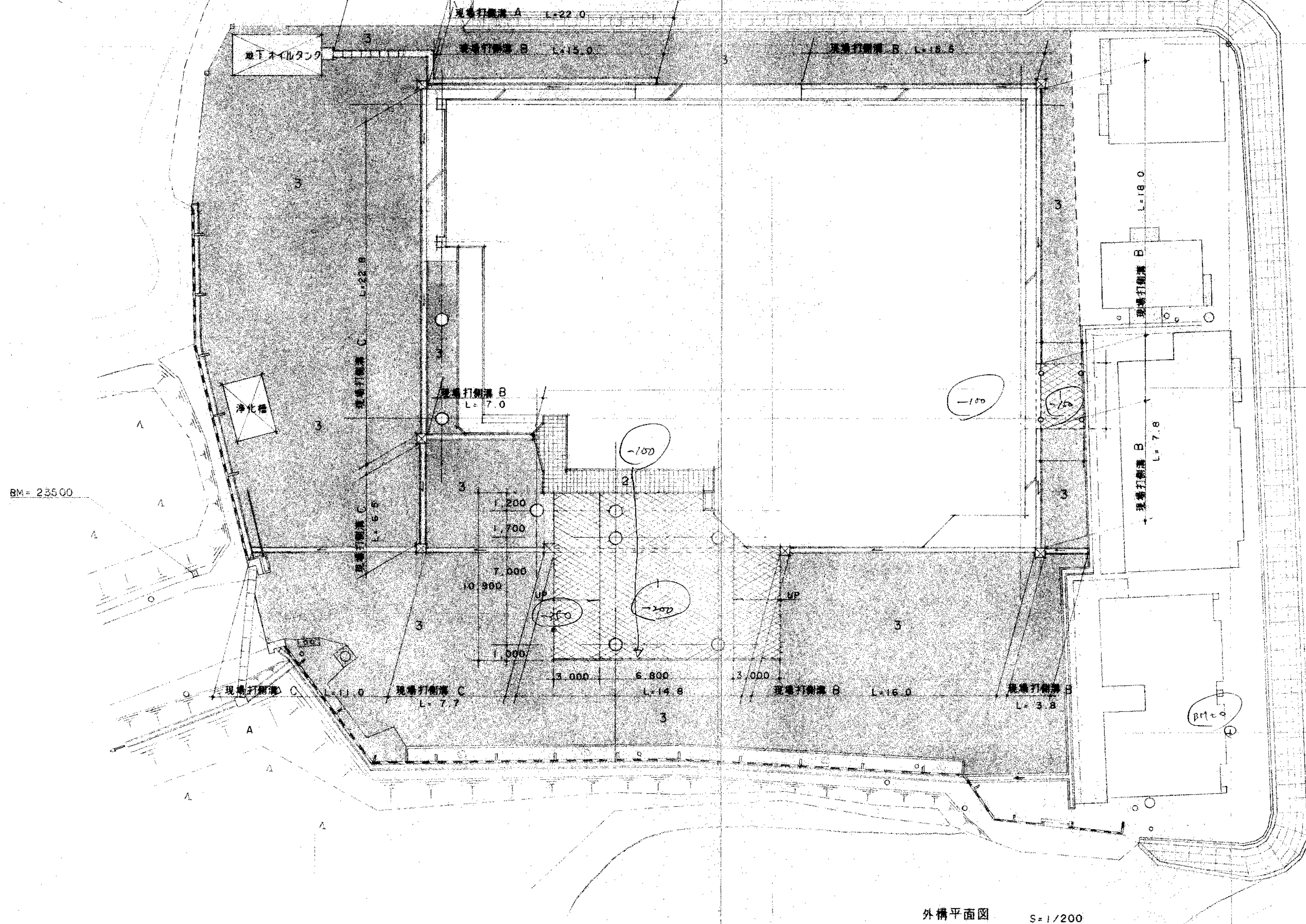
S=1/200





				会津若松市新築場新築				工事設計図		No A-22
				製図	図	敷地 横断面図	S=1/200			



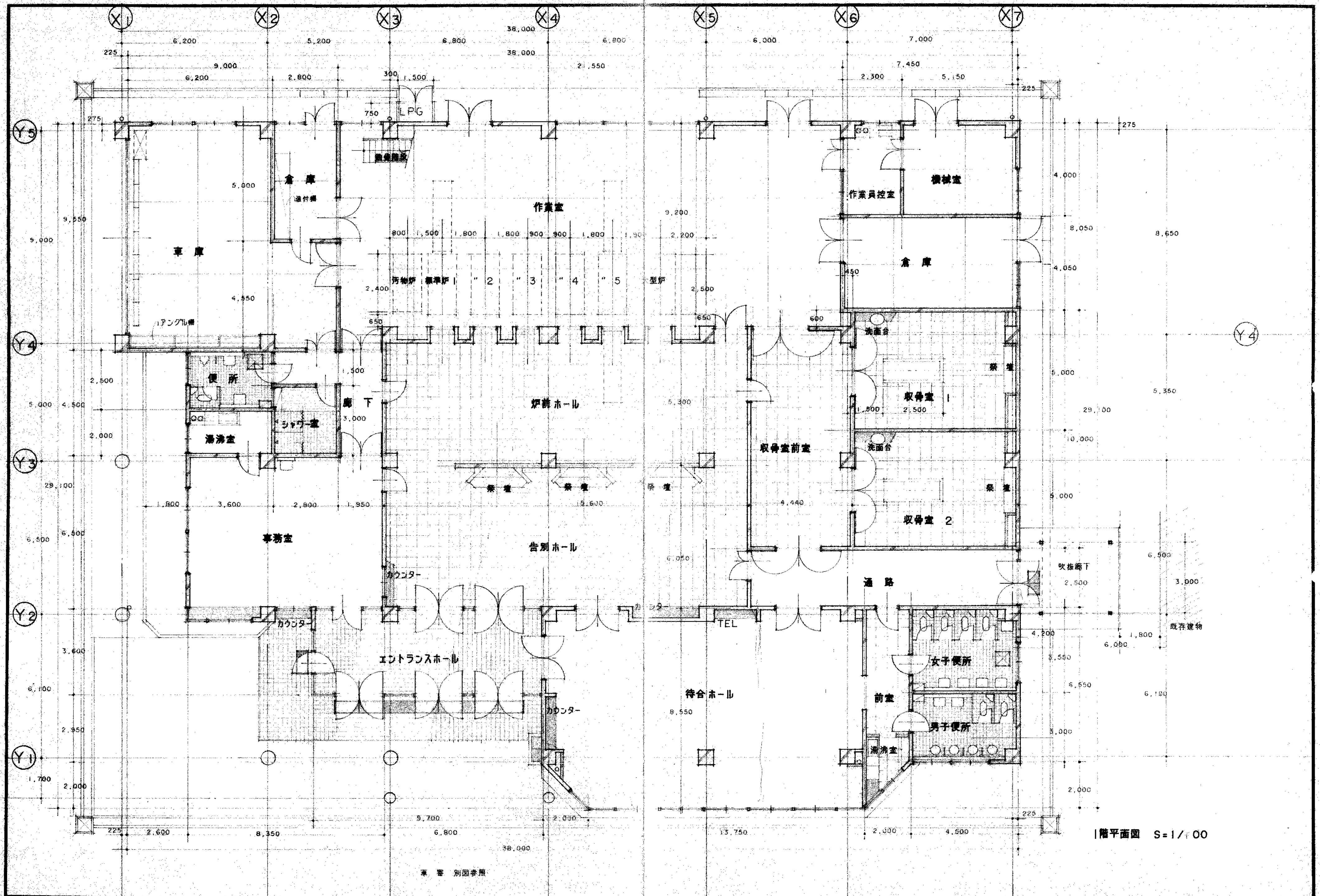


凡	例
1	インターロッキングブロック
2	150° ジヤタイル
3	40~0 玉砂利敷 1:60
A	W=360 現場打削溝 コンクリートフタ
B	W=300 コンクリートフタ
C	W=300 クレーニングフタ

外構平面図 S=1/200

外部仕上表	屋 根	コンクリート コテ 下地 アスファルト防水 (A-2) t=0.15 ポリエチレンフィルム t=80 コンクリート コテ (B種) t=25 既製目地材 (イカベ ドラフタイト 相当品) ~3,000 ㎡ (ワイヤーメッシュ 60 x 100 ㎥ 挿入) [立上り、パラベット部分] 合板型枠コンクリート打放シ (B種) 下地 アスファルト防水 (A-2) メタルラス 下地 t=30 モルタル コテ t=0.15 ポリエチレンフィルム t=80 押へコンクリート コテ t=25 ドラフタイト M25 相当品) ~3,000 ㎡ (排水路ヒーター 電気設備工事)	凡 例
	軒 天	LGS 下地 カラー アルミモールディング 貼り t=1.0 W=100 [庇等下地] 合板型枠コンクリート打放シ (B種) 下地 ATS	M モルタル コテ C コンクリート EP 合成樹脂エマルジョン ペイント塗り 特C 特殊化装型枠
	外 壁	モルタル木ゴテ下地 ニ丁掛タイル貼り [北面一部] 合板型枠コンクリート打放シ 下地 ATS	VP 強化ビニル樹脂 ペイント塗り
	外部巾木 大走り	外部巾木 外壁に準ずる 大走り コンクリート コテ 目地切 t=25 既製目地材 ~3,000 ㎡ (ドラフタイト M25 H=60 相当品)	PB 石膏ボード RB 岩綿吸音板 ATS アクリル系 弾性タイル吹付
	車寄せ	床 t=200 砕石転圧 t=30 砂地着下地 インターロッキングブロック敷込 天井 アルミモールディング貼り 柱 t=200 砕石転圧 t=30 砂地着下地 インターロッキングブロック敷込 天井 アルミモールディング貼り 基盤 カラーアルミPL 曲加工 (300 ㎥ 共) t=25 ドラフタイト M25 相当品) ~3,000 ㎡	GWB クラスウールボード PSB ポリスチレンフォーム板 SCB 石綿ケイカル板 VC 防災2級以上ビニルクロス
	断 熱 材	スラブ上 (最上階部分) 外壁内面 t=25 ポリスチレン板 打込 (作業室等 GWB仕上部分除く) 土間下 t=100 砕石転圧 t=30 砂地着 t=30 ポリスチレンフォーム板敷 t=0.15 ポリエチレンフィルム敷込	LGS 軽量鉄骨
	備 考		

室 名	床			巾 木				壁				天 井							備 考
	下 地	仕 上	H	下 地	仕 上	塗 装	H	下 地	仕 上	塗 装	防火性能	下 地	仕 上	塗 装	防火性能	廻り縁	C、H		
エントランスホール	M	150 ⁰ ジキタイル	GL+200	M	ニ丁掛タイル		100	M	ニ丁掛タイル		不燃	LGS	PB(19) + RB(15)	EP/2	不燃1021	アルミ	2,975		
待合ホール	↑	t=7 アクリル系 450 ⁰ タイルカーペット	↑		(ダイケン レセプト) 巾木 相当品		90	↑	VC (ダイケン レセプト 相当品)		化粧準不燃003	↑	PB(19) + RB(12)	↑	↑	サンメント 相当品	3,000	カウンター、バーチカルブラインド TELカウンター	
告別ホール	↑	t=30 400 ⁰ テラゾータイル	↑	M	ニ丁掛タイル			↑	ニ丁掛タイル		不燃	↑	↑	↑	↑	アルミ	2,560 ~3,000	乗座(3ヶ所) カウンター、バーチカルブラインド	
炉前ホール	↑	↑	↑	↑	↑			↑	↑		↑	↑	↑	↑	↑	↑	3,060 ~5,000	トップライト(2ヶ所)	
収骨室 1,2	↑	↑	↑	↑	↑			↑	↑		↑	↑	↑	↑	↑	↑	2,700	床下残灰ビット	
収骨室前室	↑	↑	↑	↑	t=4 レジンテラゾー巾木 (ダイケン テラリスト 相当品)		100	↑	VC		化粧準不燃003	↑	↑		↑	↑	2,390		
男子、女子便所	↑ 200 ⁰ ジキタイル	200 ⁰ ジキタイル	GL+100	↑	200 ⁰ デザインタイル			↑	200 ⁰ デザインタイル		不燃	↑	↑		↑	↑	2,465	トイレアース、床ビット 掃除用ロッカー	
便所前室	M	t=30 400 ⁰ テラゾータイル	GL+200	↑	t=4 レジンテラゾー巾木		100	↑	VC		化粧準不燃003	↑	↑		↑	↑	2,390		
事務室	↑	t=2.5 長尺クッションフロア	↑	↑	ソフト巾木		↑	↑	↑		↑	↑	PB(19) + RB(19)		↑	↑	2,700	受付カウンター(2ヶ所) 平歯黒板、掲示板 ホリゾンタルブラインド	
湯沸室 (事務室側)	↑	↑	↑	↑	t=4 レジンテラゾー巾木		↑	↑	LGS		防火基材同等004	↑	SCB(6)	VP/2	不燃1061	塩ビ	2,400	流し台、コンロ台、吊り戸棚	
便所	↑ 25 ⁰ 縦磨ミサイクタイル	25 ⁰ 縦磨ミサイクタイル	GL+100	↑	↑		↑	↑	↑		↑	↑	↑	↑	↑	↑	2,460	掃除用ロッカー トイレアース	
シャワー室	M	↑ (一部 t=2.5 長尺クッションフロア)	↑	↑	↑		↑	↑	↑		↑	↑	↑	↑	↑	↑	2,375 ~2,475	吊りカーテンレール シャワーアース、脱衣棚	
廊下	↑	t=2.5 長尺クッションフロア	GL+200	M	ソフト巾木		100	↑	C		化粧準不燃003	↑	↑	↑	↑	↑	2,400		
作業室		モルタル金ゴテ 目地切	↑	↑	モルタルコテ		900	C	25 グラスウール吸音板 (断熱ビニール工法) WB(25) (96 Kg)		不燃1036	C	GWB(25)		不燃1036				
倉庫		↑	↑	↑	↑		200	↑	↑		↑	↑	↑		↑			造付棚 車庫側倉庫は、車庫に準ずる	
機械室 (1,2階)		↑ (2F)	GL+200 GL+3,500	↑	↑		↑	↑	↑		↑	↑	↑		↑				
作業員控室	M	t=2.5 長尺クッションフロア	GL+200	M	ソフト巾木		100	M			化粧準不燃003	LGS	SCB(6)	VP/2	不燃1061	塩ビ	2,500	流し台、コンロ台	
汚物室																			
湯沸室 (便所前室側)	M	t=30 400 ⁰ テラゾータイル	↑	M	ソフト巾木		100	M			化粧準不燃003	LGS	PB(19) + RB(19)		不燃1021	アルミ	2,390	流し台、カウンター	
通路	↑	t=2.5 長尺クッションフロア	↑	↑	t=4 レジンテラゾー巾木		↑	↑	↑		↑	↑	↑		↑	↑	2,390		
車庫		コンクリート金ゴテ 目地切	GL+100		モルタルコテ	VP/2	200		↑ コンクリート打敷	VP/2	不燃	LGS	SCB(6)	VP/2	不燃1061	塩ビ	3,000	アングル棚 ガソリントラップビット	



車 庫 別図参照

会津若松市新築

工事設計図

製
図

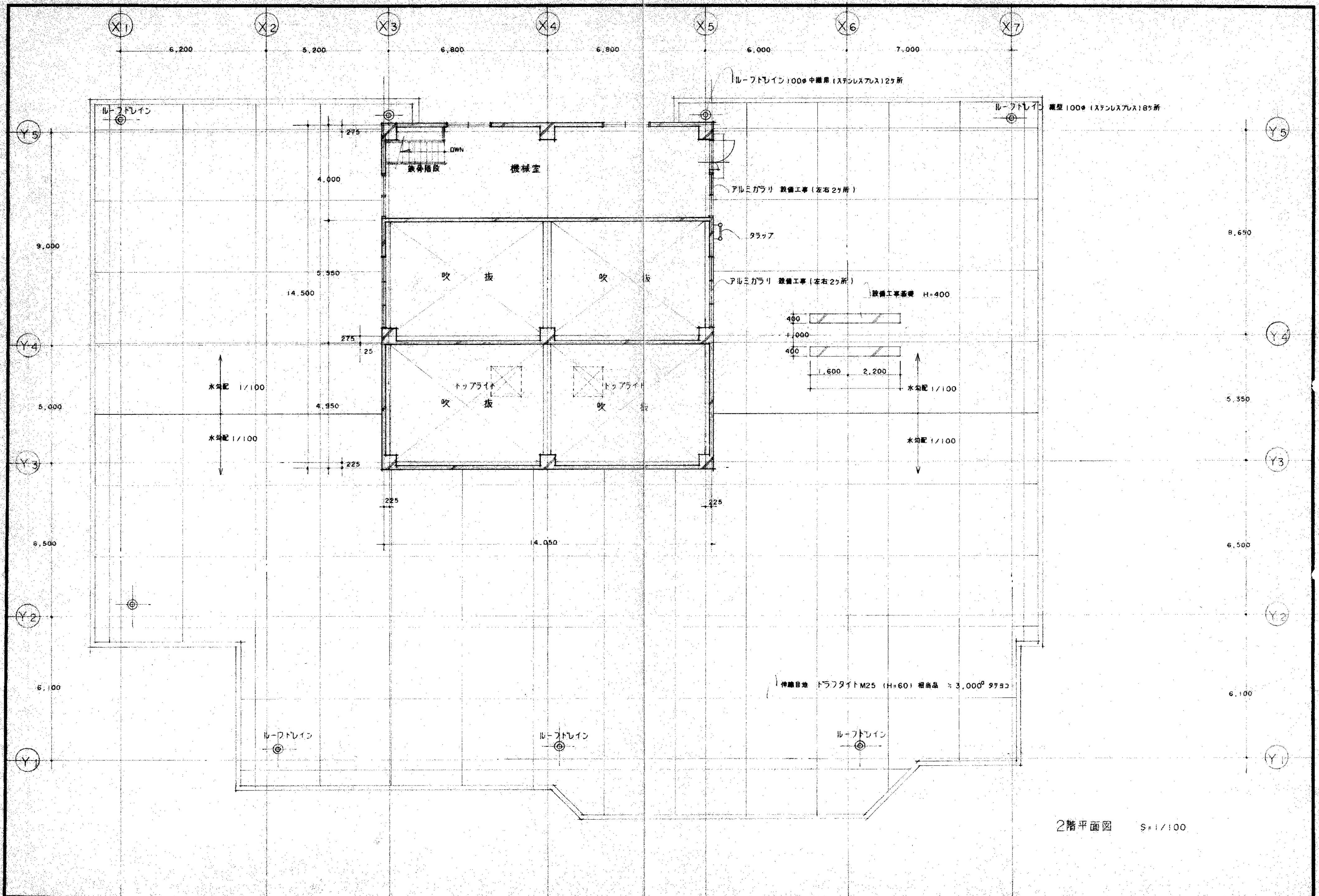
図
説

1階平面図

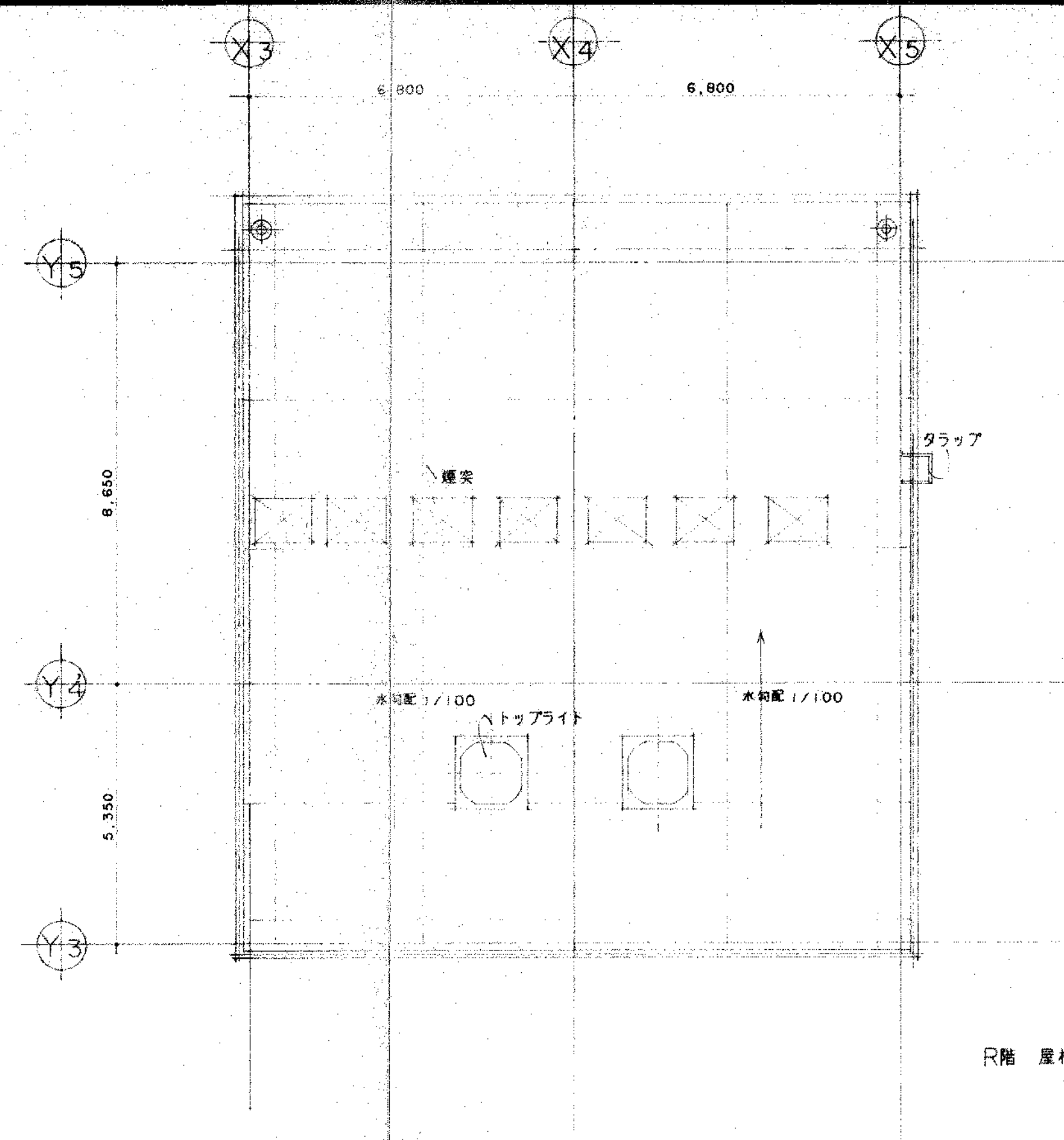
S=1/100

No

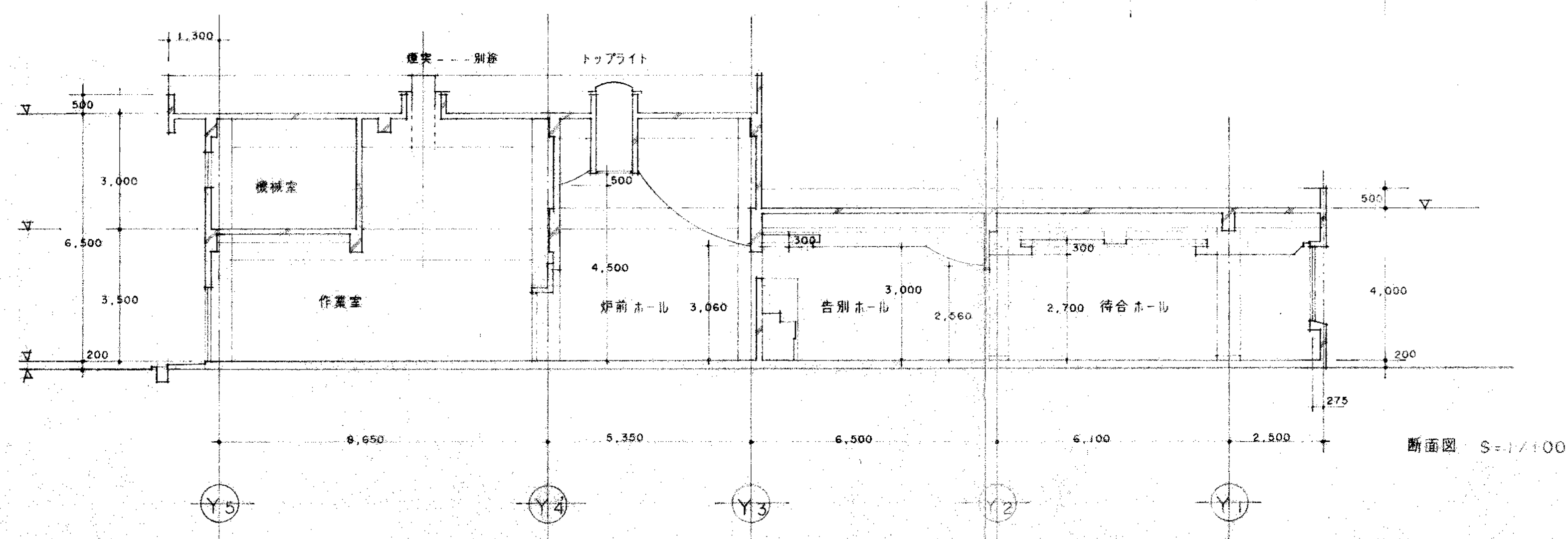
A-26



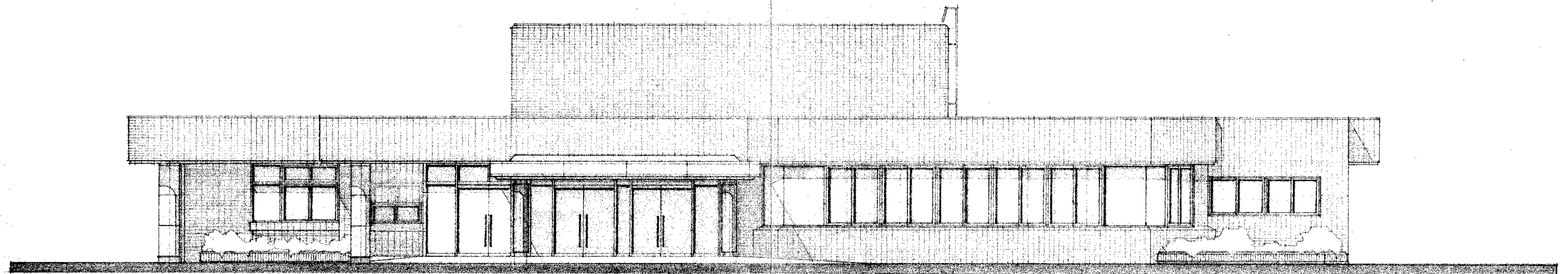
2階平面図 S=1/100



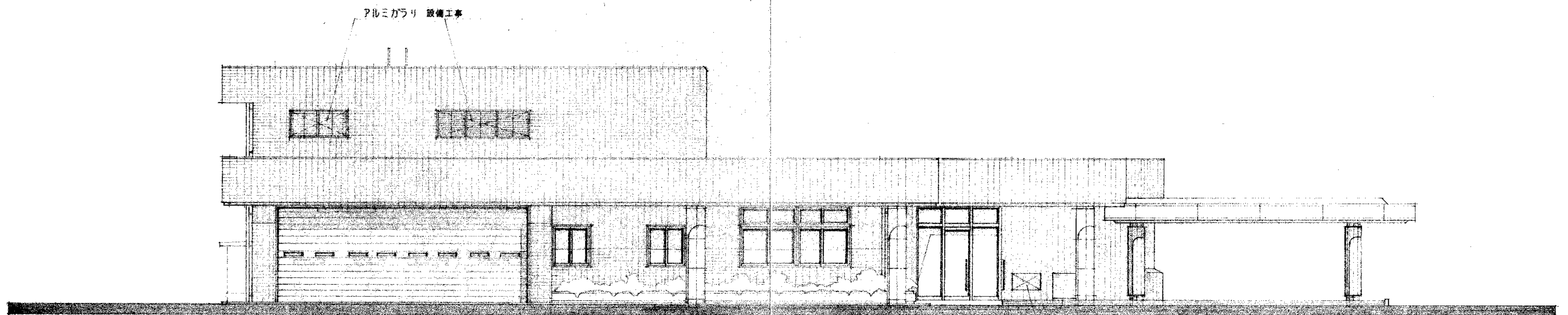
R階 屋根伏図 S=1/100



断面図 S=1/100



南立面図 S=1/100



西立面図 S=1/100

定礎 ミカゲ T-30 900×600 文字納込共
別図詳細図参照

会津若松市斎場新築

工事設計図

No

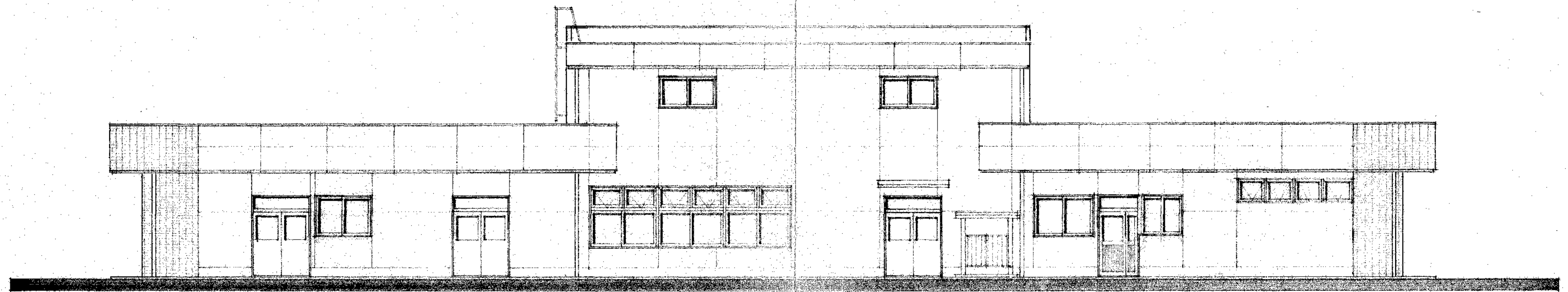
製
図

図
名

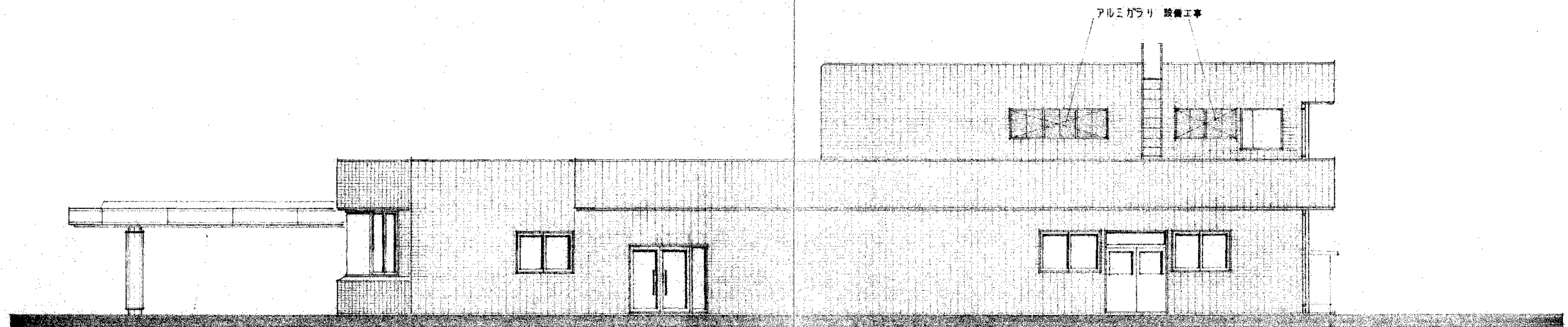
立面図 (1)

S=1/100

A-29



北立面図 S=1/100



東立面図 S=1/100

会津若松市斎場新築

工事設計図

No

A-30

製図

図面名称

立面図 (2)

S=1/100

A	PB191・RB1151
B	PB191・RB1121 EP/2
C	PB191・RB1121
D	PB191・RB191
E	SCB161 VP131
F	GWB1251
G	M コブ
H	PB191・VC
I	カラーアルミモールディング
J	アルミカーテン(フラインド)ボックス フラインド、カーテン 共
	アルミ天井点検口 450 [□]

1階 天井伏図 S=1/100

会津若松市新築

工事設計図

No

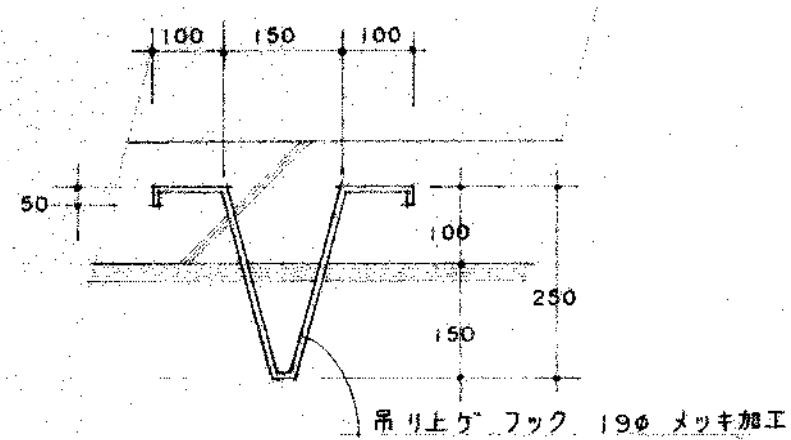
製
図

図
説

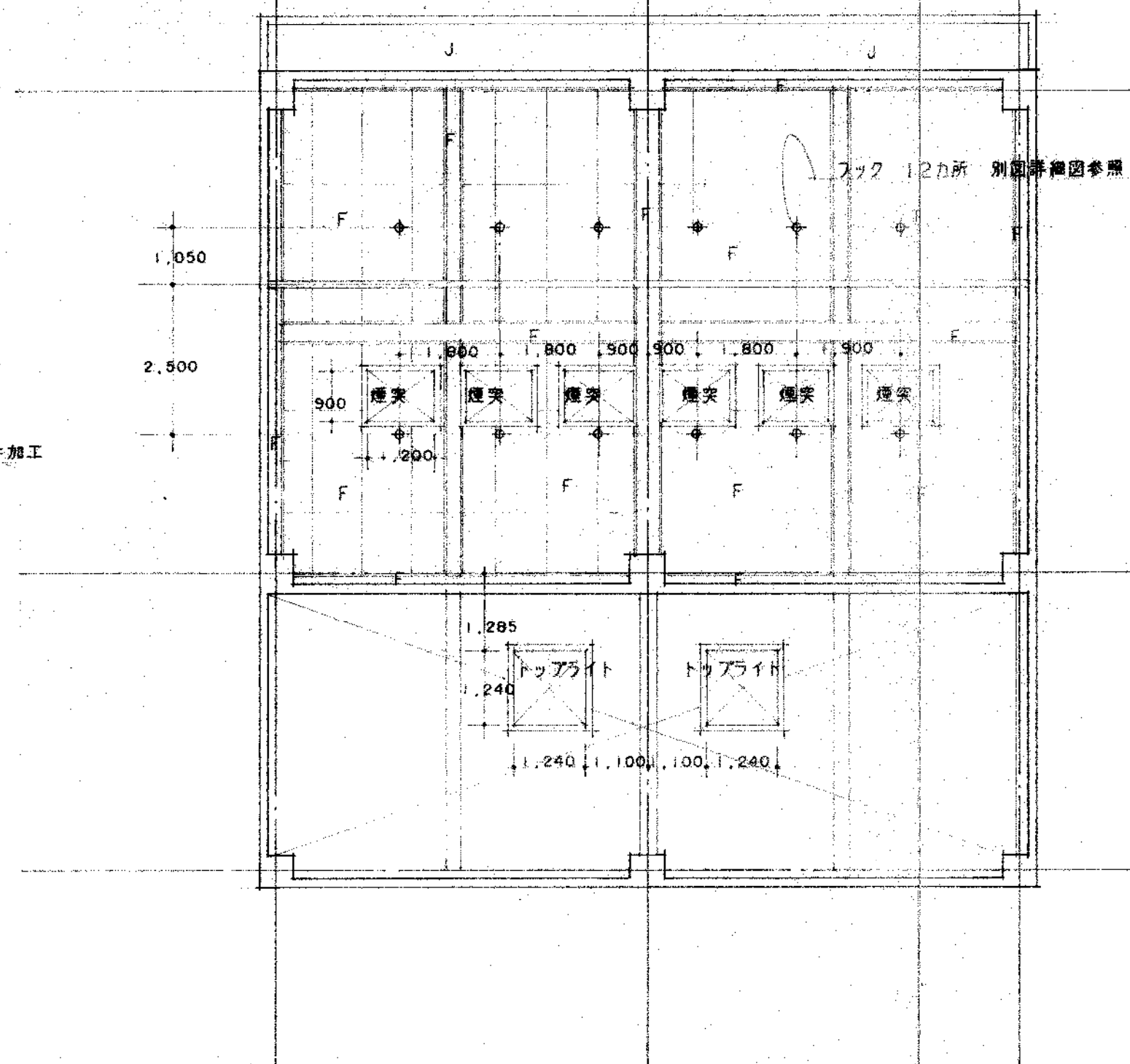
1階 天井伏図

S=1/100

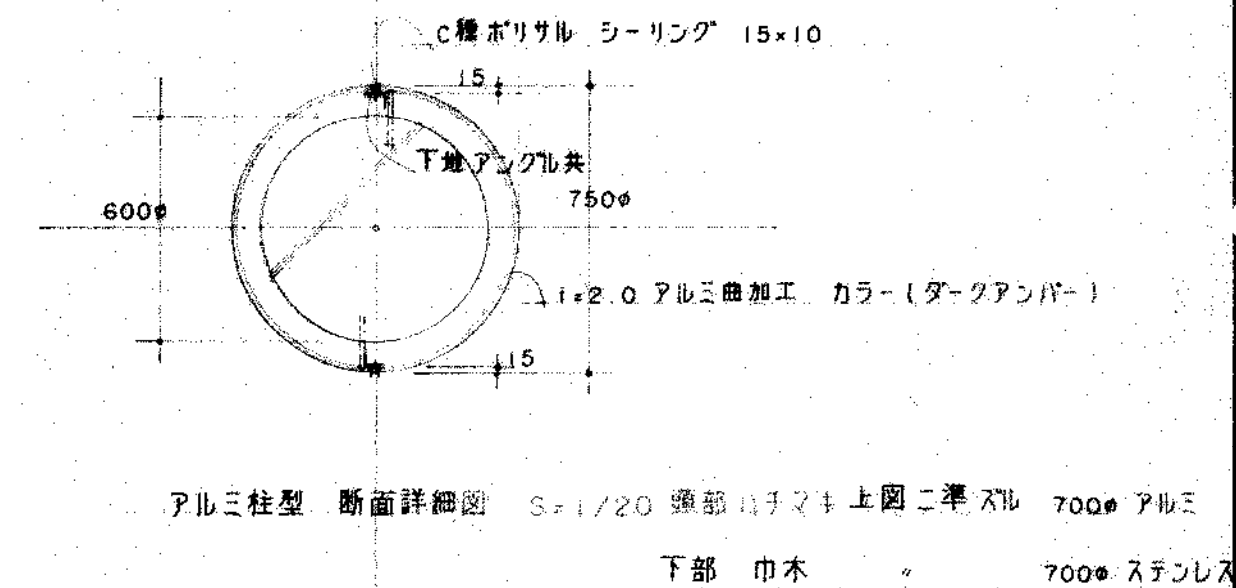
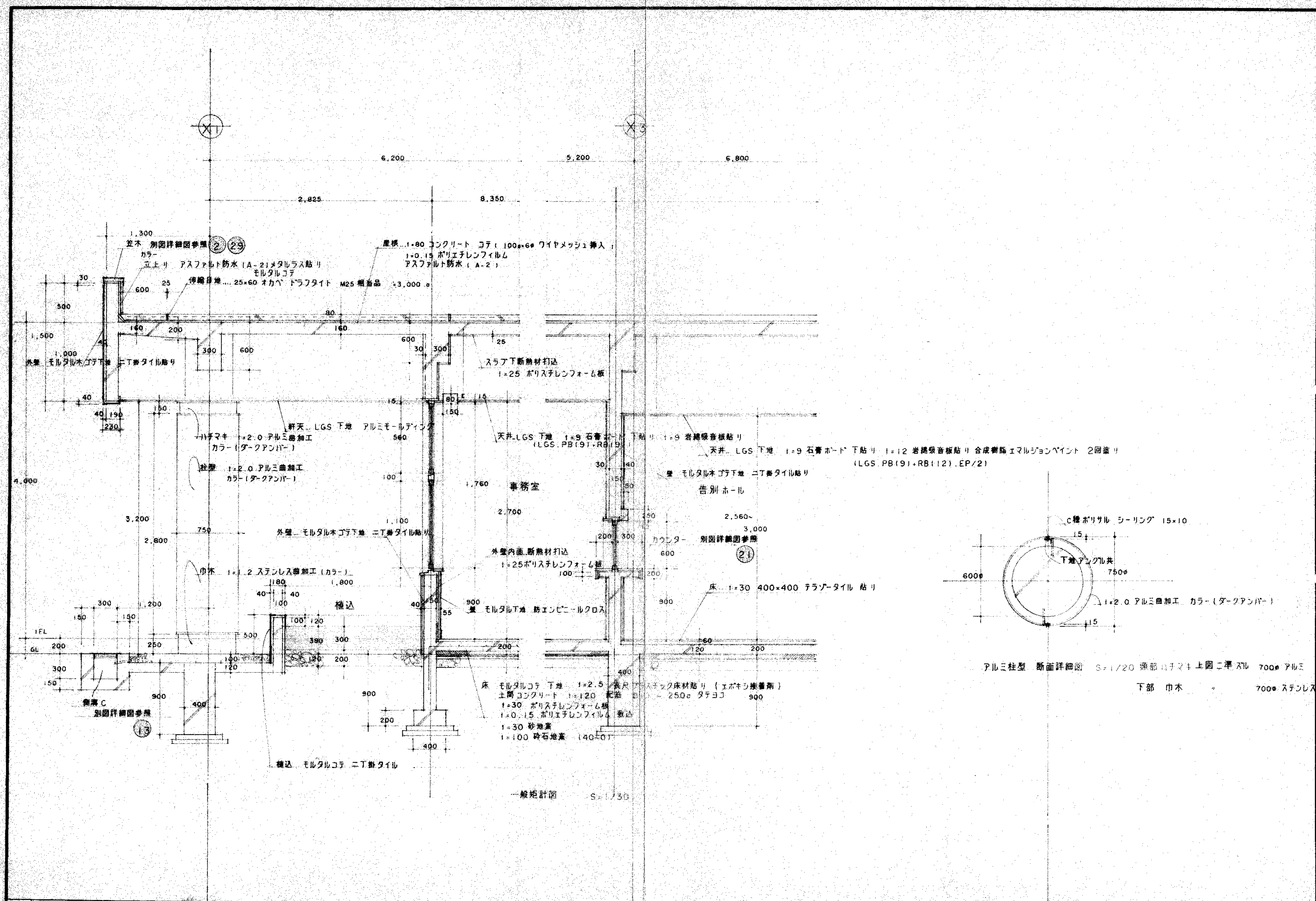
A-31

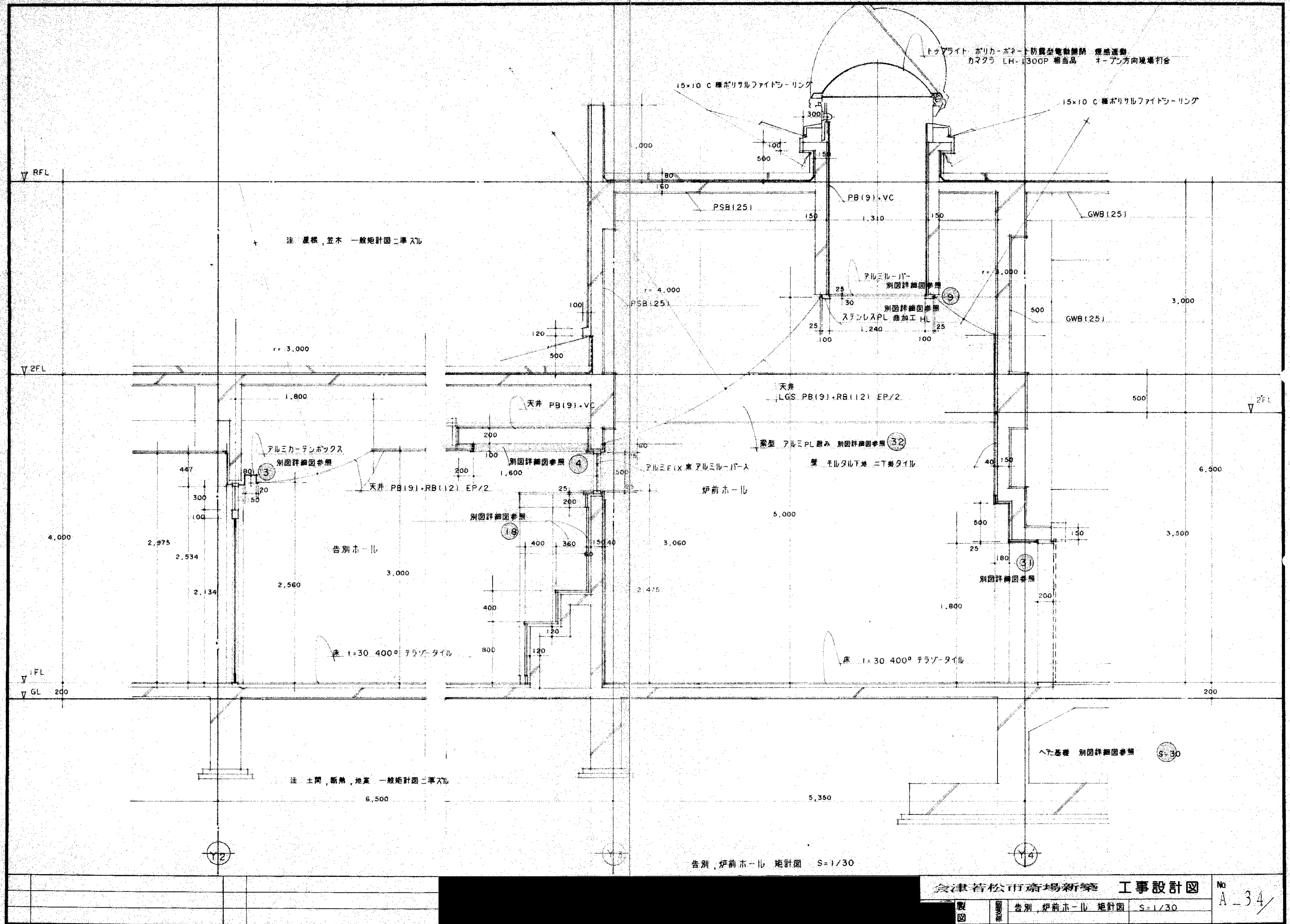


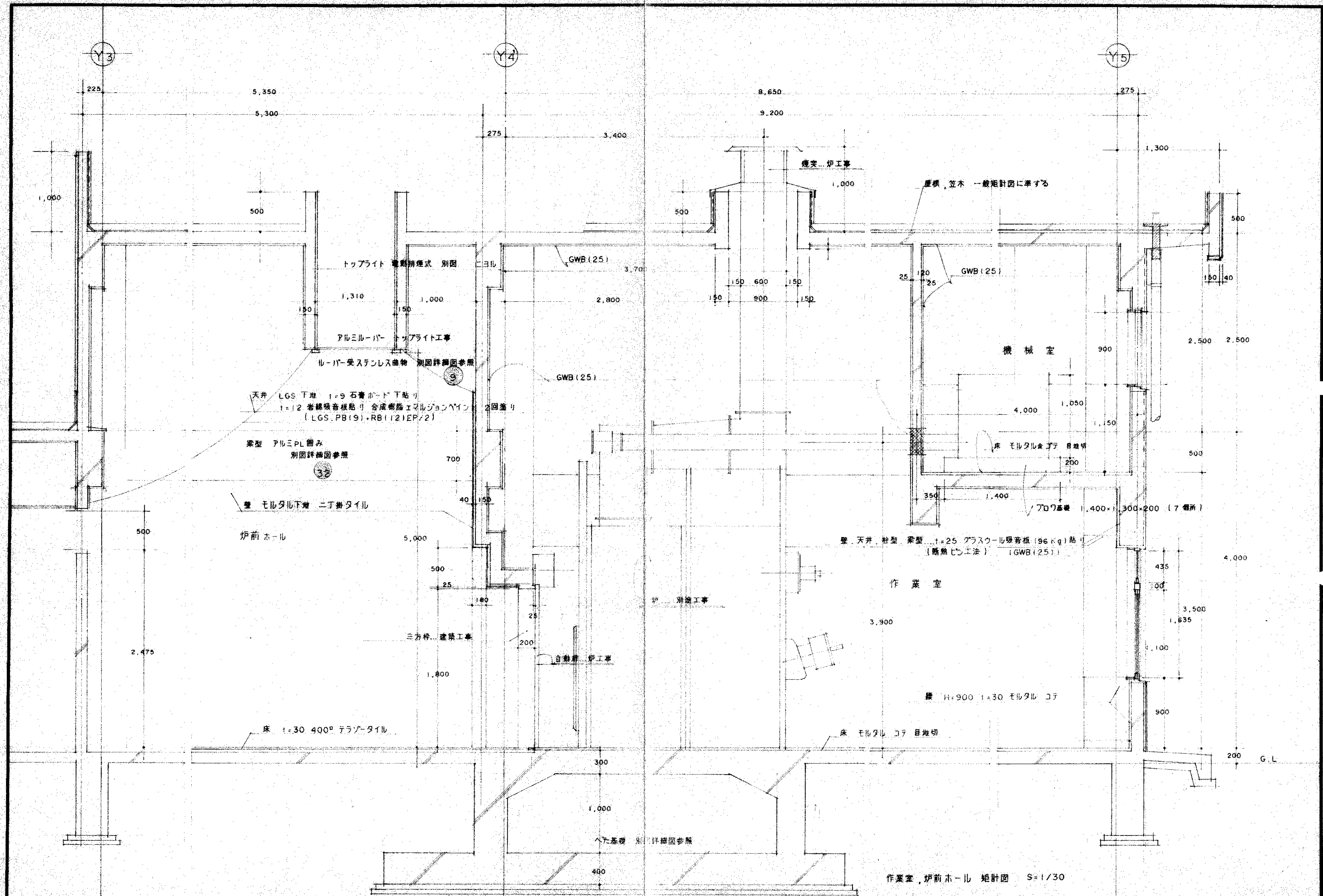
フック 詳細図 S=1/10

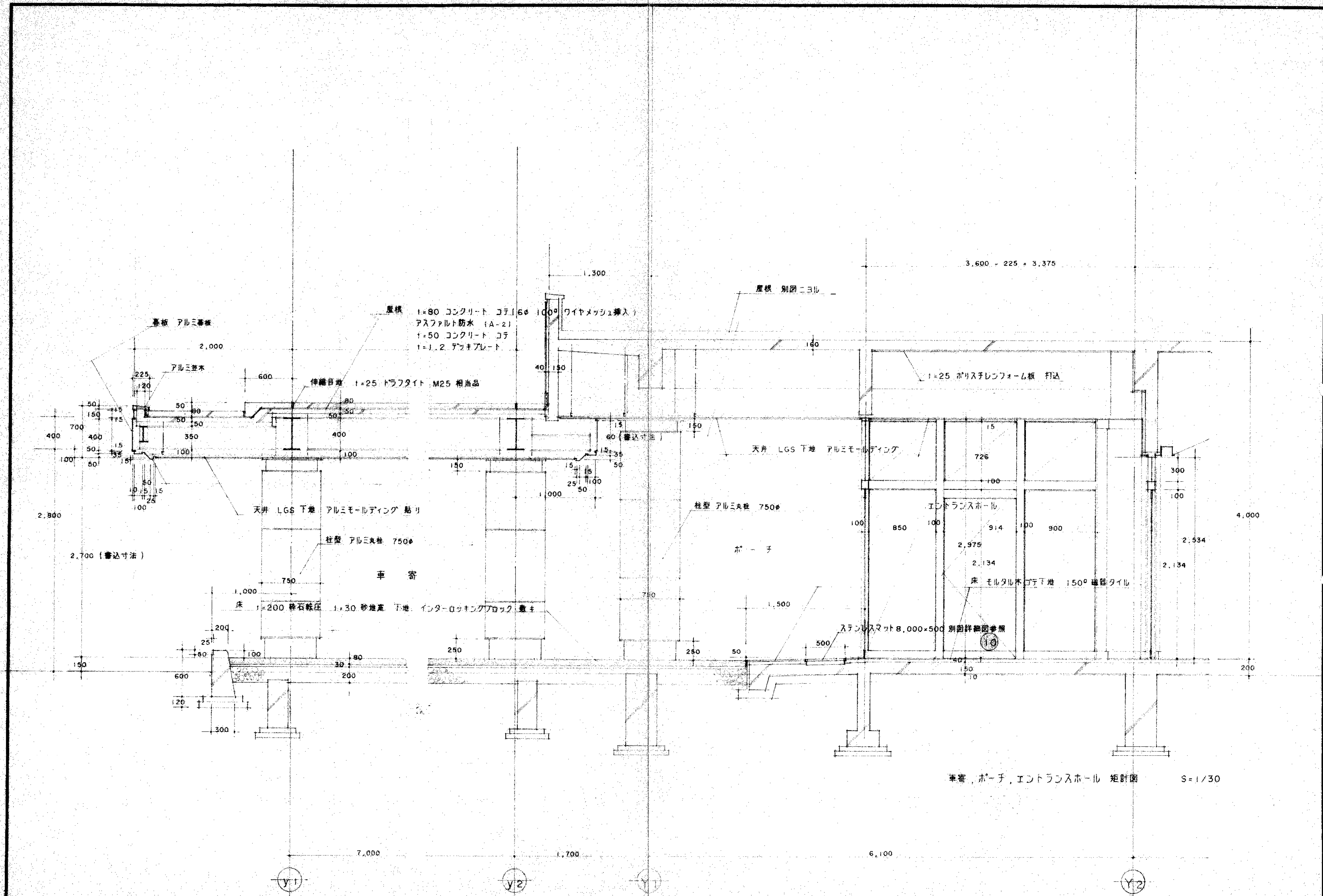


2階 天井伏図 S=1/100

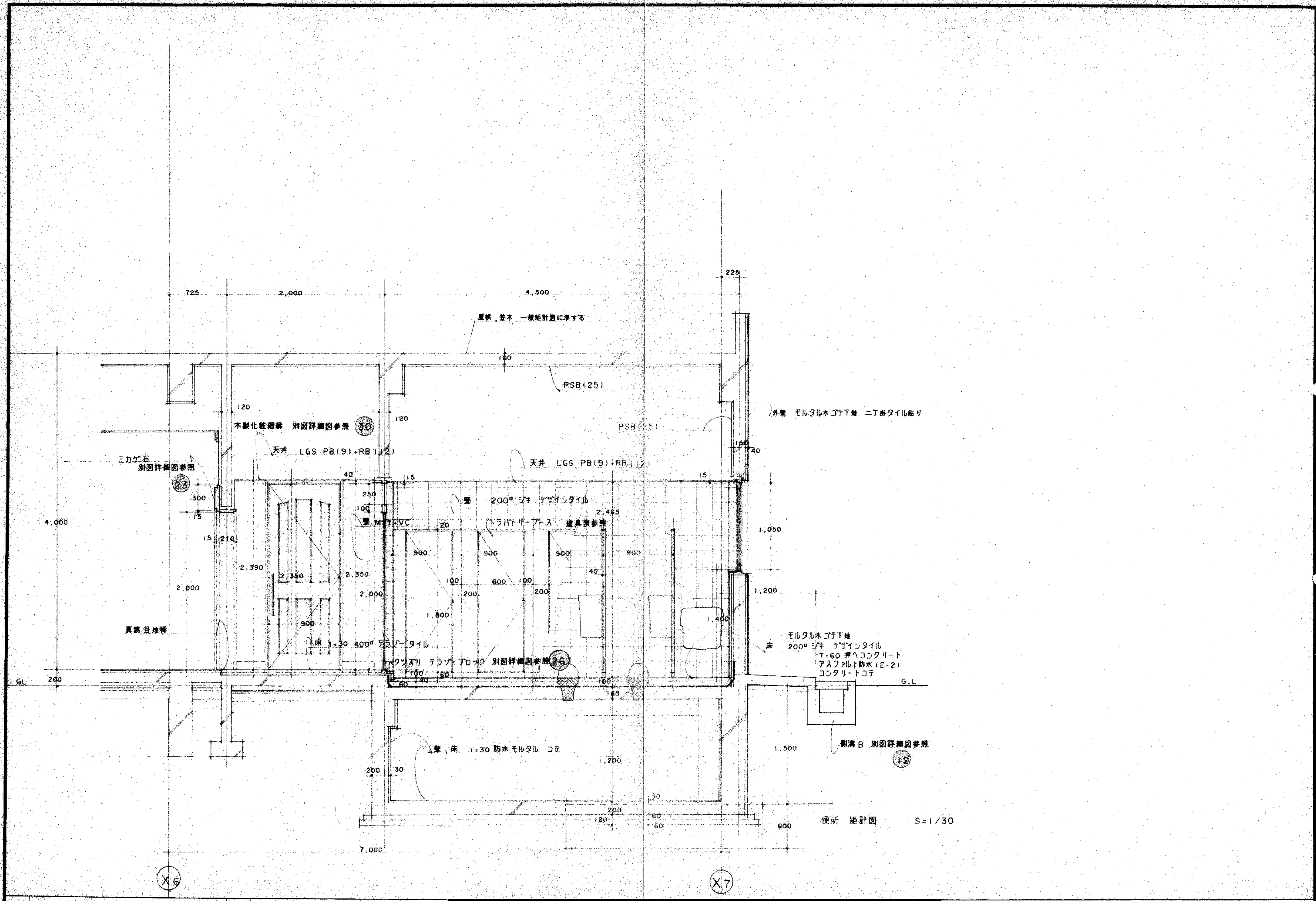


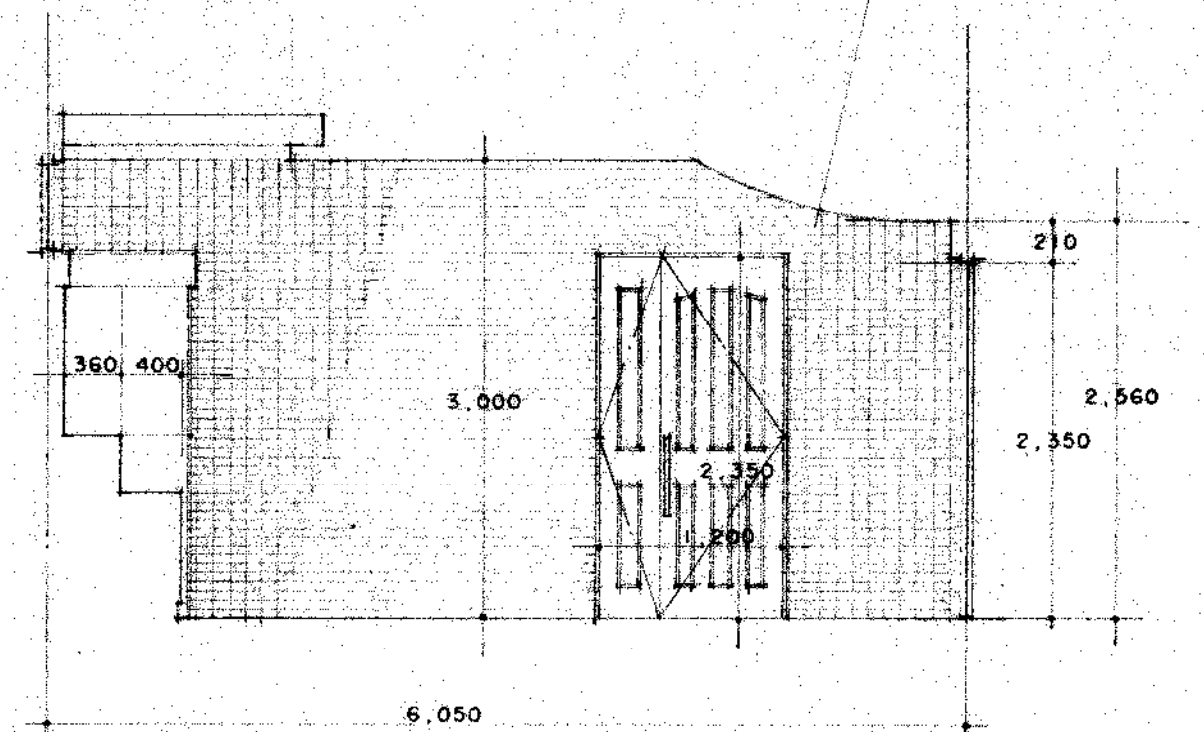
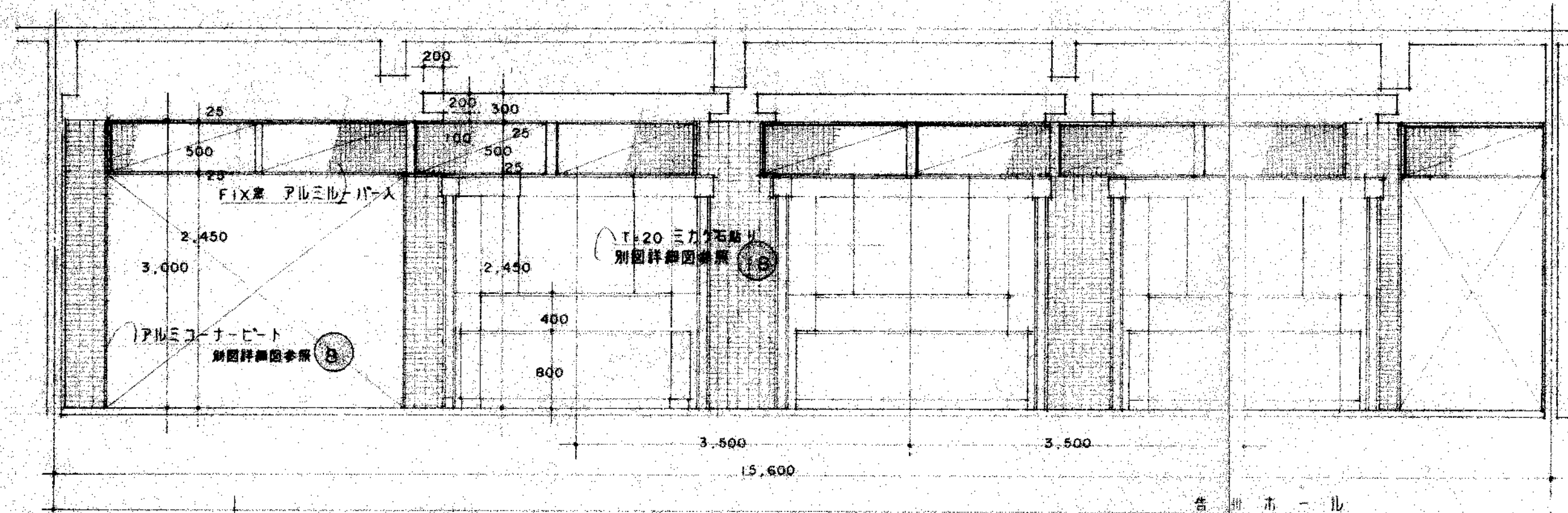




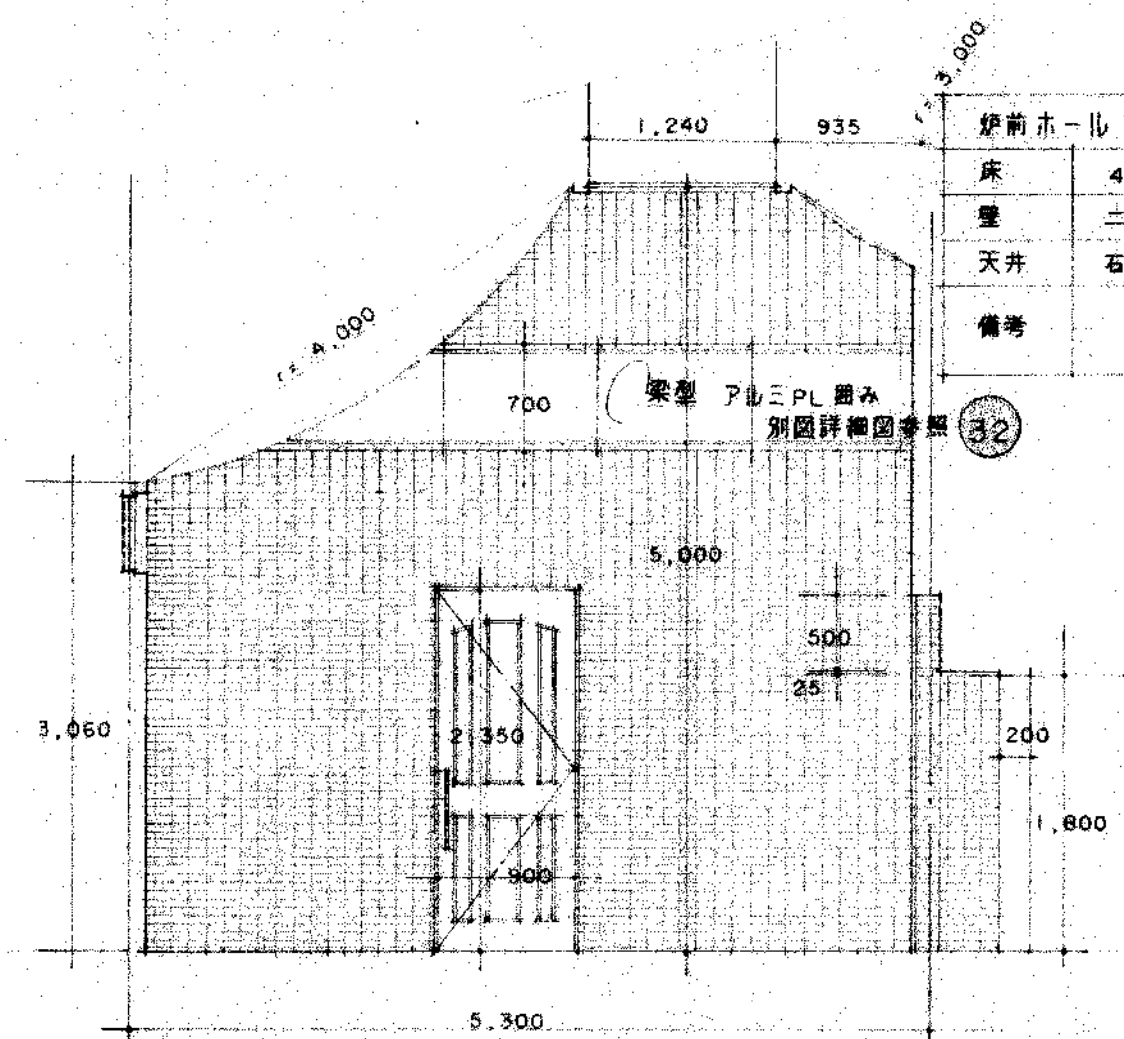
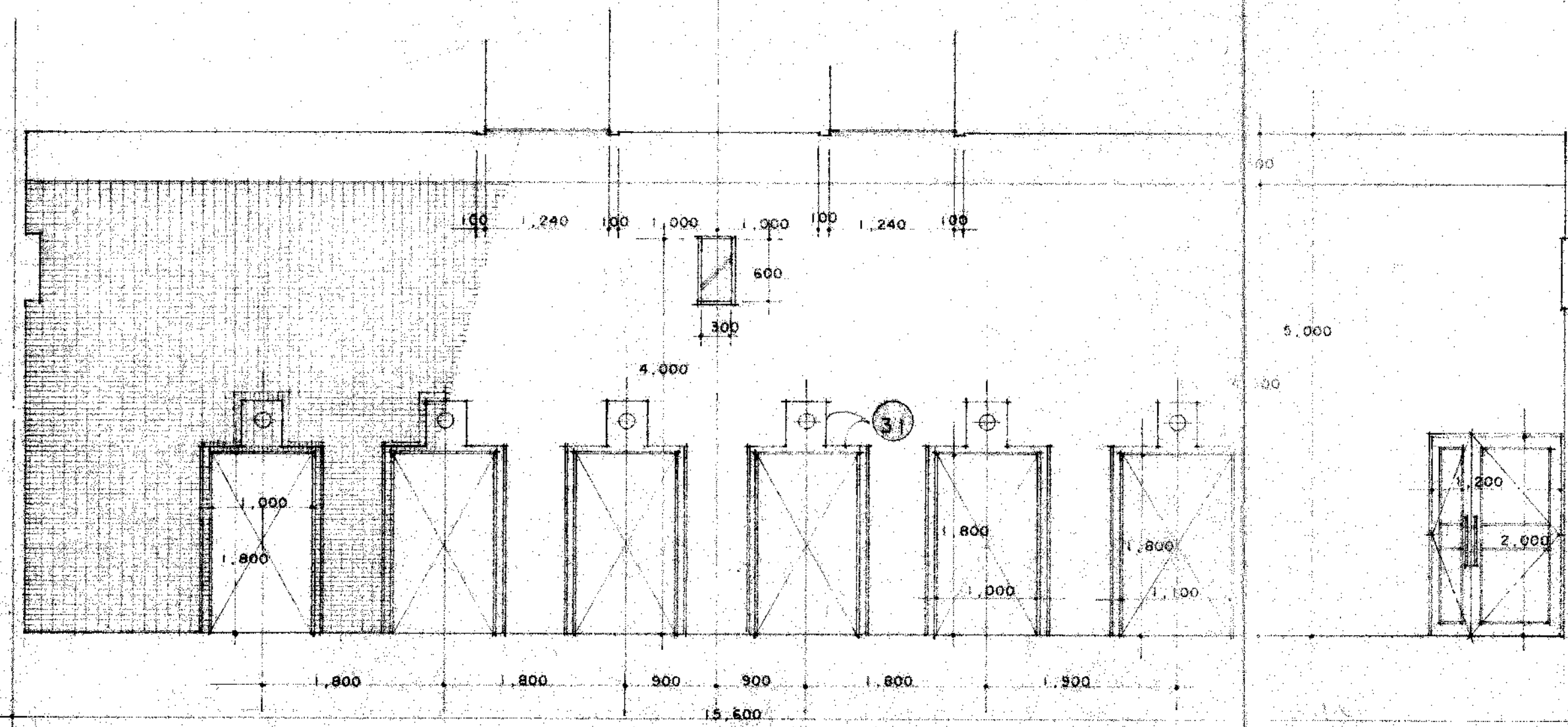
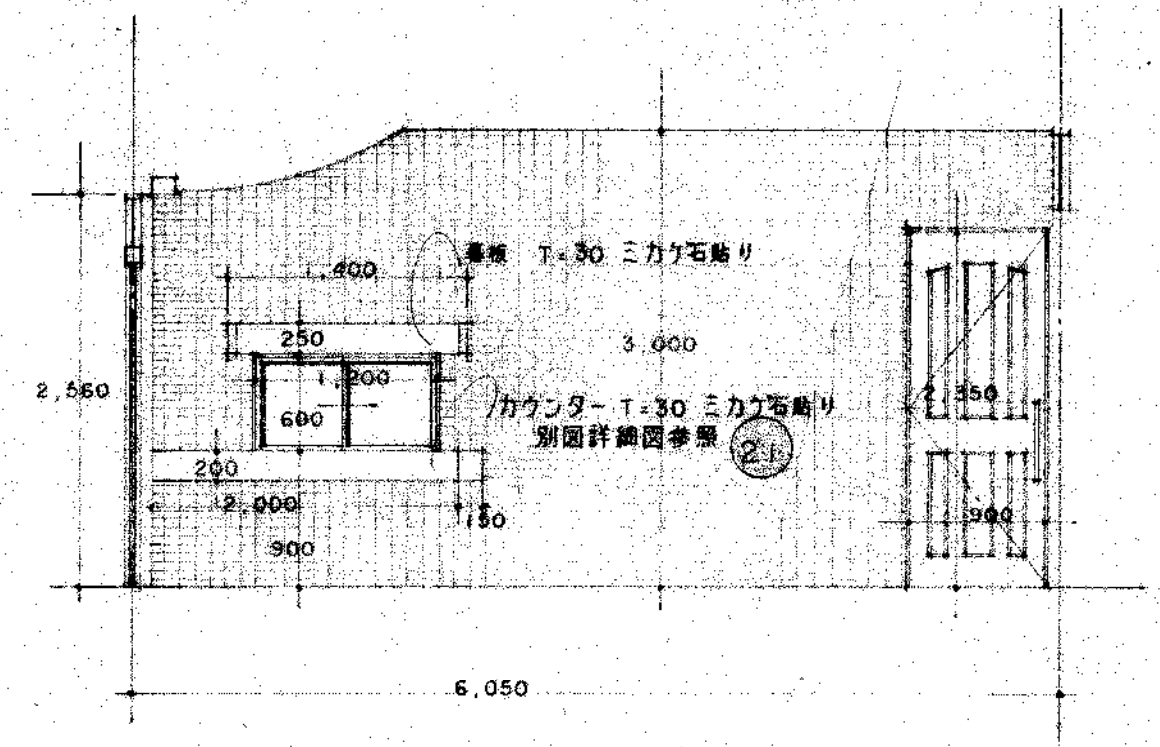
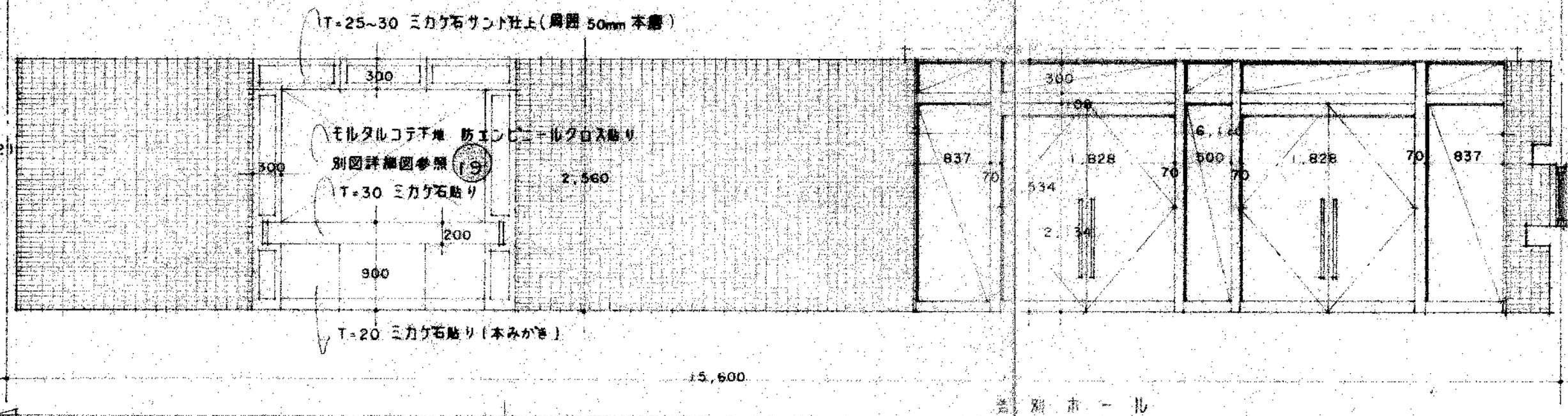


車寄、ポーチ、エントランスホール 矩計図 S=1/30

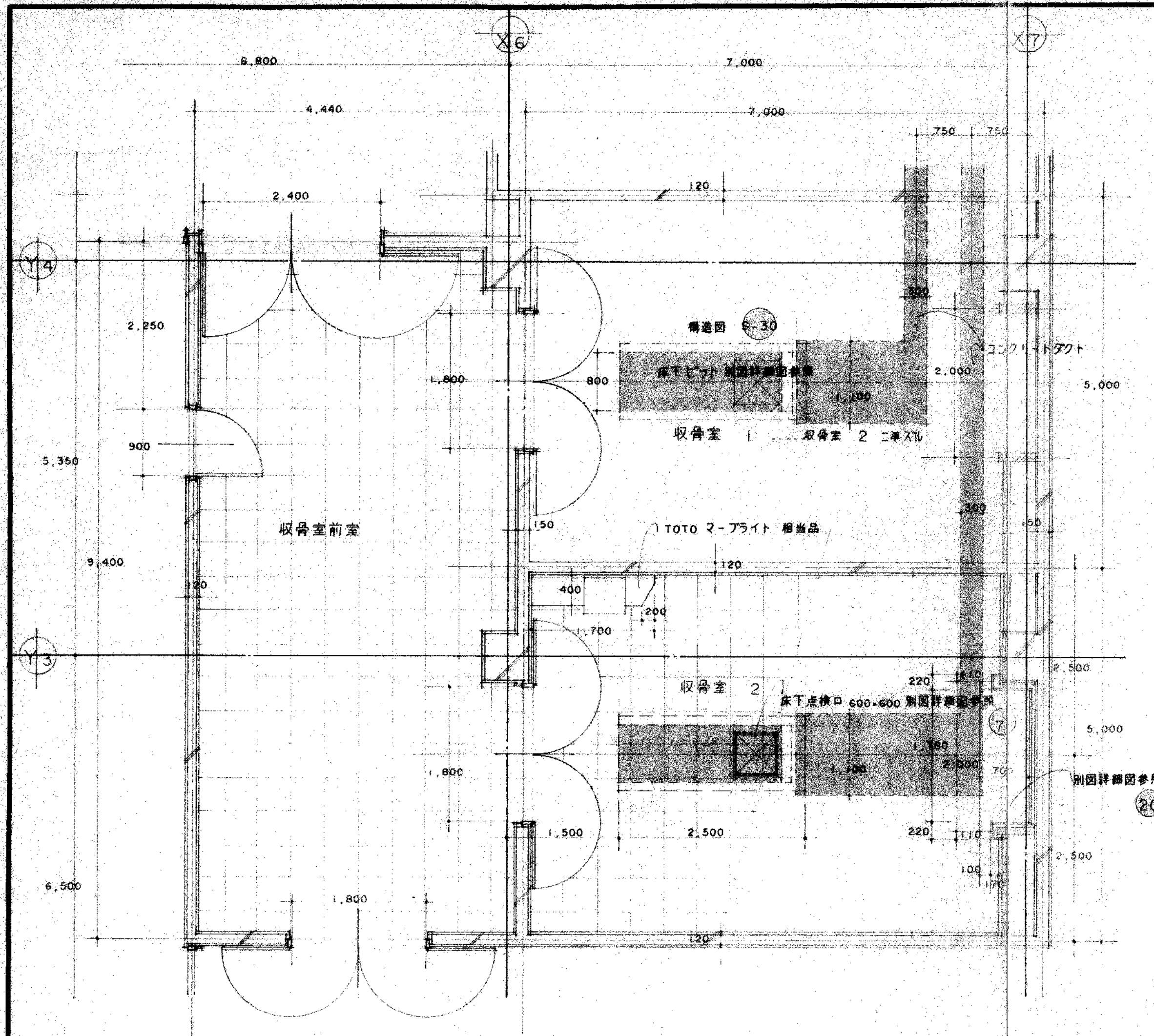




告別ホール 展開図
床
巾木
壁
天井
備考

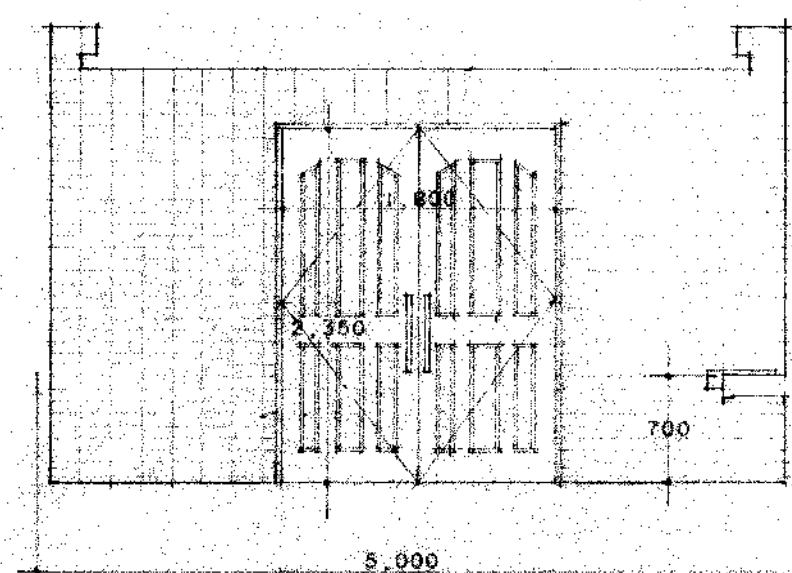
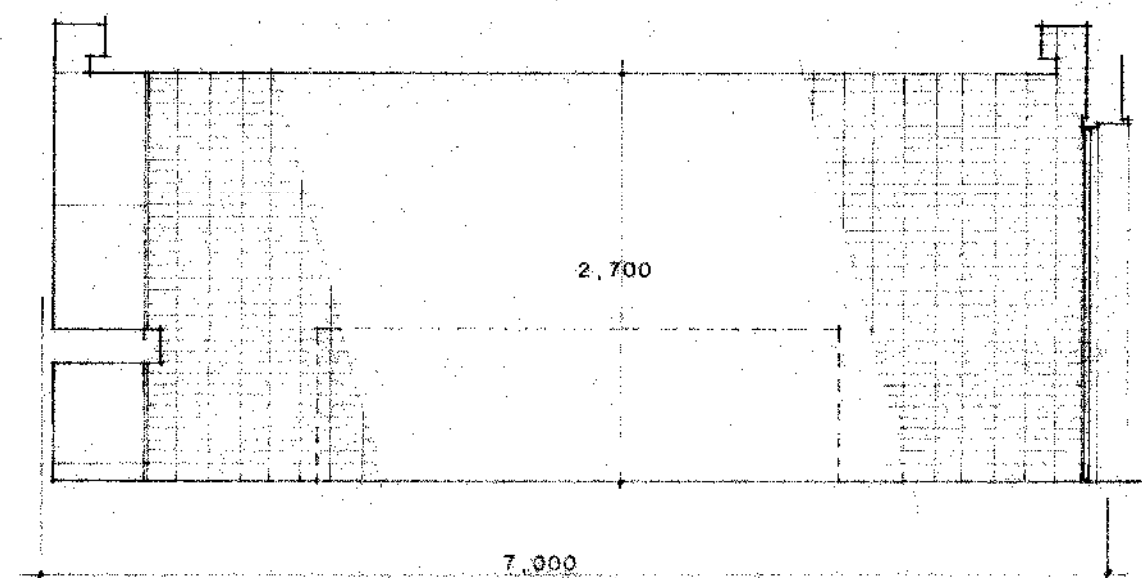
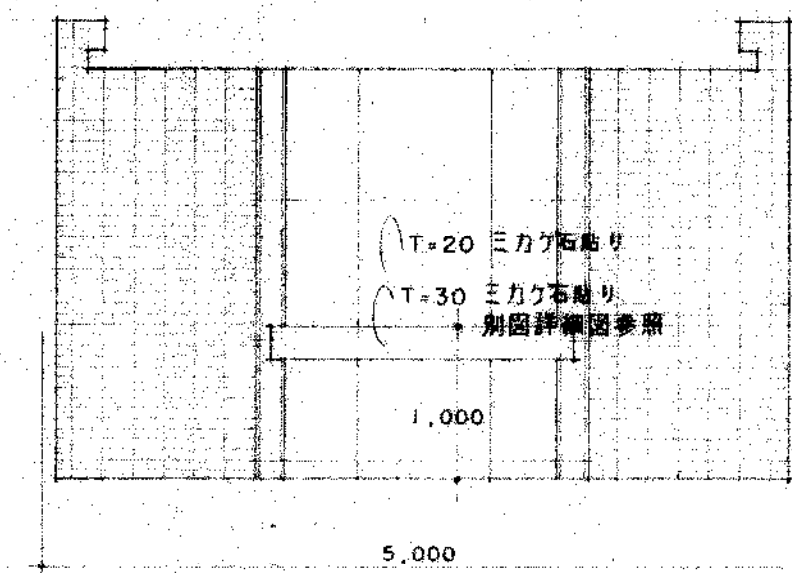
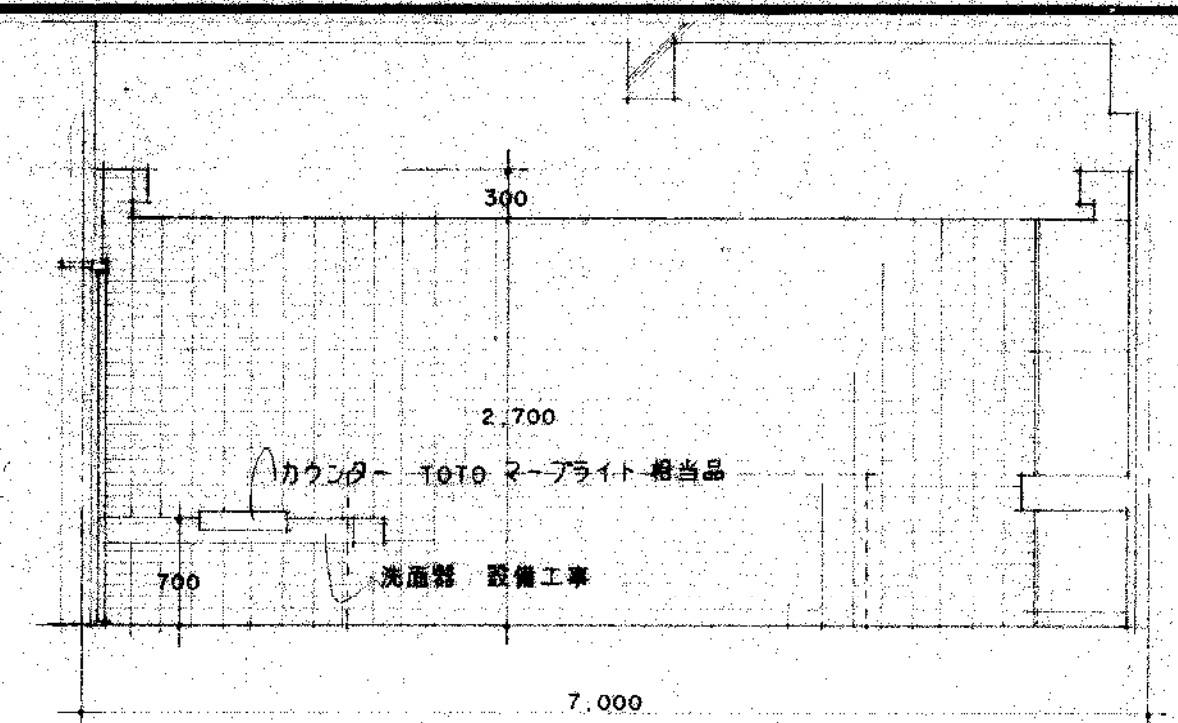


祭前ホール 展開図
床
壁
天井
備考



収骨室、収骨室前室 平面詳細図 S=1/50

収骨室(共通) 展開図	
床	400 [□] テラソー・タイル
巾木	ニT 珪タイル
壁	ニT 珪タイル
天井	石膏ボードT造 岩綿吸音板 (T=12)
備考	



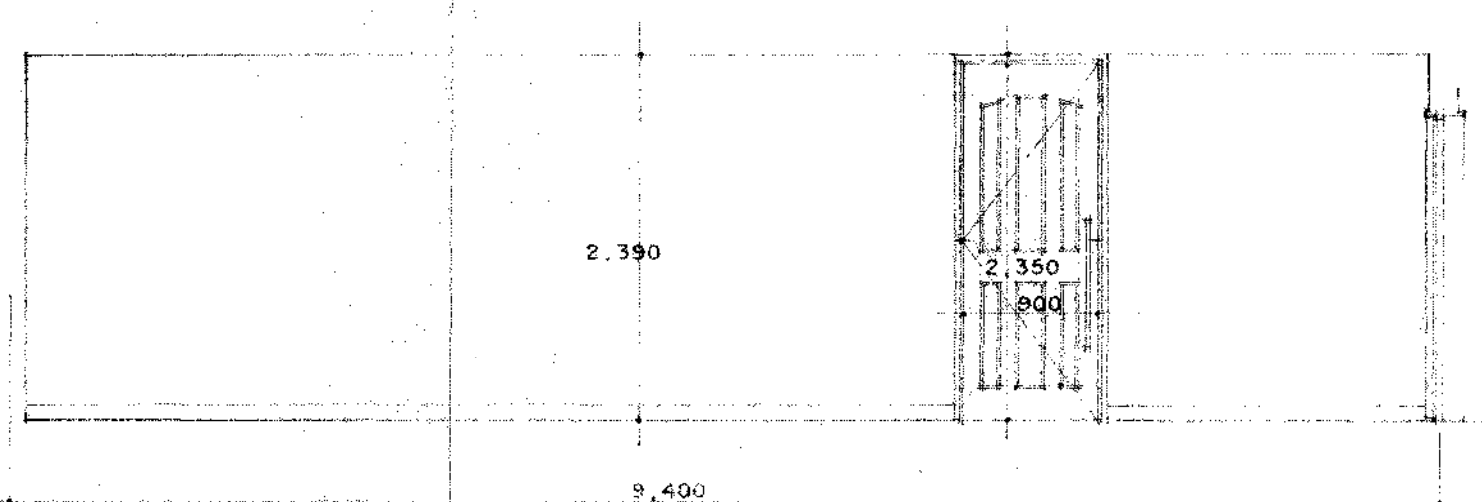
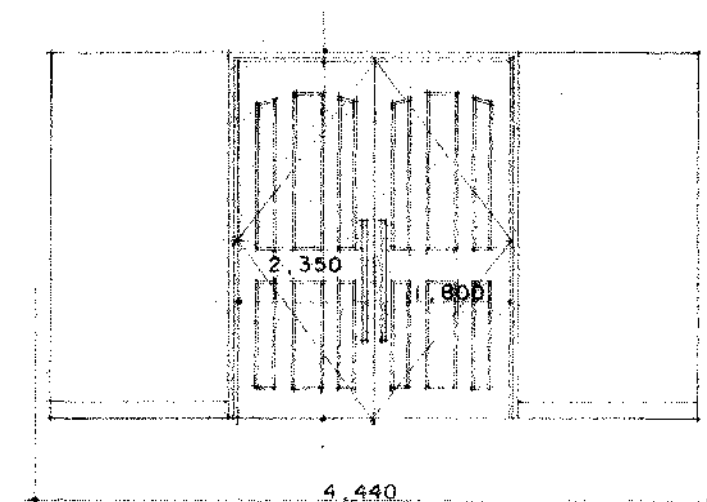
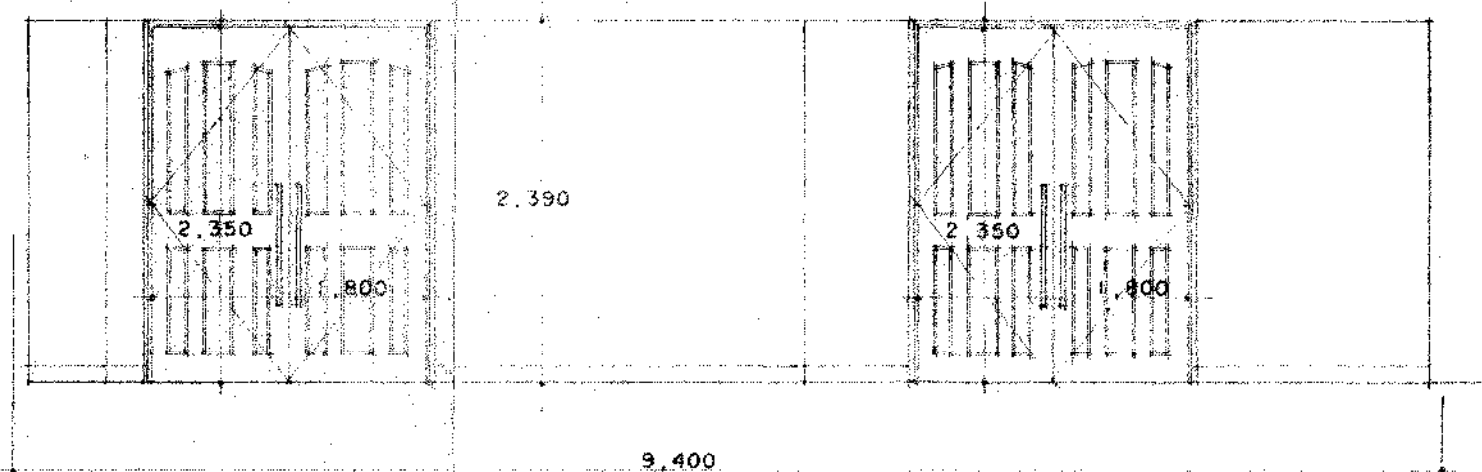
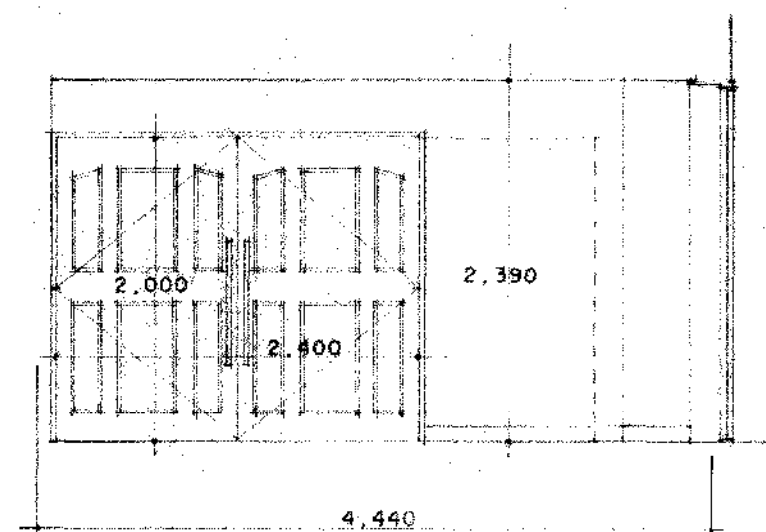
会津若松市新築

工事設計図

製	図	平面詳細図	S=1/50
図	系	展開図	S=1/50

No
A-40

収容室前室 展開図	
床	400 ^φ セラザータイル
巾木	レジンセラザー巾木 (H=100)
壁	防エン2級以上 ビニールクロス
天井	石膏ボード下地 岩綿吸音板
備考	



会津若松市斎場新築

工事設計図

製
図

図
標

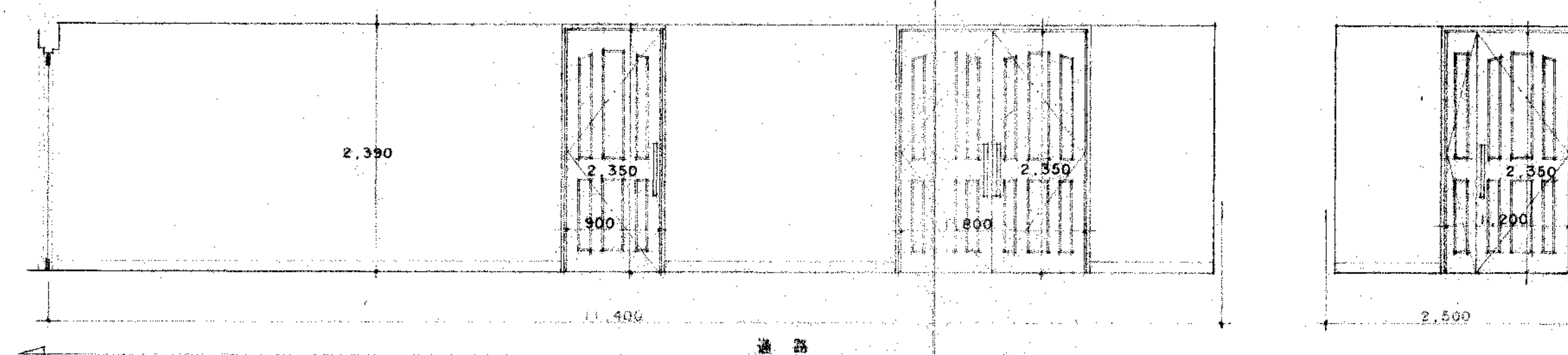
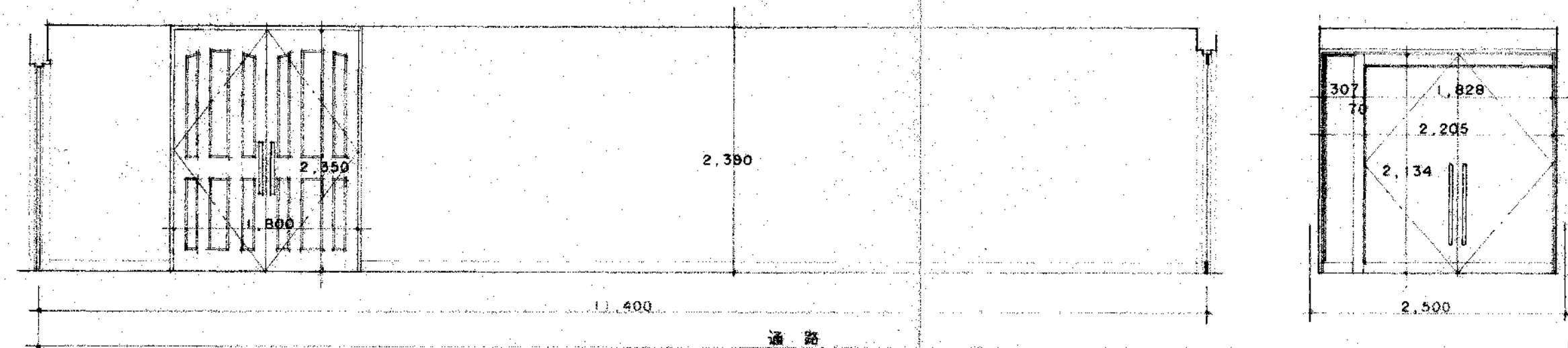
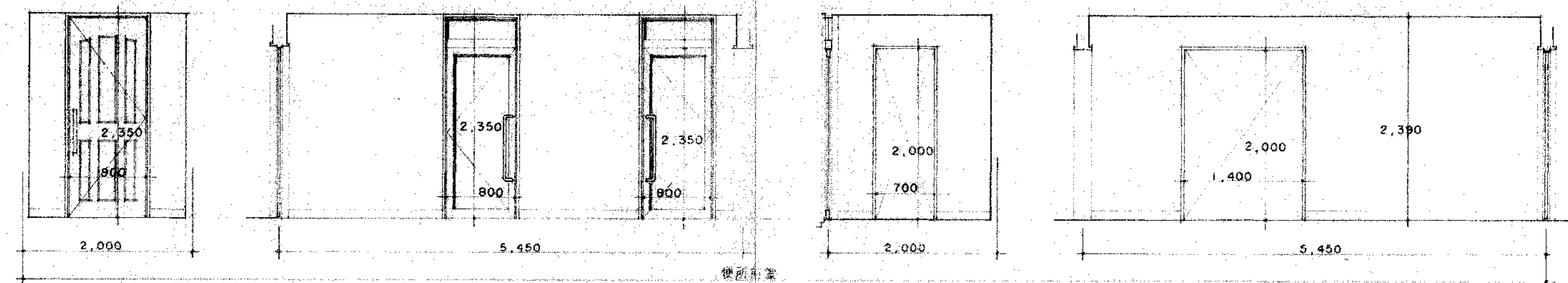
展 開 図

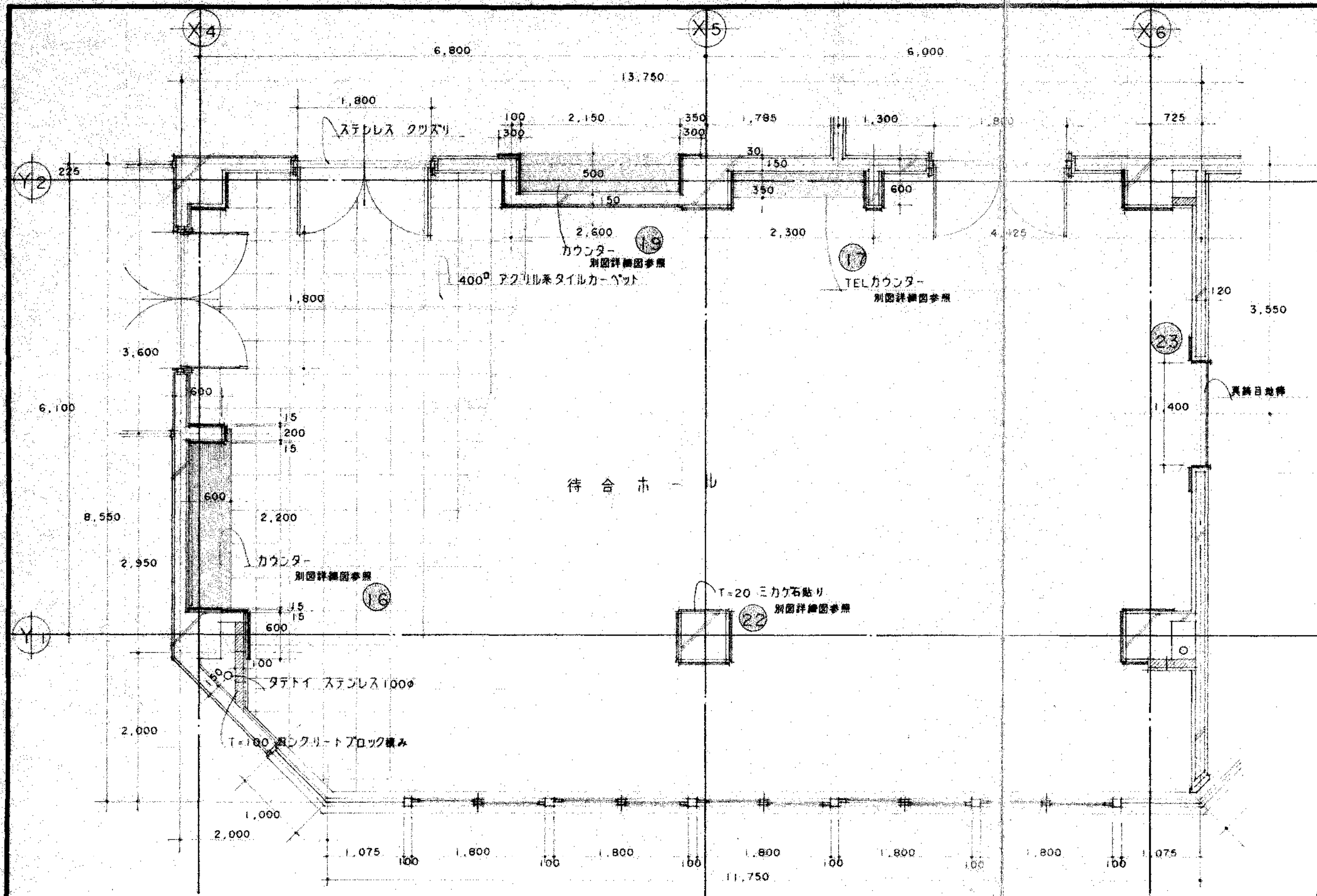
S=1/50

No

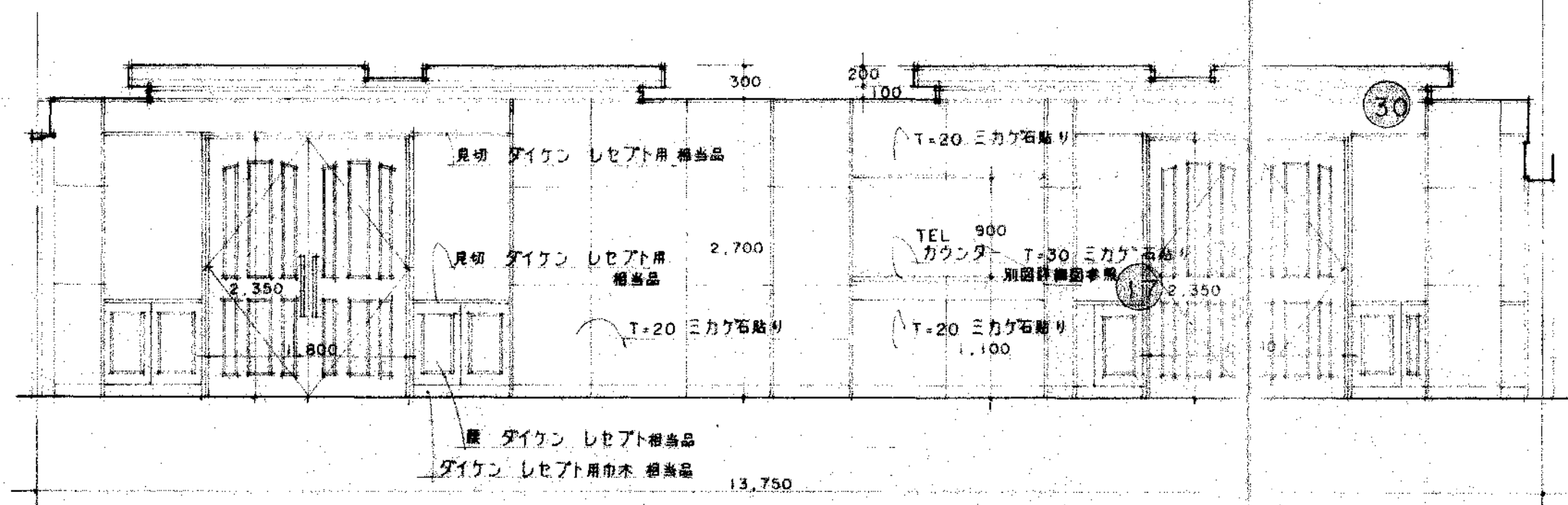
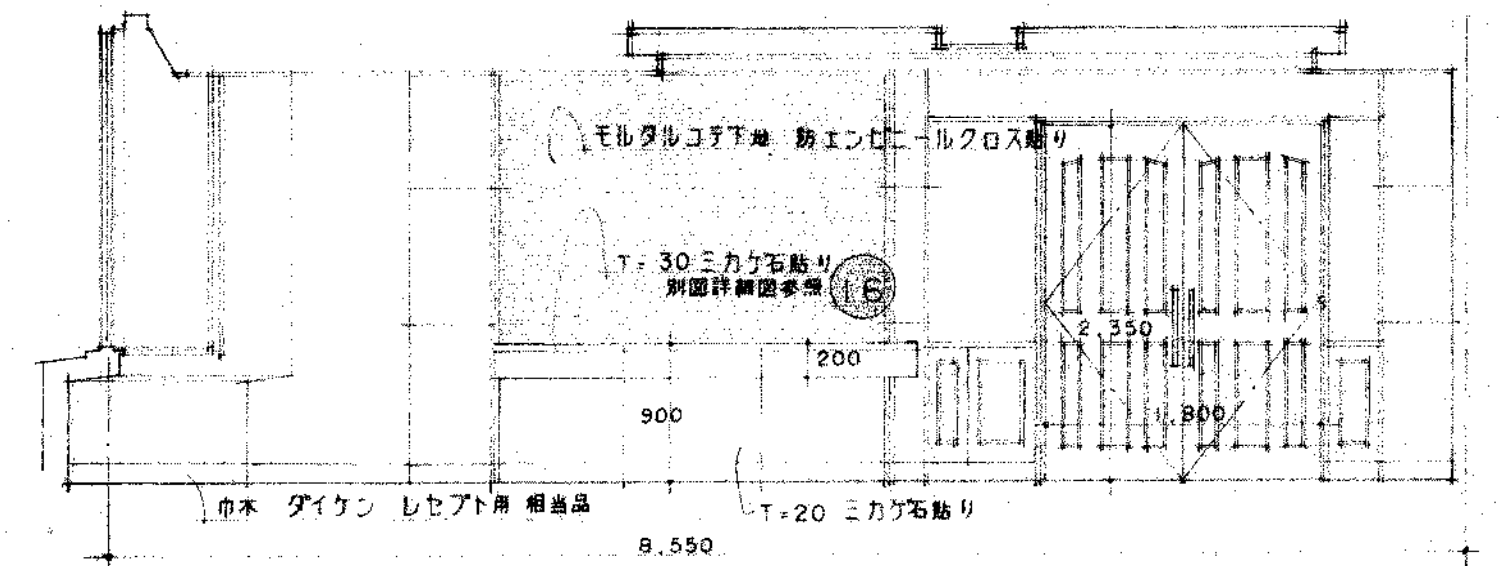
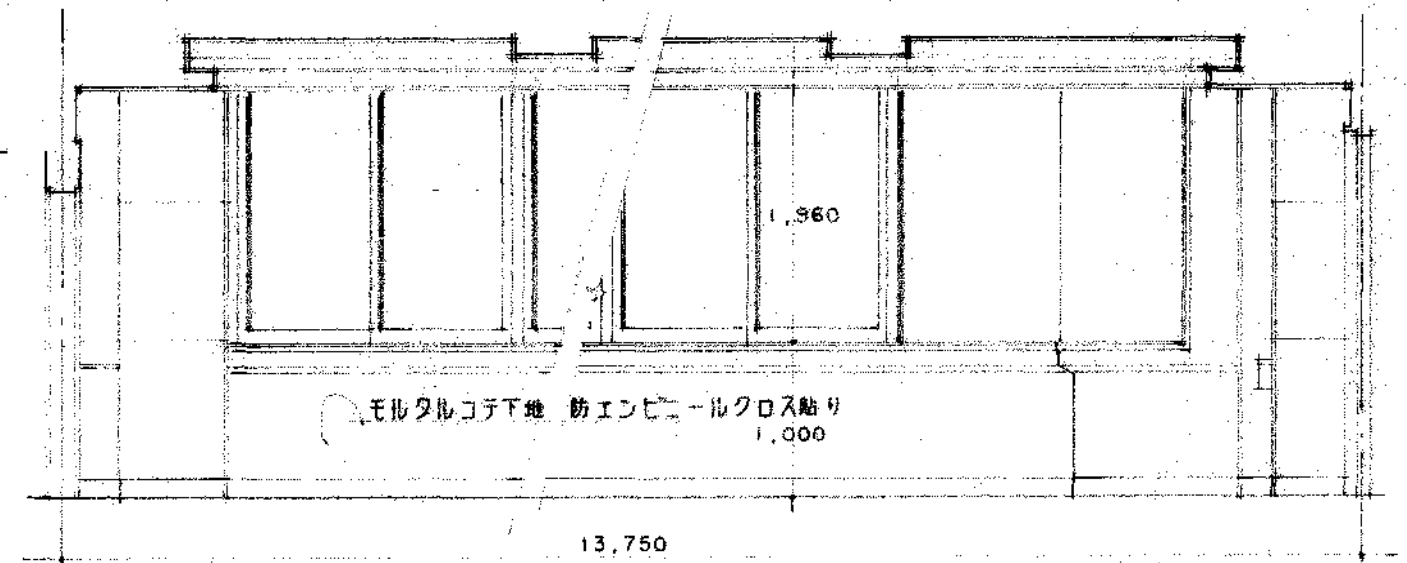
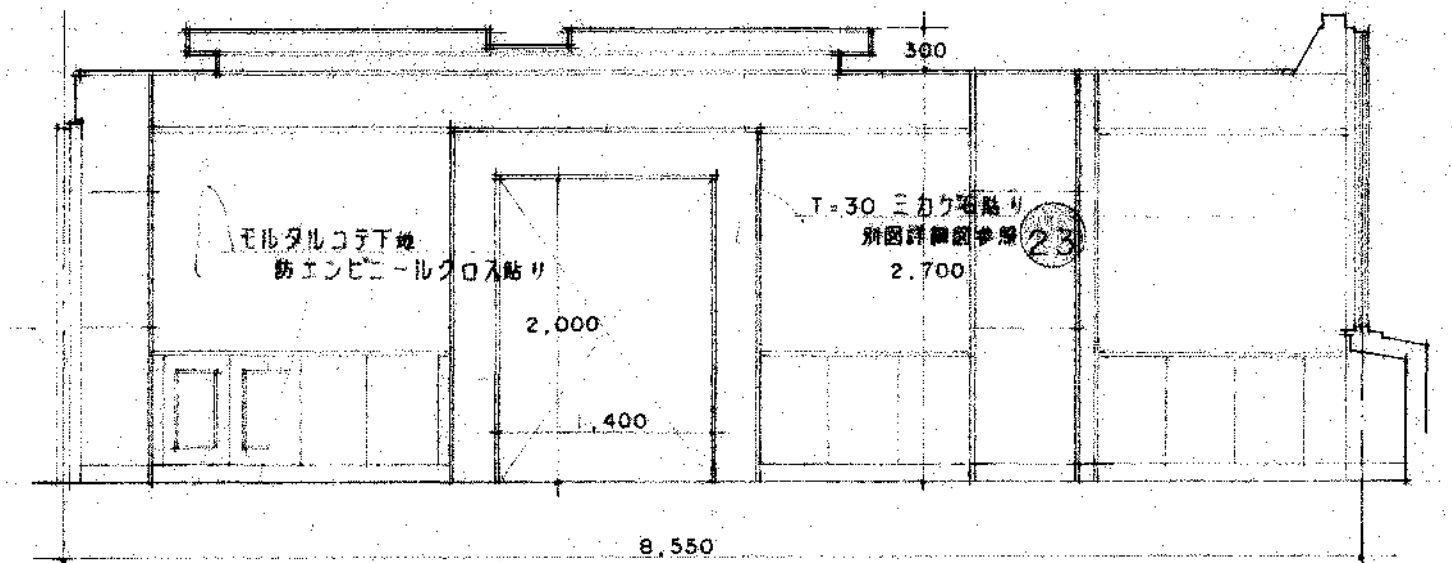
A-41

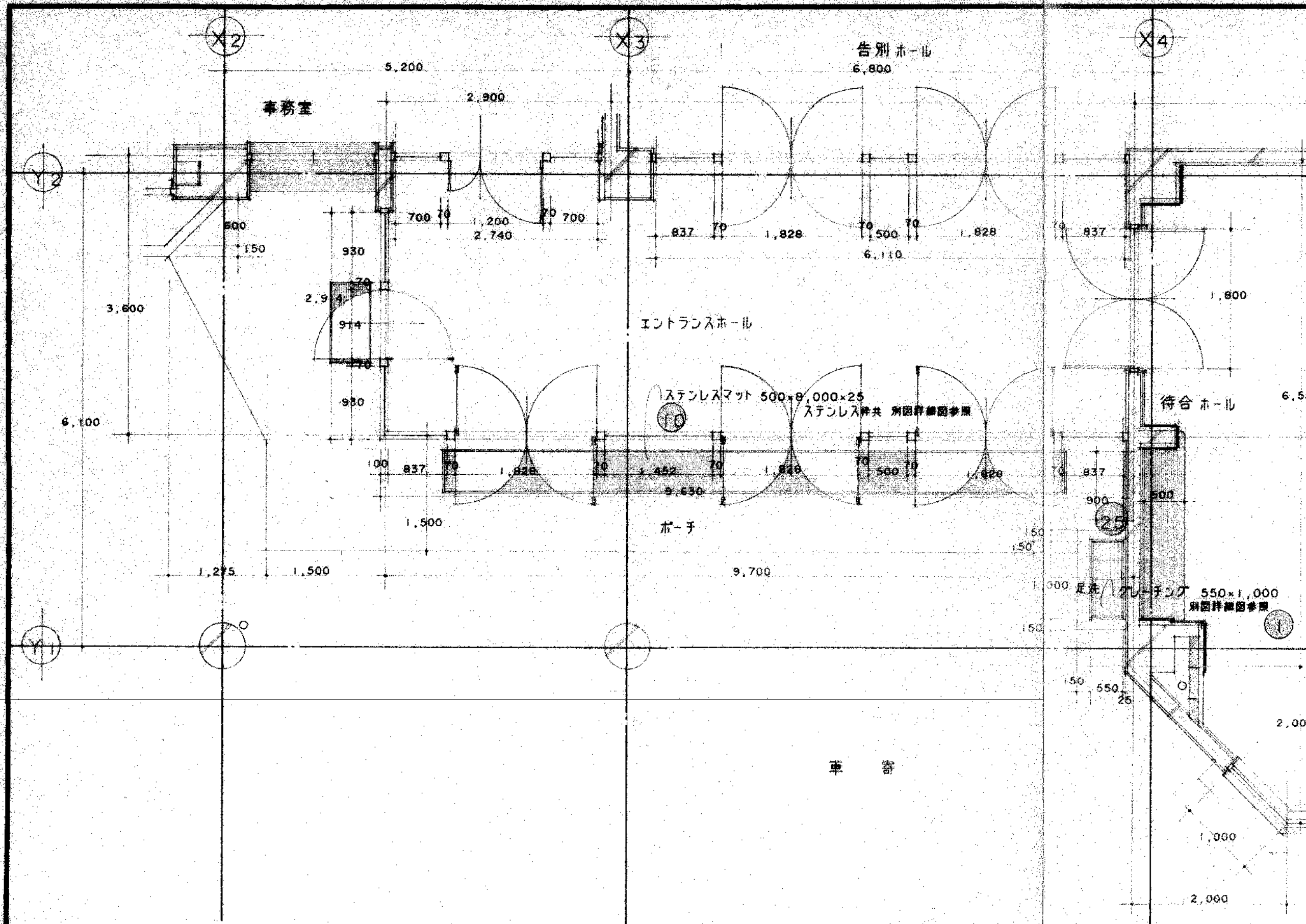
、 通 路 展 開 図	
床	長尺クッションフロア
巾木	レジンテラゾー巾木 (H=100)
壁	防エンタール以上 ビニールクロス
天井	石膏ボード下地 岩綿吸音板 (T=9)
備考	





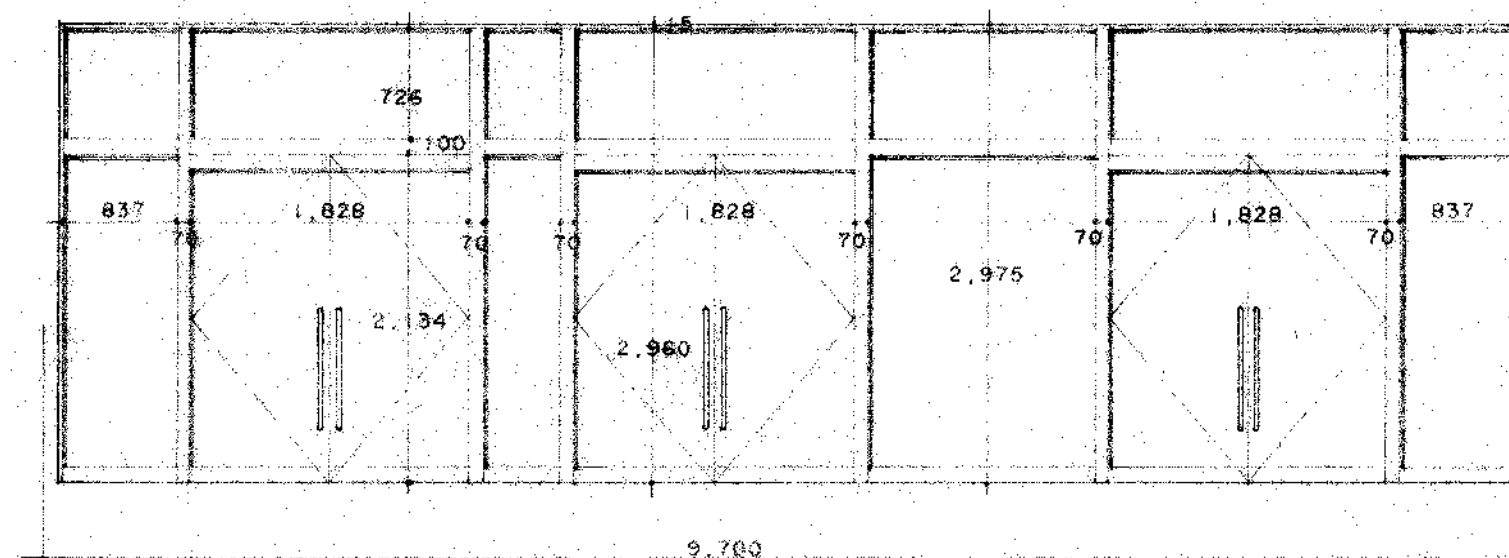
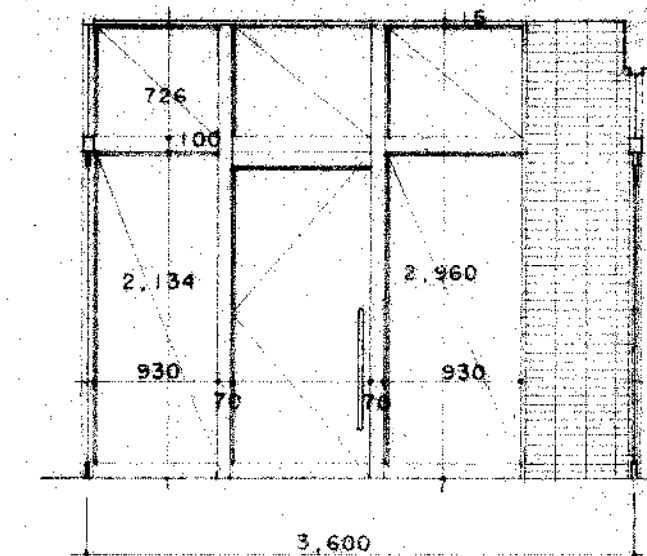
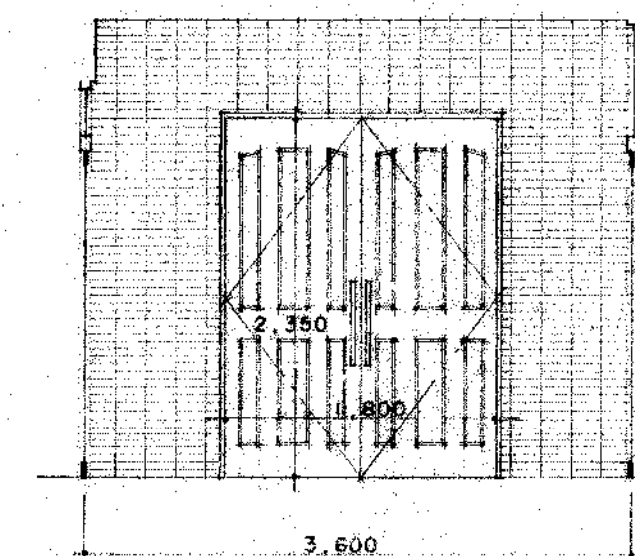
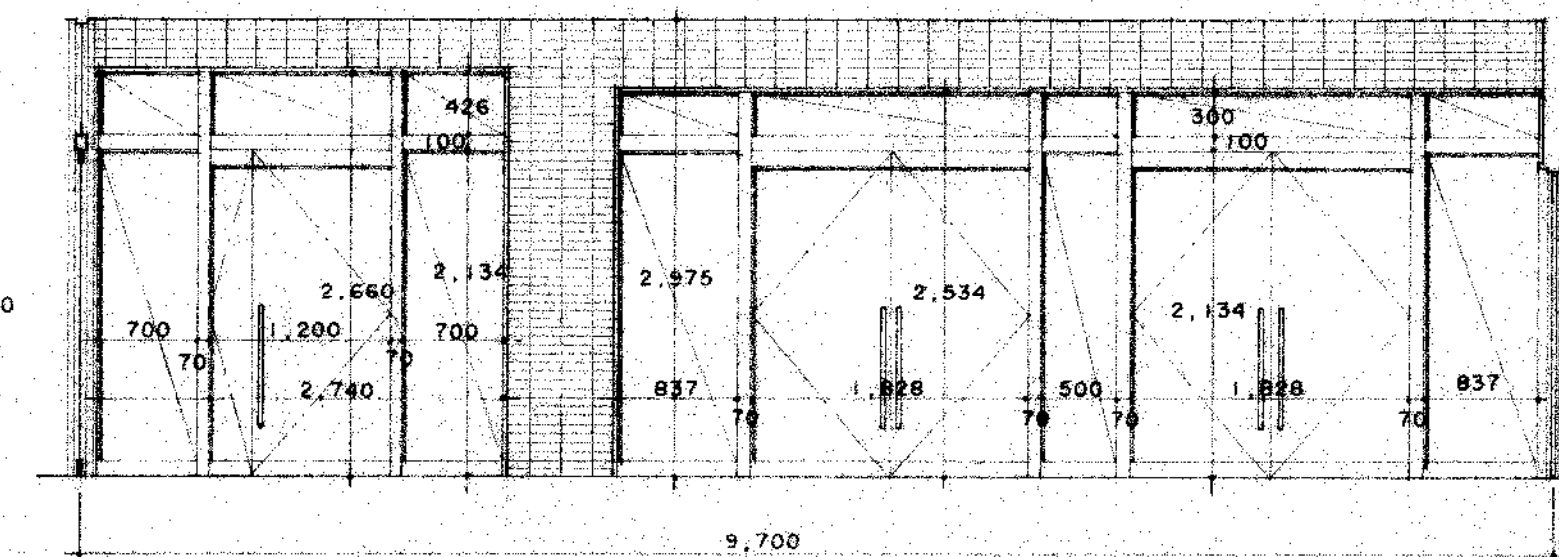
待合ホール 展開図	
床	400 ⁰ アクリル系タイルカーベット
巾木	木製 1H=100 ⁰ ダイケン レセプト用 相当品
壁	防エン2歳以上ビニールクロス
腰	ダイケン レセプト 相当品
天井	石膏ボード下地岩綿吸音板EP/2(T=12)
	同上下地防エン2歳以上ビニールクロス

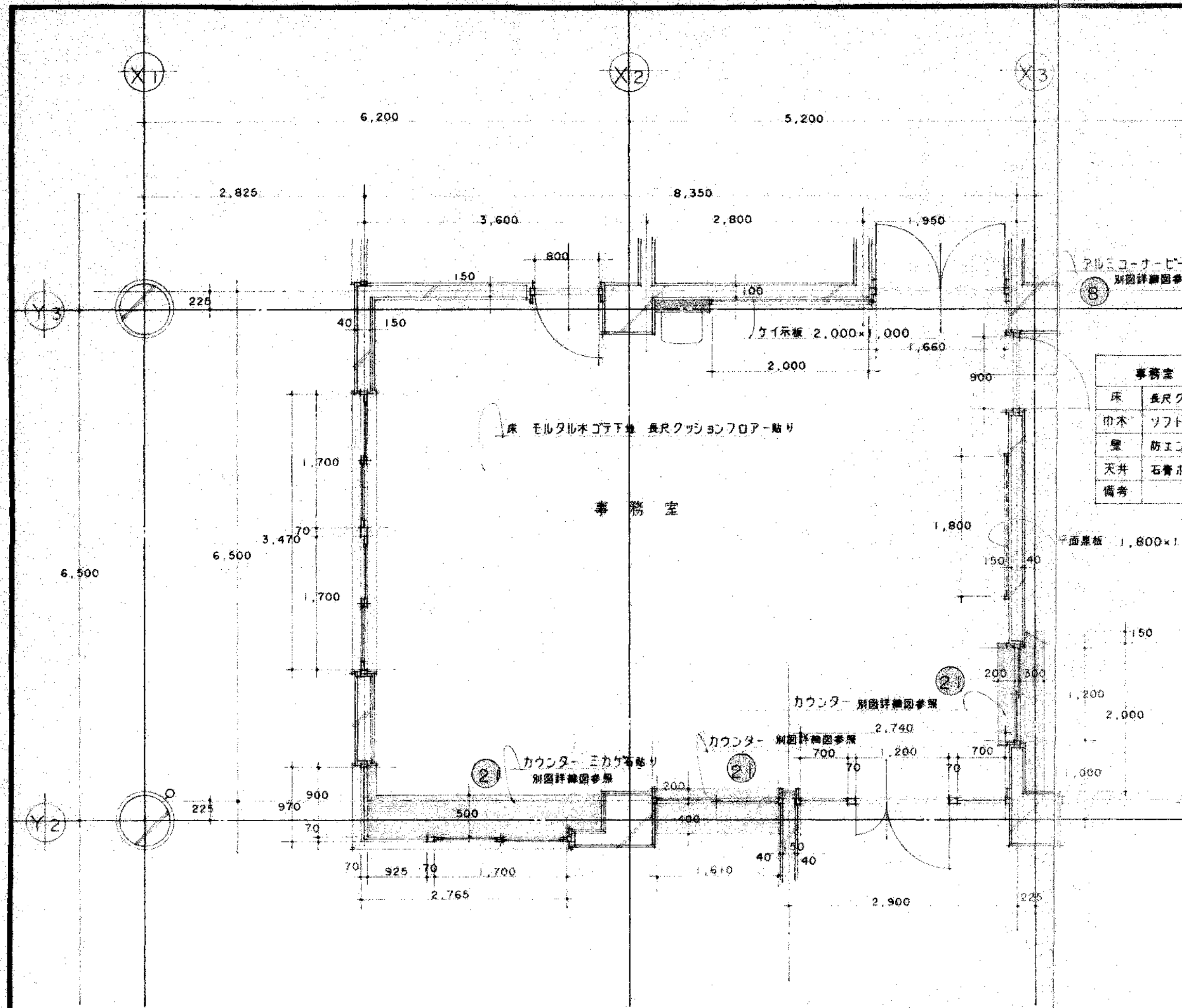




エントランスホール 平面詳細図 S=1/50

エントランスホール 展開図	
床	150 ² 磁器質タイル
巾木	ニ丁巻タイル
壁	ニ丁巻タイル
天井	石膏ボード下地岩綿吸音板 EP/21T=151
備考	



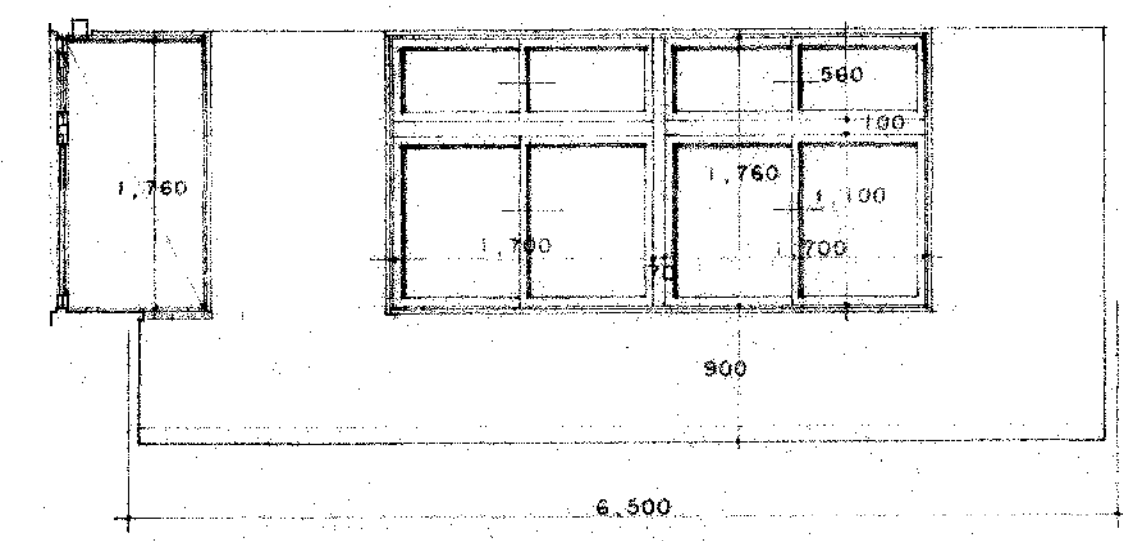
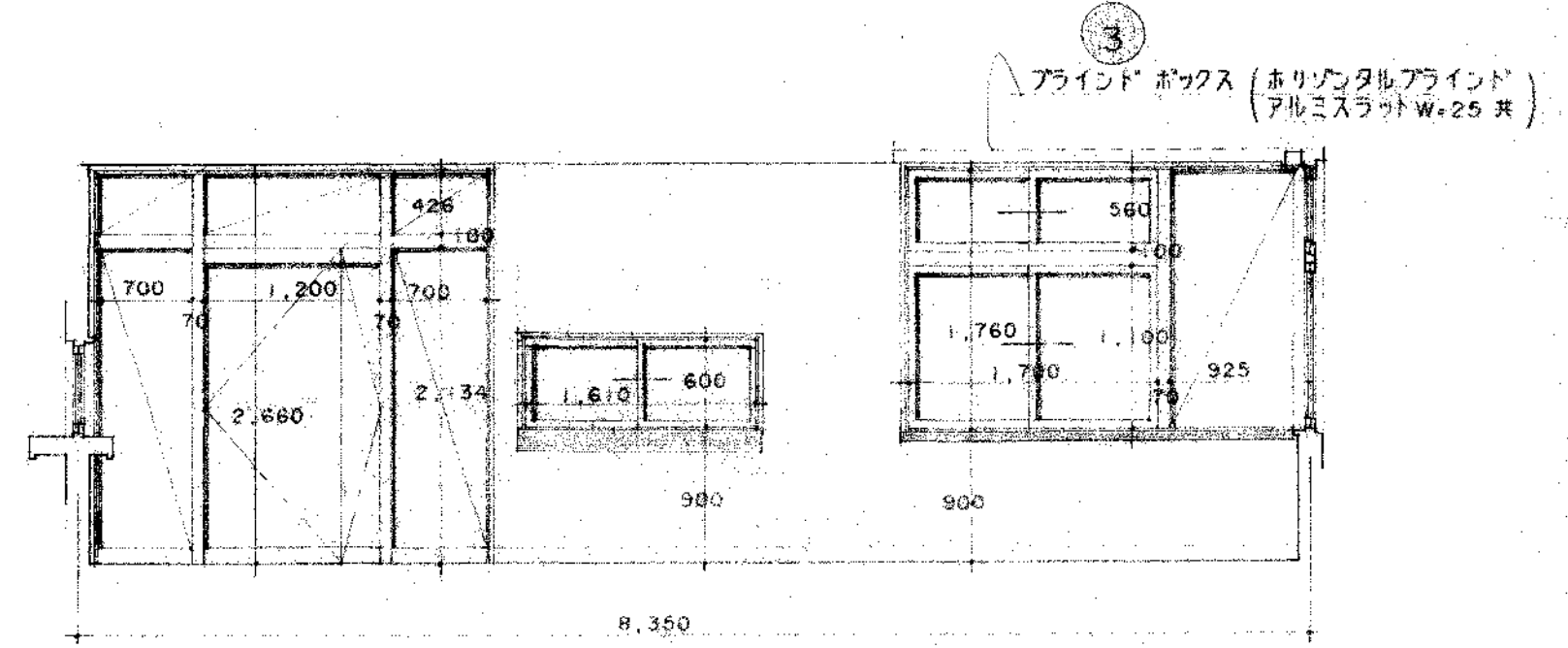
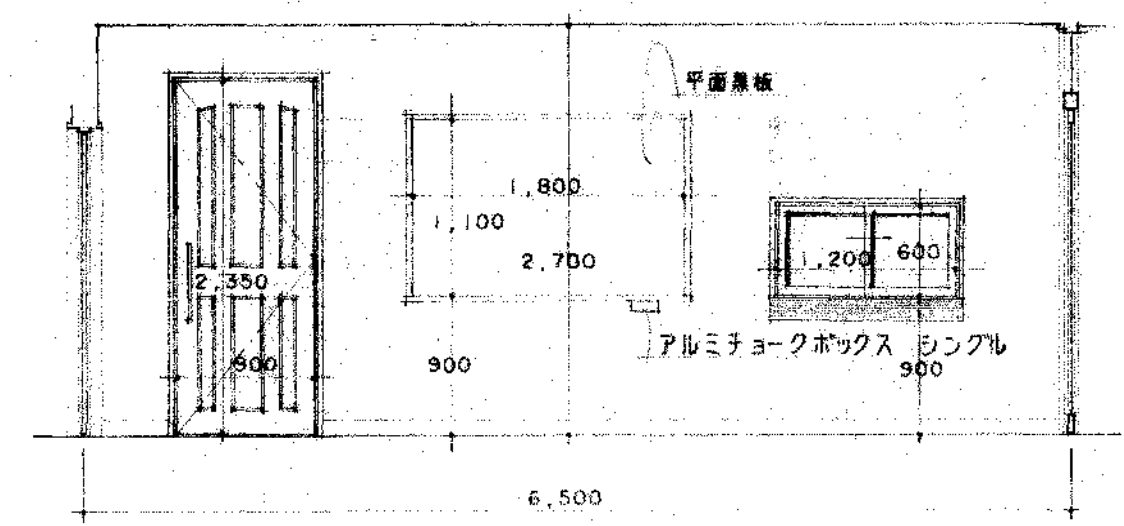
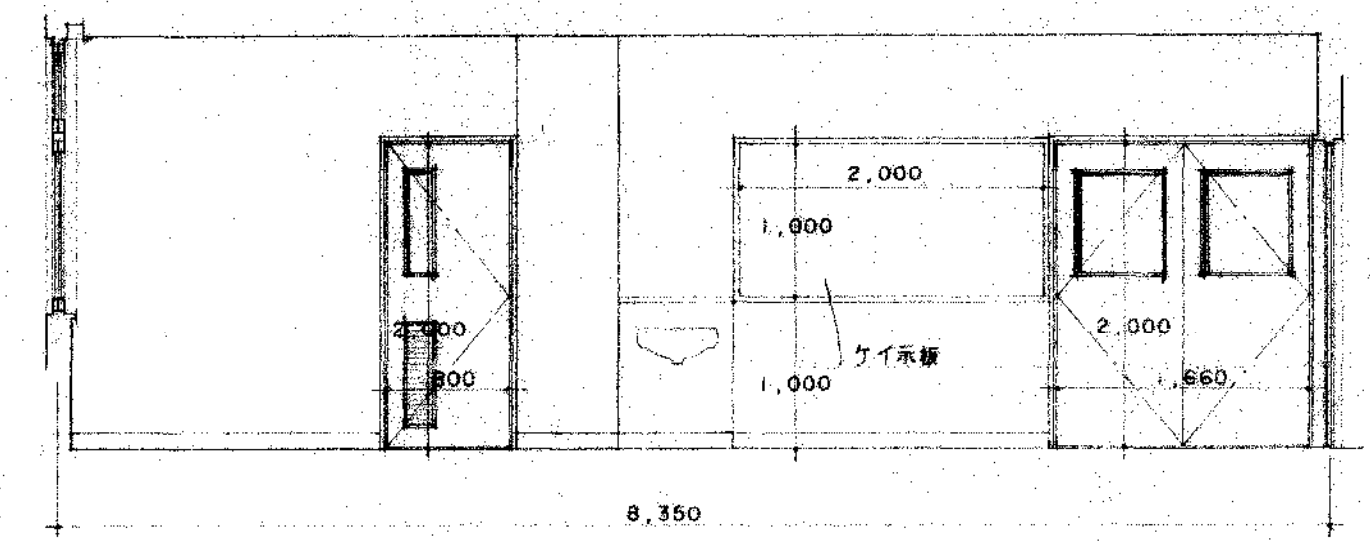


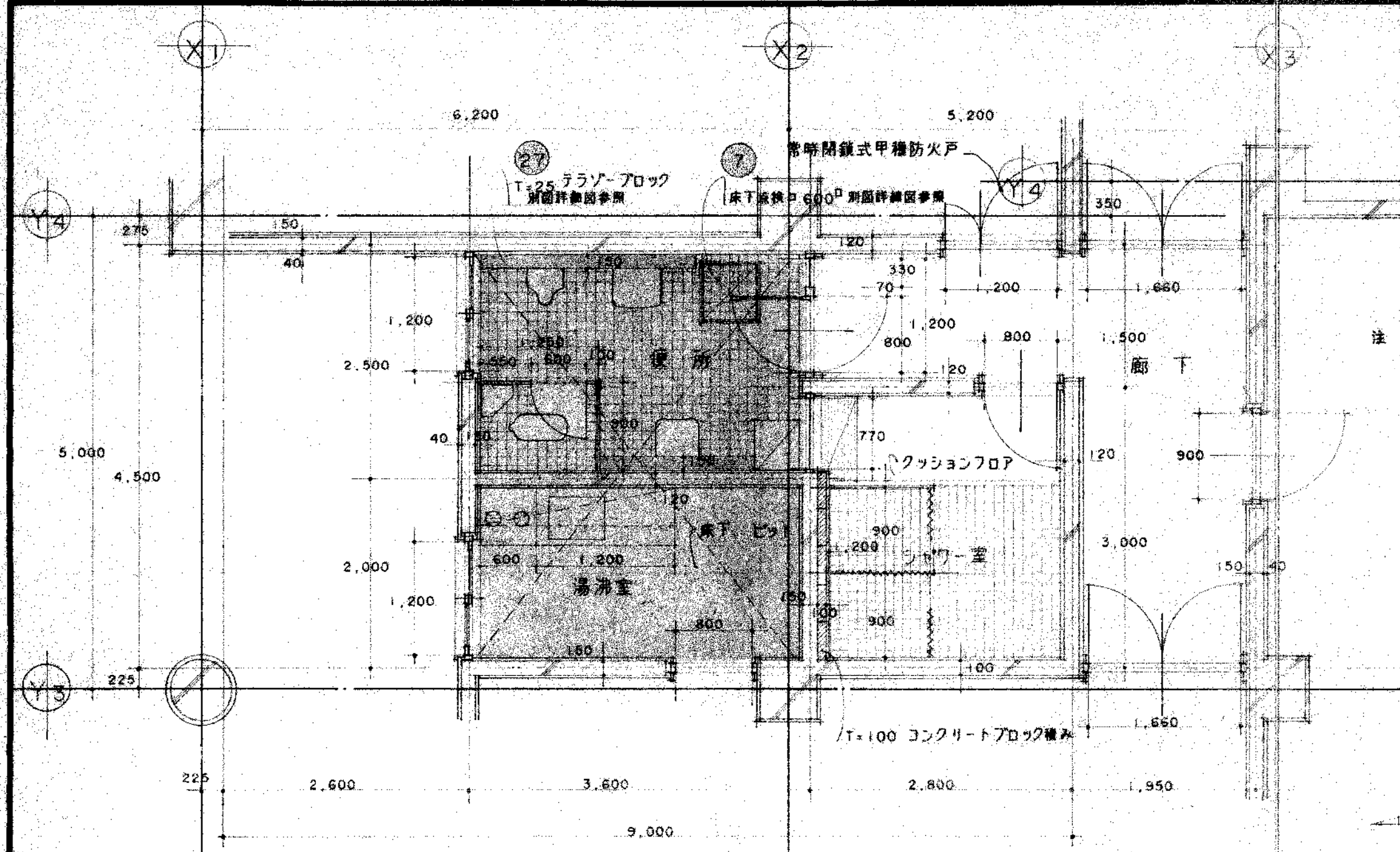
事務室 平面詳細図 S=1/50

アルミコーナービート
別図詳細図参照

事務室 展開図	
床	長尺クッションフロア
巾木	ソフト巾木 (H=100)
壁	防エン2種以上ビニールクロス
天井	石膏ボード下地 岩綿吸音板 (T=9)
備考	

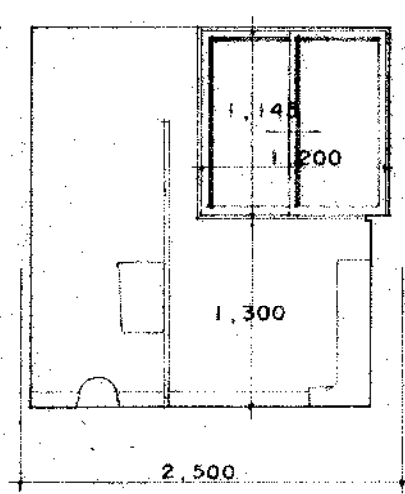
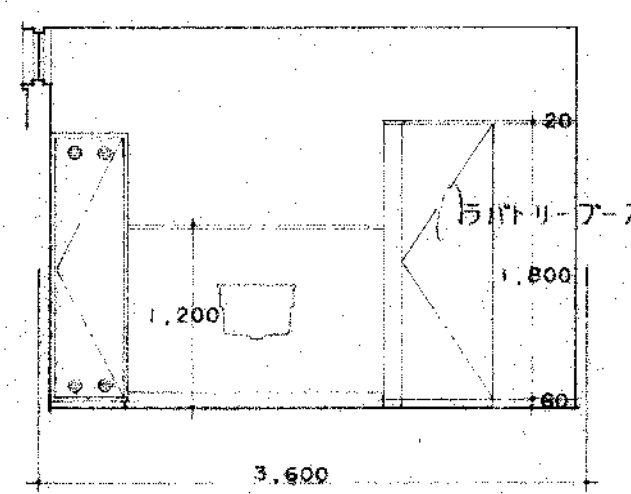
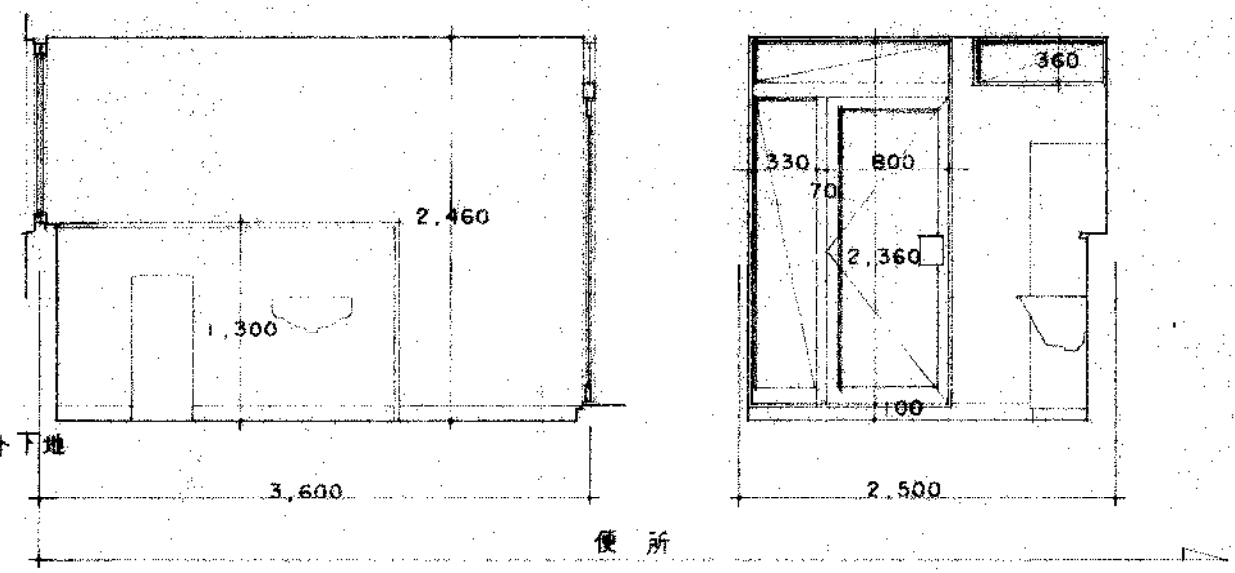
面黒板 1,800 x 1,100





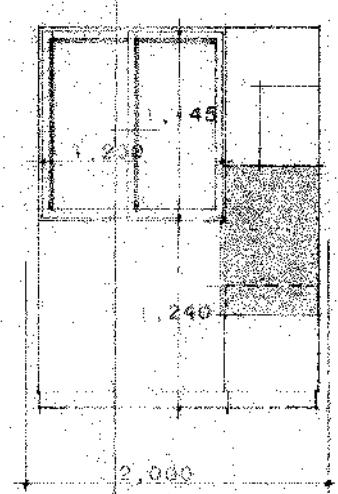
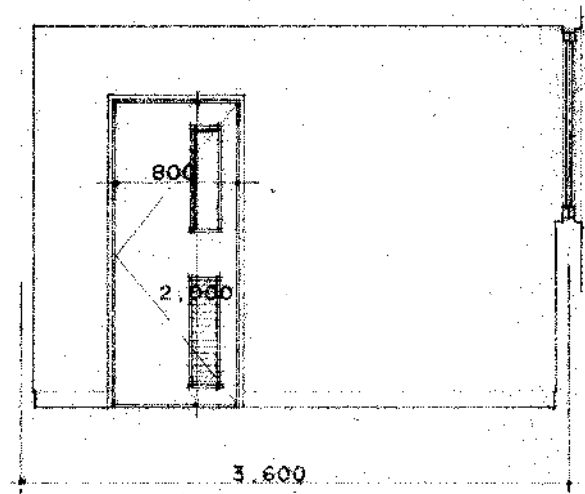
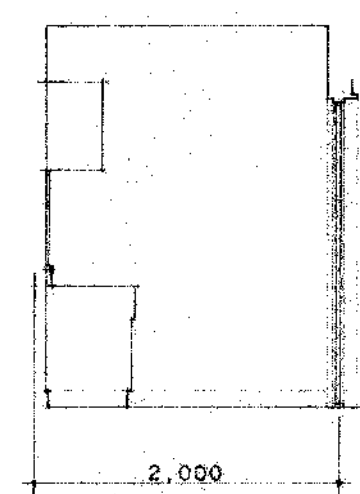
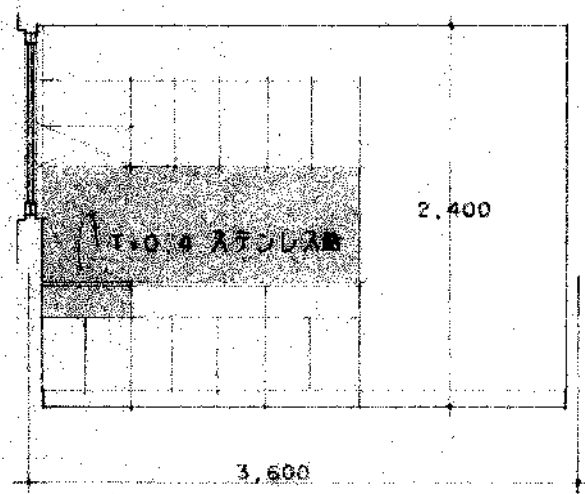
便所 展開図	
床	25 ^{mm} 磁器モザイクタイル
巾木	レジンテラゾー巾木 (H=100)
壁	アクリル系弾性タイル貼付
天井	石綿ケイカル板 VP/3
備考	

注 便所床 アスファルト防水 (E-2) 1.60坪へコンクリート下地

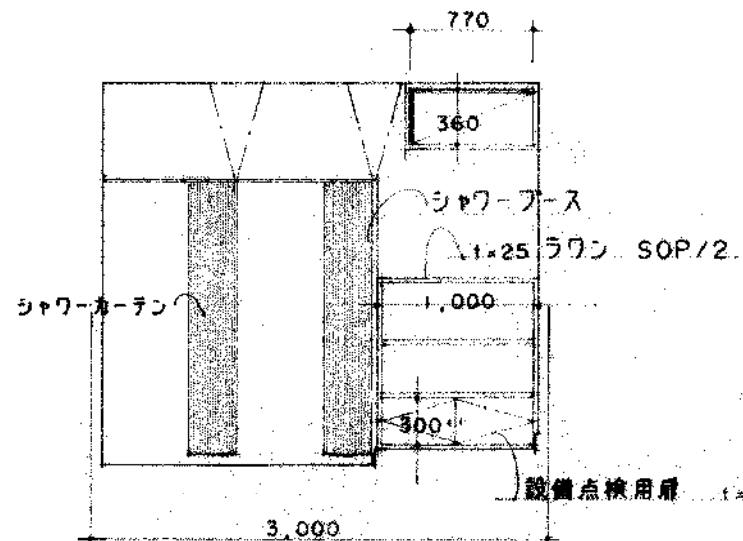
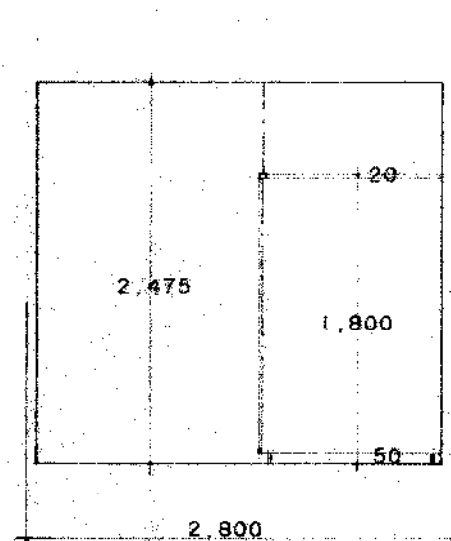
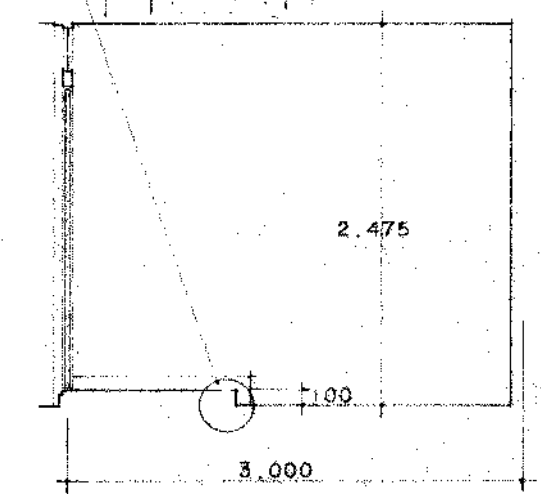
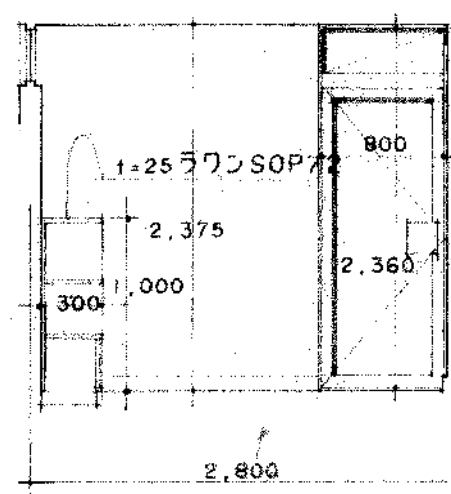


湯沸室 展開図	
床	長尺クッションフロア
巾木	レジンテラゾー巾木 (H=100)
壁	アクリル系弾性タイル貼付
天井	石綿ケイカル板 VP/3
備考	

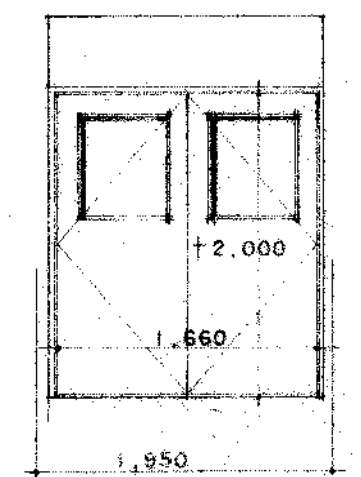
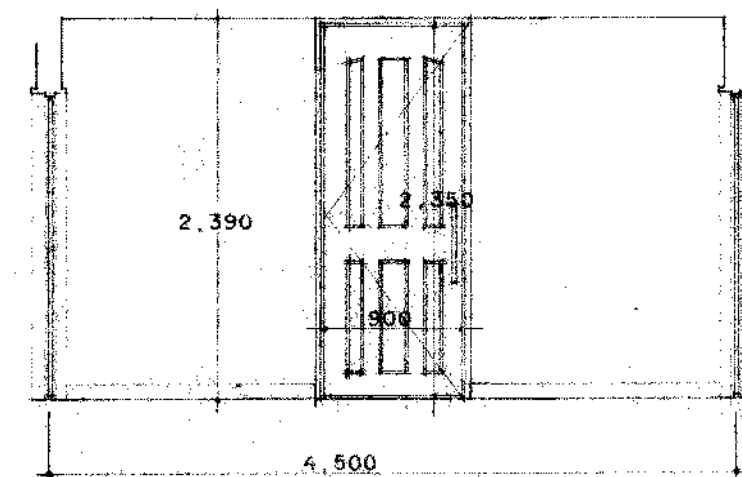
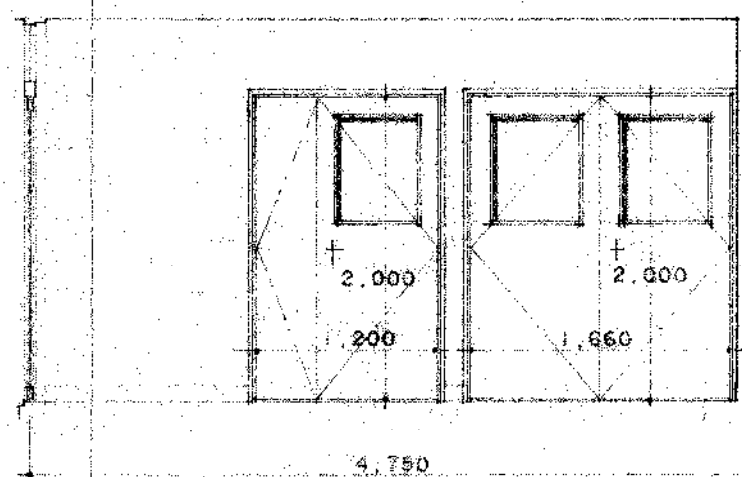
クッションフロア
シンチー 目地棒
モルタルコテ
モザイクタイル

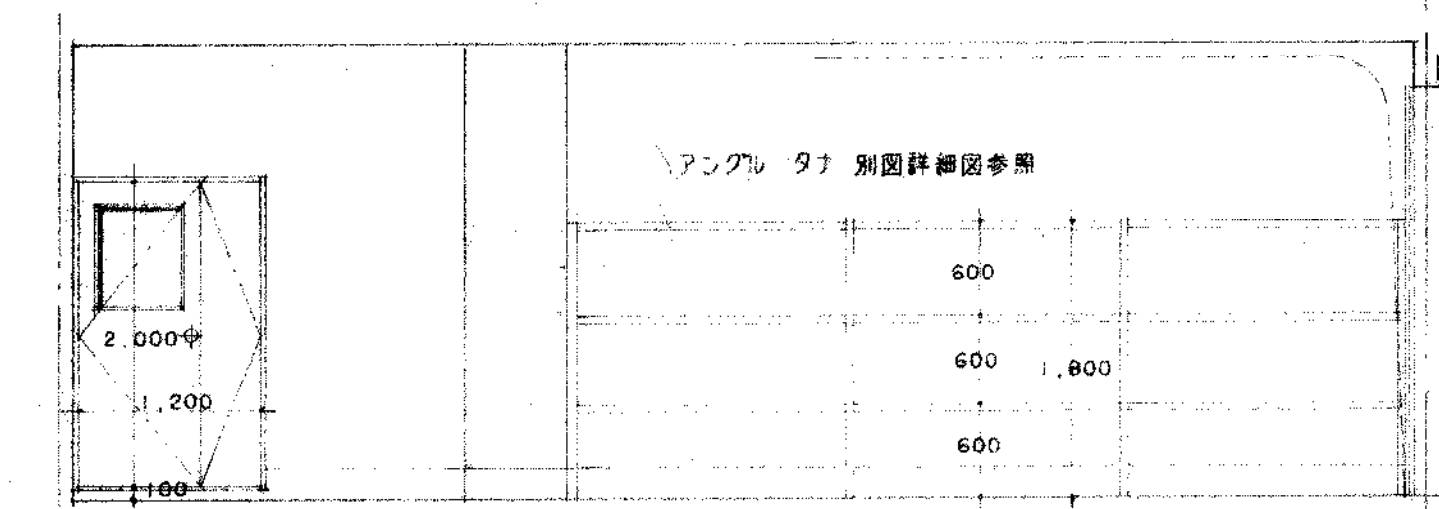
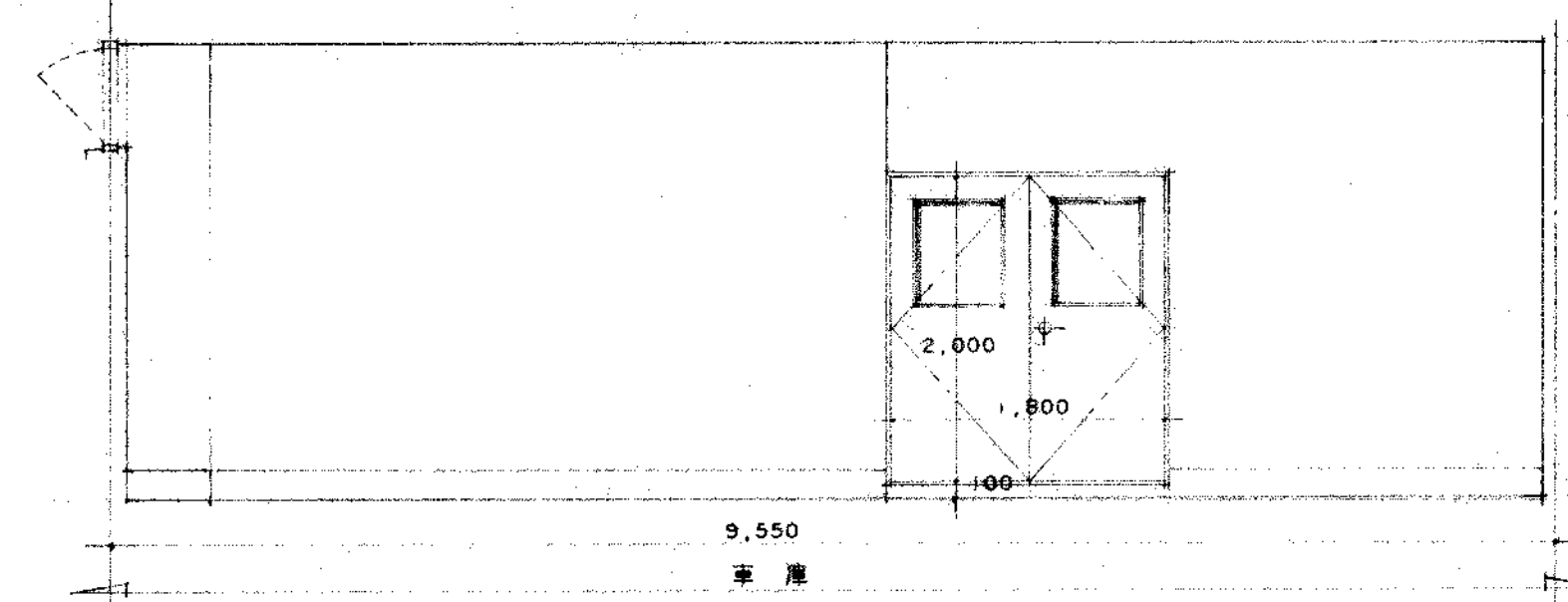
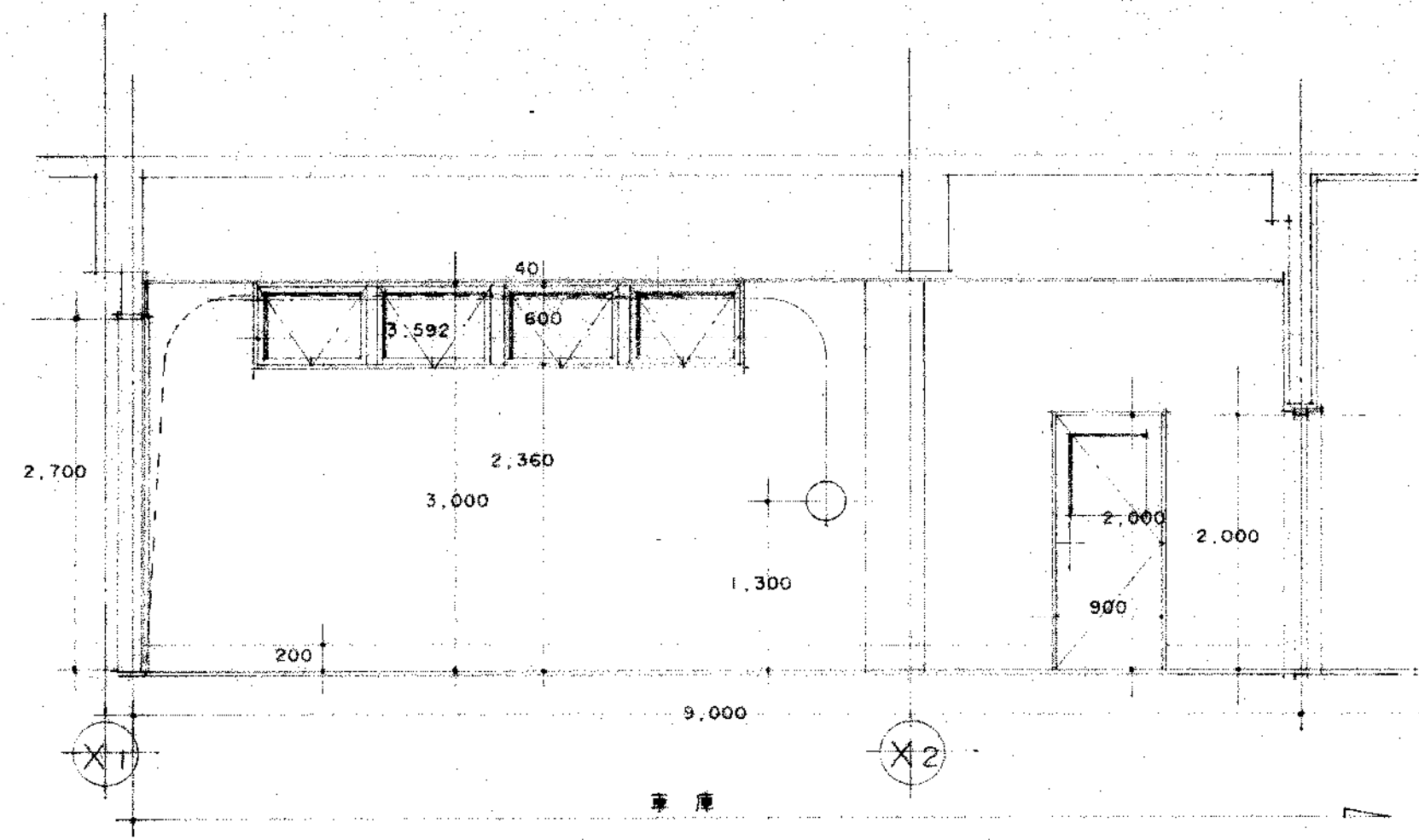
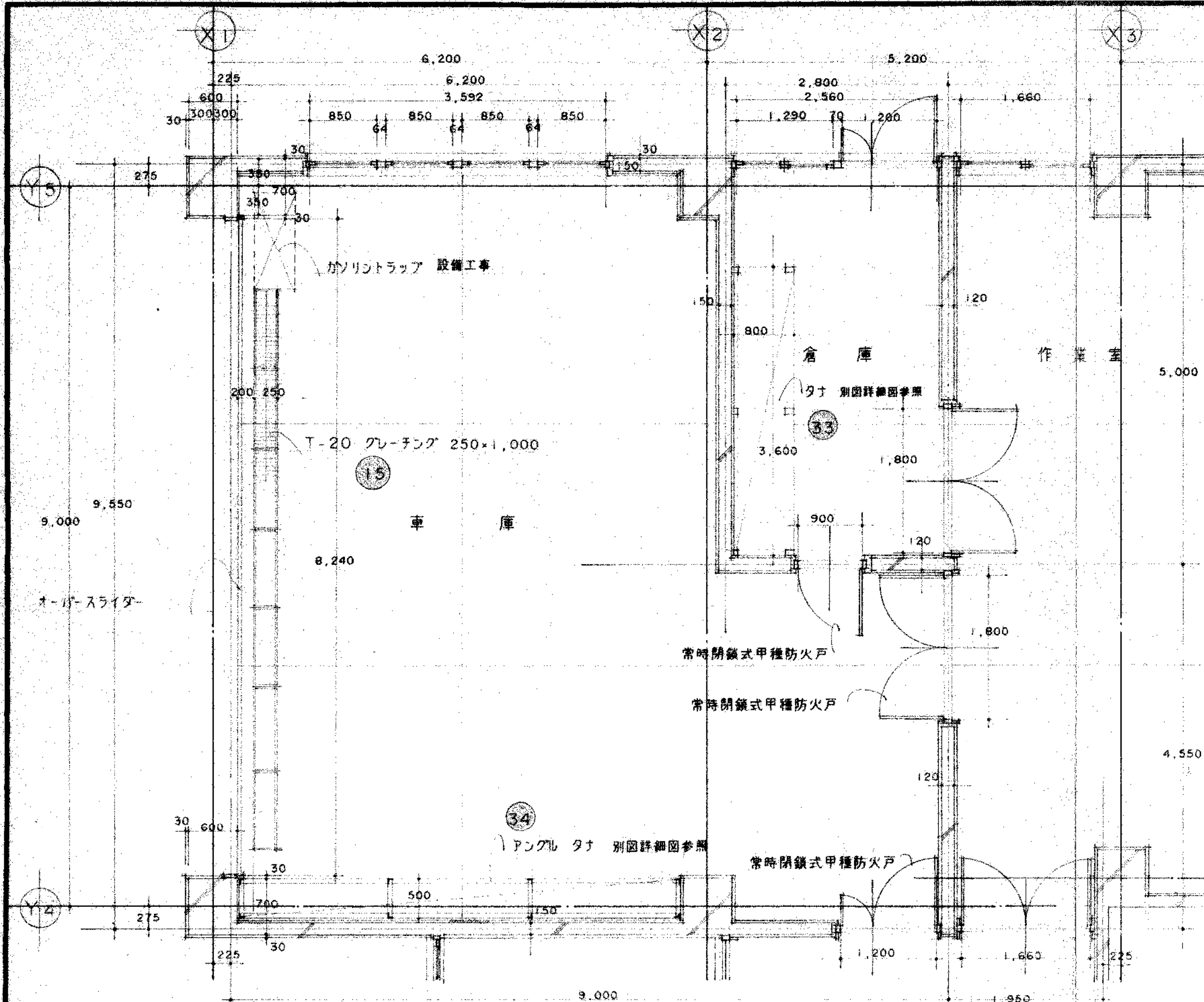


シャワー室 展開図	
床	25 ^{mm} 磁器モザイクタイル (一部 CF)
巾木	レジンテラゾー巾木 (H=100)
壁	アクリル系弾性タイル貼付
天井	石綿ケイカル板 VP/3
備考	



廊下 展開図	
床	長尺クッションフロア
巾木	ソフト巾木 (H=100)
壁	防エン2層以上ビニールクロス
天井	石綿ケイカル板 VP/3
備考	





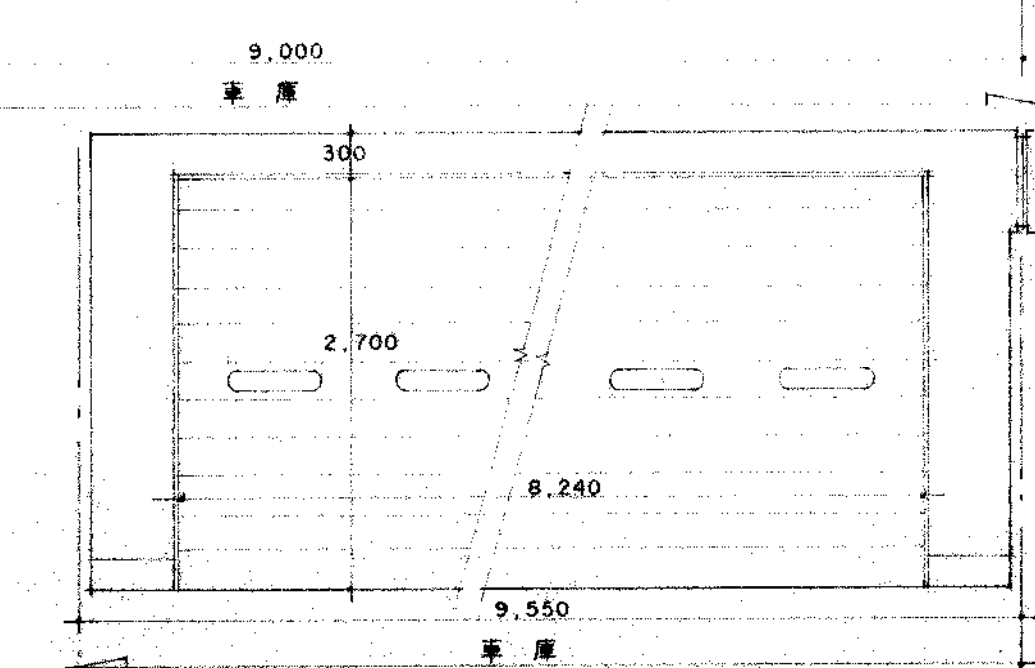
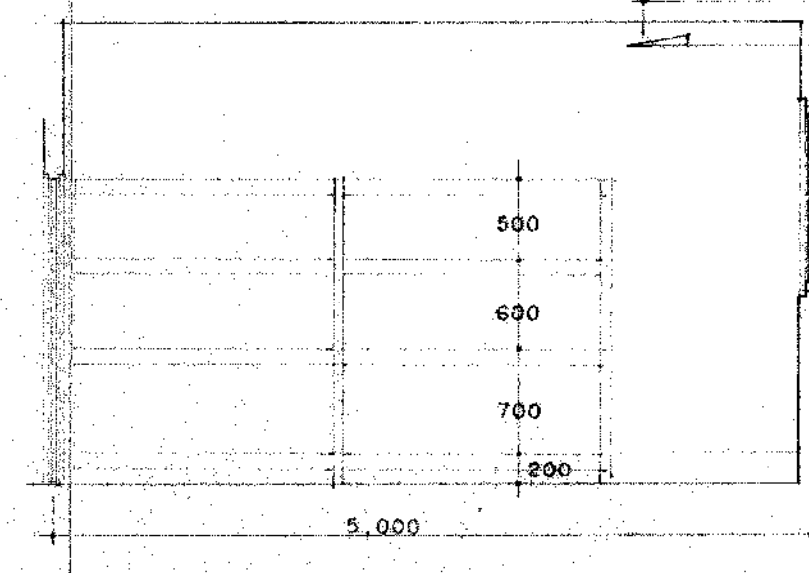
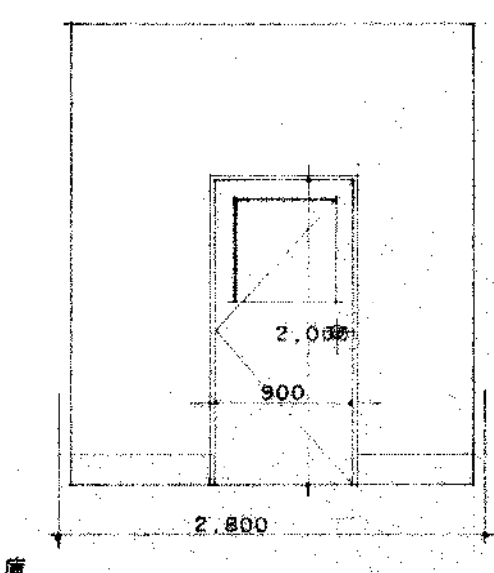
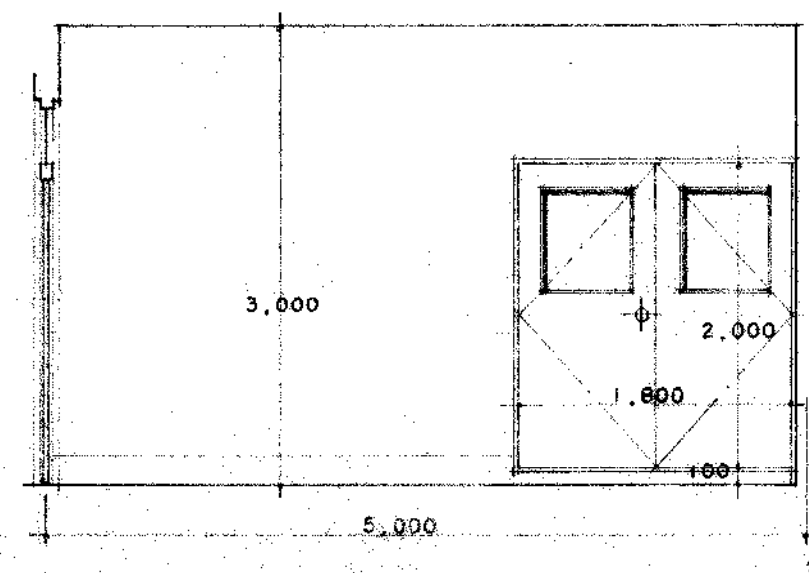
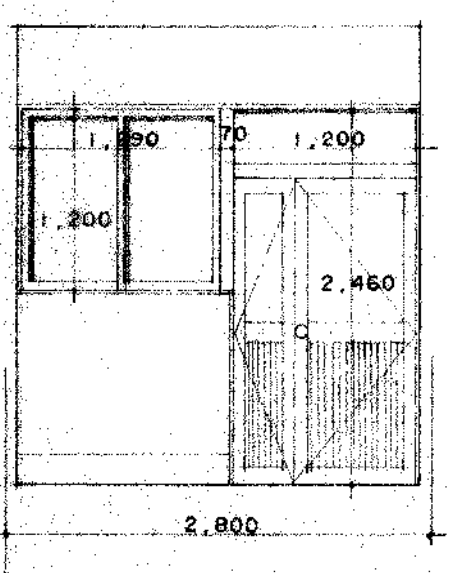
倉庫 展開図

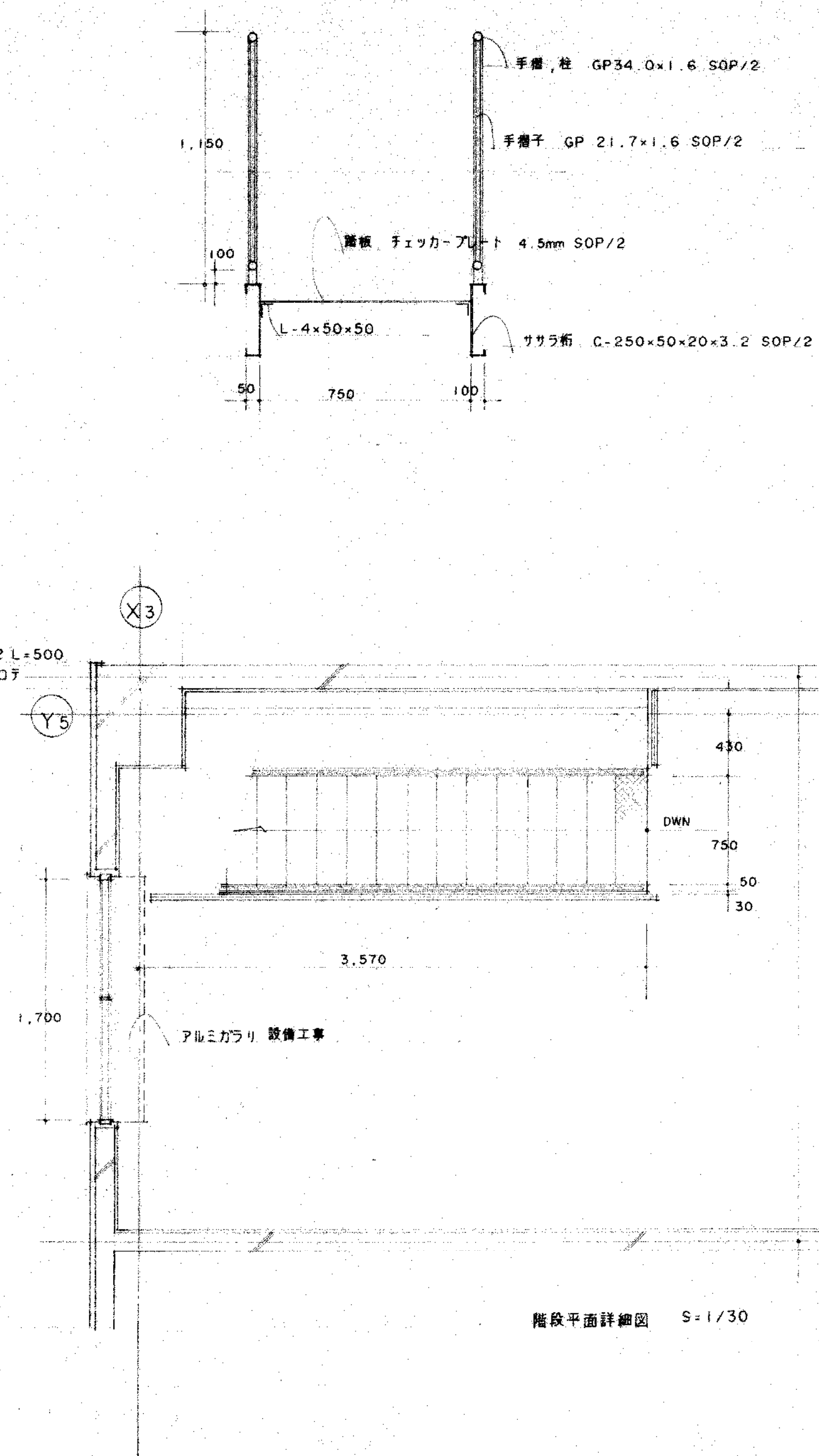
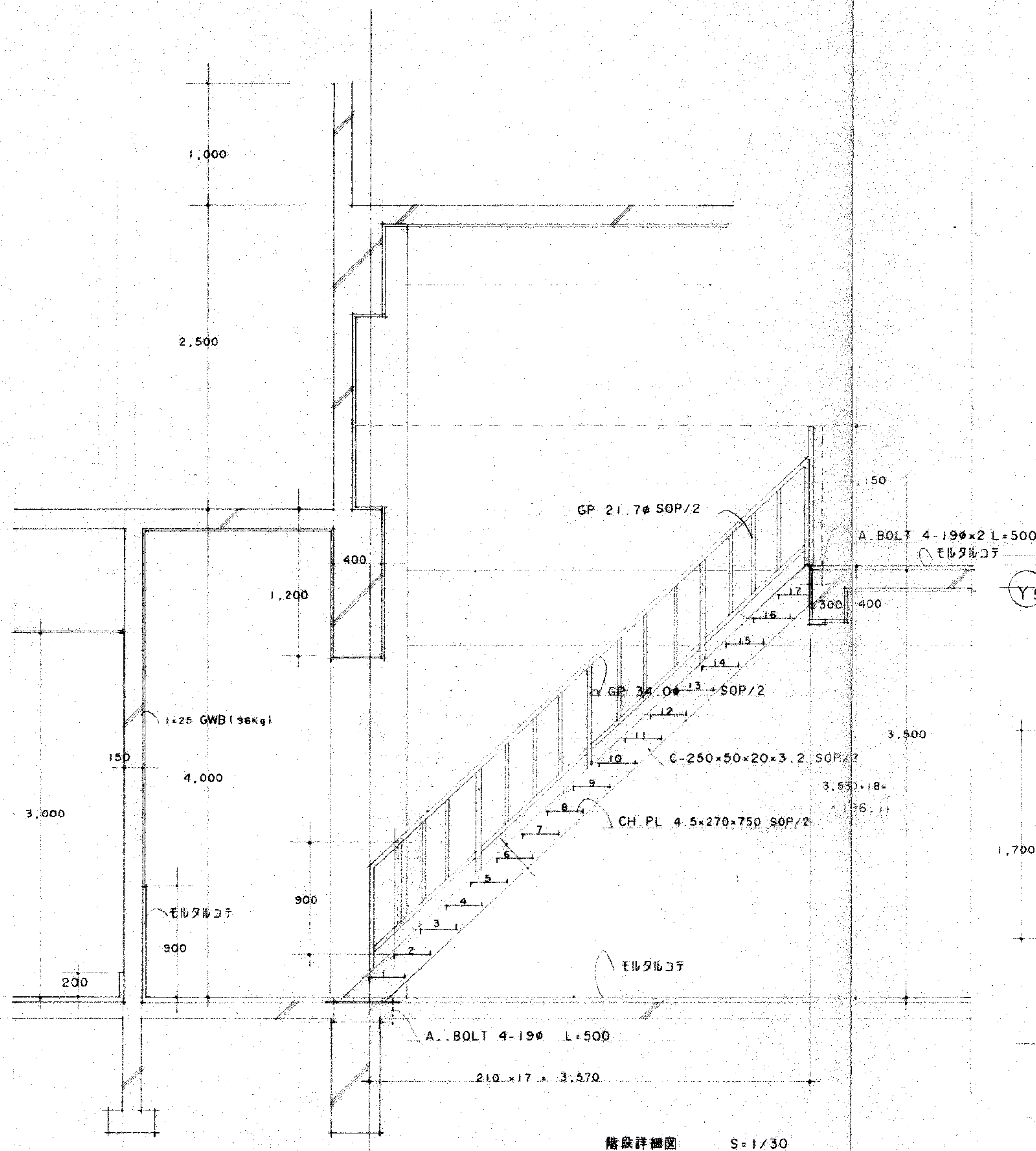
床	モルタル金ゴテ 目地切
巾木	モルタルゴテ (H=200)
壁	コンクリート打放し VP/3
天井	石膏ボード VP/3
備考	

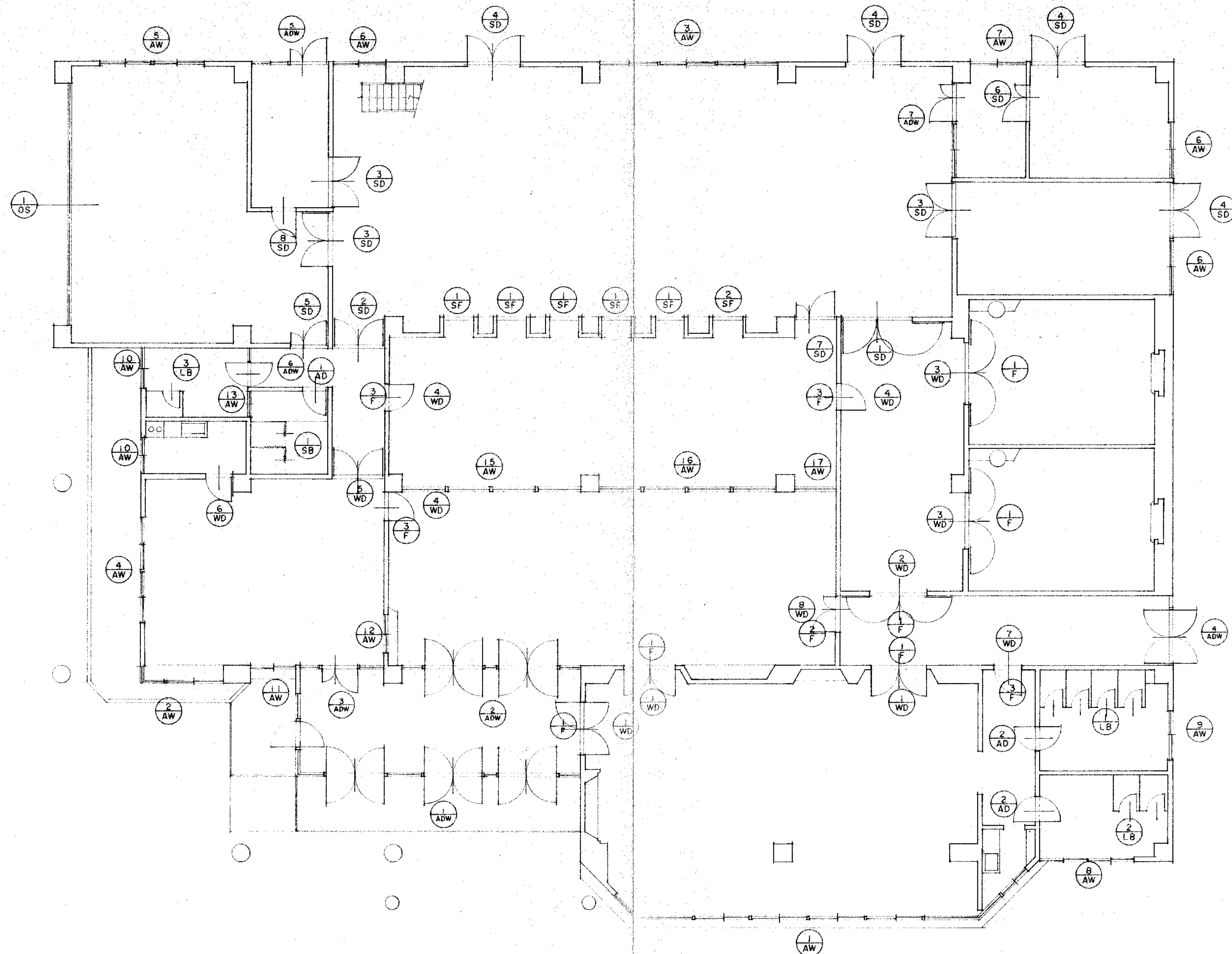
車庫、倉庫 平面詳細図 S=1/50

車庫 展開図

床	コンクリート金ゴテ 目地切
巾木	モルタルゴテ (H=200)
壁	コンクリート打放し VP/3
天井	石膏ボード VP/3
備考	







1階 KEY PLAN S=1/100

会津若松市斎場新築

工事設計図

No

製

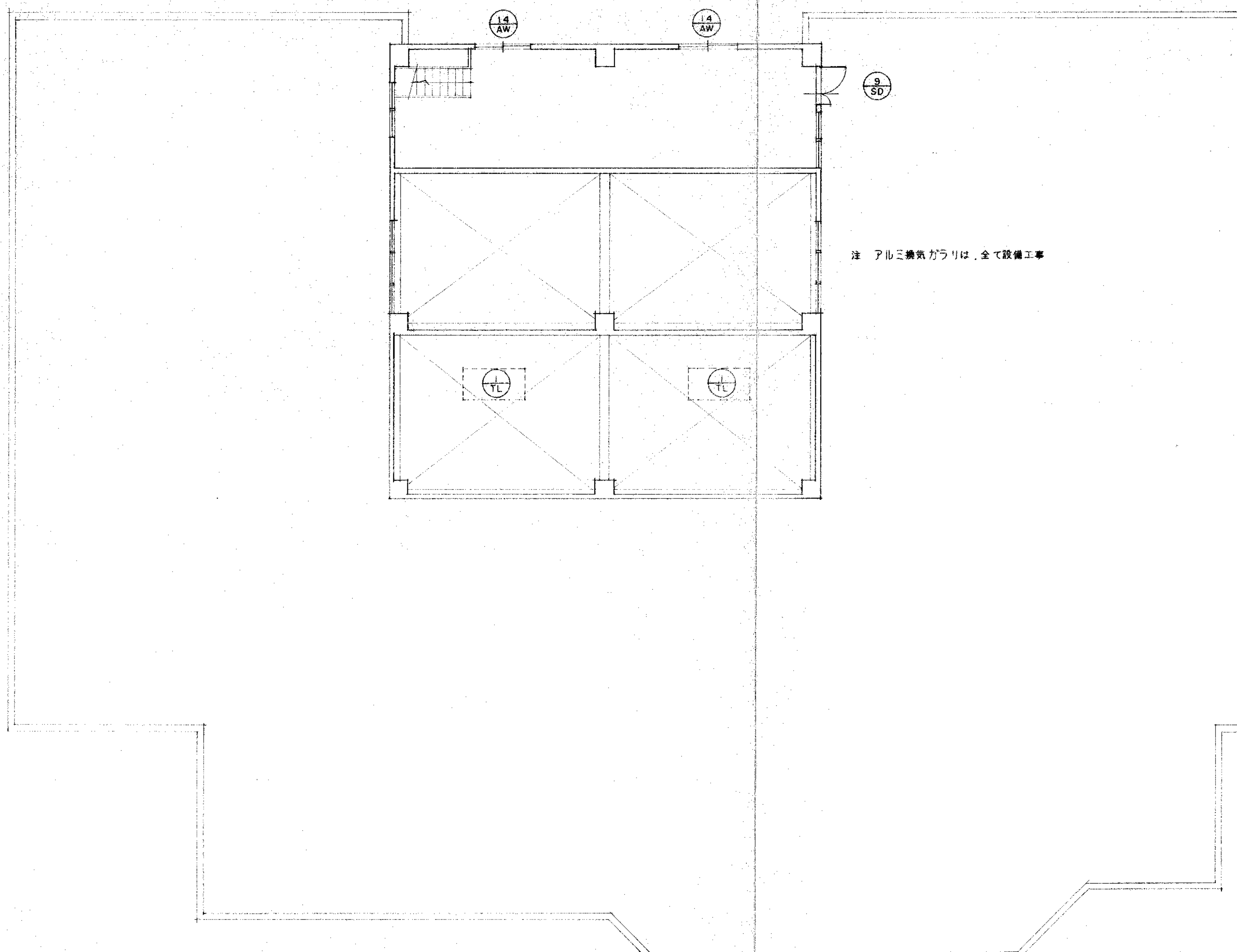
図

1階 KEY PLAN

S=1/100

A

50

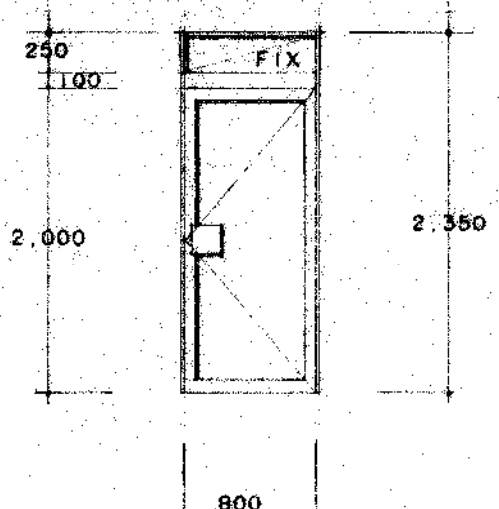
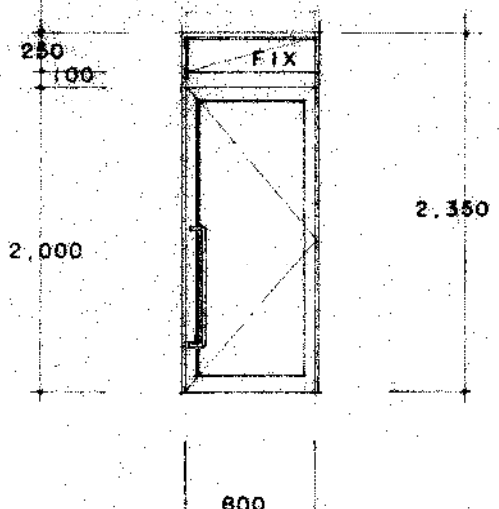
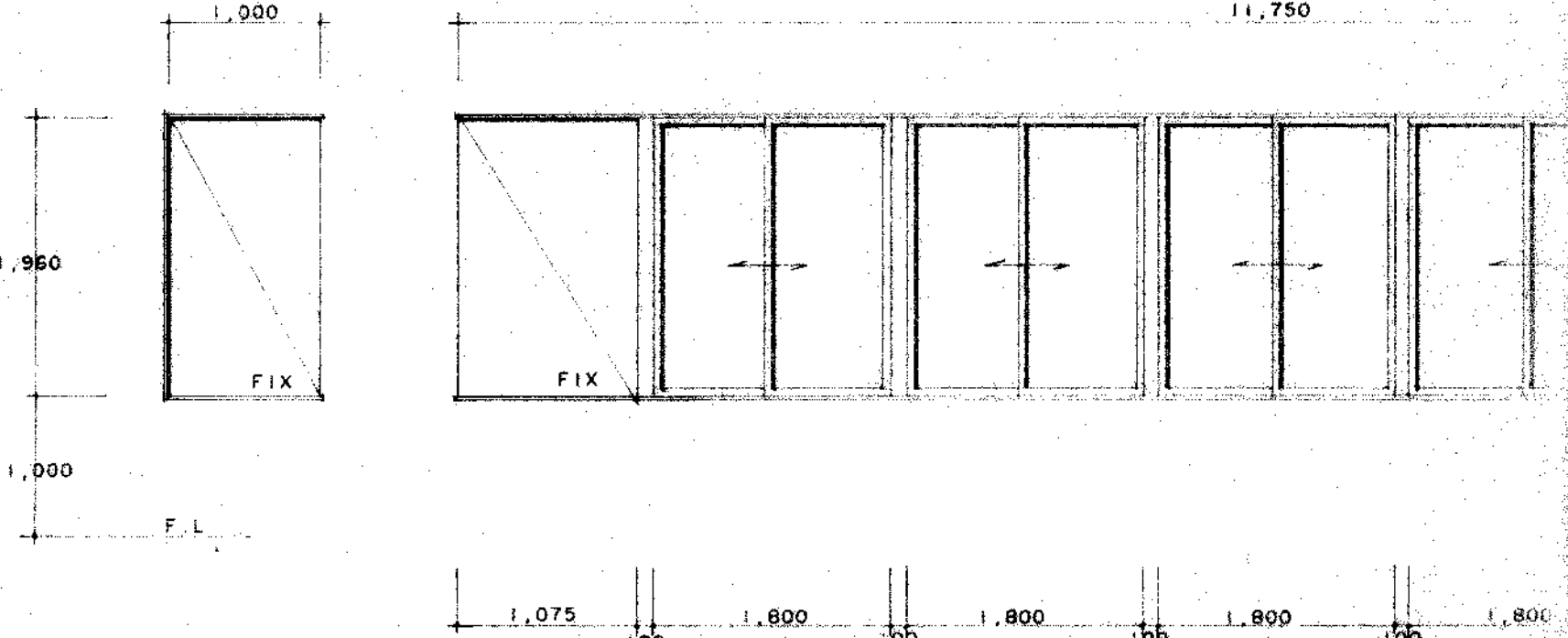
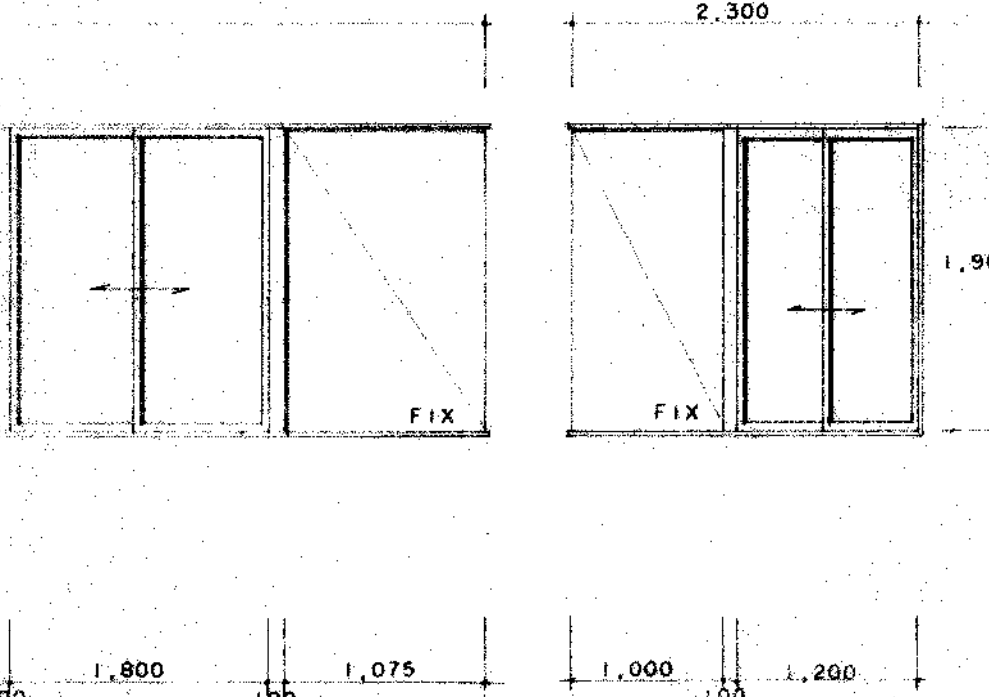


注 アルミ換気ガラリは、全て設備工事

2階 KEY PLAN S=1/100

				会津若松市斎場新築				工事設計図		No A-51
				製図		図面名称		2階 KEY PLAN		
								S=1/100		

記 号	① ADW			② ADW		
姿 図						
名 称	9 連 袖, ランマ付 両開きテンパーライトドア (コーナー 1 箇所)			5 連 袖, ランマ付 両開きテンパーライトドア		
仕 上	アルミ カラー (カラー タークアンバー) --- 共通			アルミ カラー		
見 込	100			100		
数 量	1			1		
ガ ラ ス	T=12 強化ガラス, T=5 フロート			T=12 強化ガラス, T=5 フロート		
金 物	フロアヒンジ, 押棒, シリンダー錠, ステンレス番指			フロアヒンジ, 押棒, シリンダー錠, ステンレス番指		
室 名	エントランスホール			エントランスホール ~ 告別ホール		
備 考						
記 号	③ ADW		④ ADW	⑤ ADW		⑥ ADW
姿 図						
名 称	3 連 袖, ランマ付 両開き テンパーライトドア		2 連 袖, ランマ付 両開きテンパーライトドア	2 連 ランマ付両開きドア 引違い窓		袖, ランマ付片開きドア
仕 上	アルミ カラー		アルミ カラー	アルミ カラー		アルミ カラー
見 込	100		100	100		100
数 量	1		1	1		1
ガ ラ ス	T=5 フロート, T=12 強化ガラス		T=12 強化ガラス, T=5 フロート	T=4 型, T=3 フロート		T=6 型, T=3 フロート
金 物	フロアヒンジ, 押棒, シリンダー錠, ステンレス番指		フロアヒンジ, 押棒, シリンダー錠, ステンレス番指	ドアチェック, シリンダー錠, ステンレス番指 引手, クレセント, 水切, アルミパネル		ドアチェック, ステンレス番指 引手, クレセント, アルミパネル
室 名	エントランスホール ~ 事務室		通路 ~ わたり廊下	倉庫		便所 ~ 廊下
備 考				可動網戸		作業員控室 ~ 作業室
			会津若松市斎場新築			工事設計図
			製 図 図 建 具 表 (1)			S-1/50
						No A-52

記 号	① AD	② AD		
姿 図				
名 称	ランマ付 片開きドア	ランマ付 片開きドア		
仕 上	アルミ カラー	アルミ カラー		
見 込	70	70		
数 量	1	2		
ガ ラ ス	T=6 型ガラス, T=3 フロート	T=6 型ガラス, T=3 フロート		
金 物	ドアチェック, 押板, ステンレス番指	フロアヒンジ, 押棒, ステンレス番指		
室 名	シャワー室 ~ 廊下	男女便所 ~ 前室		
備 考				
記 号	① AW		② AW	
姿 図				
名 称	7連 引違い窓 FIX窓 (コーナー 2箇所)		2連 2段引違い窓 FIX窓 (コーナー 1箇所)	
仕 上	アルミ カラー		アルミ カラー	
見 込	70		70	
数 量	1		1	
ガ ラ ス	T=5 フロート		T=5 フロート	
金 物	引手, クレセント, 水切		引手, クレセント, 水切	
室 名	待合ホール		事務室	
備 考	可動網戸		可動網戸	
会津若松市斎場新築 工事設計図 製図 図名 建具表 (2) S=1/50 No. A-53				

記 号	3 AW	4 AW	5 AW	6 AW
姿 図				
名 称	3連 排煙窓付 引違い窓	2連 2段引違い窓	4連 排煙窓	引違い窓
仕 上	アルミ カラー	アルミ カラー	アルミ カラー	アルミ カラー
見 込	70	70	70	70
数 量	1	1	1	3
ガ ラ ス	T=6.8 網入型	T=3 フロート	T=3 フロート	T=4 型 (作業室 T=6.8網入型)
金 物	手動オペレーター, 引手, クレセント, 水切	引手, クレセント, 水切	手動オペレーター, 水切	引手, クレセント, 水切
室 名	作業室	事務室	車庫	作業室, 倉庫, 機械室
備 考	可動網戸	可動網戸		可動網戸

記 号	7 AW	8 AW	9 AW	10 AW	11 AW
姿 図					
名 称	引違い窓	2連 引違い窓	引違い窓	引違い窓	引違い窓
仕 上	アルミ カラー	アルミ カラー	アルミ カラー	アルミ カラー	アルミ カラー
見 込	70	70	70	70	70
数 量	1	1	1	2	1
ガ ラ ス	T=4 型	T=4 型	T=4 型	T=4 型	T=3 フロート
金 物	引手, クレセント, 水切	引手, クレセント, 水切	引手, クレセント, 水切	引手, クレセント, 水切	引手, クレセント, ステンレスレール
室 名	作業員控室	男子便所	女子便所	湯沸室, 便所	事務室 (外カウンター)
備 考	可動網戸	可動網戸	可動網戸	可動網戸	可動網戸

会津若松市斎場新築

工事設計図

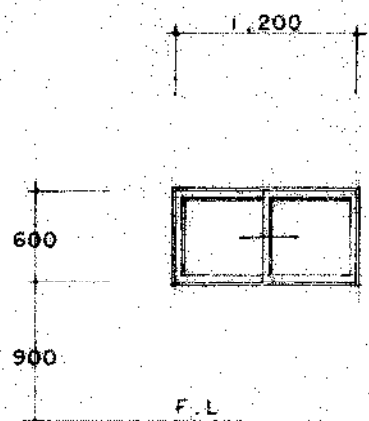
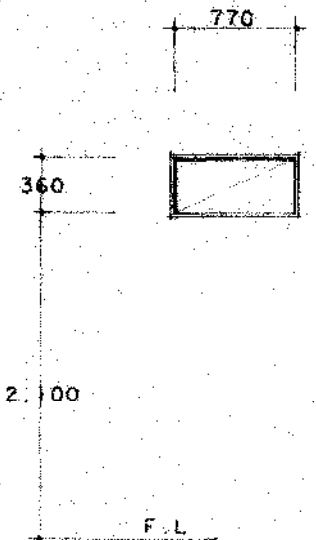
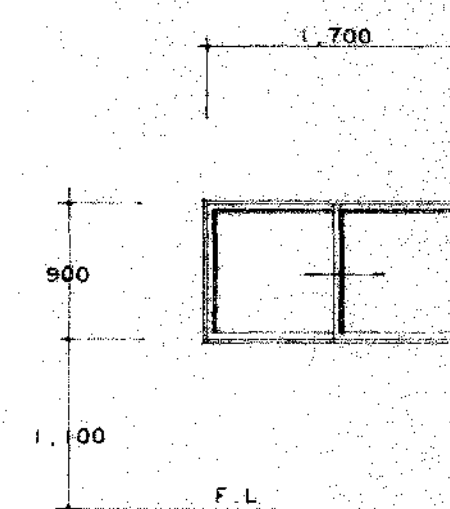
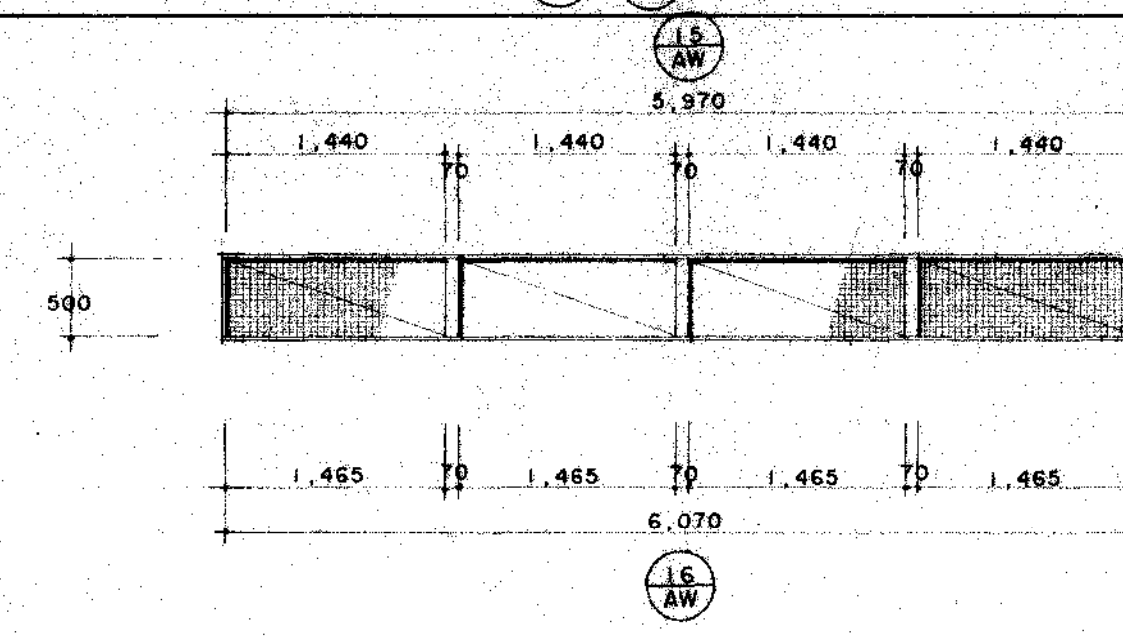
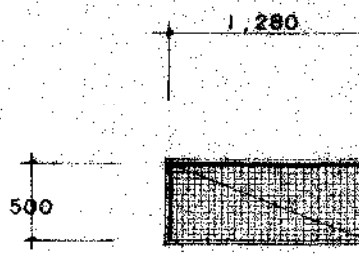
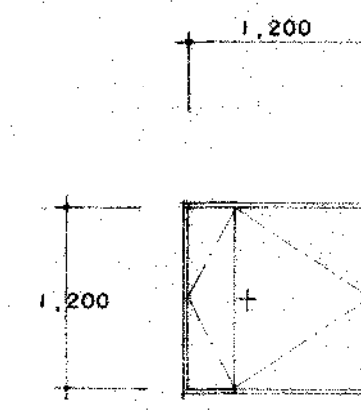
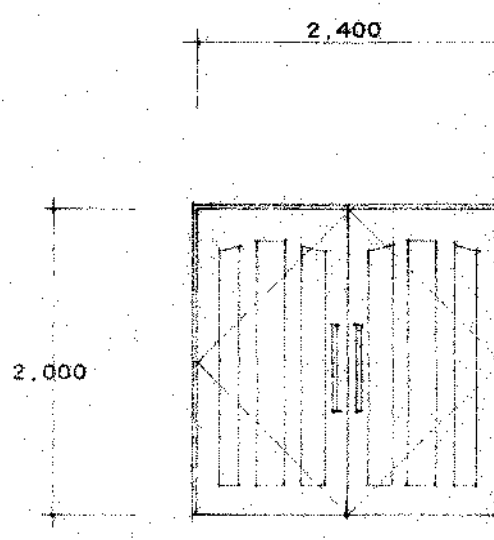
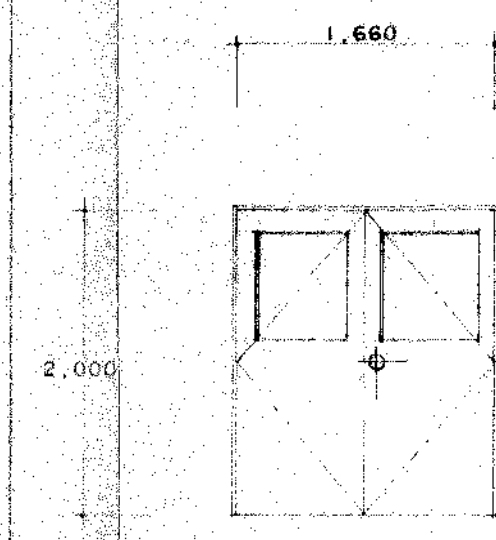
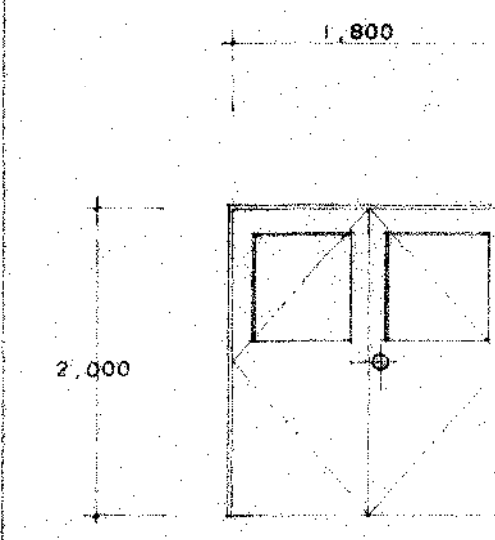
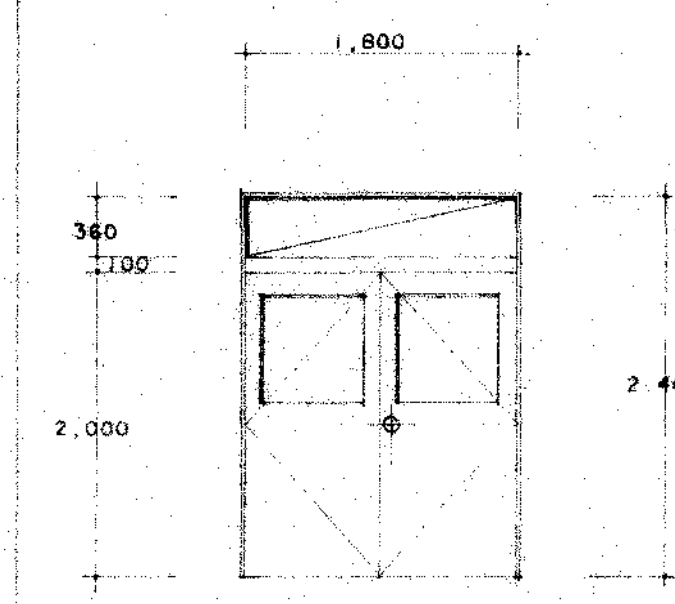
No. A-54

製図

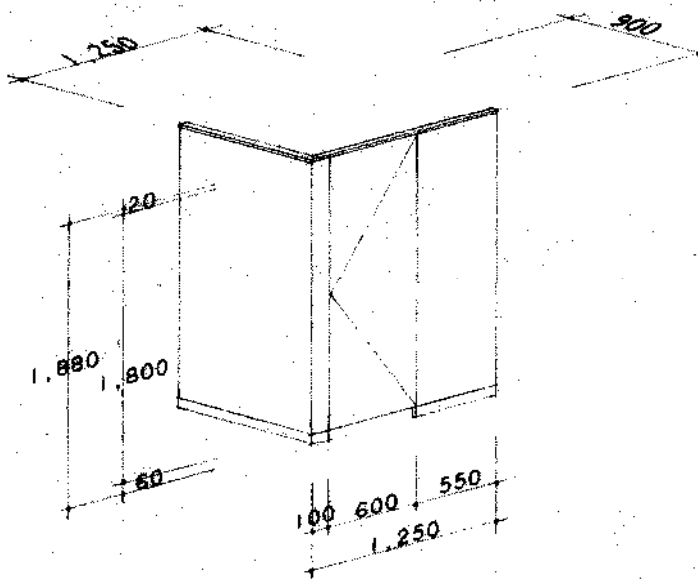
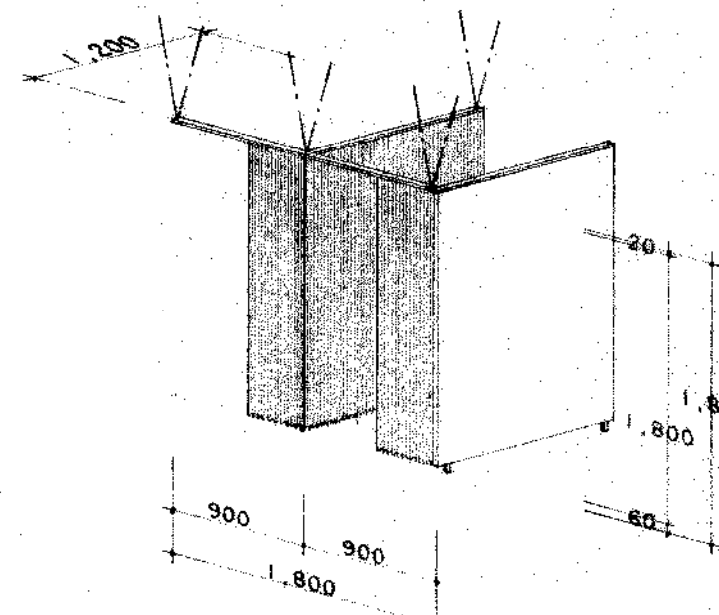
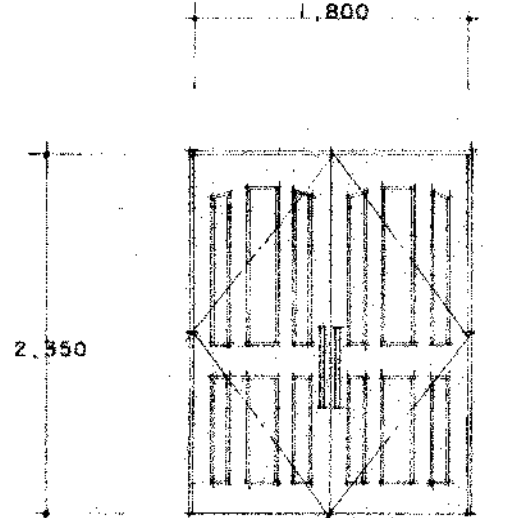
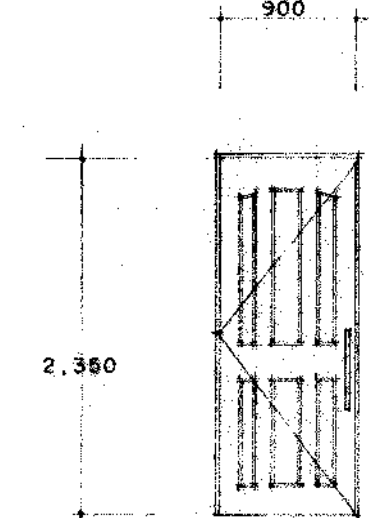
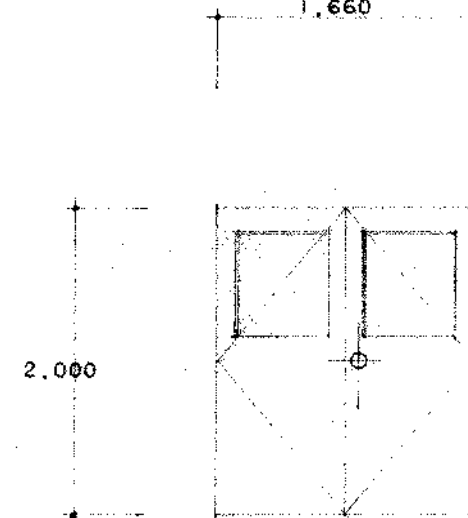
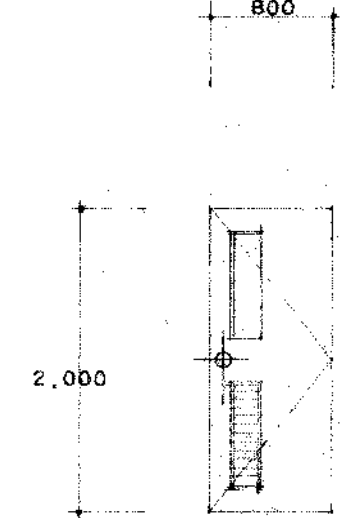
図面表

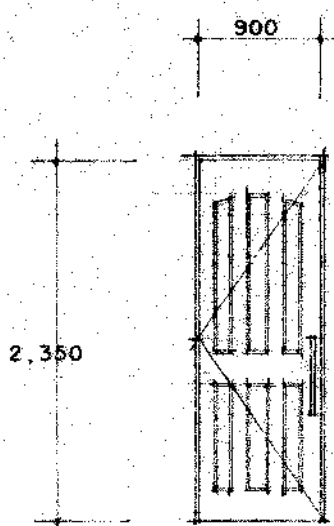
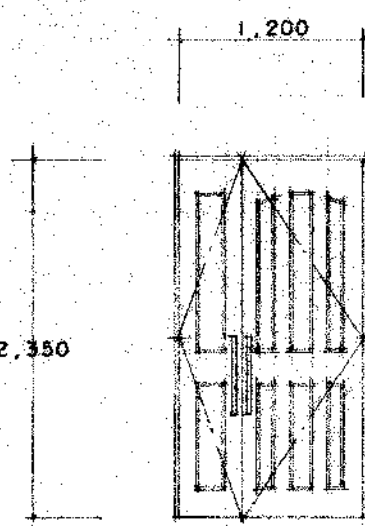
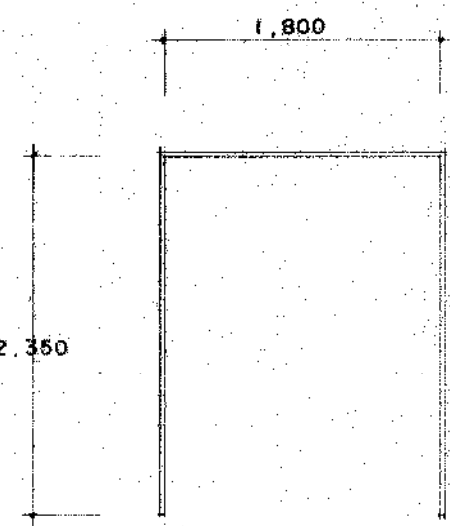
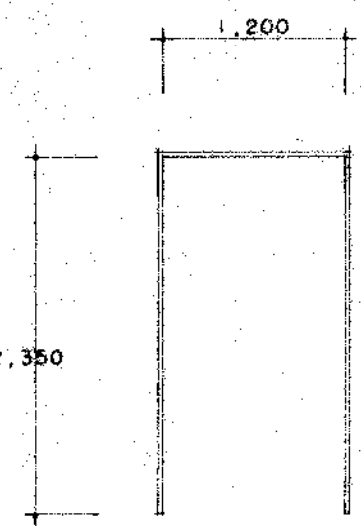
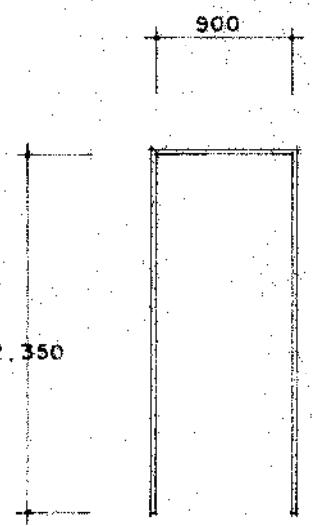
建具表 (3)

S-1/50

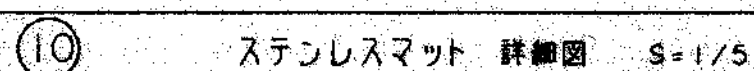
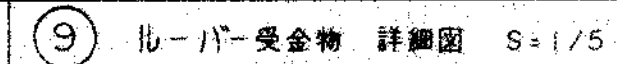
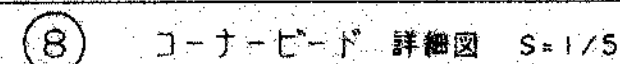
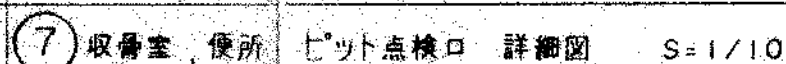
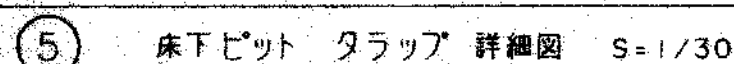
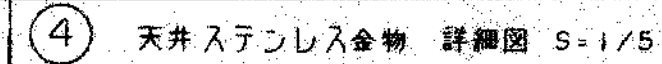
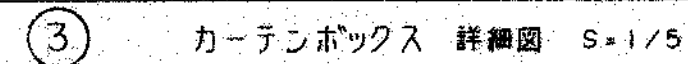
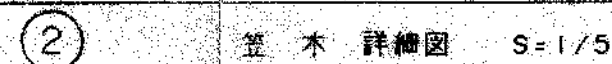
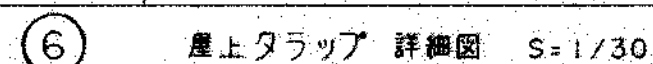
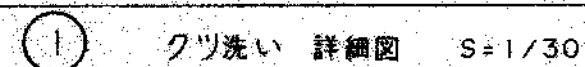
記 号	12 AW	13 AW	14 AW	15 AW 16 AW	17 AW
姿 図					
名 称	引違い窓	FIX 窓	引違い窓	4 連FIX窓	FIX 窓
仕 上	アルミ カラー	アルミ カラー	アルミ カラー	アルミ カラー	アルミ カラー
見 込	70	70	70	70	70
数 量	1	1	4	AW-15 1 , AW-16 1	1
ガ ラ ス	T=3 フロート	T=3 フロート	T=4 型	T=6.8 網入透明	T=6.8 網入透明
金 物	引手, クレセント, ステンレスレール		引手, クレセント, 水栓	アルミルーバー	アルミルーバー
室 名	事務室 ~ 告別ホール (カウンター)	シャワー室 ~ 便所	2 階機械室	炉前ホール ~ 告別ホール	炉前ホール ~ 告別ホール
備 考			可動網戸		
記 号	9 SD	1 SD	2 SD	3 SD	4 SD
姿 図					
名 称	両開きスチールドア	両開きスチールドア	両開きスチールドア	両開きスチールドア	ランマ付 両開きスチールドア
仕 上	フタル酸塗装	焼付塗装	フタル酸塗装	フタル酸塗装	フタル酸塗装
見 込	40 (枠 100)	40 (枠 100)	40 (枠 100)	40 (枠 100)	40 (枠 100)
数 量	1	1		3	4
ガ ラ ス			T=6.8 網入型	T=4 型 (作業室 T=6.8 網入型)	T=4 型 (作業室 T=6.8 網入型)
金 物	ドアチェック, フランス落し, シリンダー錠	フロアボンジ, フランス落し, ステンレス番付, 押棒, シリンダー錠	ドアチェック, フランス落し, シリンダー錠, ステンレス番付	ドアチェック, シリンダー錠, ステンレス番付, フランス落し	ドアチェック, シリンダー錠, ステンレス番付, フランス落し
室 名	機械室	収容室前室 ~ 作業室	廊下 ~ 作業室	作業室 ~ 車庫, 倉庫	作業室, 機械室, 倉庫
備 考				常時開鎖式甲種防火戸 1	
会津若松市斎場新築					工事設計図
製 図 建 具 表 (4)					S=1/50
No. A-55					

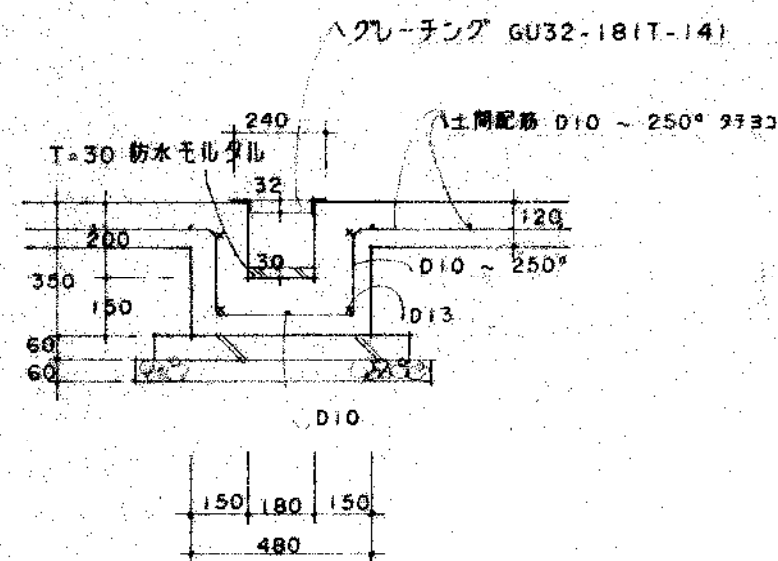
記 号	5 SD	6 SD	7 SD	8 SD	1 SF	2 SF	1 TL
姿 図							
名 称	両開きスチールドア	両開きスチールドア	両開きスチールドア	片開きスチールドア	ステンレス開口枠	ステンレス開口枠	トップライト (煙感知器連動型)
仕 上	フタル酸塗装	フタル酸塗装		フタル酸塗装			
見 込	40 (枠 100)	40 (枠 100)	40 (枠 100)	40 (枠 100)	200	200	
数 量	1	1	1	1	5	1	2
ガ ラ ス	T=4 型	T=4 型		T=4 型			ポリカーボネート板層ドーム
金 物	ドアチェック, シリンダー錠 フランス落し, ステンレス番指	ドアチェック, シリンダー錠 フランス落し, ステンレス番指	フロアヒンジ, シリンダー錠 フランス落し, ステンレス番指	ドアチェック, シリンダー錠 ステンレス番指			電動開閉装置, アルミルーバー, その他
室 名	車庫 ~ 廊下	作業員控室 ~ 機械室	炉前ホール ~ 作業室	車庫 ~ 倉庫	作業室 (炉) ~ 炉前ホール	作業室 (炉) ~ 炉前ホール	炉前ホール (吹抜)
備 考	常時閉鎖式甲種防火戸			常時閉鎖式甲種防火戸			
記 号	1 OS			1 LB		2 LB	
姿 図							
名 称	オーバーライダー			ラボトリーブース		ラボトリーブース	
仕 上				ポリエステル化粧合板フラッシュ		ポリエステル化粧合板フラッシュ	
見 込				40		40	
数 量	1			1		1	
ガ ラ ス	T=3 アクリル明窓						
金 物	メーカー標準金物一式			ラボトリーヒンジ, 戸当, ストライク, 笠木		ラボトリーヒンジ, 戸当, ストライク, 笠木	
室 名	車庫			女子便所		男子便所	
備 考							
会津若松市新築工事設計図 製 図 図 建 具 表 (5) S-1/50 No. A-56							

記 号	③ LB	① SB				
姿 図						
名 称	ラバトリーアース	シャワーアース				
仕 上	ポリエステル化粧合板フラッシュ	ポリエステル化粧合板フラッシュ				
見 込	40	40				
数 量	1	1				
ガ ラ ス						
金 物	ラバトリーヒンジ, 戸当, ストライク, 笠木	足金具, 笠木, カーテンレール, 吊り金具				
室 名	便所	シャワー室				
備 考		ビニールカーテン				
記 号	① WD	② WD	③ WD	④ WD	⑤ WD	⑥ WD
姿 図						
名 称	両開き彫刻ドア (スチール枠 別途)	両開き 彫刻ドア (スチール枠 別途)	両開き 彫刻ドア (スチール枠 別途)	片開き 彫刻ドア (スチール枠 別途)	両開きフラッシュドア	片開きフラッシュドア
仕 上					両面 ポリエステル化粧合板	両面 ポリエステル化粧合板
見 込	50	50	50	50	40	40
数 量	3	1	2	3	1	1
ガ ラ ス					T=4 型	T=4 型
金 物	押棒	押棒	押棒	押棒	丁番, フラン入差し, 鍵玉	丁番, 鍵玉
室 名	待合ホール ~ エントランスホール, 告別ホール, 通路	通路 ~ 収骨室前室	収骨室 ~ 収骨室前室	告別ホール, 収骨ホール	事務室 ~ 廊下	事務室 ~ 湯浴室
備 考						
会津若松市斎場新築 製図 図 建具表 (6) 工事設計図 S-1/50 No. A-57						

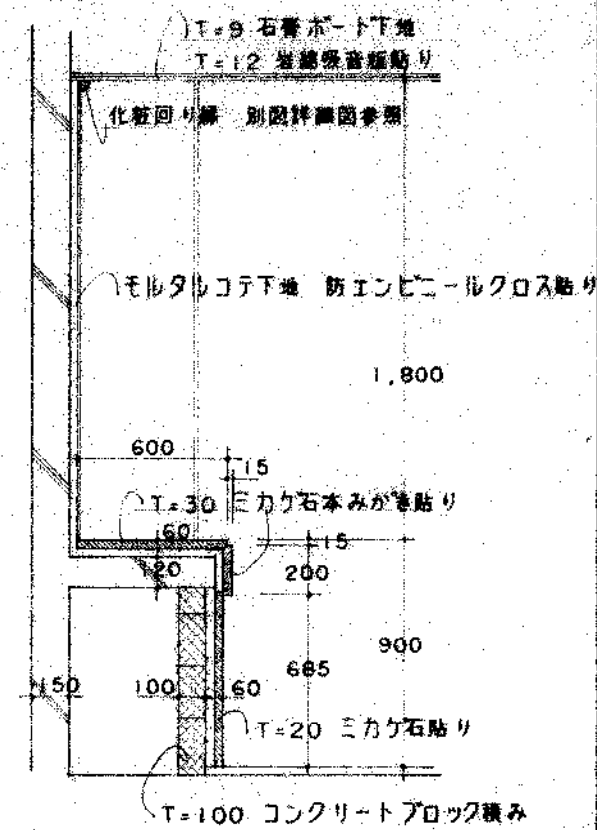
記 号	7 WD	8 WD	1 F	2 F	3 F	
姿 図						
名 称	片開き彫刻ドア（スチール枠 別途）	両開き彫刻ドア（スチール枠 別途）	スチール開口枠（彫刻ドア用）	スチール開口枠（彫刻ドア用）	スチール開口枠（彫刻ドア用）	
仕 上			SOP/2	SOP/2	SOP/2	
見 込	50	50	100	100	100	
数 量	1	1	6	1	4	
ガ ラ ス						
金 物	押棒	押棒	フロアヒンジ、ステンレス番錠	フロアヒンジ、ステンレス番錠	フロアヒンジ、ステンレス番錠	
室 名	便所前室 ～ 通路	告別ホール ～ 通路	待合ホール、告別ホール、収骨室、前室	告別ホール ～ 通路	通路、炉前ホール、告別ホール	
備 考						
記 号						
姿 図						
名 称						
仕 上						
見 込						
数 量						
ガ ラ ス						
金 物						
室 名						
備 考						

会津若松市斎場新築			工事設計図		No
製 図			建 具 表 (7)		A-58
図 面 名 称			S=1/50		

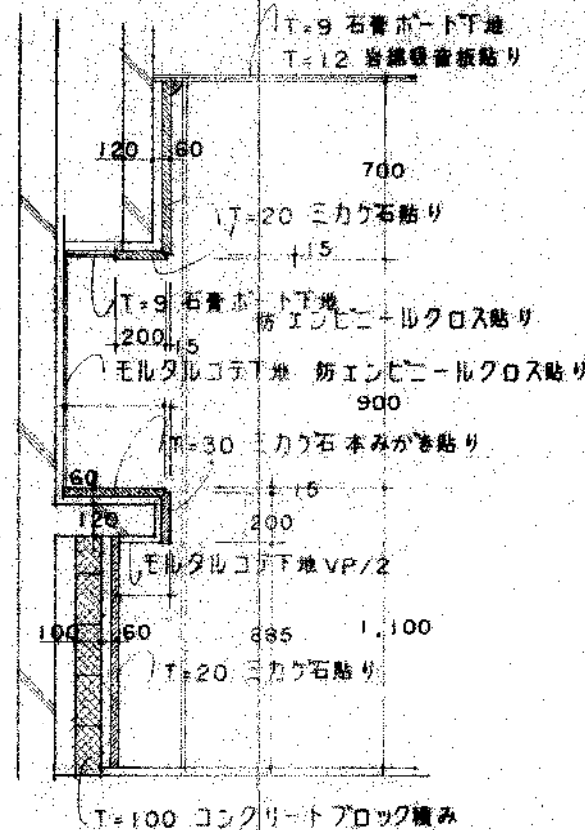




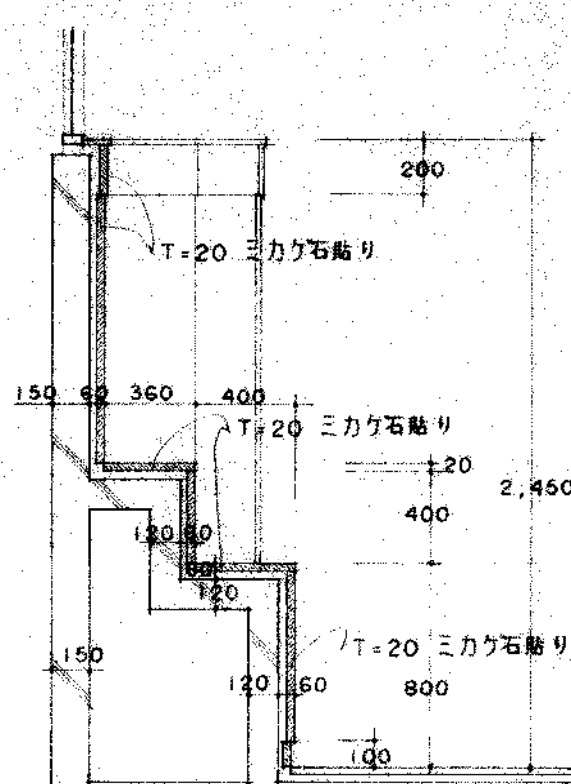
15 車庫ガソリントラップ割溝 詳細図 S=1/20



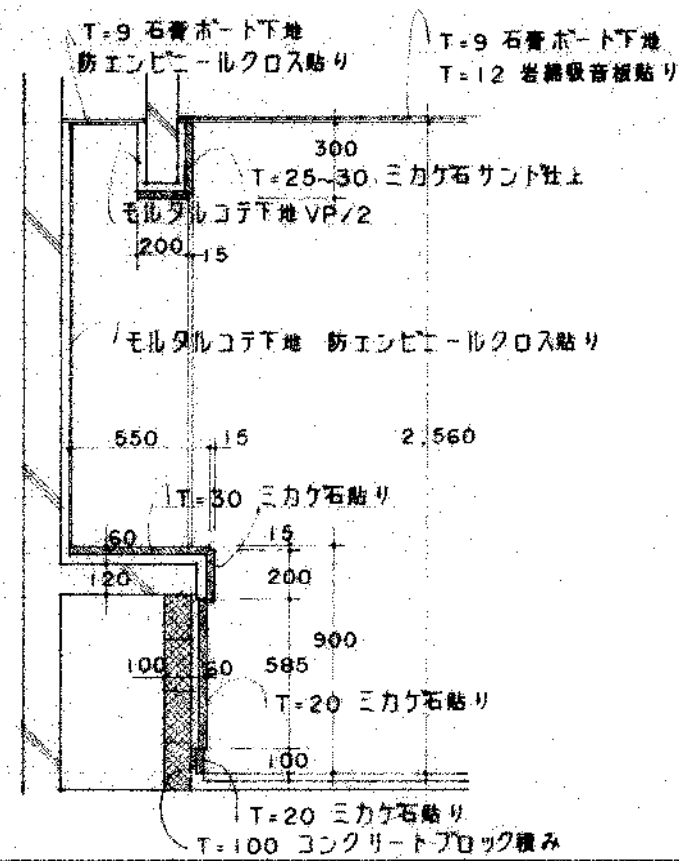
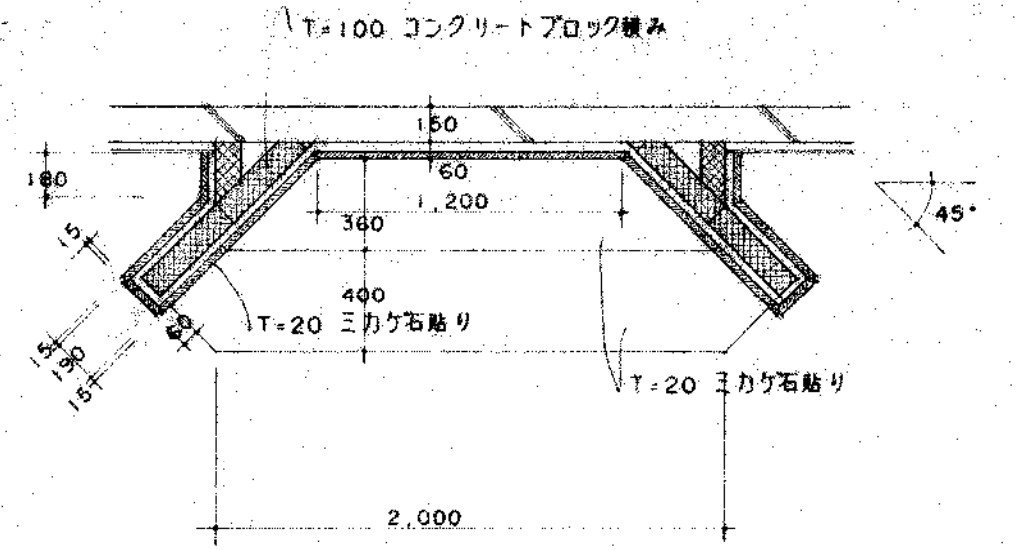
16 待合ホールカウンター 詳細図 S=1/30



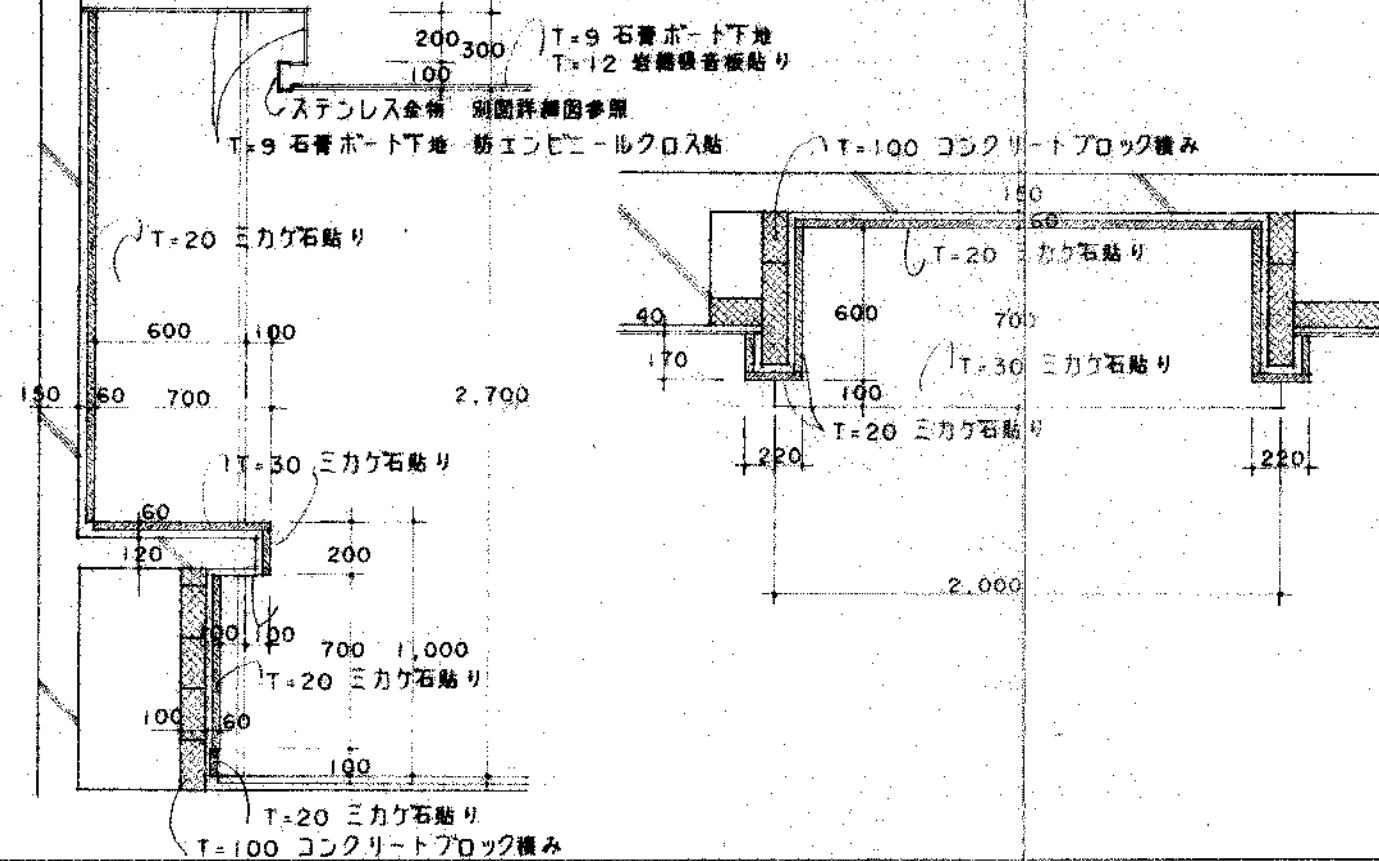
17 待合ホールTELカウンター詳細図 S=1/30



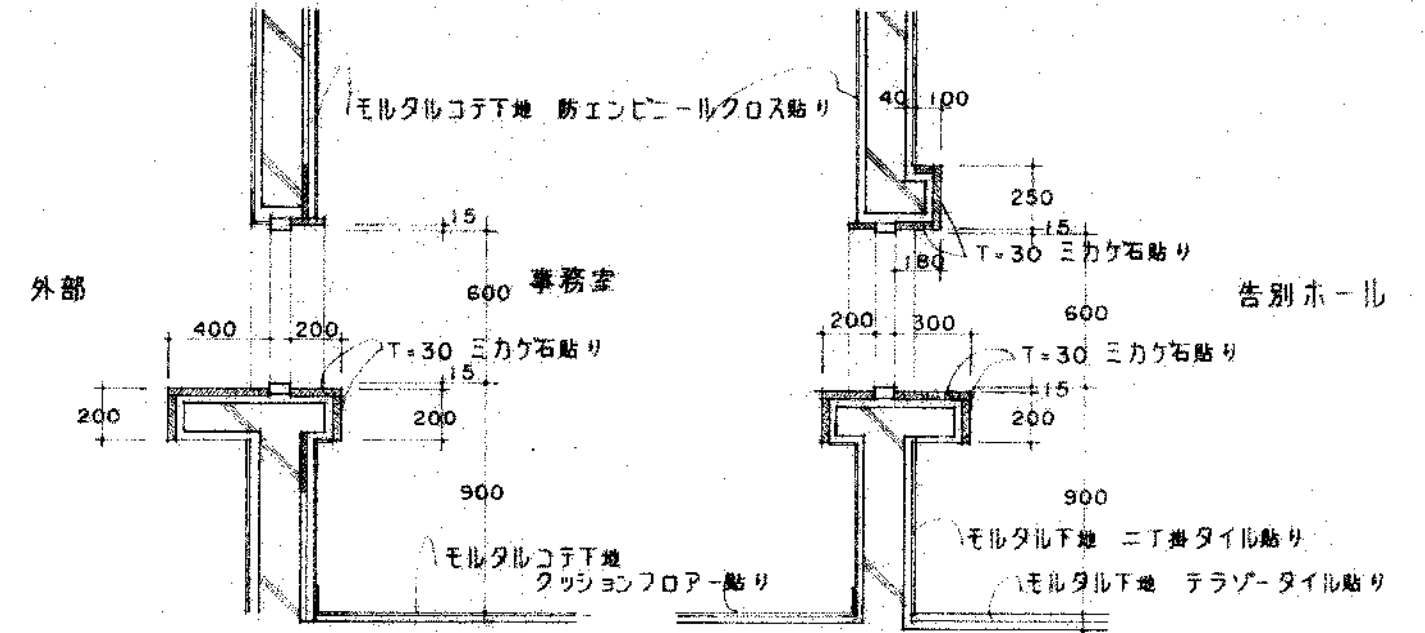
18 告別ホール祭壇 詳細図 S=1/30



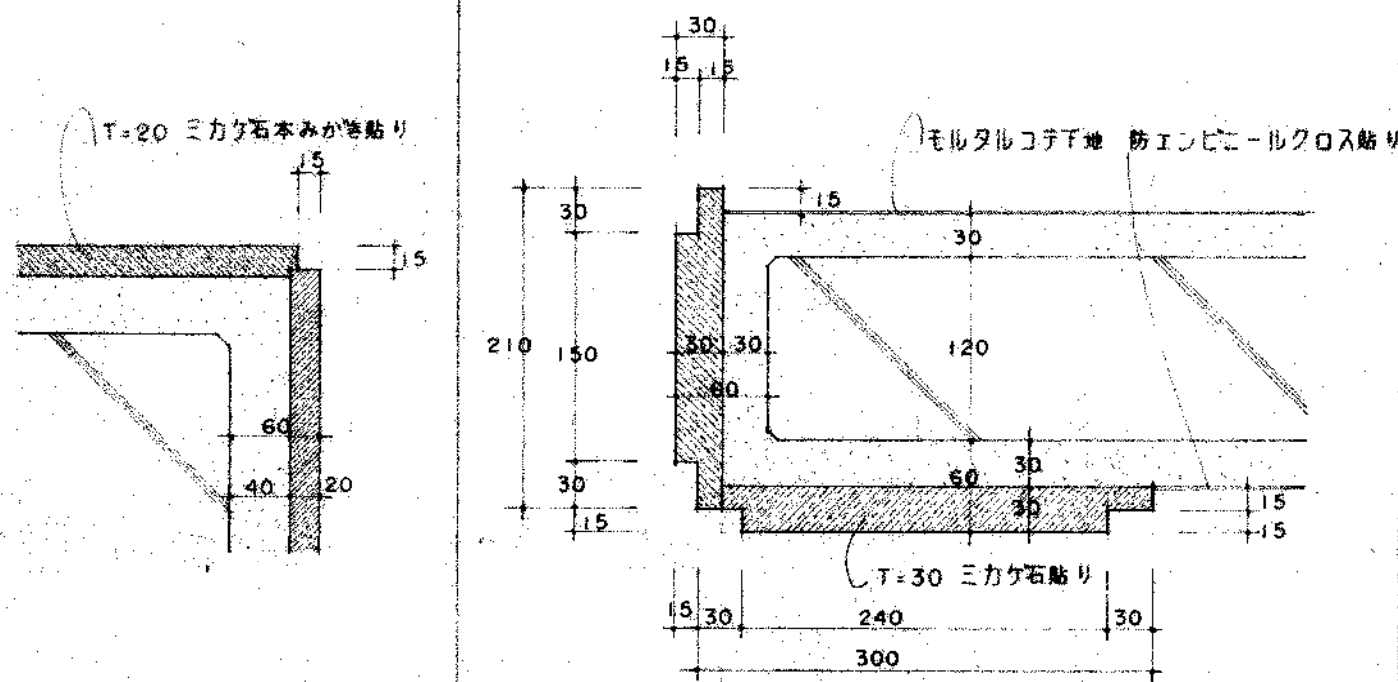
19 告別ホールカウンター 詳細図 S=1/30



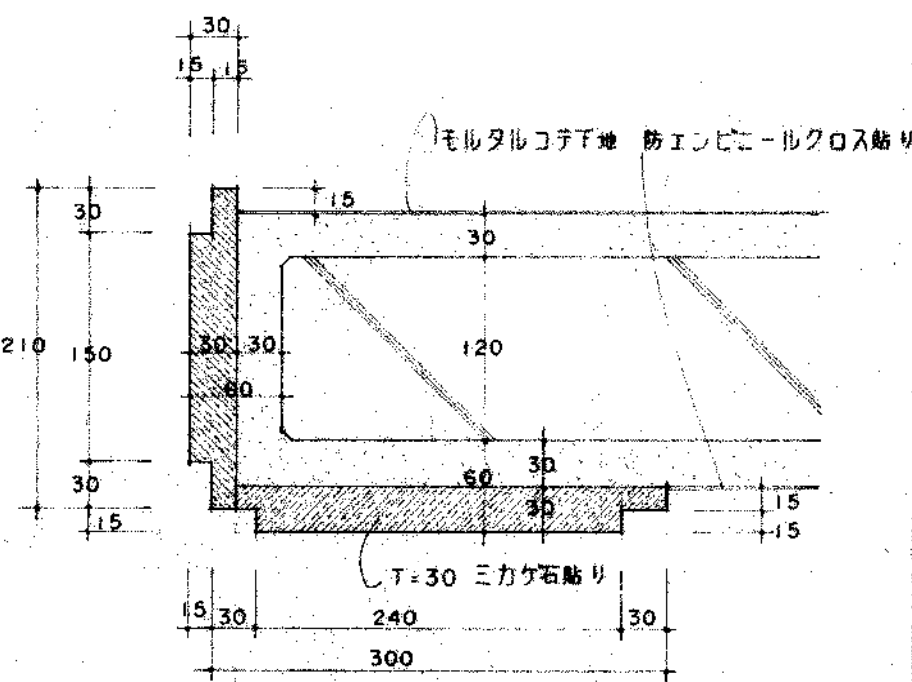
20 収骨室祭壇 詳細図 S=1/30



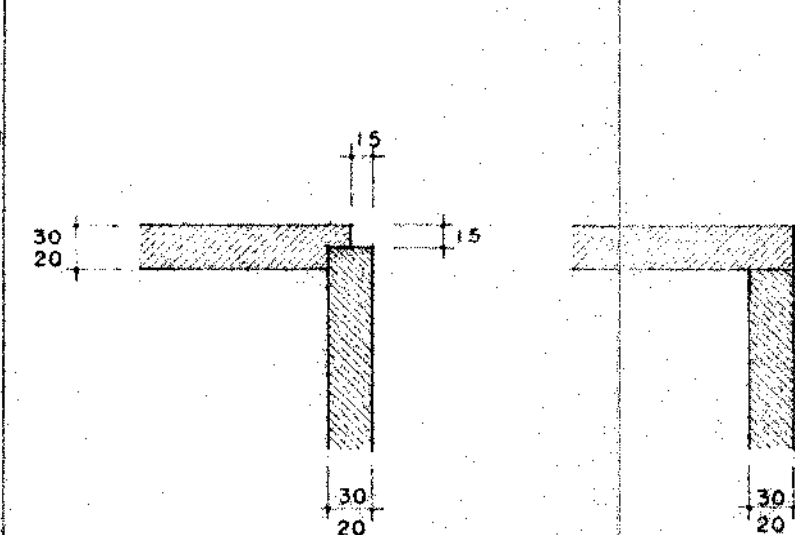
21 事務室カウンター 詳細図 S=1/30



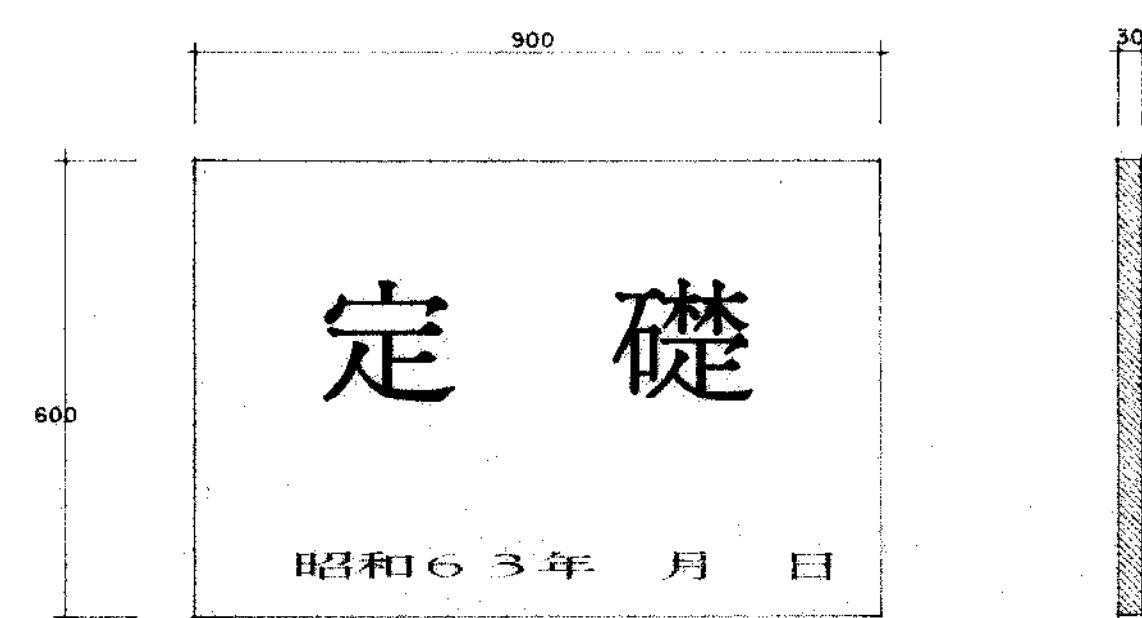
22 待合ホール 壁面柱型ミカゲ石貼 詳細図 S=1/5



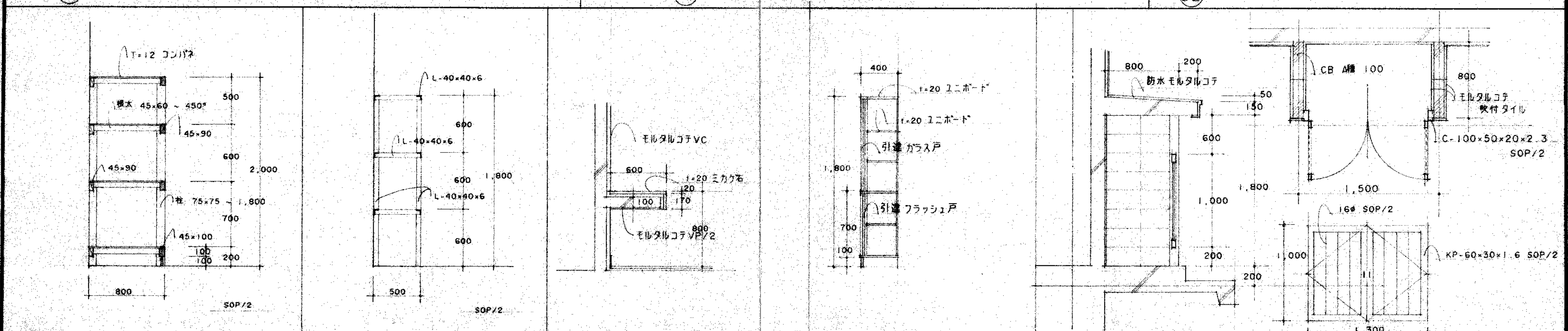
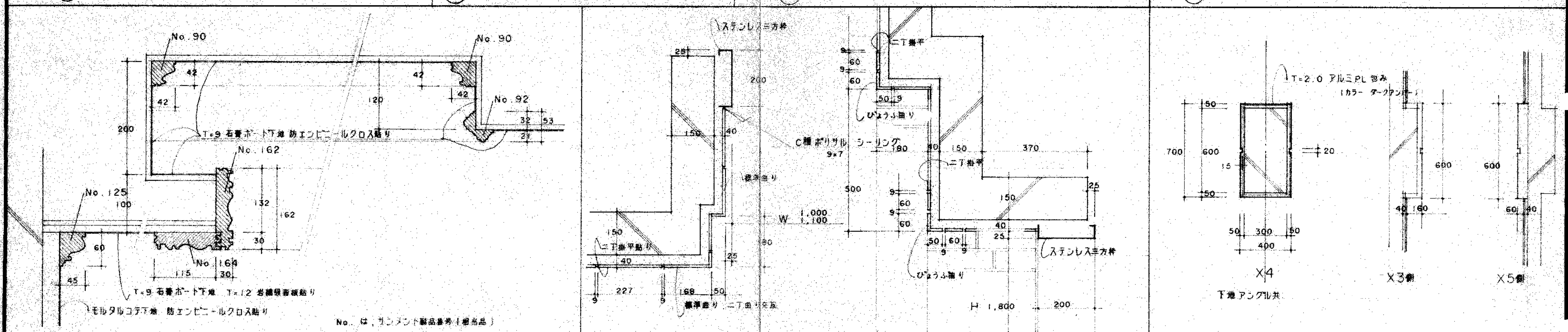
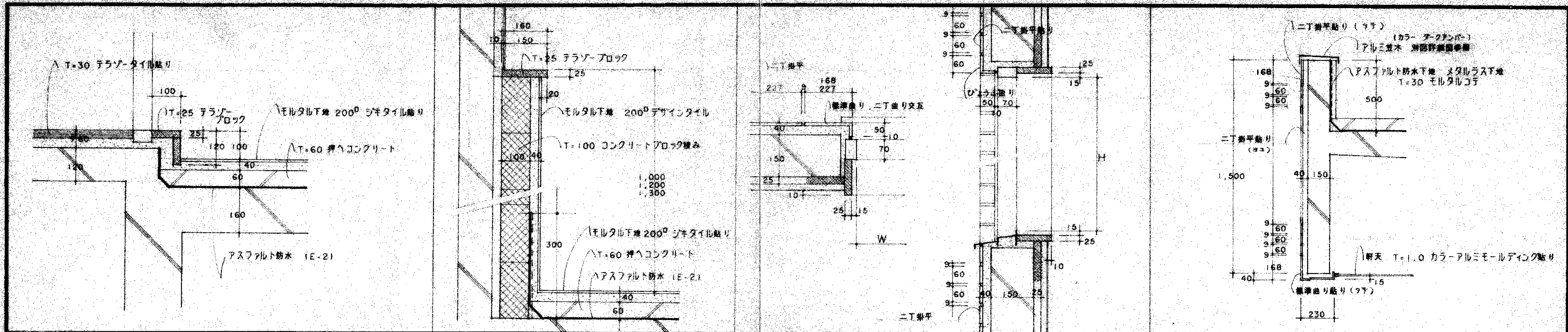
23 便所前室三方枠 詳細図 S=1/5



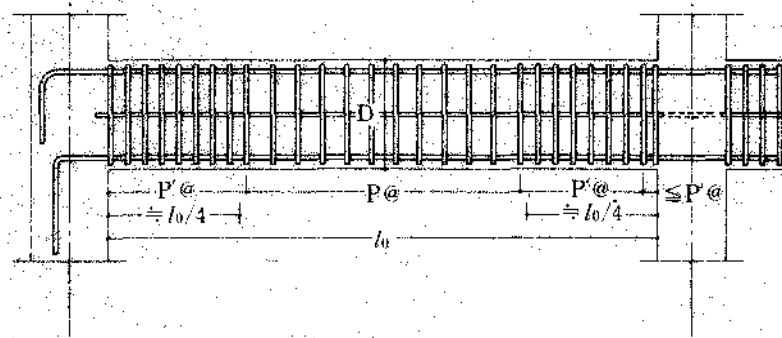
24 ミカゲ石貼 コーナー部 詳細図 S=1/5



25 定礎 ミカゲ石 詳細図 S=1/10

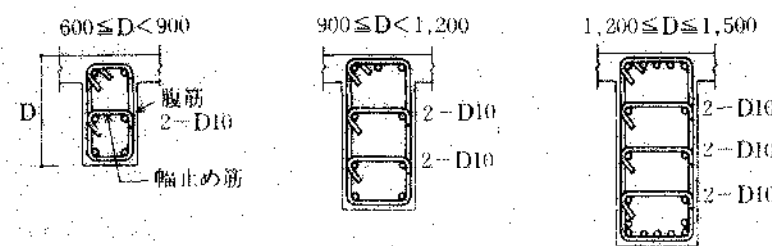


(3) はりの端部で間隔の異なる場合



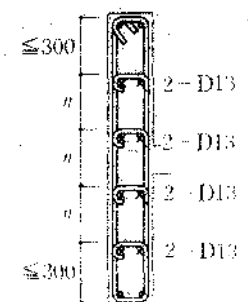
(注) あばら筋は、柱面位置から割付ける。

6.2.2 図

(d) 腹筋及び幅止め筋
(1) 一般のはり

6.2.3 図

(2) 壁はり

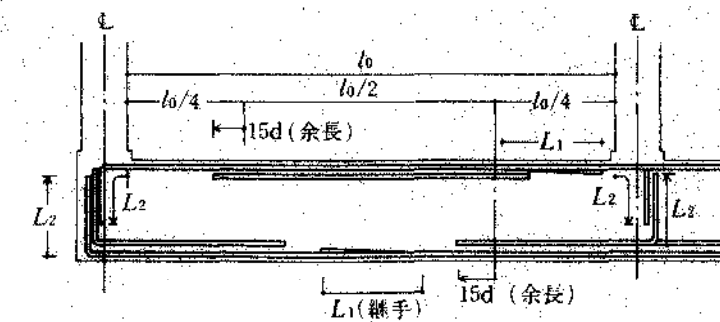


(注) 壁はりの場合、腹筋の定着長さ及び継手長さは図示による。ただし、定着長さ及び継手長さはL2を標準とする。

6.2.4 図

(3) 幅止め筋及び受け用幅止め筋は、(D10又は9φ) - 1000@程度とする。

(c) 異形鉄筋で連続基礎及びべた基礎の場合



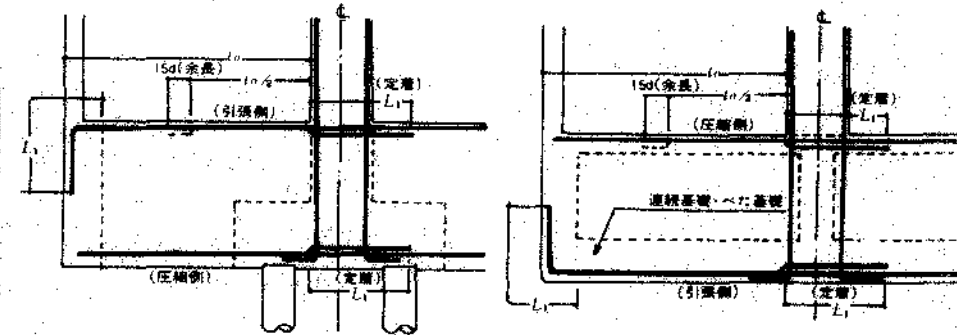
(注) 1. 図示のない事項は、6章による。

2. 印は継手、及び余長位置を示す。

7.1.3 図

(d) 異形鉄筋で片持ちり基礎の場合

(1) 地反力を受けない場合(独立基礎) (2) 地反力を受ける場合(連続基礎、べた基礎)



(注) 1. 図示のない事項は、6章による。

2. 印は、継手位置を示す。

3. 印は、余長を示す。

7.1.4 図

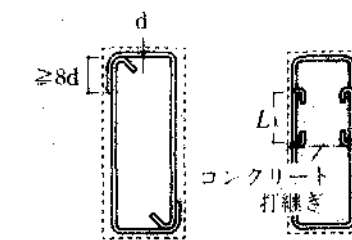
(e) 丸鋼の場合も上記に準じ、全ての末端部にフックを付ける。

2. あばら筋

あばら筋

(1) あばら筋の径及び間隔は特記による。

(2) あばら筋組立ての形及びフックの位置は、大はりのあばら筋の項による。但し、はりせいが1.5m以上の場合は7.2.1図によることができる。

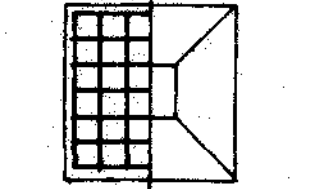
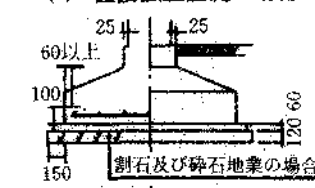


7.2.1 図

8 基礎

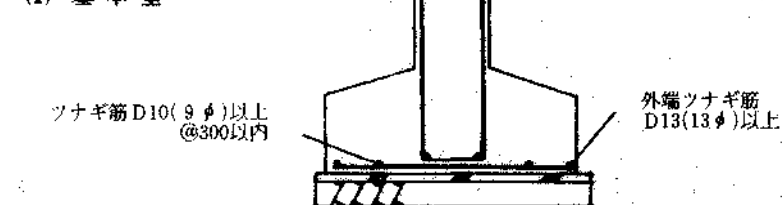
1. 基礎の配筋と捨コンクリート

(a) 直接独立基礎の場合



(b) 連続基礎の場合

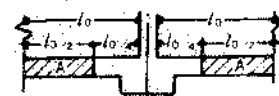
(1) 基本型



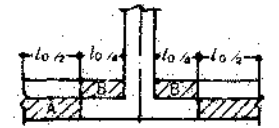
1. 基礎はり筋の継手及び定着

(a) 一般事項

- 独立基礎で基礎はりに床版がつく場合は、6による。
- 上端主筋の定着は、やむを得ない場合、上向きにすることができる。
- 基礎はり下地の地盤の種別及び厚さは図示による。ただし、捨コンクリートの厚さ及び砂利地盤の厚さは原則として60mmとする。
- 継手及び圧接中心位置の範囲は7.1.1図による。



独立基礎

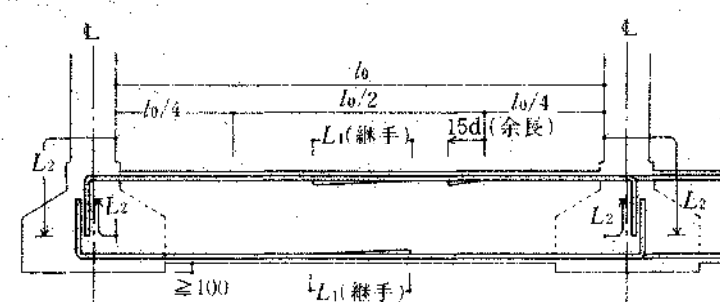
上端筋-中央 $l_0/4$ 以内 (A部分)下端筋-中央 $l_0/4$ 以内 (A部分)

連続基礎及びべた基礎

上端筋-両端 $l_0/4$ 以内 (B部分)下端筋-中央 $l_0/4$ 以内 (A部分)

7.1.1 図

(b) 異形鉄筋で独立基礎の場合

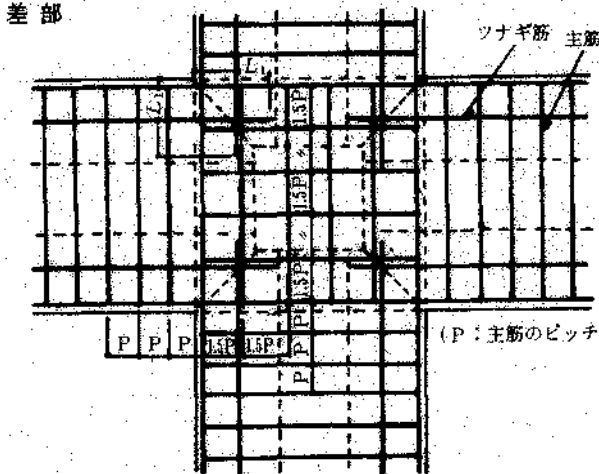


(注) 1. 図示のない事項は、6章による。

2. 印は、継手位置を示す。

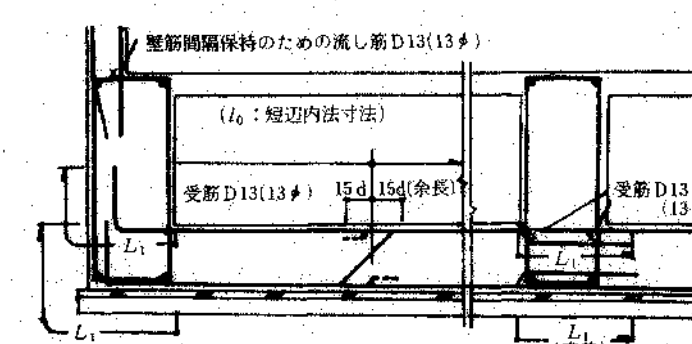
7.1.2 図

(2) 交差部

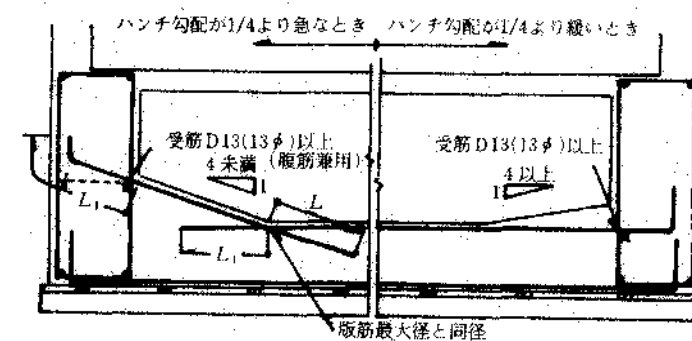


(d) べた基礎の場合

(1) ハンチのない場合



(2) ハンチのある場合



(注) 1. 捨コンクリートの厚さは60mmとし、フーチング外面より100mmとする。

2. 地盤の種別及び厚さは特記による。ただし、地盤の場合は砂利地盤厚さ60mmとする。

3. 土に接する部分の柱のかぶり厚さは25mmふかしとする。

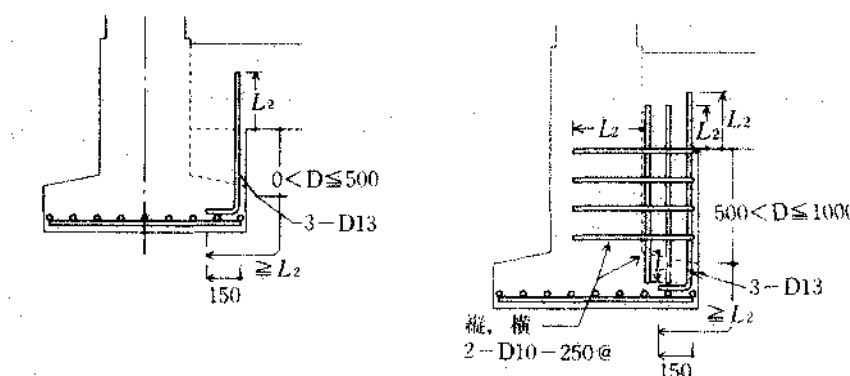
4. 図示のない事項は、6章による。

5. 印は、継手位置を示す。

6. 印は、余長を示す。

8.1.1 図

2. 基礎接合部の補強



8.3.1 図

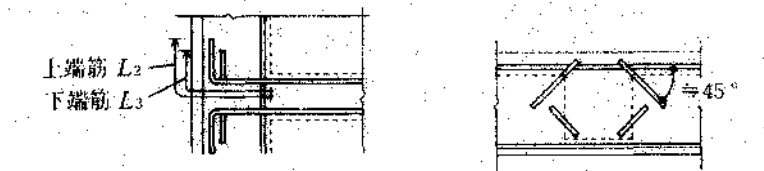
(注) D > 1000の場合には図面特記による。

1. 小はり筋の継手及び定着



9 小はり筋及び

片持ちり



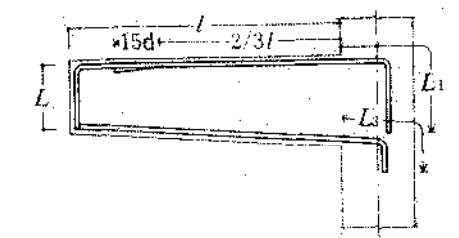
(注) 1. 図示のない事項は、6章による。

2. 終端になる場合の四すみの鉄筋は、大はりに斜めに定着する。

3. 印は、継手位置を示す。

2. 片持ちり筋の定着

(a) 先端に小はりのない場合



9.2.1 図

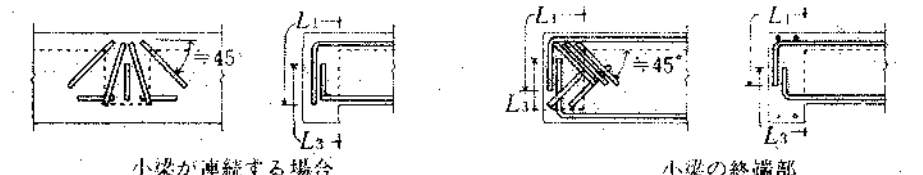
(注) 1. 図示のない事項は、6章による。

2. 印は、余長を示す。

3. 先端の折曲げの長さLは、梁せいよりかぶり厚さを除いた長さとする。

4. はり筋を引き通さない場合は、取合い部材に定着する。ただし、柱に取合う場合は、全数引き通せる場合でも、上端筋は、2本以上を柱に定着する。

(b) 先端に小はりがある場合



小梁が連続する場合

小梁の終端部

(注) 1. 図示のない事項は、上記(a)による。

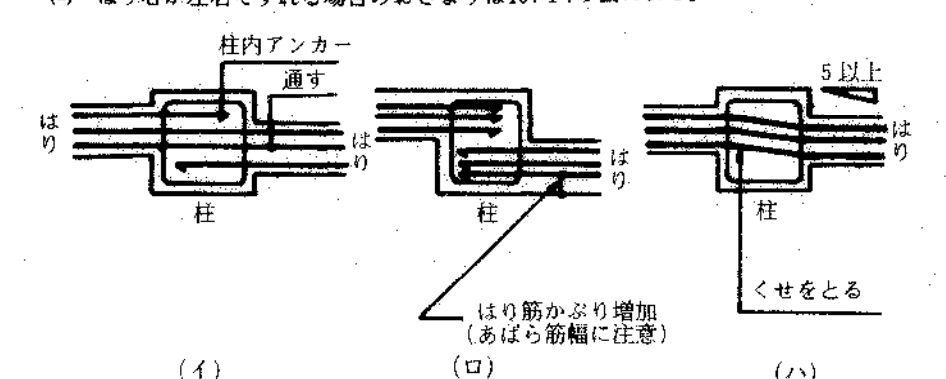
2. 上端筋は、小はりに斜めに定着する。

9.2.2 図

10 はり主筋のおさまり

1. 平面上ではり心がずれる場合

(a) はり心が左右でずれる場合のおさまりは10.1.1図による。



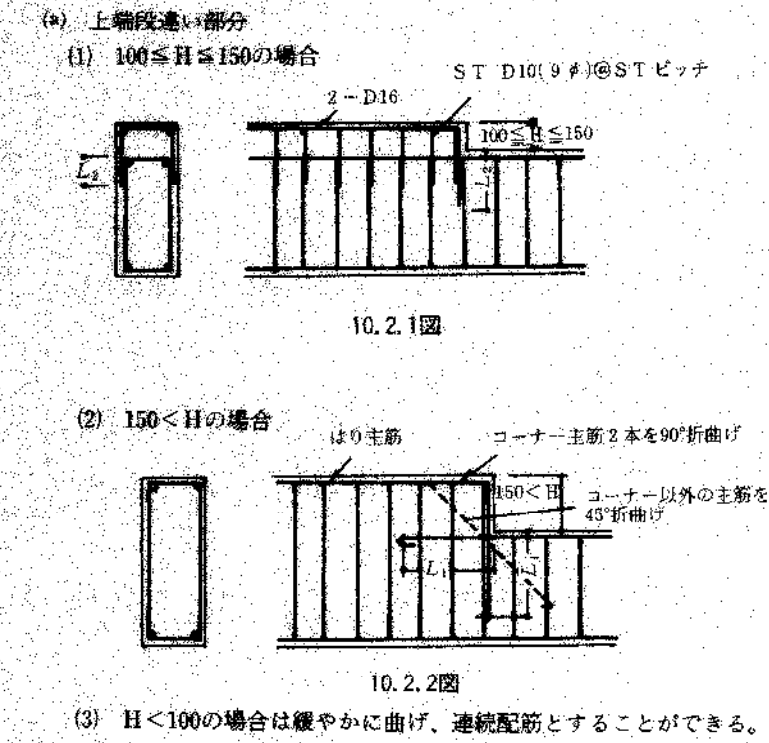
(イ)

(ロ)

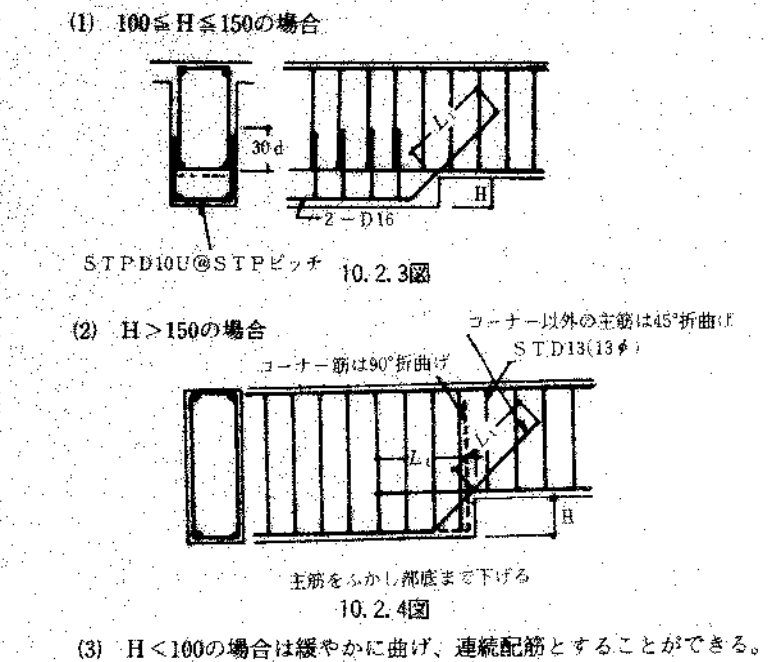
10.1.1 図

(b) はり天端に段違いがあり、かつ平面上のはり心がずれる場合には、左右のはり主筋は柱へ定着する。

2. 側面上で段違い部分がある場合



(b) 下端段違い部分



3. 片持ち床版形階段を受ける壁の基準配筋は、11.3.1表により、種別は図示による。

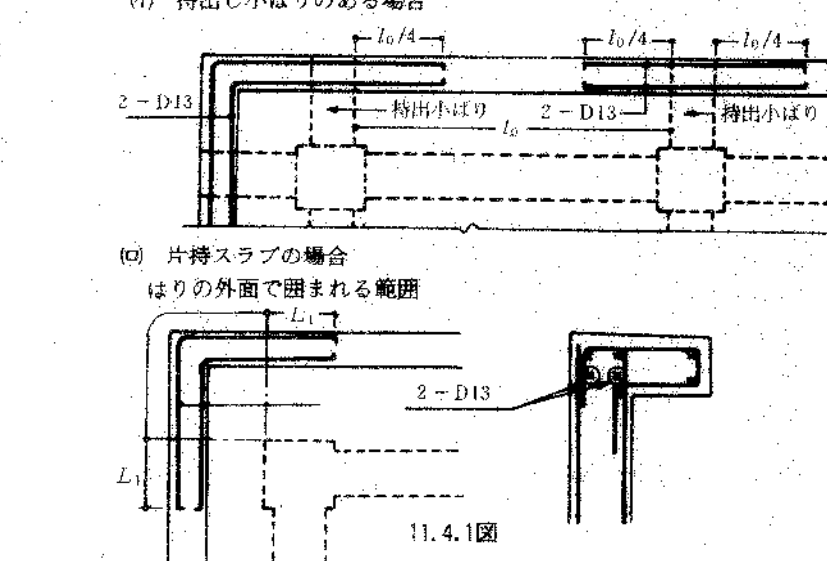
11.3.1表				
種別	断面図	縦筋及び横筋		配筋種別 (11.3.1表)
KW ₁		縦筋	D13-200@ダブル	A1, A1'
		横筋	D10-200@ダブル	
KW ₂		縦筋	D13-150@ダブル	A2, A2'
		横筋	D10-200@ダブル	

(注) 縦筋は、横筋の外側に配筋する。

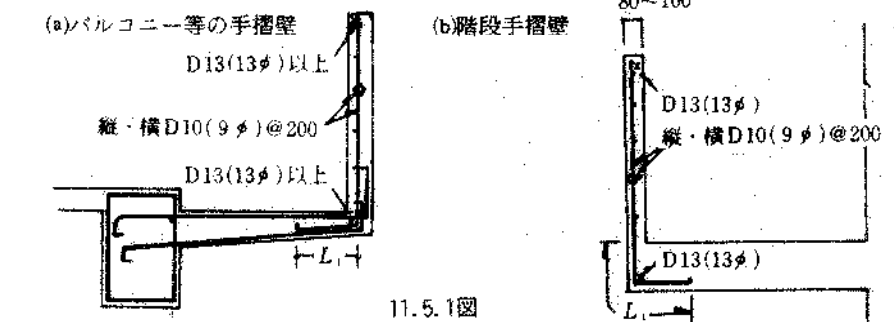
4. パラベット及び外部に面する腰壁、垂れ壁の配筋

11.4.1表				
施工箇所	コンクリート厚さ (mm)	方向	配筋	先端補強筋
パラベット	特記による	縦	D10-150@ダブル	
		横	D10-200@ダブル	
外部に面する腰壁及び垂れ壁	120	縦	D10-200@シングル	
		横	D10-100@シングル	
	150	縦	D10-150@シングル	
		横	D10-100@シングル	

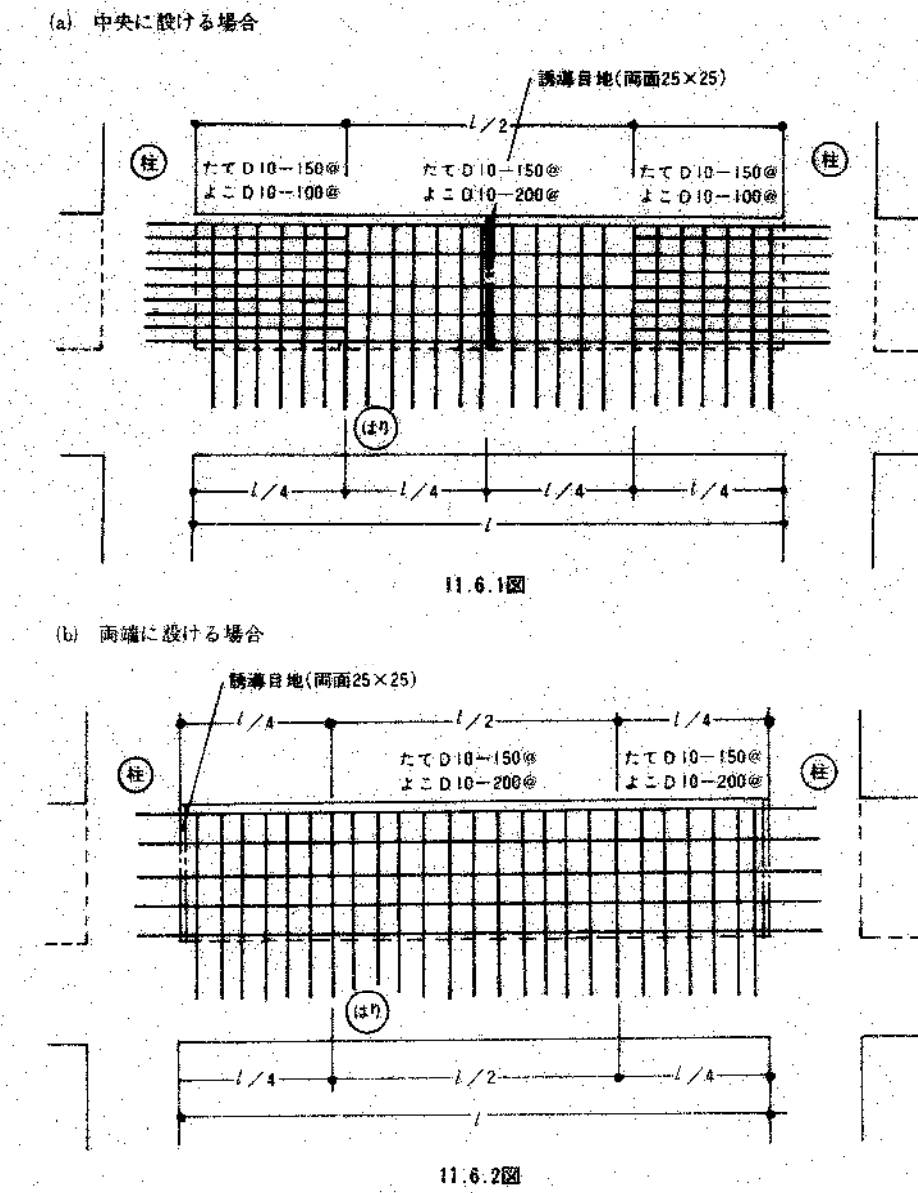
(注) 1. パラベットの出隅部及び持出小ばり部の補強は11.4.1図による。
2. 補強筋にはフックをつける。
(4) 持出小ばりのある場合



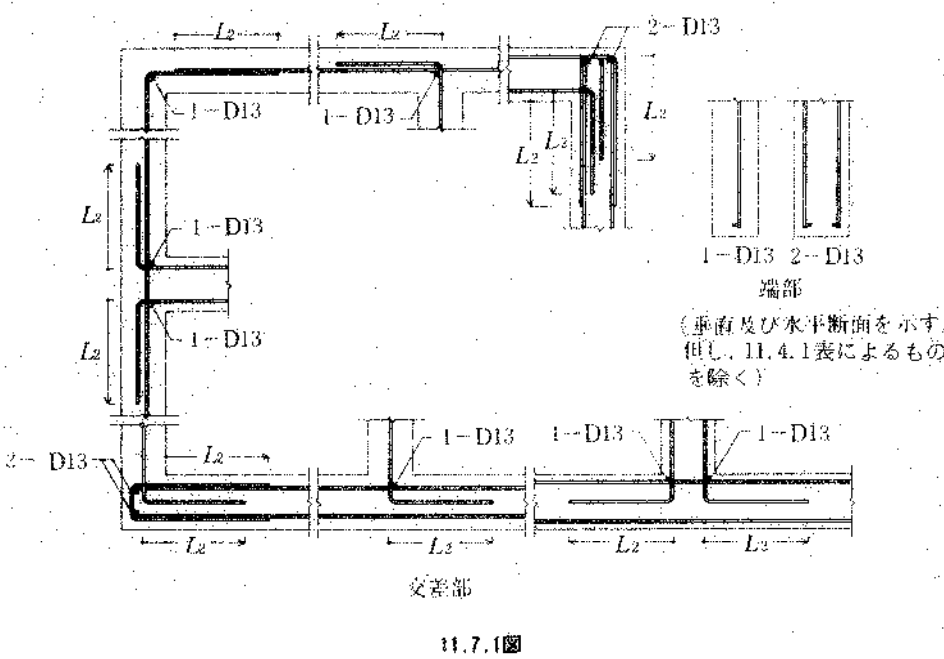
5. 手摺壁の配筋



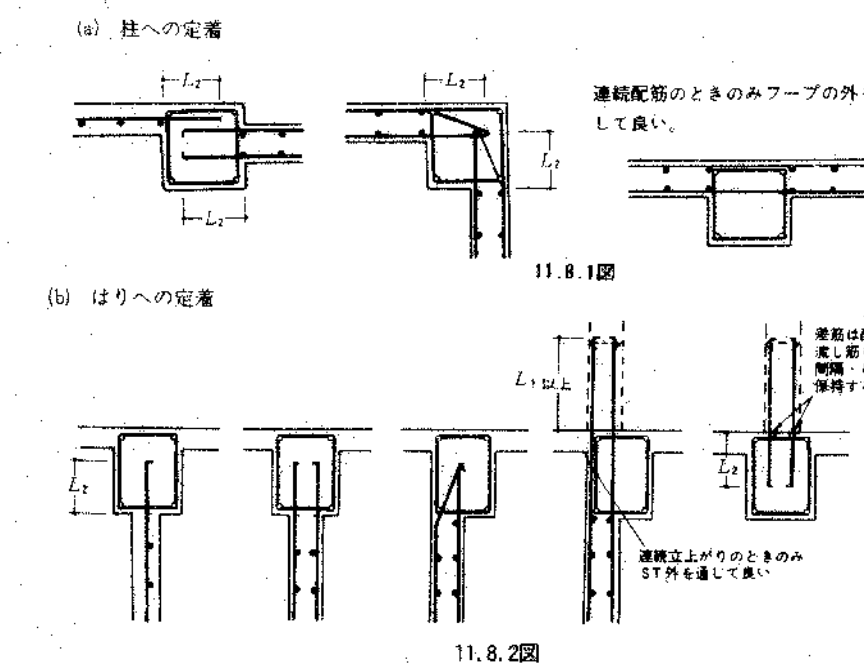
6. 腰壁にクラック誘導目地を設ける場合の配筋



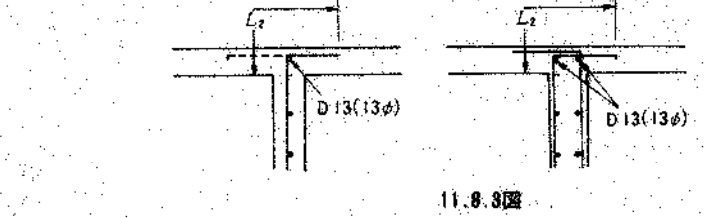
7. 交差部及び端部の配筋



8. 定着



(C) スラブへの定着



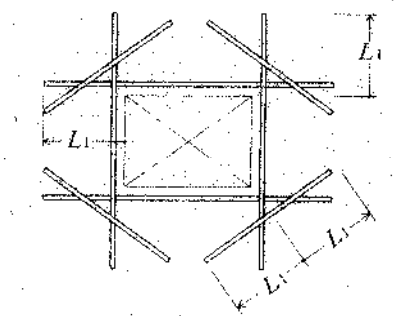
9. 壁開口部の補強

(a) 壁開口部の補強は、11.9.1表のA形及び11.9.2表のB形とし、図示がなければA形とする。ただし、耐震壁は除く。

11.9.1表 A 形			
壁の種別	補強筋	縦筋	斜め
W ₁₂ , W ₁₅	1-D13	1-D13	1-D13
W ₁₈ , W ₂₀	2-D13	2-D13	2-D13

11.9.2表 B 形			
壁の種別	補強筋	縦筋	斜め
W ₁₂ , W ₁₅	2-D13	1-D13	1-D13
W ₁₈ , W ₂₀	4-D13	2-D13	2-D13

(b) 壁開口部補強の定着長さ



(c) 開口部に柱、はりに接する部分及び最大径が300mm以下で、鉄筋を緩やかに曲げることで、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

11 壁

1. 一般事項

- (a) 壁配筋の継手及び定着の長さは、 L_2 とする。
- (b) 土圧などを受ける壁及び耐震壁として特記されたものは、継手長さを L_1 、定着長さを L_2 とする。
- (c) 継手及び定着のとれない場合は、監督員の承諾を受けて、添溶接 (両面5d以上又は片面10d以上) とすることができる。
- (d) 横止め筋は、縦、横共 (9φ又はD10) -1,000@程度とする。 形とする。

2. 壁の基準配筋は、11.2.1表により、種別は図示による。

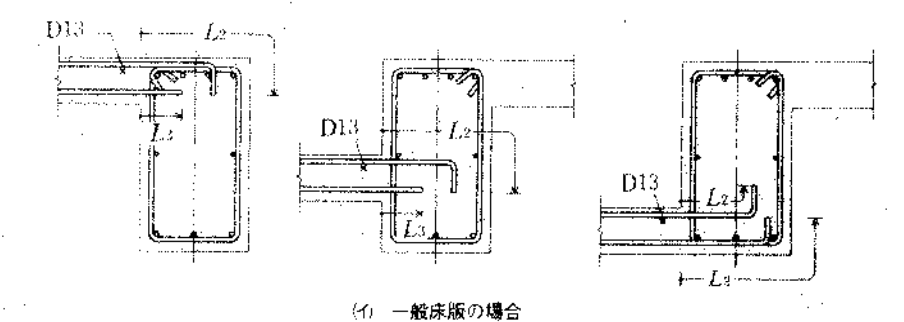
なお、外部に面する腰壁及び垂れ壁の配筋は、11.4.1表による。

11.2.1表		
種別	断面図	縦筋及び横筋
W ₁₀		D10-250@シングル
W ₁₂		D10-240@シングル
W ₁₅		D10-150@シングル
		D10-100@シングル
W ₁₈		D10-200@ダブル
		D10-150@ダブル
W ₂₀		D10-200@ダブル
		D10-150@ダブル

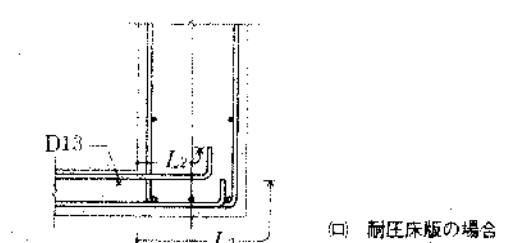
12 床版

1. 床版筋の継手及び定着

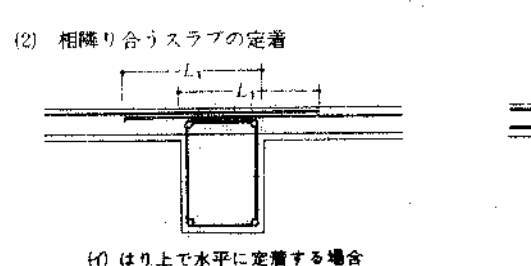
- (a) 継手長さは、 L_1 とする。
- (b) 定着長さ及び受け筋は、12.1.1図による。ただし、E形及び下形の場合は、12.3.1図及び12.3.2図による。
- (c) 継手長さのとれない場合は、配筋などを検討して添溶接とすることができる。ただし、片面溶接の場合は10d、両面では5dを標準とする。なお、dは鉄筋の公称直径を示す。
- (1) 一般の定着



(イ) 一般床版の場合

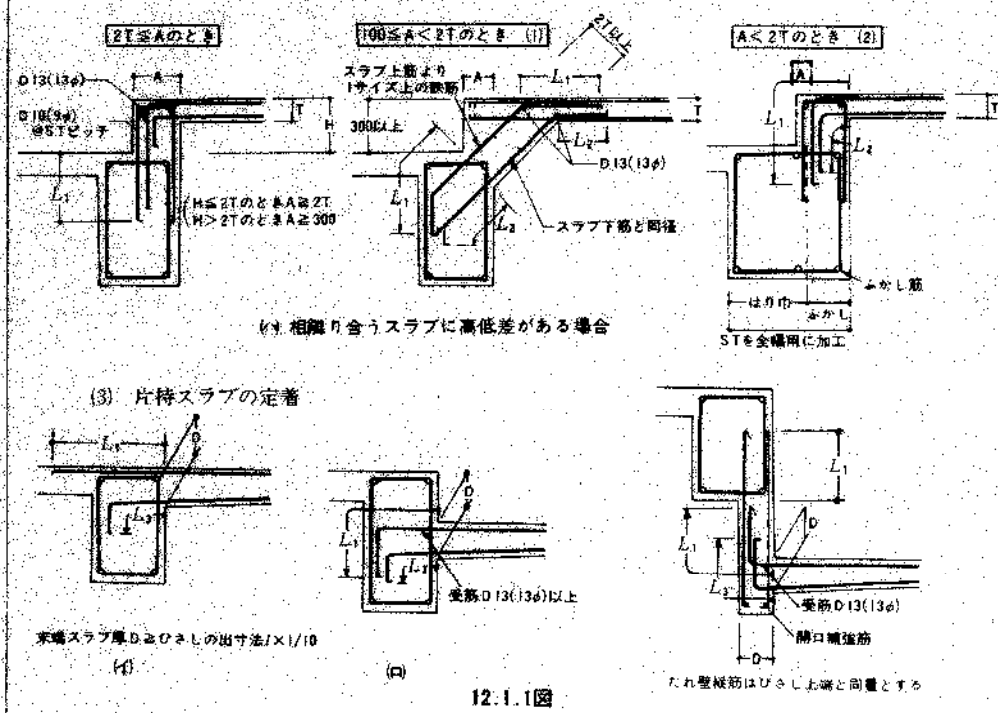


(ロ) 耐圧床版の場合



(ハ) はり上で水平に定着する場合

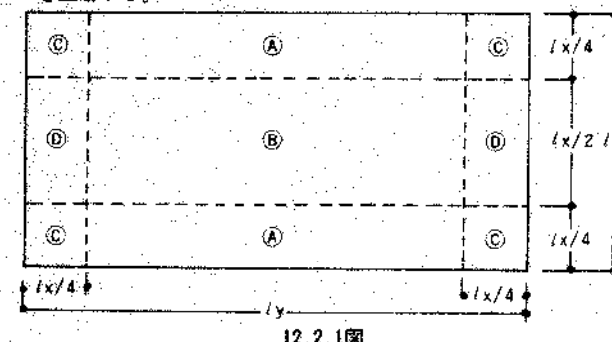
(ニ) 互いにはりへ定着する場合



2. 一般床版の基準配筋

(a) 一般事項

- (1) 床版の配筋及び厚さは図面による。
(2) 鉄筋の折曲げ位置は周辺よりほぼ $l_x/4$ の位置 (12.2.1図の点線位置) とし、その位置に 1-D13を配筋する。



- (3) 鉄筋の継手中心位置および継手長さは12.2.1表による。

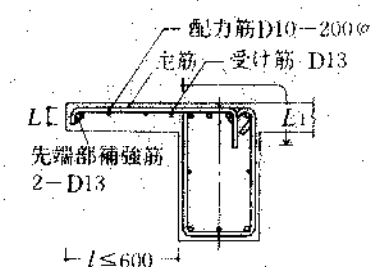
12.2.1表		継手位置	継手長さ
上端筋	短辺方向	(B) (D)	L_1
	長辺方向	(A) (B)	L_1
下端筋	両方向共	(A) (C) (D)	L_1

3. 片持スラブ

- (a) 床版の配筋及び厚さは図示による。

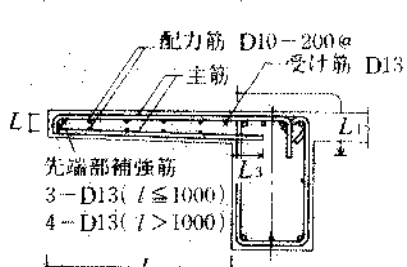
(b) 一般部

(1) E型



- (注) 先端の折曲げ長さ L_1 は、床版厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。

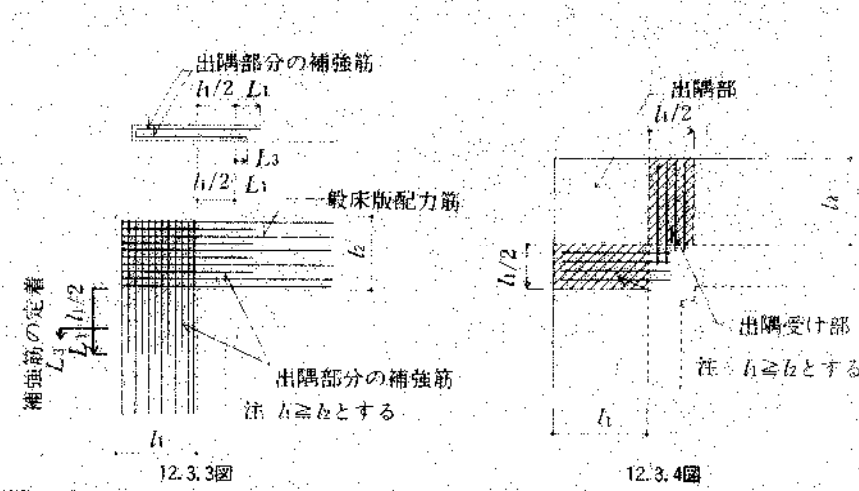
(2) F型



- (注) 先端の折曲げ長さ L_1 は、床版厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。

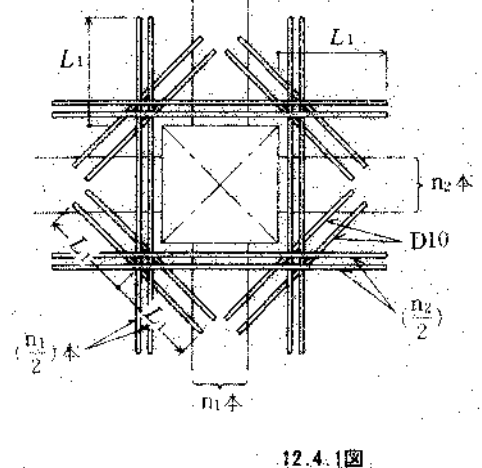
(c) 出隅部

- ① 補強の配筋は特記による。特記のない場合はD10-100@ダブルとする。配筋方法は、12.3.3図による。
② 出隅受部 (12.3.4図のハッチ部分) の配筋は特記による。

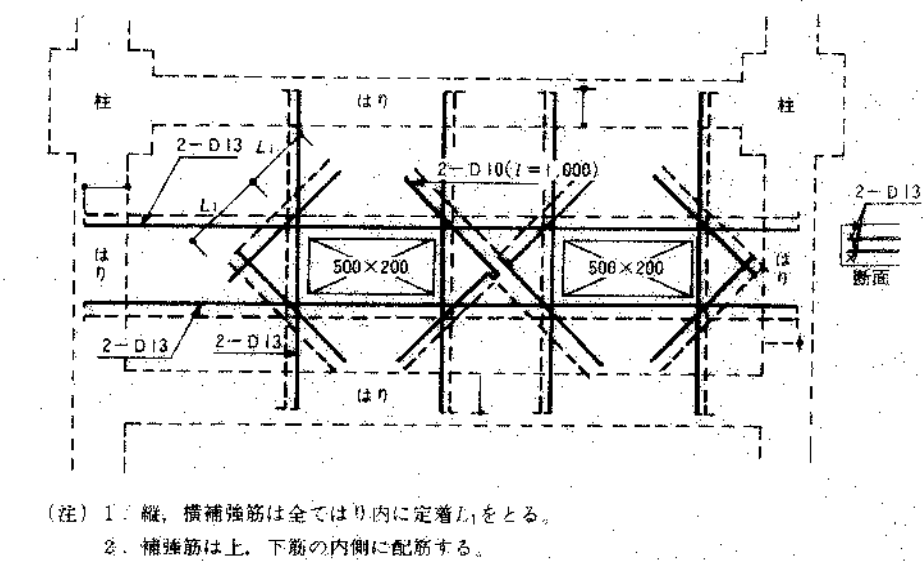


4. 床版開口部の補強

- (a) 床版開口の最大径が600mm以下の場合、12.4.1図により開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、くう角部は斜め方向に2-D10 ($l=2L_1$) を、上下筋の内側に配筋する。



- (b) 床版開口の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることで、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。
(c) 大壁などの連続開口部の補強

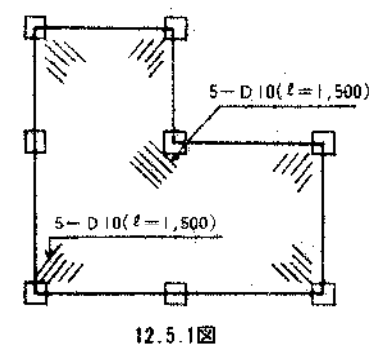


- (注) 1. 縦、横補強筋は全てはりに定着 L_1 とする。
2. 補強筋は上、下筋の内側に配筋する。

5. その他の補強

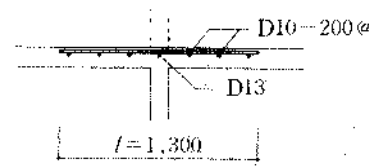
(a) 屋根床版

- 屋根床版の出すみ及び入すみ部分には、12.5.1図により、補強筋を上端筋の下側に配置する。ただし、出すみ部分は、12.3.(c)の補強筋と兼ねて引通すことができる。



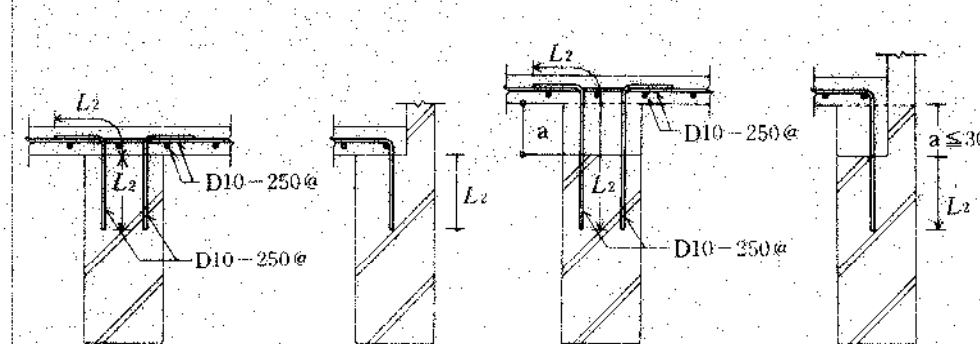
(b) 壁つき床版

- 床版に上端筋がなく、壁がついている場合には、12.5.2図の補強筋を入れる。



(c) 土間コンクリート

- 土間コンクリートに補強筋を入れる場合は、12.5.3図により、形は図示による。ただし、杭基礎で軟弱な地盤の埋戻し土を使用し、土間下に配筋等を行う場合、及び構造上重要な場合は、一般床版と同じ配筋とする。



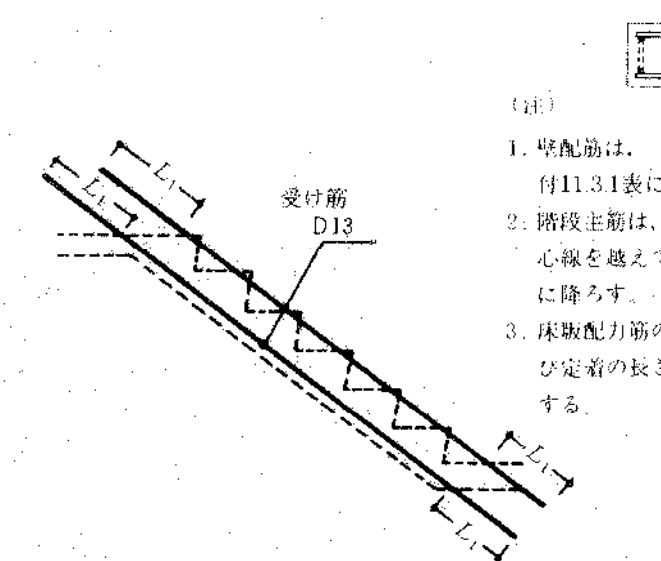
13 階段

1. 片持ち床版形

A形、A'形基準配筋

13.1.1表

配筋種別	A 1	A 2
配筋図		
配筋種別	A 1	A 2
配筋図		



- (注) 1. 受筋筋は、付11.3.1表による。
2. 階段主筋は、壁の中心線を越えてから縦に降ろす。
3. 床版配筋筋の継手及び定着の長さは L_1 とする。

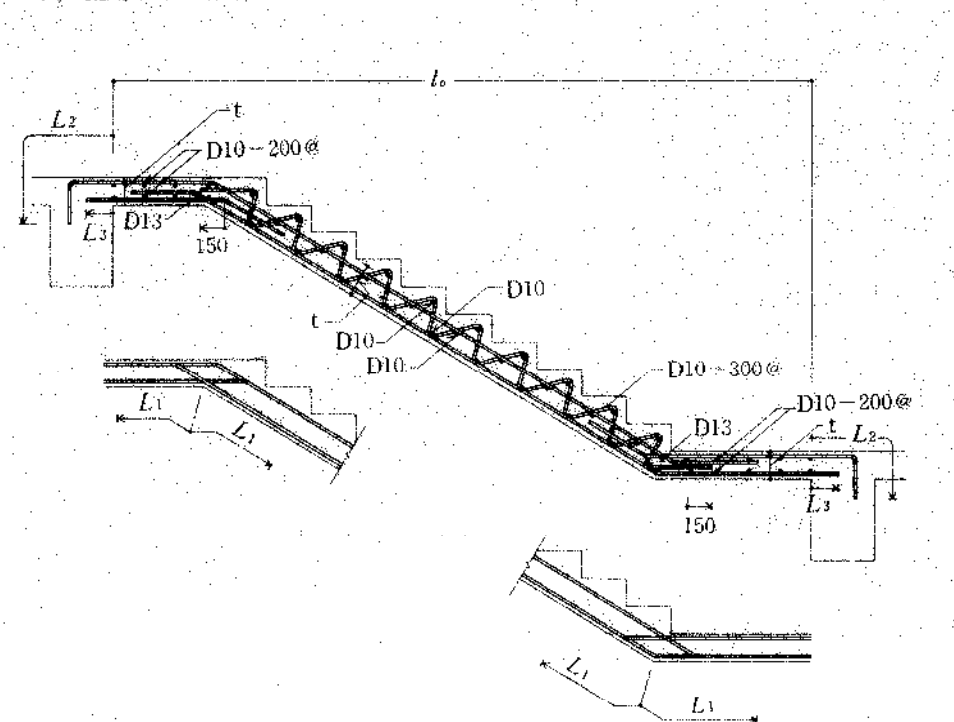
- (注) 1. 壁配筋は11.3による
2. 階段主筋は、壁の中心線を越えてから縦に降ろす。

2. 二辺固定床版型

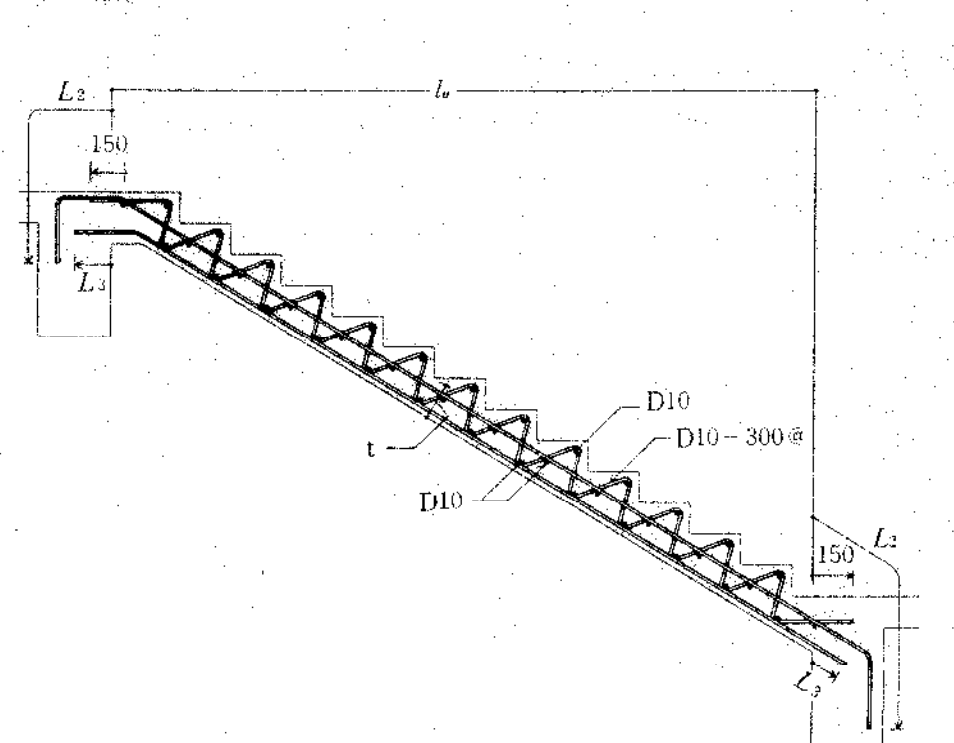
B形基準配筋

配筋種別	床版厚さ t (mm)	全 横	
		上 端	筋 筋
B 1	150	D13-200@	
B 2	150	D13-150@	
B 3	150	D13-100@	
B 4	180	D13, D16-150@	
B 5	180	D16-150@	
B 6	180	D16-125@	
B 7	200	D16-100@	

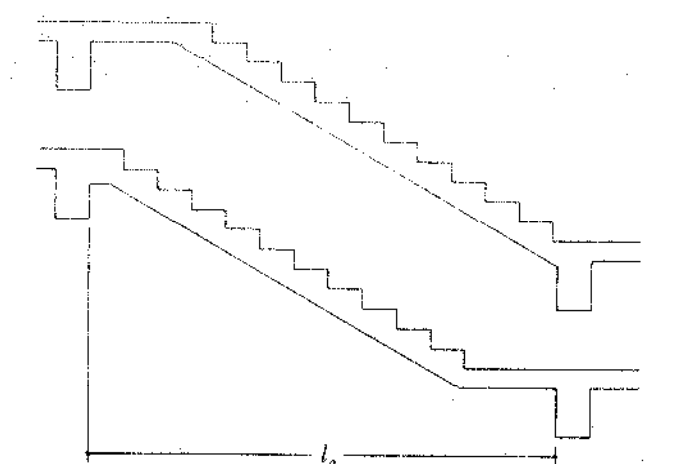
(a) 踊場がある場合



(b) 踊場がない場合



- (注) 下図の場合にもB形基準を使用する。



3. 階段踊場補強筋

- (注) 補強筋は上端筋の下側に配置する。

1. 一般事項

- (a) 鉄筋は、構造体に定着する。定着の長さが得られない場合は、その他の方法により構造体に緊結する。
(b) 主筋に継手を設けてはならない。ただし、溶接長さ $5d$ (d は鉄筋の径) 以上の両面アーク溶接を行う場合は、継手を設けることができる。
(c) 鉄筋の重ね継手及び定着の長さは14.1.1表による。

14.1.1表

適用箇所	重ね継手の長さ	定着の長さ
一般部分の配筋	$25d$	$25d$
開口部周囲の配筋 隅部の配筋 耐力壁の配筋	$40d$	$40d$
ブロック塀	$40d$	$40d$

- (d) 横に鉄筋をそう入する部分には横筋用ブロックを使用し、横の鉄筋は縦の鉄筋に鉄線で緊結する。
(e) 鉄筋に対するコンクリート又はモルタルのかぶり厚さは、 20mm 以上とする。
(f) 間仕切壁のコンクリートブロック積み高さは、厚100の場合12段、厚150においては18段を最大とする。その上又は下に同じ厚さの鉄筋コンクリート壁を設け、壁の配筋は、縦横共 $D10-200@$ とする。

2. 各部の配筋

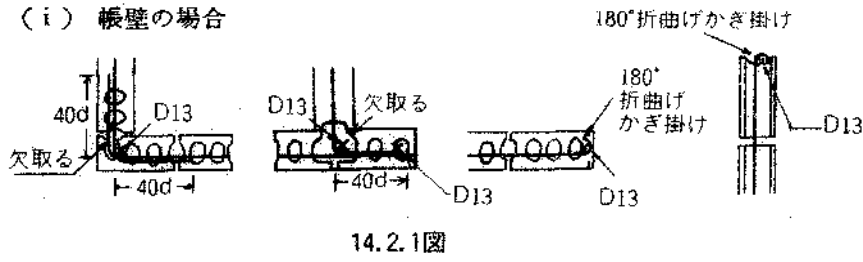
- (a) 壁の配筋は、図示による。ただし、図示がなければ14.2.1表による。

14.2.1表

用途	主筋	配筋筋
内 壁	$D10-400@$	$D10-400@$
外 壁	$D13-400@$	$D10-400@$

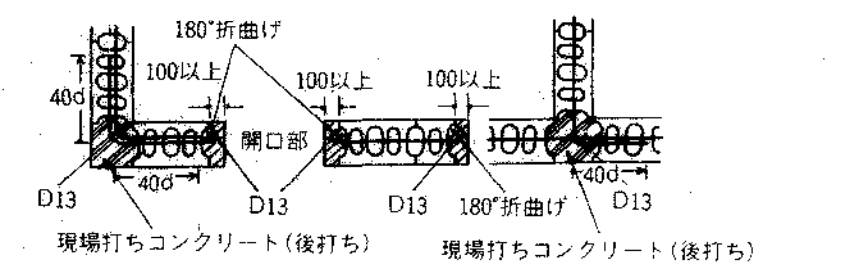
- (b) 交差部、端部（開口部）の配筋は、帳壁の場合は14.2.1図、耐力壁の場合は14.2.2図による。

(i) 帳壁の場合



14.2.1図

(ii) 耐力壁の場合

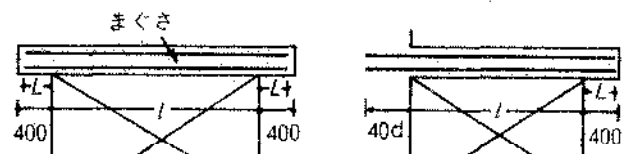


14.2.2図

- (c) まぐさは、鉄筋コンクリート造とし、配筋は特記による。特記がなければ14.2.3図及び14.2.4図による。

(i) 一般の場合

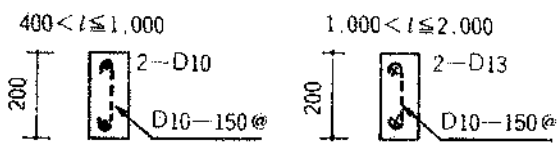
(ii) 開口部が、鉄筋コンクリートの柱又は壁に接する場合



(注) L は、かぶり厚さを除いた長さ

14.2.3図

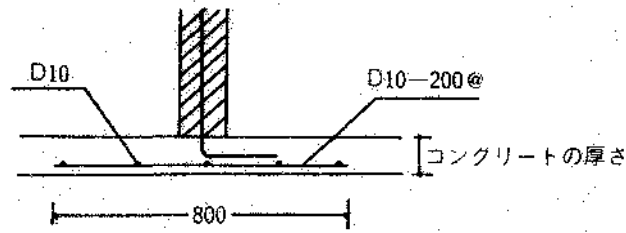
(iii) まぐさの配筋



(注) まぐさの幅は、ブロック厚さと同じとする。

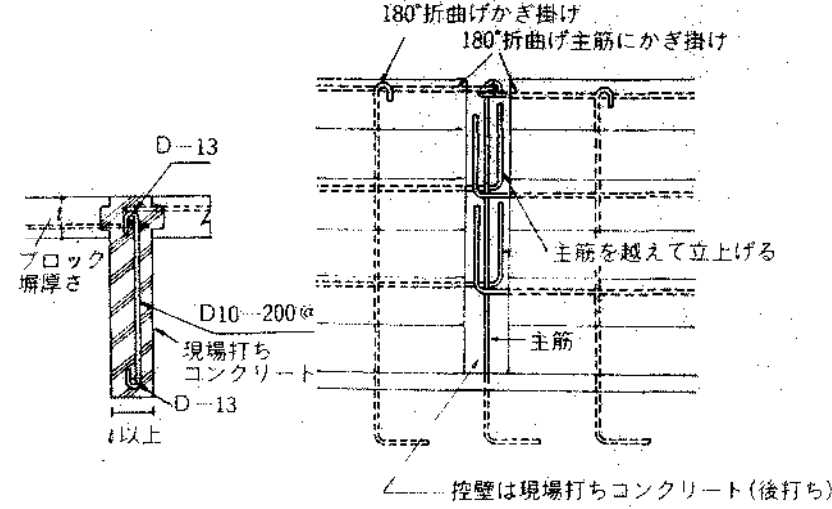
14.2.4図

- (d) 無筋の土間コンクリートに乗る場合の補強は、14.2.5図による。



14.2.5図

- (e) ブロック塀の控壁は、鉄筋コンクリート造とし、取合い及び配筋方法は、14.2.6図による。

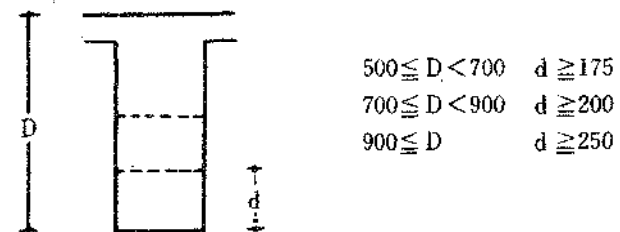


14.2.6図

15
はりの貫通孔の補強

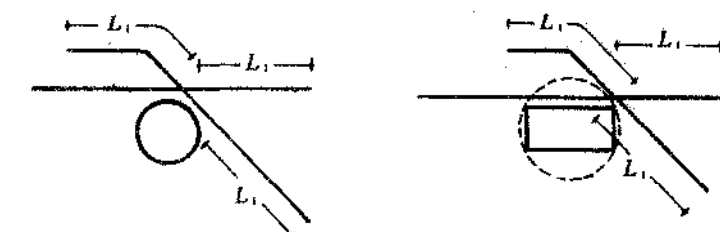
1. はり貫通孔の中心位置

- (a) 位置は下記によるほか、図示による。
(1) 孔が円形でない場合は、外接円孔におきかえて適用する。
(2) 孔の上下方向の位置は、はりせいの中心付近とし下記による。



15.1.1図

- (3) 孔の中心位置は柱及び直交するはり（小はり）の面から $1.2D$ 以上はなすことを原則とする。
(4) 孔が並列する場合は、その中心間隔は孔の径の平均値の3倍以上とする。
(5) 補強筋は原則として主筋の内側とする。
(6) 鉄筋の定着長さ



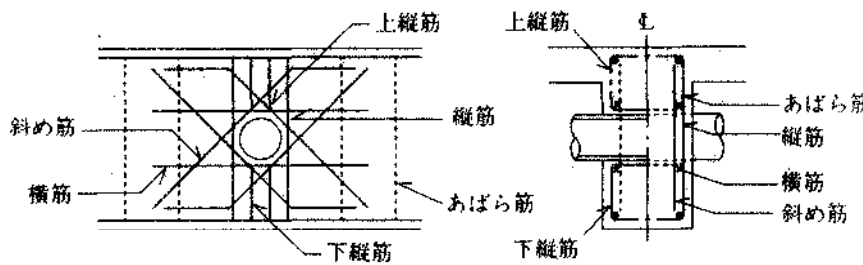
15.1.2図

- (7) たて筋はあばら筋とみなす。
(8) 孔の径は、はりせいの $1/3$ 以下とする。

2. はり貫通孔補強筋

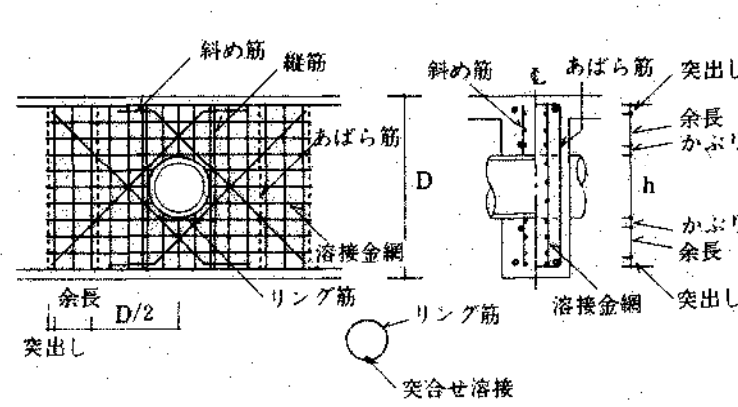
- (a) 補強筋の配筋種別は図示による。

(i) H形



15.2.1図

(2) MH、M形



15.2.2図

- (注) 1. 縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。
2. 補強筋は主筋の内側とする。やむをえない場合は監督員の承諾を受けて外側とすることができる。また、鉄筋の定着長さは図による。
3. 孔の径ははりせいの $1/10$ 以下且つ 150mm 未満のものは、補強を省略することができる。
4. 溶接金網の余長は1格子以上とし、突出しは 10mm 以上とする。
5. 溶接金網に付けるリング筋は、溶接金網に4箇所以上溶接する。
6. 溶接金網の割付け始点は、横筋ではあばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。

16
鉄筋の保護

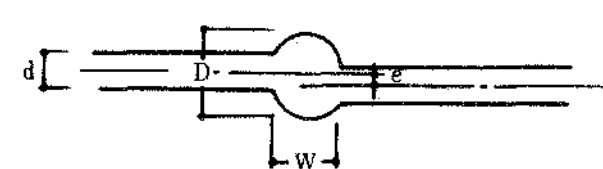
1. 鉄筋の保護用足場等

- (a) 鉄筋の組立て後、直接鉄筋の上を歩かないように、床版、はりなどに、脚付の歩み板を置きたす。
(b) コンクリート打込みによる鉄筋の乱れは、なるべく少なくする。特にかぶり厚及び間隔の保持に努める。

17
ガス圧接

1. 圧接部の状態

- (a) 圧接部は下記によるほか、有害な欠陥のないものとする。
(1) 規格又は形状の著しく異なる場合及び径の差が 5mm を超える場合は、圧接してはならない。
(2) 圧接面は、圧接作業前にグラインダーなどで平らに仕上げるとともに、さび、油、塗料、セメントペーストその他の有害な付着物を完全に除去する。
(3) 突合せた圧接面は、なるべく平面とし、周辺のすき間は 3mm 以下とする。
(4) 圧接部の径は、最小部分で母材鉄筋径の 1.4 倍以上とする。
(5) 軸心のくい違いは、鉄筋径の $1/5$ 以下とする。
(6) 圧接部には、突合せた圧接面の条こうが残ってはならない。



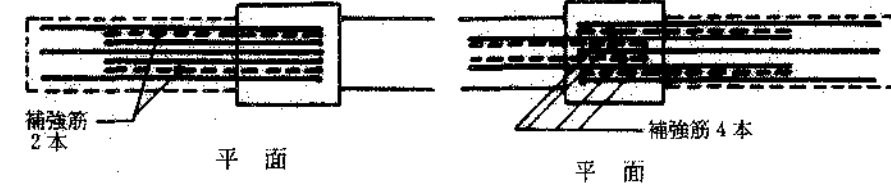
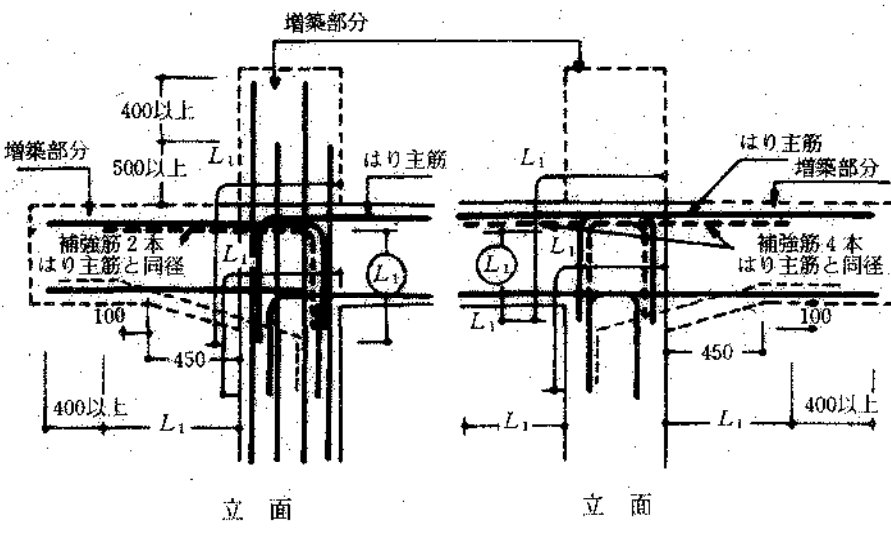
- (注) 1. e = 偏心距離
2. $e \leq 1/5d$, $D \geq 1.4d$, $W \geq 1.3d \sim 1.5d$ とする。

17.1.1図

18
増築部分の配筋

1. 柱およびはり（小はりも含む）

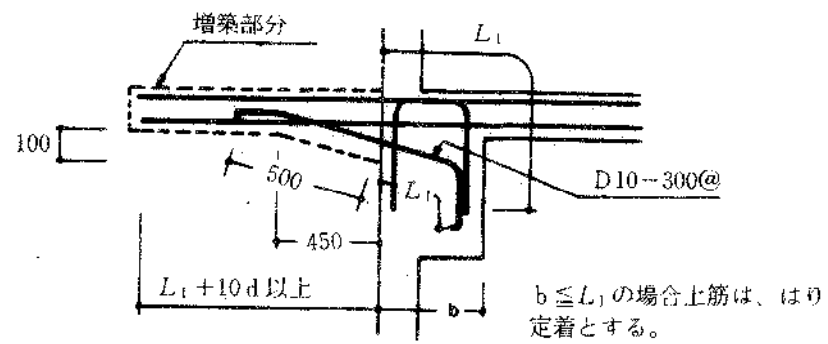
- (a) はり筋が全数定着とれる場合 (b) はり筋が半数定着とれる場合



- (注) 1. L_1 は上部に増築予定がある場合ははりの定着長さ。
2. 次期工事での継手は全てガス圧接とする。
3. 原則として柱内に定着をとる。定着がとれない場合ははり主筋の半数を、引き通すことができる。
4. はり主筋と同径の鉄筋を（上図の点線）補強する。
5. 増築はりには上図に示すハンチ補強する。
(ただしハンチを設けることが出来る場合に限る)

18.1.1図

2. 床 板



- (注) 1. 次期工事での継手長さは $L_1 + 10d$ 以上とする。
2. 増築床版には、上図のように、ハンチ補強をする。

18.2.1図

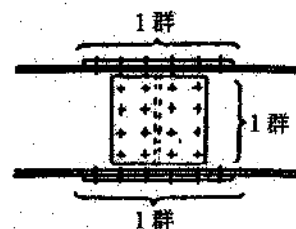
④ 高力ボルト接合

⑥ 締付け及び検査用機器

- (a) 締付け及び、検査用機器は、ボルトに適したものとし、常によく点検整備されていなければならない。
- (b) トルクコントロール式インパクトレンチなどのトルクの変動しやすい機器は、午前と午後それぞれの作業開始前に締付け力の調整を行う。
- 調整は、トルクの誤差が所要トルクの±7%程度になるまで行い、調整の記録を監督員に提出して承諾を受ける。

⑨ 締付け

- (a) 本接合に先立ち、仮ボルト締めを行い、板の密着を図る。
- 特に特殊高力ボルトの場合は、入念に行わなければならない。なお、仮ボルトの数は、一群のボルト数の1/3かつ、2本以上とする。



4・9・1図 1群のボルト

- (b) 締付けに先立ち、ボルトの長さ、材質、呼びなどが施工箇所に適したものであることを確認する。
- (c) 一群のボルトの締付けは、群の中央部より周辺部に向かう順序で行う。
- (d) ボルトを取付け、予備締め及び本締めを行う。
- (e) 予備締めは、4・9・1表によるトルク値でナットを回転させて行う。但し、ボルト長さが呼び径の5倍を超える場合及び鋼板の厚い場合の締付方法については監督員の承諾を受ける。

4・9・1表 予備締めトルク値(kg・cm)

ボルトの呼び径	予備締めトルク値
M16	1,000程度
M20, M22	1,500程度
M24	2,000程度

- (f) 予備締めの終わったボルトには、ボルト、ナット、座金及び母材にかけて印を付ける。
- (g) 本締めは、標準ボルト張力が得られるように締付ける。

10. 締付け検査

- (a) JISの高力ボルトの締付け検査
- 本締め終了後、検査を行う。
 - 予備締めの際につけた印のずれにより全数本締めの完了したこと及びとも回りのなかったことを確認する。
 - 締付け検査は、トルクレンチを用いてナットを締め、ナットが回転を始めたときのトルクを測定する方法による。
 - 検査数は、各ボルト群ごとにボルト数の10%以上かつ1個以上とする。検査の結果が、良好ならば、監督員の承諾を受けて以後の検査数を減らすことができる。
 - トルクは、検査時の値が下記を満足する場合に合格とする。
$$0.9T_0 \leq T \leq 1.1T_0$$

$$T_0 = \frac{K \times d_s \times N_s}{1,000}$$

T : 検査時のトルク (kg・m)

T₀ : 標準トルク (kg・m)

K : トルク係数値

d_s : ボルトのねじの外径の基準寸法 (mm)

N_s : 4・3・1表の標準ボルト張力 (kg)
 - トルクが不合格のボルトがある場合は、群を単位として締直す。過度に締付けたボルトは、取替える。
 - とも回りを起こしたボルトは、取替える。
- (b) 特殊高力ボルトの締付け検査
- 締付け完了後、検査を行う。
 - 予備締めの際につけた印のずれ、ボルトの部分的破断などにより、全数本締めの完了したことを確認する。
 - 本締め完了後のボルトの形状及び寸法が適切であることを確認する。なお、グリップ系の場合は測定ゲージを用いる。

- (c) 検査の記録を監督員に提出して、締付け検査を受ける。

⑤ 溶接接合

① 適用範囲

この章は、アーク手溶接（以下「手溶接」という）、ガスシールドアーク半自動溶接及びセルフガスシールドアーク半自動溶接（以下「半自動溶接」という）、サブマージアーク自動溶接（以下「自動溶接」という）並びにスクード溶接に適用する。

② 溶接管理及び設備

溶接を行う場合は、溶接施工の実績、溶接の作業管理組織、機械設備、施工及び検査の社内規程などを記載した文書を監督員に提出して、製作工場の施工能力及び管理能力について承諾を受ける。

③ 溶接施工管理技術者

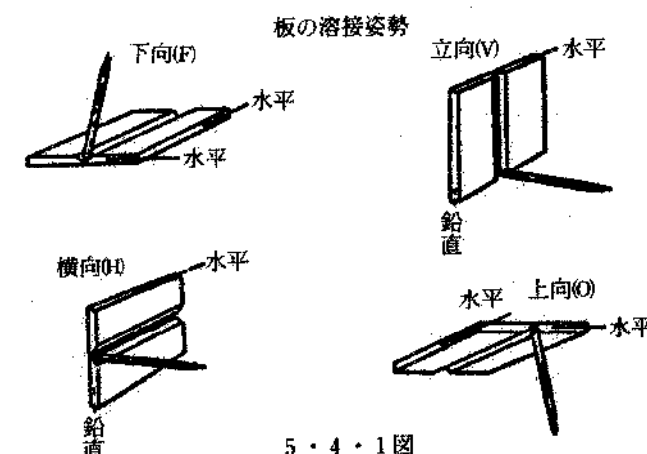
- (a) 溶接作業には作業指導を行う溶接施工管理技術者をおかななければならない。但し、軽易な工事については、監督員の承諾を受けて、省略することができる。
- (b) 溶接施工管理技術者は、工事に相応した日本溶接協会により認定された5・3・1表の資格を有し、資格証明書及び工事経歴書を監督員に提出して、承諾を受けた者とする。

5・3・1表 溶接技術者の資格等級

等級	資 格	技 術
1級	溶接一般の施工計画と技術管理施工基準の決定など	溶接技術に関する十分な基礎知識と、施工及び管理などに関する必要な経験
2級	溶接及び関連作業の監督指導、現場管理、施工記録書の作成等	溶接施工に関する十分な経験と溶接技術に関する必要な一般的知識

④ 溶 接 工

- (a) 溶接工は、工事に相応した下記による技量を有する者で、技量証明書その他の必要な資料を監督員に提出して、承諾を受けた者とする。
- 手溶接の場合は、JIS Z 3801（溶接技術検定における試験方法及び判定基準）
 - 半自動溶接の場合は、JIS Z 3841（半自動溶接技術検定における試験方法及び判定基準）
 - 自動溶接の場合は、上記(1)の基本級及び技量を証明する主な工事経歴
 - 仮付け溶接の場合は、上記(1)の基本級



5・4・1図

⑤ 材 料 準 備（開先形状等は、写真撮影の上報告する。）

- (a) 開先の形状は、5・7・5表によるが、製作工場の試験により監督員の承諾を受けて、多少変更することができる。
- (b) 開先の加工は、自動ガス切断又は機械加工とする。精度の不良なもの及び著しい凹凸のあるものは修正する。
- (c) 溶接材料は、丁寧に取扱ひ、被覆剤のはく脱、汚損、変質、吸湿、著しいさびのあるものなどを使用してはならない。特に溶接棒の吸湿には注意し、吸湿の疑いがあるものを使用してはならない。

6. 材 片 の 集 結

- (a) 材片の集結は、適切な治具を用いて正確に行う。特にルート間隔及び密着部分に注意し、不良なものは修正する。
- (b) 集結順序は、溶接による変形及び拘束が少なくなるように定め、できるだけ逆ひずみ法を取入れる。
- (c) 高力ボルト接合を併用する場合は、高力ボルト接合を先に行う。
- (d) 仮付け溶接は、下記による。
- 仮付け溶接の位置は、継手の端部、ぐう角部、本溶接の始点及び終点などの強度上及び工作上支障のある箇所を避ける。
 - 仮付け溶接で本溶接の一部となるものは、最小限とし、欠陥を生じたものは、すべて削取る。
 - 仮付け溶接は、ショートビードを避け、その長さは5・6・1表による。

- (4) 開先内に仮付け溶接を行ってはならない。

5・6・1表 仮付溶接長さの最小限度(mm)

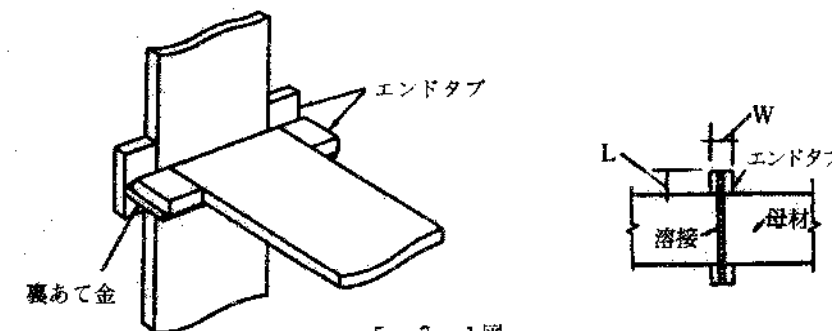
板 厚	溶 接 の 最 小 長 さ	
	手溶接、半自動溶接	自動溶接
3.2 以下	30 程度	40 程度
3.2を超え25未満	40 程度	50 程度
25 以上	50 程度	70 程度

- (5) 高張力鋼及び厚さ25mm以上の鋼材の仮付け溶接には低水素系の溶接棒を使用しなければならない。

⑦ 溶 接 施 工

(a) 共通事項

- 溶接機とその付属用具は、溶接条件に適した構造及び機能を有し、安全に良好な溶接が行えるものとする。
- 溶接部は、有害な欠陥のないもので、表面は、できるだけ滑らかなものとする。
- 溶接の有効長さは、中断していない溶接の始点及びクレークを除いた部分の長さとする。
- 溶接順序は、溶接による変形及び拘束が少なくなるように定める。
- 溶接姿勢は、部材の位置を調整して、できるだけ下向きとする。
- 材質、材厚、気温などを考慮のうえ、必要に応じて、予熱を行う。
- 作業場所の温度が0℃から-15℃の場合は、溶接部から100mm以内の部分、36℃以上に予熱する。
- エンドタブの取扱ひ
 - 突合わせ、部分溶込み及び隅肉溶接の場合は、溶接部の端部に十分な長さをもったエンドタブを用いる。但し、強度上軽易な取扱ひができる場合で、回し溶接などにより欠陥を防止できる場合は、監督員の承諾を受けて、エンドタブを省略することができる。
 - 見え隠れとなるエンドタブは、5～10mmを残して切除する。
 - 見え掛りとなるエンドタブは、除去のうえ、部材断面を欠損しないように切断面を仕上げる。
 - エンドタブは、原則として母材と同厚のものを用い、長さは5・7・1表による。

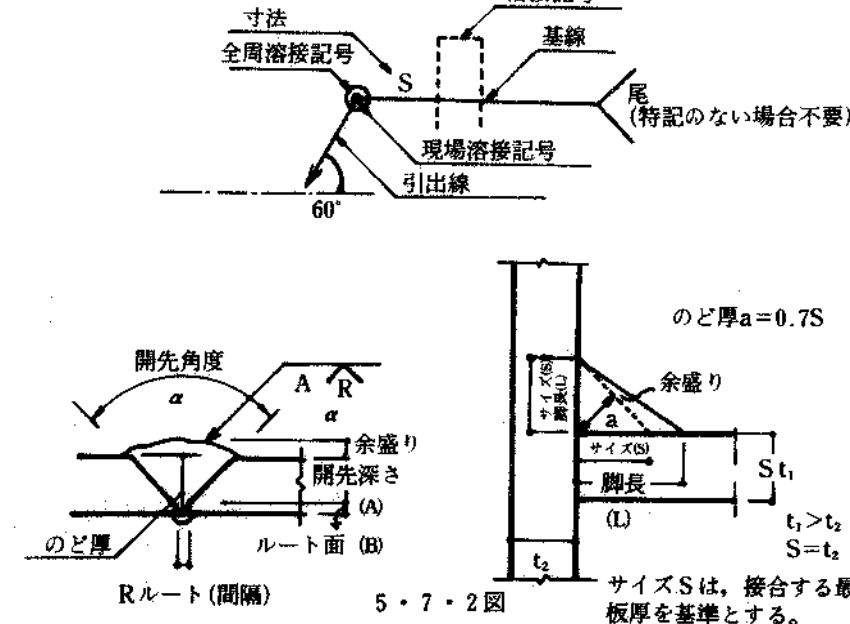


5・7・1図

5・7・1表

溶 接 工 法	L×W(mm)
手 溶 接	35×35以上
半 自 動 溶 接	40×40以上
自 動 溶 接	70×70以上

- (9) スラッグの除去は、各パス及び溶接完了後、入念に行う。
- (10) 著しいスパッタ及び塗装下地となる部分のスパッタは除去する。
- (11) 溶 接 記 号



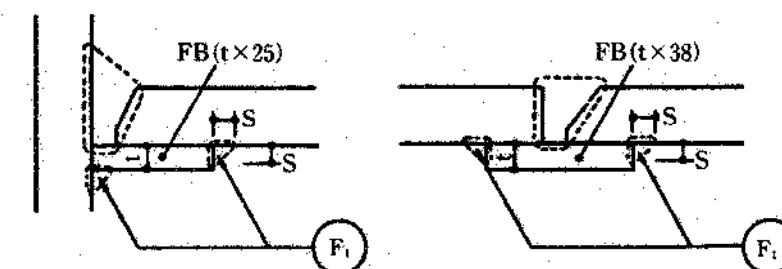
5・7・2図

サイズSは、接合する最薄板厚を基準とする。

(b) 突合わせ溶接

- 裏あて金のない場合は表面より溶接を行った後、裏はつりを行う。裏はつりは、健全な溶着部分があられるまではつり取った後、裏溶接を行う。
- 裏あて金のある場合は、5・7・3図を標準とし、初層の溶接による母材の溶け込みが十分得られるよう行う。

⑤：すみ肉断続溶接



5・7・3図

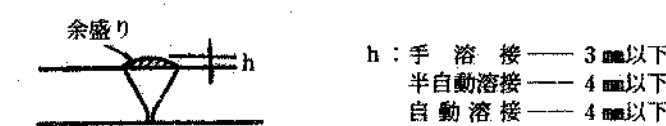
5・7・2表 裏あて金の寸法(mm)

溶 接 工 法	t
手 溶 接	6 以上
半 自 動 溶 接	9 以上
自 動 溶 接	12 以上

5・7・3表 溶接のサイズ(mm)

裏あて金の寸法	S
t ≤ 9	5
t > 9	9

- (3) 溶接部には最小の余盛りを行う。その高さは5・7・4図により緩やかに盛り上げる。



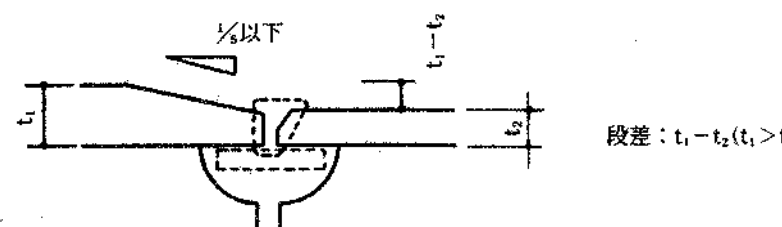
5・7・4図

- (4) T型継手及び角継手の場合は、5・7・5図により突き合わせる方の板厚の1/4以上のサイズのすみ肉を付加する。ただし、そのサイズが10mmを超える場合は10mmとする。



5・7・5図

- (5) 突合わせ部の表面に、板厚又は板幅の差により、わずかな段違いのある場合は、5・7・6図により表面の形が緩やかに移行するように余盛りをする。
- 段違いが、手溶接及び半自動溶接で4mmを超え、自動溶接で3mmを超える場合は、高い方を1/4以下の緩い勾配に削り、突合わせ部の表面をそろえる。ただし、半自動溶接で1形開先の場合は、3mmを限度とする。



5・7・6図

(6) 突合わせ溶接要領

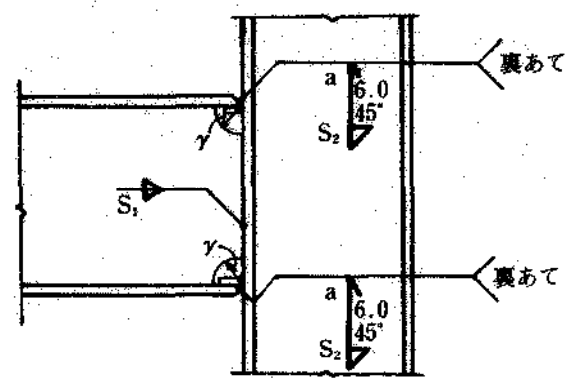
5・7・4表

a 裏あて金使用の場合	b 裏はつりして裏溶接をする場合

- ① 裏はつりは、健全な溶着部分があられるまではつる。
- ② 裏あて金は母材と密着させる。

5 溶接接合

・作 図 例



5・7・7図

溶接部	溶接方法	溶接長さ (mm)	溶接間隔 (mm)	溶接厚 (mm)
溶接部	溶接方法	溶接長さ (mm)	溶接間隔 (mm)	溶接厚 (mm)
$a=t-(0\sim3)$ mm	開先深さ	$S_1=5.5$ mm	ウェーブすみ肉溶接脚長	$t \leq 4$ 1mm
$S_2=$ mm	突き合せ溶接補強盛	$\gamma=25\sim35$ mm	スカーラップ寸法	$4 < t \leq 2$ 2
				$12 < t \leq 20$ 3
				$t > 20$ 4

(7) 突き合わせ溶接開先標準図 (アーク手溶接及びノンガスシールドアーク半自動溶接)

開先形状の選定にあたっては、溶接方法をきめた後、つぎの要領を標準として諸方法をきめる。

- ① 継手形式 突き合せ継手・T継手・角継手の別からきまる。
- ② 母材の板厚
- ③ 溶接姿勢 溶接工作上予想される姿勢を考慮する。
- ④ 片面溶接か両面溶接か接合部材の組立順序によって溶接作業が片面に限定される場合があるので注意を要する。

5・7・5表 突き合わせ継手(H)

(単位: mm)

H (アーク手溶接・ガスシールドアーク半自動溶接及び ノンガスシールドアーク半自動溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
$t \leq 6$		$t \leq 12$	
$6 < t \leq 19$		$12 < t \leq 22$	
$19 < t \leq 32$		$22 < t \leq 32$	

T形継手(T)

(単位: mm)

H (アーク手溶接・ガスシールドアーク半自動溶接及び ノンガスシールドアーク半自動溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
$t \leq 6$		$t \leq 12$	
$6 < t \leq 19$		$12 < t \leq 22$	
$19 < t \leq 32$		$22 < t \leq 32$	

$6 < t \leq 19$		$12 < t \leq 19$	
$19 < t \leq 32$		$19 < t \leq 32$	

かど継手(L)

(単位: mm)

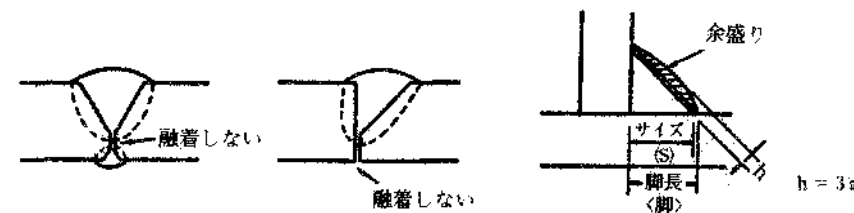
H (アーク手溶接・ガスシールドアーク半自動溶接及び ノンガスシールドアーク半自動溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
$t \leq 6$		$t \leq 12$	
$6 < t \leq 19$		$12 < t \leq 19$	
$19 < t \leq 32$		$19 < t \leq 32$	

(c) 部分溶込み溶接

- (1) 溶接部には、最小の余盛を行う。その高さは、上記(b)・(3)による。
- (2) 溶接は、所定の溶込みが得られるように、初層の溶接を確実に進行。

(d) すみ肉溶接

- (1) 溶接には、最小の余盛りを行う。その高さは、なるべく低くし3mm以下とする。

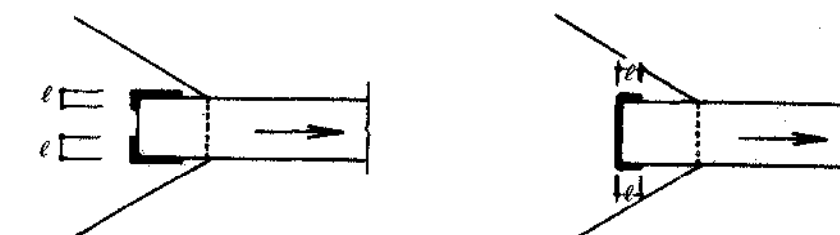


部分溶込み溶接 5・7・8図

余盛りの限度 5・7・9図

(2) すみ肉溶接のまわし溶接

- ・かど部で終わる場合にまわし溶接をする。



側面すみ肉溶接の場合

前面すみ肉溶接の場合

5・7・10図

(3) すみ肉溶接要領

(工作基準)

5・7・6表 すみ肉溶接(F)

(単位: mm)

t (片面溶接)	
$t \leq 16$	
t	6 9 12 16
s	5 7 9 12
2 (両面溶接)	
$t \leq 16$	$16 < t \leq 32$
t	6 9 12 16
s	5 7 9 12

(注) すみ肉溶接の長さ
設計図書に表す溶接長さの寸法は、有効長さとし、すみ肉のサイズの10倍以上とする。ただし、有効長さは、ビードの始点及びクレータを除いた部分の長さとする。

図2-7 すみ肉溶接の長さ

部分溶込み溶接(P)

(単位: mm)

t (片面溶接)		2 (両面溶接)	
$12 \leq t \leq 32$		$16 \leq t \leq 32$	
t	12 16 19 22 25 28 32	t	16 19 22 25 28 32
D	10 11 12 13 14 15	D	10 11 12 13 14 15

(注) 1. 溶接工法
原則として、アーク手溶接、ガスシールドアーク半自動溶接及びノンガスシールドアーク半自動溶接とする。
2. 片面溶接
原則として、開先をとり側にも補強すみ肉溶接を行う。(Sは補強すみ肉溶接のサイズ)

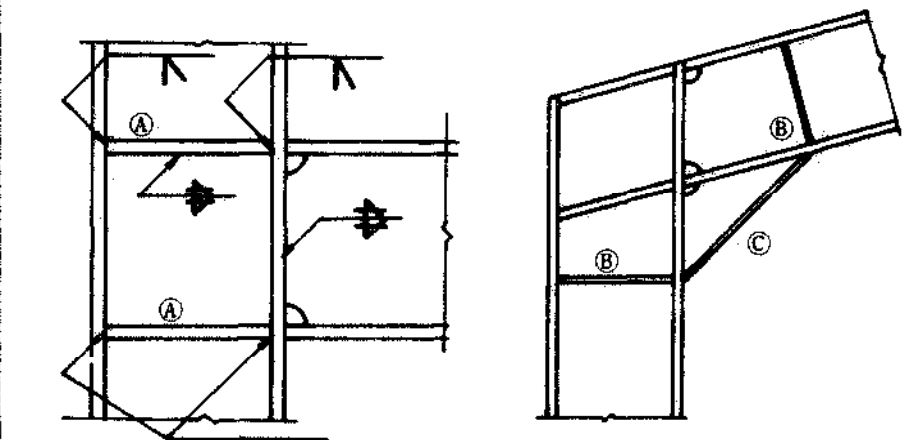
フレア溶接(F.L)

1 (片面溶接)	2 (両面溶接)

(注) 溶接工法
原則として、アーク手溶接、ガスシールドアーク半自動溶接及びノンガスシールドアーク半自動溶接とする。

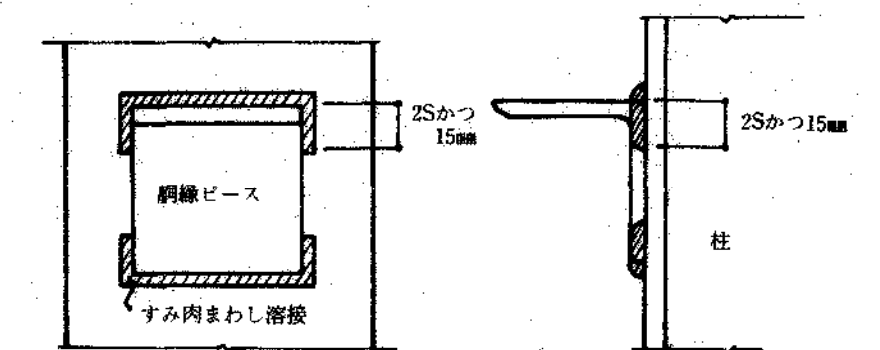
(e) ラーメン構造の溶接と補強スチフナー (柱と梁)

- ①の補強スチフナーは梁のフランジ厚さとする。 ②の補強スチフナーは③の厚さとする。



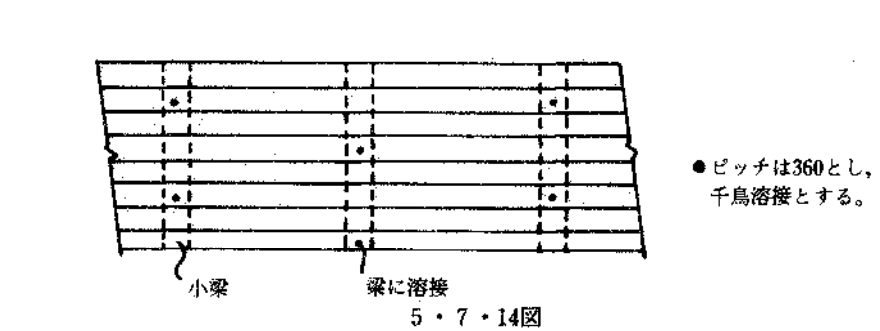
5・7・12図

(f) 鋼線受け溶接 (母屋受け含む)



5・7・13図

(g) デッキプレート (キーストンプレート) の溶接



5・7・14図

(h) 筋違の取付け

- 19φ以上の丸鋼筋違は使用しない。

5・7・9表

丸鋼筋違取付け部	アングル、H鋼筋違のG、P取付け部
閉きボルト	閉きボルト
G	P
K	K
L	L
2	2
ガウジング	ガウジング

5・7・10表

丸鋼筋違 (S.S.41)	断面積 (cm ²)	最大引張力 (短周期) (Tton)	短ザク	G.P.厚	高力ボルト (F10T)	中ボルト	溶接
13φ	1.33	2.00	F.B. 50×6	6	2-M16	2-M16	6 45
16φ	2.01	3.02	F.B. 50×6	6	2-M16	2-M20	6 55

(i) スタッド溶接

- (1) スタッド溶接はアークスタッド溶接の直接溶接とし、原則として下向き姿勢とする。
- (2) スタッド溶接用電源は原則として、専用電源とする。但し、必要な容量を十分確保できる場合は他の電源と併用することができる。
- (3) 施工に先立ち溶接条件を適切に設定する。溶接条件の設定は、午前と午後それぞれ作業開始前2本以上の試験スタッド溶接を行い定める。
- (4) スタッド溶接後の長さは、指定寸法±2mmとする。

⑧ 溶接完了後の検査

- (a) 溶接完了後、下記により検査を行い、検査成績書を監督員に提出して、承諾を受ける。
 - (1) ビード表面の整否、ピット、オーバラップ、アンダカット及びクレータの状態を確認して記録する。
 - (2) 溶着金属の寸法、スタッド溶接後の長さなどを測定し、要所について記録する。
 - (3) 割れの疑いのある場合には、JIS Z 2343(浸透探傷試験方法及び欠陥指示模様の等級分類)又はJIS G 0565(鉄鋼材料の磁粉探傷試験方法及び欠陥指示模様の等級分類)による試験を行う。
- (b) 上記(a)の検査終了後、監督員の検査を受ける。

⑨ 試験の種類

- ・超音波探傷試験 ・浸透試験 ・マクロ試験 ・放射線試験

⑩ 不良溶接の補正その他

(a) 不良溶接の補正

- (1) 溶接継手に、融合不良、溶込み不良、スラグ巻き込み、ピット、ブローホールなどの有害な欠陥のある場合は削り取り再溶接する。
- (2) 溶接継手に割れが入った場合は、原則として溶着金属を全長にわたり削り取り再溶接する。適切な検査により、割れの限界を明らかにした場合でも、割れの端から50mm以上を削り取り再溶接する。

- (3) アンダーカット、クレータのてん不足、溶着金属の大きさ不足、溶接の長さ不足などは補足する。
- (4) オーバーラップ、余盛りの過大などは削り取る。
- (5) 著しく外観の不良な場合は、修正する。
- (6) 超音波探傷試験又は放射線試験の結果が不合格の部分は、削り取って再溶接を行い、更に検査を行う。
- (b) 溶接により母材に割れが入った場合は、原則として母材を取替える。
- (c) 不良溶接の補正溶接棒の径は、4mm以下とする。
- (d) スタッド溶接部は、下記による。

- (1) 母材又はスタッド材軸部に深さ0.5mm以上のアンダーカットの発生したものは、隣接部に打直しを行う。
- なお、母材に生じたアンダーカットは、予熱して補正溶接を行う。
- (2) 仕上がりが寸法の不良なものは、不良スタッド材を5～10mm残して除去し、隣接部に打直しを行う。
- (3) 割れ又は折損したスタッド材は、原則として5～10mm残して除去し、隣接部に打直しを行う。

⑥ 塗装

① 素地ごしらえ

- (a) 種別、工法は6・1・1表による。

6・1・1表 鉄面の素地ごしらえ

工 程	種 別			塗 料	面 の 処 置	摘 要
	A種	B種	C種			
1 汚 れ、付着物除去	○	—	○	—	スクレーパ、ワイヤブラシなどで除去	—
2 油 類 除 去	○	—	—	—	揮発油ぶき、石けん水洗い又は弱アルカリ性液加熱処理湯洗い。水洗い。	—
3 さび落とし	○	—	—	—	揮発油ぶき。	放置せず次の工程に移る。
	—	○	—	—	酸づけ、中和、湯洗により除去。	
4 化学処理	○	—	—	—	プラスト法により除去。	—
	—	—	○	—	ディスクサンダ又はスクレーパ、ワイヤブラシ、研磨紙#100～180で除去。	
5 化学処理	○	—	—	—	りん酸塩処理	りん酸塩溶液に浸せき処理後湯洗い乾燥。

(注) A種の場合は工程4、B種の場合は工程3の後放置せず、ただちにショッププライマ塗りをを行い、次の工程に移る。但し、ショッププライマは上塗りに適したものとする。

- (b) 上記素地ごしらえ完了後は、社内検査を実施し、監督員に結果を報告する。

② さび止め塗料

- (a) さび止め塗料塗り

- (1) 塗装方法は、6・2・1表による。
- (2) 請負者は、塗装状態を確認し、カラー写真を添付し、監督員に報告する。

6・2・1表

場 所	回 数	工 法	時 期
工場塗料	1 回	スプレー塗り	組立て完了後
現場塗装	1 回	は け 塗 り	建て方完了し部分的補修塗り後

- (b) 鉄面さび止め塗料の種別

- (1) 塗料は下記を確認する。
- ① 品名、規格、数量、製造年月日密封状況等。
- ② 製造後1年以上経過したものは、使用しない。
- (2) さび止め塗料の種別は、6・2・2表による。

6・2・2表

種別	さび止め塗料その他				場 所
	規 格 番 号	規 格 名 称	規格種別	塗 付 量 (kg / m ²)	
下記のいずれかによる。					
A種	JIS K5622の規格品	鉛丹さび止めペイント	1 種	0.19	工 場
			2 種	0.14	現 場

B種	JIS K5628の規格品	鉛丹ジクロロメートさび止めペイント	2 種	0.10	工 場 現 場
C種	JIS K5621の規格品	一般用さび止めペイント	1 種	0.11	工 場 現 場

さび止め塗料の種別使用箇所6・2・3表

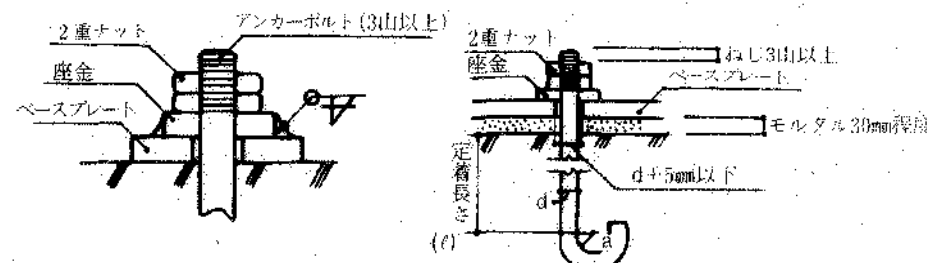
種 別	使 用 箇 所
A 種	屋外に露出する鉄面全て、構造上重要な場合
B、C種	上記以外

- (3) 鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリプで鉄骨に溶接されたものは、内面に(2)のさび止め塗料を塗布する。
- (4) 組立て後さび止め塗装が困難な箇所は、工場で、(b)による塗料を2回塗布する。
- 下記の部分は、塗装してはならない。
- コンクリートに埋込まれる部分 ○密閉される閉鎖断面の内面。
- 高力ボルト接合部の摩擦面。 ○その他塗装することが適切でない部分。
- ベースプレートの下面。

⑦ アンカーボルト

① 一般事項

- (a) アンカーボルトの芯出しは、型板を用いて基準墨に正しく合らし、適切な機器などで正確に行う。
- (b) ベースプレートのボルト穴の径は、ボルトの径に5mmを加えた大きさ以下とする。
- (c) ボルトは、2重ナット及び座金を用い、ボルトの先端は、ねじがナットの外に3山以上出るようにする。ただしコンクリートに埋込む場合は2重ナットにしないことができる。
- (d) アンカーボルト穴がずれた場合は、下図に示すような方法で特別な座金を付けて、溶接で固定する。
- (e) アンカーボルトにせん断力を負担させる場合は、下図を標準とする。



例：アンカーボルト長さℓ：600とは定着長さℓ₀の部分を用いる。

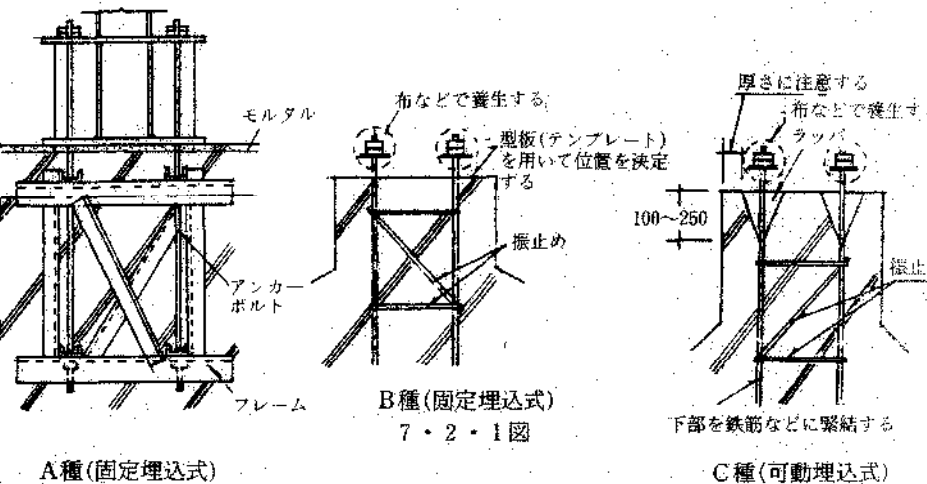
7・1・1図

② ボルトの保持及び埋込みの工法

種 別	保 持 及 び 埋 込 み 工 法
A 種	鋼板9×100(mm)程度のフレーム材を用いて、ボルトの上下を固定できるように、鉄筋などで補強して堅固に組立て、あらかじめ設計した支持材に固定して、コンクリートの打込みを行う。
B 種	ボルトを鉄筋などを用いて組立て、適切な補助材で型枠の類に固定し、コンクリートの打込みを行う。
C 種	ボルトを鉄筋などを用いて組立て、鉄板製漏斗状の筒でボルト頭部を包み、ボルトを据付けコンクリートを打込む。コンクリートが硬化した後筒を取除き、ボルトの位置を修正してモルタルを充てんする。

③ 養生

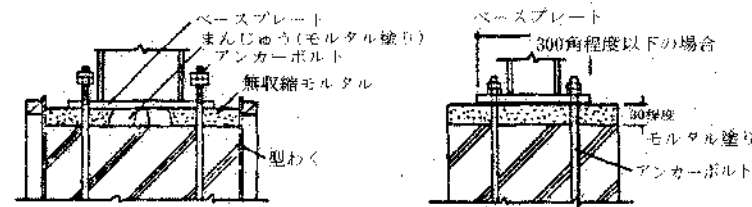
ボルトは、衝撃などにより有害な曲がりが生じないように取扱う。また、ねじ部の損傷さびの発生、汚損を防止するために、布、ビニールテープなどを巻いて養生する。



④ 柱底ならし仕上げ

- (a) ならしモルタルは、厚さ30mm程度とし、調合(容積比)は、セメント1：砂1とする。
- (b) コンクリートの表面は、レイタンスなどを取除いた後、目荒らしを行う。
- (c) 柱底モルタルを無収縮モルタルとする場合は、製造所の製品とし、その仕様により施工する。
- (d) ならしモルタルの工法は下記による。

種 別	工 法
A 種	柱の建込みに先立ち、その支持に必要な堅固なモルタルを、ベースプレートの中央下部に所要の高さに塗付け、柱の建込み後、ベースプレート回りに型枠を設けて、無収縮モルタルをベースプレートの周囲からあふれ出るまで圧入する。
B 種	上記にならない柱を建込み、ベースプレート下全面に十分行きわたるように、適切な方法でモルタルを詰め込む。但し、ベースプレートの大きさが、300mm角程度以下の場合は、モルタルを所要の高さに平滑に仕上げておき、柱を建込むことができる。



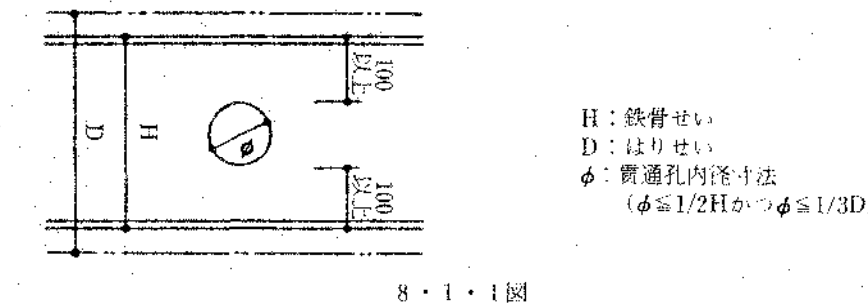
A種

B種

7・4・1図

⑧ 梁貫通孔の位置及び大きさ

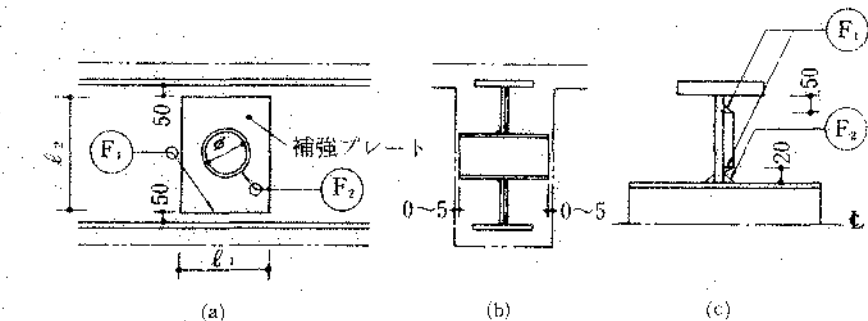
梁貫通孔の内法寸法は、鉄骨せいの1/2以下かつ、鉄筋コンクリートはりせいの1/2以下とする。貫通部分には、鋼管をスリーブとして溶接する。



8・1・1図

2 補強方法

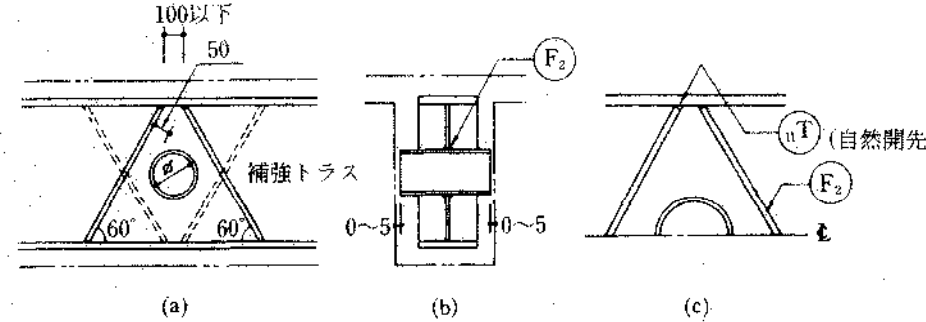
- (a) 補強プレート法



8・2・1図

- (注) 1. ℓ₁：3φ又はφ₀のうち小さい方とする。
2. 補強プレートが16mm以上となるものについては、必要な厚さの1/2の補強プレートを、ウェブ両面から溶接する。

- (b) 補強トラス法



8・2・2図

⑨ 準 備

- (a) 製品は、建て方順序に従って工事現場に搬入する。
- この際、必要に応じて、養生を行う。
- (b) 部材に曲がり、ねじれなどを生じた場合は、建て方に先立って修正する。

建て方

② 建て方

- (a) 仮ボルトは、本接合のボルトと同軸径のボルト(JIS B1180及びJIS B1181により、ほとんど損傷のないもの)を用い、締付け本数は、一群のボルト数の1/2以上かつ2本以上とする。
- なお、高力ボルト接合の場合の仮ボルト数は4、9(a)による。溶接接合の場合は、仮ボルト数の全数を締付けする。
- (b) 本接合に先立ち、ひずみを修正し、建て入れ検査を行い、検査記録を監督員に提出し、必要に応じて監督員の検査を受けて、承諾を受ける。

③ 安全管理

建て方に際しては、十分な能力を有する機器を用い、その設置、整備及び運転を正しく確実に行う。又、作業員の安全確保、関連施設の整備、周囲の作業の制限など災害防止に対して万全の処置をする。

⑩ 軽量形鋼構造

① 総 則

この節は、冷間成形された軽量形鋼を使用する鉄骨工事に適用し、下記以外は1章～9章による。

② 材 料

- (a) 鋼 材
- (1) 軽量形鋼は、JIS G3350(一般構造用軽量形鋼)のSSC41の規格品とし、規格証明書を監督員に提出して、承諾を受ける。
- (2) 丸鋼は、SS41の規格品とする。
- (3) JISの規格品以外のものは、原則として使用しない。
- (b) アーク溶接棒は、JIS Z3211(軟鋼用被覆アーク溶接棒)の規格品又はJIS Z3210(薄鋼板用被覆アーク溶接棒)による。溶接棒径と板厚との関係は10・2・1表を標準とする。

10・2・1表

溶接棒径と板厚との関係(mm)	
溶 接 棒 径	板 厚
φ3.2	2.3以上
φ2.6	2.3未満

すみ肉溶接サイズは、5・7・6表による。

③ 工 法

高力ボルト・普通ボルトのピッチ、ヘリあきなどは、3・1・2、2・2表による。

⑪ 鉄骨工事の精度

① 鉄骨工事精度標準

この標準は、一般の鉄骨の主要構造部の製作並びに建て方に際して、許容しうる寸法差の一般的な標準を定めたものである。

ただし、下記に示すものには適用しない。

- (1) 特に、精度を必要とする構造物あるいは構造物の部分
- (2) 軽微な構造物あるいは構造物の部分
- (3) 日本工業規格で定められた鋼材の寸法許容差
- (4) 監督員の認めた場合あるいは別に定めた場合

⑪ 鉄骨工事の精度

1.2.1 工作及び組立て

名 称	図	標準許容差
(1) 丁継手のすき間 (すみ肉溶接) e		$e \leq 5 \text{ mm}$ ただし、 e が 2 mm を超える場合はサイズを e だけ増加する。2 mm を超えるすき間は全長にわたってはならない。
(2) 重ね継手のすき間 e		$e \leq 2 \text{ mm}$
(3) 突合せ継手の食違い e		$t \leq 15 \text{ mm}$ $e \leq 1.5 \text{ mm}$ $15 \text{ mm} < t \leq 30 \text{ mm}$ $e \leq t/10$ $t \geq 30 \text{ mm}$ $e \leq 3 \text{ mm}$ (t は薄い材片の板厚)
(4) ルート間隔 (裏はつり) e		アーク手溶接 $0 < e \leq 4 \text{ mm}$ サブマージアーク溶接 $0 < e \leq 1 \text{ mm}$ ガスシールドアーク半自動溶接 $0 < e \leq 3 \text{ mm}$ セルフシールドアーク半自動溶接 $0 < e \leq 3 \text{ mm}$
(5) ルート間隔 (裏あて金付き) Δa		サブマージアーク溶接 $-2 \text{ mm} \leq \Delta a \leq +2 \text{ mm}$ アーク手溶接・ガスシールドアーク半自動溶接・セルフシールドアーク半自動溶接 $-2 \text{ mm} \leq \Delta a \leq +2 \text{ mm}$
(6) ルート面 Δa		セルフシールドアーク半自動溶接・アーク手溶接・ガスシールドアーク半自動溶接 裏あてあり $-2 \text{ mm} \leq \Delta a \leq +1 \text{ mm}$ 裏あてなし $-2 \text{ mm} \leq \Delta a \leq +2 \text{ mm}$ サブマージアーク溶接 $-2 \text{ mm} \leq \Delta a \leq +1 \text{ mm}$
(7) ベベル角度 Δa		$-2.5' \leq \Delta a$
(8) 開先角度 Δa		$-5' \leq \Delta a$
(9) ガス切断面のあらさ		開先内 200S 自由縁端 200S
(10) ガス切断面のノッチ深さ d		開先内 $d \leq 2 \text{ mm}$ 自由縁端 $d \leq 2 \text{ mm}$
(11) ガス切断による切断線の直角度 e/t		$e/t \leq 1/20$
(12) 仕口のずれ ダイヤフラムとフランジのずれ e (梁通し型の場合は B_1-C_1 、 C_1-B_2 に読みかえる)		$B' \geq C'$ の場合 $B' \leq 20$ のとき $e \leq B'/5$ $B' > 20$ のとき $e \leq 4$ $B' < C'$ の場合 $B' \leq 20$ のとき $e \leq B'/4$ $B' > 20$ のとき $e \leq 5$

1.2.2 高力ボルト

名 称	図	標準許容差
(1) 穴の心ずれ ΔL		$-1 \text{ mm} \leq \Delta L \leq +1 \text{ mm}$
(2) 穴間隔のずれ ΔP		$-1 \text{ mm} \leq \Delta P_1 \leq +1 \text{ mm}$ $-2 \text{ mm} \leq \Delta P_2 \leq +2 \text{ mm}$
(3) 穴の食違い e		$e \leq 1 \text{ mm}$
(4) 高力ボルト接合部のはださき e		$e \leq 1 \text{ mm}$

1.2.3 溶 接

名 称	図	標準許容差
(1) すみ肉溶接のサイズ ΔS		$0 \leq \Delta S \leq 3 \text{ mm}$
(2) すみ肉溶接の余盛の高さ Δa		$0 \leq \Delta a \leq 3 \text{ mm}$
(3) 突合せ溶接の余盛の高さ h		ビード幅 B 余盛高さ h $B < 15 \text{ mm}$ $h \leq 3 \text{ mm}$ $15 \text{ mm} \leq B < 25 \text{ mm}$ $h \leq 4 \text{ mm}$ $25 \text{ mm} \leq B$ $h \leq 4/25 B (\text{mm})$ かつ 0.5 mm 以上
(4) T形突合せ溶接継手の余盛の高さ e		$0 \leq e \leq 5 \text{ mm}$
(5) アングカッタ e		$e \leq t/20$ かつ $e \leq 0.5 \text{ mm}$
(6) ビード表面の不整 e		ビード表面の凹凸の高低差 e_1 は溶接の長さ 25 mm の範囲で 2.5 mm 以下。 ビード幅の不整 e_2 は溶接の長さ 150 mm の範囲で 5 mm 以下。
(7) ビット		完全溶込み溶接継手の場合には、あってはならない。 部分溶込み溶接・すみ肉溶接継手の場合は、溶接長さが 1 m 以下のときは 1 継手 3 個以下とし、1 m を超えるときは、1 m につき 3 個までを許容する。
(8) スタッド溶接後の仕上がり高さ ΔL		$-2 \text{ mm} \leq \Delta L \leq +2 \text{ mm}$ (基準許容差)

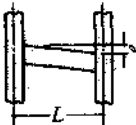
1.2.4 製 品

名 称	図	標準許容差
(1) はりの長さ ΔL		$-3 \text{ mm} \leq \Delta L \leq +3 \text{ mm}$
(2) 柱の長さ ΔL		$L < 10 \text{ m}$ $-3 \text{ mm} \leq \Delta L \leq +3 \text{ mm}$ $L \geq 10 \text{ m}$ $-4 \text{ mm} \leq \Delta L \leq +4 \text{ mm}$
(3) 階高 ΔL		$-3 \text{ mm} \leq \Delta L_1 \leq +3 \text{ mm}$ $-3 \text{ mm} \leq \Delta L_2 \leq +3 \text{ mm}$ $-3 \text{ mm} \leq \Delta L_3 \leq +3 \text{ mm}$
(4) はりの曲り e		$e \leq \frac{L}{1000}$ かつ $e \leq 10 \text{ mm}$
(5) 柱の曲り e		$e \leq \frac{L}{1500}$ かつ $e \leq 5 \text{ mm}$
(6) せい ΔH		$H \leq 400 \text{ mm}$ $-2 \text{ mm} \leq \Delta H \leq +2 \text{ mm}$ $400 \text{ mm} < H < 800 \text{ mm}$ $-H/200 \leq \Delta H \leq +H/200$ $H \geq 800 \text{ mm}$ $-4 \text{ mm} \leq \Delta H \leq +4 \text{ mm}$ (基準許容差)
(7) 幅 ΔB		$-3 \text{ mm} \leq \Delta B \leq +3 \text{ mm}$ (基準許容差)
(8) 接合部のフランジの傾斜 e		$e \leq \frac{B}{100}$ かつ $e \leq 3 \text{ mm}$
(9) 接合部のフランジの折れ e		$e \leq b/100$ かつ $e \leq 1.5 \text{ mm}$
(10) 心ずれ e		$e \leq 2 \text{ mm}$
(11) ウェブの曲り e		$e_1 \leq H/150$ $e_2 \leq B/150$ ただし、 $t \leq 6$ には適用しない。

名 称	図	標準許容差
(12) 仕口部の角度 e		$e_1, e_2 \leq \frac{L}{300}$ かつ $e_1, e_2 \leq 3 \text{ mm}$
(13) 仕口部の長さ ΔL		$-3 \text{ mm} \leq \Delta L \leq +3 \text{ mm}$
(14) 柱のねじれ δ		$\delta \leq \frac{6H}{1000}$
(15) メタルタッチ e		$e \leq \frac{1.5D}{1000}$

1.2.5 工 事 場

名 称	図	標準許容差
(1) 建物の倒れ e		$e \leq H/2500 + 10 \text{ mm}$ かつ $e \leq 50 \text{ mm}$ (基準許容差)
(2) 建物のわん曲 e		$e \leq L/2500$ かつ $e \leq 25 \text{ mm}$ (基準許容差)
(3) 柱すえ付け面の高さ及びアンカーボルトの位置 e		基準高さよりの誤差は $\pm 3 \text{ mm}$ 以下 $-1 \text{ mm} \leq e_1 \leq +1 \text{ mm}$ $-3 \text{ mm} \leq e_2 \leq +3 \text{ mm}$

名 称	図	標 準 許 容 差
(4) 階 高 ΔH		$-5\text{mm} \leq \Delta H \leq +5\text{mm}$
(5) はりの水平度 e		$e \leq L/1000 + 3\text{mm}$ かつ $e \leq 10\text{mm}$
(6) 柱の倒れ e		$e \leq \frac{H}{1000}$ かつ $e \leq 10\text{mm}$

⑫ 高力ボルト締付結果報告書（作成例）

※ 製作所による社内検査結果の様式がある場合は、監督員の承諾を受けて作成する。

高力ボルト締付結果報告書 No.1

工 事 名

工 事 場 所

工 期 年 月 日 ~ 年 月 日

請 負 者

(現場代理人の検査確認印)

製 作 所

1. 検査年月日 年 月 日 天候 №2

2. 使用器具

締付	インパクトレンチ	型
検査	トルクレンチ	型

3. 使用ハイテンションボルト

製	造
等	級
サ	イ
イ	ズ

4. ハイテンションボルト検査成績書 別紙による。

5. キープラン

梁伏図

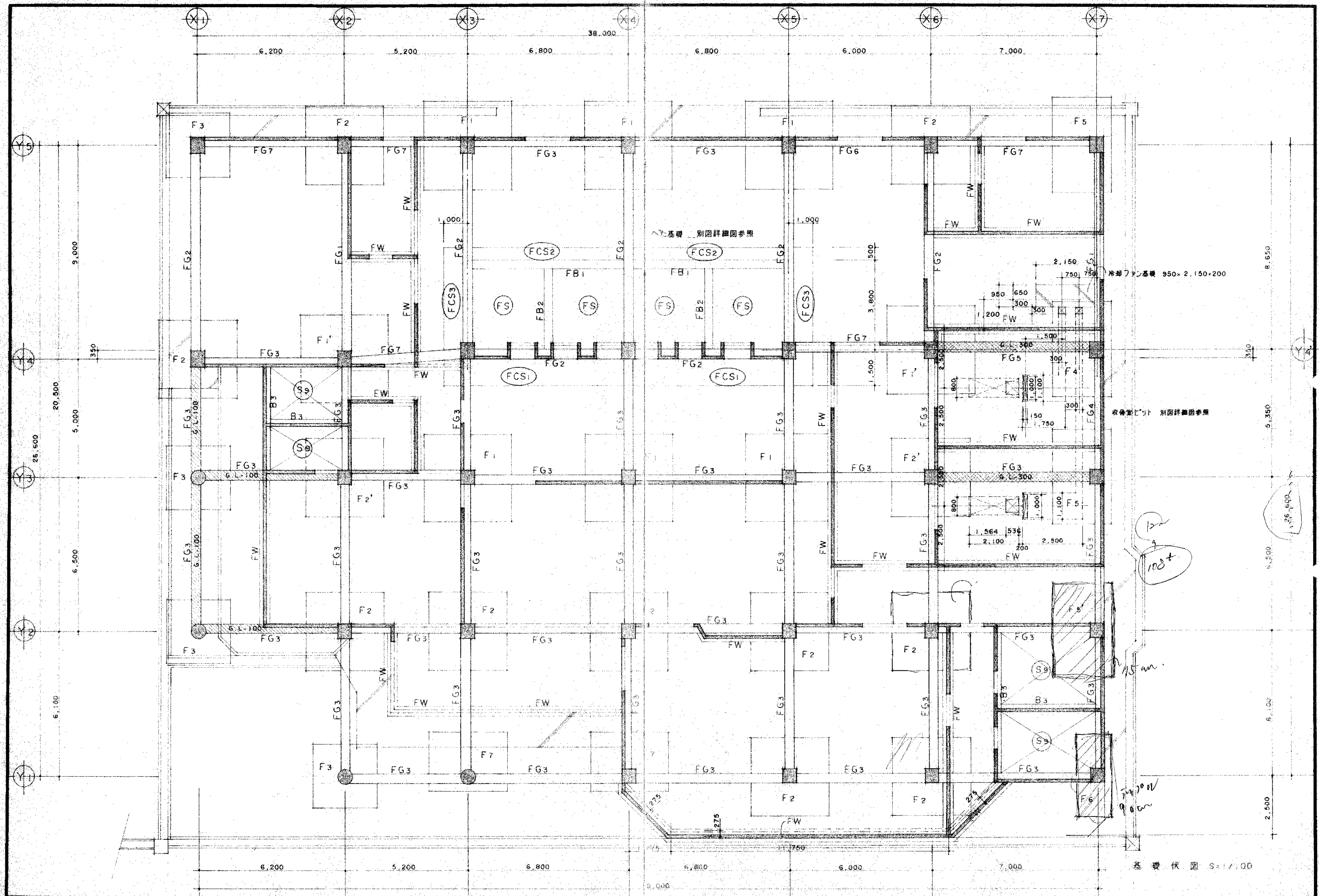
No 3

6. 締付記号図

7. トルク値検査結果表										No. 5	
通 り 番 号		① 通 り				② 通 り					
H・T・B等級		F 10 T				F 10 T					
H・T・B呼び		M16 (20, 22, 24)				M16 (20, 22, 24)					
トルク係数		0.17				0.17					
箇所		A		B		A		B			
		上	下	上	下	上	下	上	下		
トルク値	フランジ	1									
		2									
		3									
		4									
		1'									
		2'									
		3'									
		4'									
(tan)	ウェーブ	1									
		2									
		3									
		4									

※ 製作所による社内検査結果の様式がある場合は、監督員の承諾を受けて作成する。

[illegible]



会津若松市斎場新築

工事設計図

No

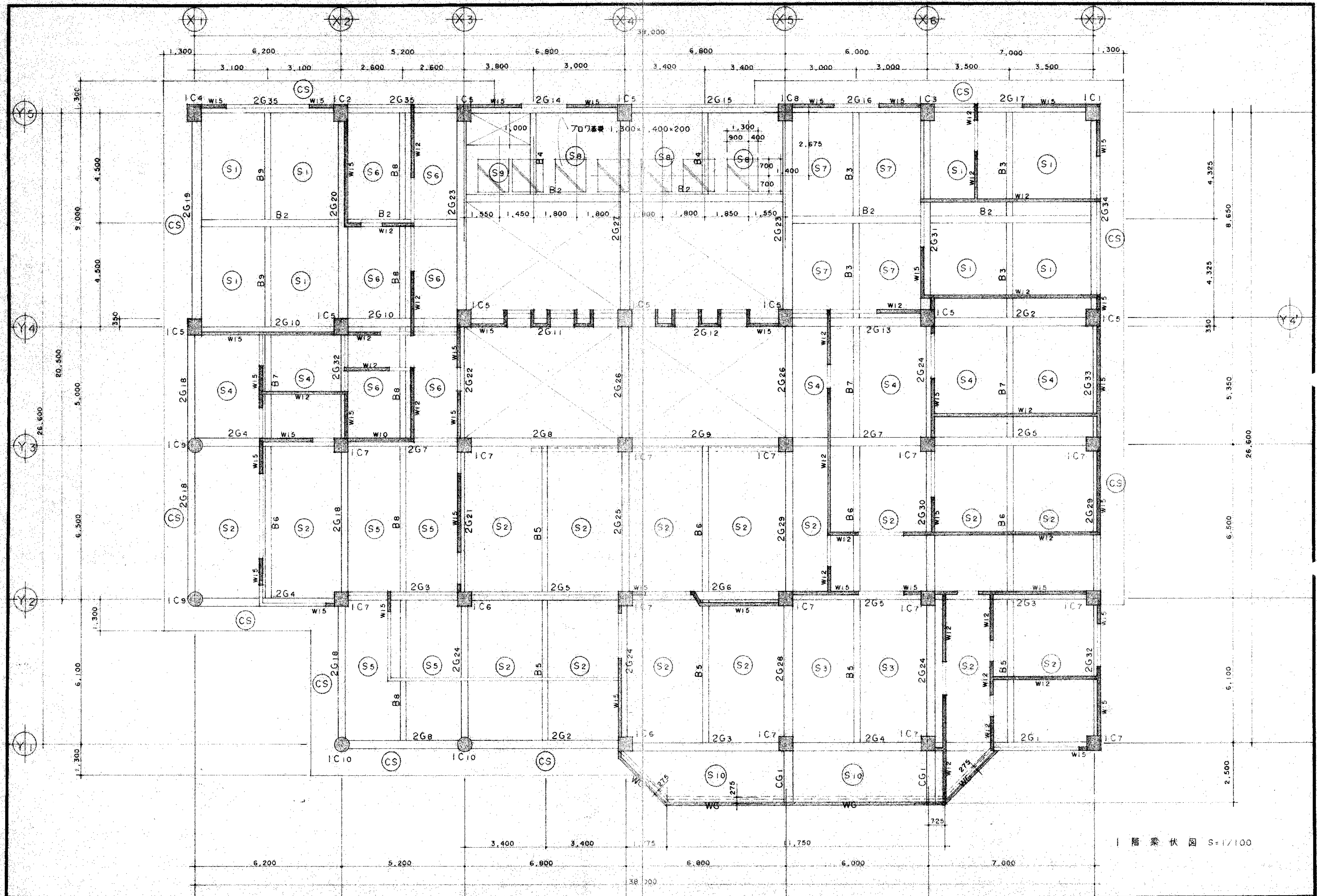
製
図

図
新

基礎伏図

S=1/100

S-13



1階 梁伏図 S=1/100

会津若松市立市場新築

工事設計図

No.

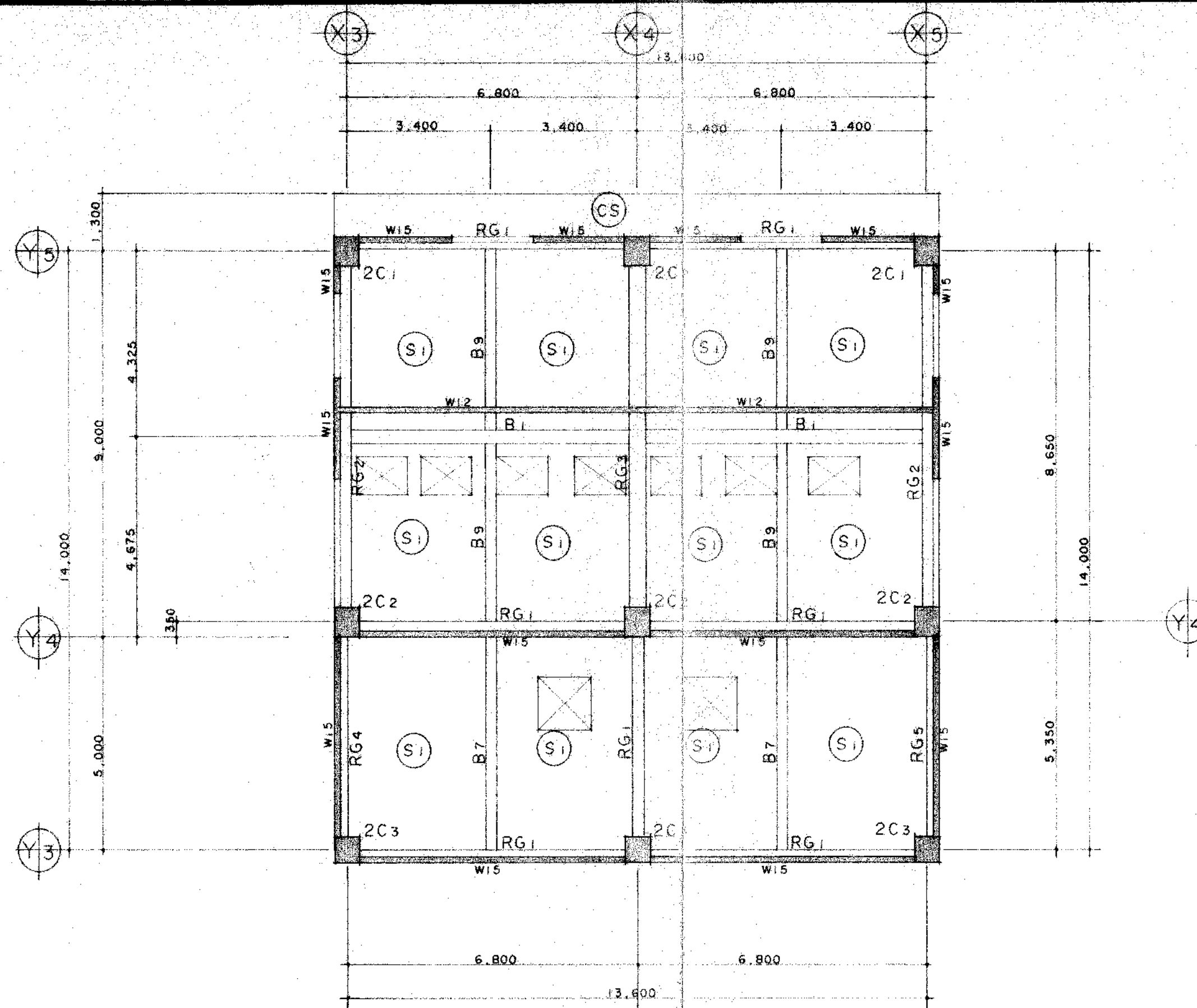
S-14

製図

図面

1階 梁伏図

S=1/100



2 階 梁 伏 図 S=1/100

S = 1 / 30

8-16/

記 号	2G1			2G2			2G3			2G4		2G5		2G6		
計算書記号	A-2G6			A-2G3, D-2G6			A-2G4, B-2G6, B-2G2			A-2G5, B-2G1, C-2G1		B-2G3, C-2G6, B-2G5		B-2G4		
寸 法	350×700			350×700			350×700			350×700		350×700		350×700		
部 位	外 端	中 央	内 端	X3, X6, Y3, 外端	中 央	X4, X5, Y4, 内端	X4, X2, 内端	中 央	X5, X3, 外端	両 端	中 央	両 端	中 央	X4	中 央	X5
断面図																
上 筋	4-D25	2-D25	2-D25	4-D25	2-D25	3-D25	4-D25	2-D25	3-D25	3-D25	2-D25	4-D25	2-D25	5-D25	2-D25	4-D25
下 筋	2-D25	3-D25	2-D25	2-D25	3-D25	2-D25	2-D25	3-D25	2-D25	2-D25	3-D25	2-D25	4-D25	3-D25	4-D25	3-D25
S. T. P	D10 ~ 200°			D10 ~ 200°			D10 ~ 200°			D10 ~ 200°		D10 ~ 200°		D10 ~ 200°		
腹 筋	2-D10			2-D10			2-D10			2-D10		2-D10		2-D10		
巾止筋	D10 ~ 1,000°			D10 ~ 1,000°			D10 ~ 1,000°			D10 ~ 1,000°		D10 ~ 1,000°		D10 ~ 1,000°		

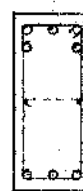
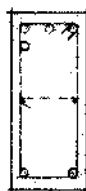
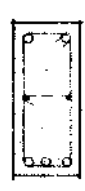
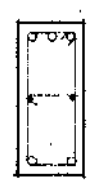
記 号	RG1, 2G26		2G7			2G8		2G9		2G10		2G11		RG5			
計算書記号	C-3G3, 4, D-3G3, 4, E-3G3, 4 4-2, 3Gc, 5-2Gc		C-2G2, 5			A-2G2, C-2G3		C-2G4, D-2G4		D-2G1, D-2G2		D-2G3		5-3Gc			
寸 法	300×600		350×700			350×700		350×700		350×700		350×700		300×600			
部 位	全 断 面		X2, X6	中 央	X3, X5	全 断 面		X4, 内端, 中央	X5, 外端	外端, X3	中 央	内端, X2	X3	中 央	X4	Y3, 中央	Y4
断面図																	
上 筋	2-D25		5-D25	3-D25	2-D25	2-D25		2-D25	3-D25	2-D25	3-D25	5-D25	4-D25	2-D25	2-D25	3-D25	6-D25
下 筋	2-D25		3-D25	3-D25	2-D25	2-D25		2-D25	2-D25	3-D25	3-D25	4-D25	4-D25	2-D25	3-D25	3-D25	6-D25
S. T. P	D10 ~ 200°		D10 ~ 200°			D10 ~ 200°		D10 ~ 200°		D13 ~ 200°		D10 ~ 200°		D10 ~ 200°			
腹 筋	2-D10		2-D10			2-D10		2-D10		2-D10		2-D10		2-D10			
巾止筋	D10 ~ 1,000°		D10 ~ 1,000°			D10 ~ 1,000°		D10 ~ 1,000°		D10 ~ 1,000°		D10 ~ 1,000°		D10 ~ 1,000°			

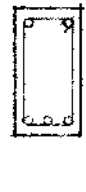
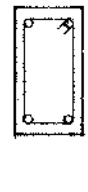
記 号	2G12			2G13			2G14			2G15			2G16			2G17		
計算書記号	D-2G4			D-2G5			E-2G4			E-2G4			E-2G5			E-2G6		
寸 法	350×700			350×700			350×900			350×900			350×700			350×700		
部 位	X4	中 央	X5	X5	中 央	X6	両 端	中 央	X4	中 央	X5	X5	中央	X6	内 端	中 央	外 端	
断面図																		
上 筋	2-D25	2-D25	5-D25	2-D25	2-D25	5-D25	3-D25	2-D25	3-D25	2-D25	3-D25	2-D25	2-D25	7-D25	3-D25	2-D25	7-D25	
下 筋	3-D25	2-D25	2-D25	2-D25	3-D25	5-D25	2-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	4-D25	3-D25	7-D25	2-D25	2-D25	7-D25	
S. T. P	D10 ~ 200°			D10 ~ 200°			D10 ~ 200°			D10 ~ 200°			D10 ~ 150°			D10 ~ 100°		
腹 筋	2-D10			2-D10			4-D10			4-D10			2-D10			2-D10		
巾止筋	D10 ~ 1,000°			D10 ~ 1,000°			2-D10 ~ 1,000°			2-D10 ~ 1,000°			D10 ~ 1,000°			D10 ~ 1,000°		

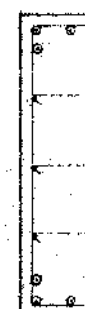
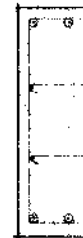
記 号	2G18		2G19		2G20		RG2			2G21			2G22			RG4		
計算書記号	1-2G8.c, 2-2GA.8		1-2G9		2-2G9		3-3G9, 5-3G9			3-2G8			3-2Gc			3-3Gc		
寸 法	300×600		400×1,000		400×1,000		400×900			350×700			300×600			300×600		
部 位	両 端	中 央	両 端	中 央	両 端	中 央	内 端	中 央	外 端	Y2	中 央	Y3	Y3	中 央	Y4	Y3	中 央	Y4
断 面 図																		
上 筋	4-D25	2-D25	4-D25	2-D25	5-D25	3-D25	3-D25	2-D25	5-D25	5-D25	2-D25	3-D25	4-D25	2-D25	6-D25	2-D25	3-D25	5-D25
下 筋	2-D25	2-D25	2-D25	5-D25	2-D25	5-D25	2-D25	3-D25	2-D25	3-D25	2-D25	3-D25	4-D25	2-D25	5-D25	2-D25	3-D25	5-D25
S. T. P	D10 ~ 150°		D10 ~ 150°		D10 ~ 150°		D10 ~ 150°			D10 ~ 150°			D13 ~ 200°			D10 ~ 200°		
腹 筋	2-D10		4-D10		4-D10		4-D10			2-D10			2-D10			2-D10		
中 止 筋	D10 ~ 1,000°		2-D10 ~ 1,000°		2-D10 ~ 1,000°		2-D10 ~ 1,000°			D10 ~ 1,000°			D10 ~ 1,000°			D10 ~ 1,000°		

記 号	2G23		RG3		2G24		2G25			2G27			2G28				
計算書記号	3-2G9, 5-2G9		4-3G9		3-2GA, 4-2GA, 6-2GA.c		4-2G8			4-2G9			5-2GA				
寸 法	400×1,200		400×1,000		350×700		300×600			400×1,000			350×700				
部 位	Y4	中 央	Y5	内 端	中 央	外 端	外 端	中 央, 内端	Y2	中 央	Y3	内 端	中 央	外 端	外 端	中 央, 内端	
断 面 図																	
上 筋	3-D25	3-D25	6-D25	4-D25	2-D25	4-D25	4-D25	2-D25	4-D25	2-D25	3-D25	3-D25	2-D25	5-D25	4-D25	2-D25	
下 筋	2-D25	5-D25	3-D25	2-D25	4-D25	2-D25	2-D25	2-D25	3-D25	2-D25	2-D25	2-D25	4-D25	2-D25	3-D25	2-D25	
S. T. P	D10 ~ 150°		D10 ~ 150°		D10 ~ 150°		D10 ~ 200°			D10 ~ 200°			D10 ~ 150°			D10 ~ 200°	
腹 筋	6-D10		4-D10		2-D10		2-D10			4-D10			2-D10				
中 止 筋	3-D10 ~ 1,000°		2-D10 ~ 1,000°		D10 ~ 1,000°		D10 ~ 1,000°			2-D10 ~ 1,000°			D10 ~ 1,000°				

記 号	2G29		2G30		2G31		2G32		2G33			2G34			2G35	
計算書記号	5-2G8, 7-2G8		6-2G8		6-2G9		7-2G9, 2-2Gc		7-2Gc			7-2G9			E2G1.2	
寸 法	300×600		350×700		400×1,000		300×600		300×600			400×1,000			350×700	
部 位	両 端	中 央	両 端	中 央	両 端	中 央	外端, 中央, Y4	内端, Y3	Y3	中 央	Y4	Y4	中 央	Y5	外端, 中央, X3	内端, X2
断 面 図																
上 筋	3-D25	2-D25	3-D25	2-D25	4-D25	3-D25	3-D25	4-D25	5-D25	2-D25	6-D25	4-D25	2-D25	5-D25	3-D25	5-D25
下 筋	2-D25	3-D25	2-D25	2-D25	2-D25	6-D25	2-D25	2-D25	4-D25	2-D25	6-D25	2-D25	4-D25	2-D25	3-D25	5-D25
S. T. P	D13 ~ 200°		D10 ~ 200°		D10 ~ 150°		D13 ~ 100°		D13 ~ 100°			D10 ~ 150°			D13 ~ 150°	
腹 筋	2-D10		2-D10		4-D10		2-D10		2-D10			4-D10			2-D10	
中 止 筋	D10 ~ 1,000°		D10 ~ 1,000°		2-D10 ~ 1,000°		D10 ~ 1,000°		D10 ~ 1,000°			2-D10 ~ 1,000°			D10 ~ 1,000°	

記 号	B1			B2			B3		B4			B5			B6	
計算書記号	RB1			B3			B7		B6			B4			B4	
寸 法	300×700			300×700			300×500		300×400			250×600			250×600	
部 位	外 端	中 央	内 端	外 端	中 央	内 端	両 端	中 央	両 端	中 央	外 端	中 央	内 端	両 端	中 央	
断面図																
上 筋	3-D22	2-D22	5-D22	2-D22	2-D22	4-D22	3-D22	2-D22	2-D19	2-D19	3-D22	2-D22	4-D22	3-D22	2-D22	
下 筋	2-D22	4-D22	3-D22	2-D22	4-D22	2-D22	2-D22	3-D22	2-D19	3-D19	2-D22	3-D22	2-D22	2-D22	3-D22	
S. T. P	D10 ~ 200°			D10 ~ 200°			D10 ~ 200°		D10 ~ 200°			D10 ~ 200°			D10 ~ 200°	
腹 筋	2-D10			2-D10								2-D10			2-D10	
巾止筋	D10 ~ 1,000°			D10 ~ 1,000°								D10 ~ 1,000°			D10 ~ 1,000°	

記 号	B7		B8			B9		CG1		WG		FB1			FB2	
計算書記号	B2, B5		B5			B2		CG		壁 梁		FB1			FB2	
寸 法	250×500		250×500			250×500		350×900		180×1,500		350×1,500			350×1,500	
部 位	両 端	中 央	外 端	中 央	内 端	全 断 面		全 断 面		両 端	中 央	外 端	中 央	内 端	両 端	中 央
断面図																
上 筋	3-D22	2-D22	2-D22	2-D22	4-D22	2-D22		5-D25		4-D13	2-D13	3-D25	2-D25	3-D25	3-D25	2-D25
下 筋	2-D22	3-D22	2-D22	3-D22	2-D22	2-D22		4-D25		2-D13	3-D13	2-D25	4-D25	3-D25	2-D25	3-D25
S. T. P	D10 ~ 200°		D10 ~ 200°			D10 ~ 200°		D10 ~ 150°		D10 ~ 250°		D10 ~ 150°			D10 ~ 150°	
腹 筋								4-D10		12-D13		6-D10			6-D10	
巾止筋								2-D10 ~ 1,000°		6-D10 ~ 1,000°		3-D10 ~ 1,000°			3-D10 ~ 1,000°	

記 号	FG1		FG2		FG3		FG4		FG5		FG6		FG7	
計算書記号	7-1G0, 2-1G0		D-1G3, 4, 1-1G0, 3-6-1G0		A-1G2, 6-B-1G1, 5-C-1G1, 6-D-1G1, E-1G3, 4, 1-1G0, 2-6-1G0-C, 7-1G0-A		7-1G0		D-1G6		E-1G5		E-1G1, 2, E-1G6, D-1G2, 5	
寸 法	400×1,200		400×1,200		400×900		400×900		400×900		400×900		400×900	
部 位	内端, 中央	外 端	全 断 面		全 断 面		Y3	中央, Y4	両 端	中 央	X5,	中央, X6	X1, X3, X6, 中央	X2, X7, X5
断面図														
上 筋	3-D25	5-D25	5-D25		3-D25		5-D25	3-D25	4-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	
下 筋	3-D25	3-D25	5-D25		3-D25		3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	4-D25	3-D25	3-D25	3-D25
S. T. P	D10 ~ 150°		D10 ~ 150°		D10 ~ 150°		D10 ~ 150°		D10 ~ 150°		D10 ~ 150°		D10 ~ 150°	
腹 筋	6-D10		6-D10		4-D10		4-D10		4-D10		4-D10		4-D10	
巾止筋	3-D10 ~ 1,000°		3-D10 ~ 1,000°		2-D10 ~ 1,000°		2-D10 ~ 1,000°		2-D10 ~ 1,000°		2-D10 ~ 1,000°		2-D10 ~ 1,000°	

会津若松市斎場新築

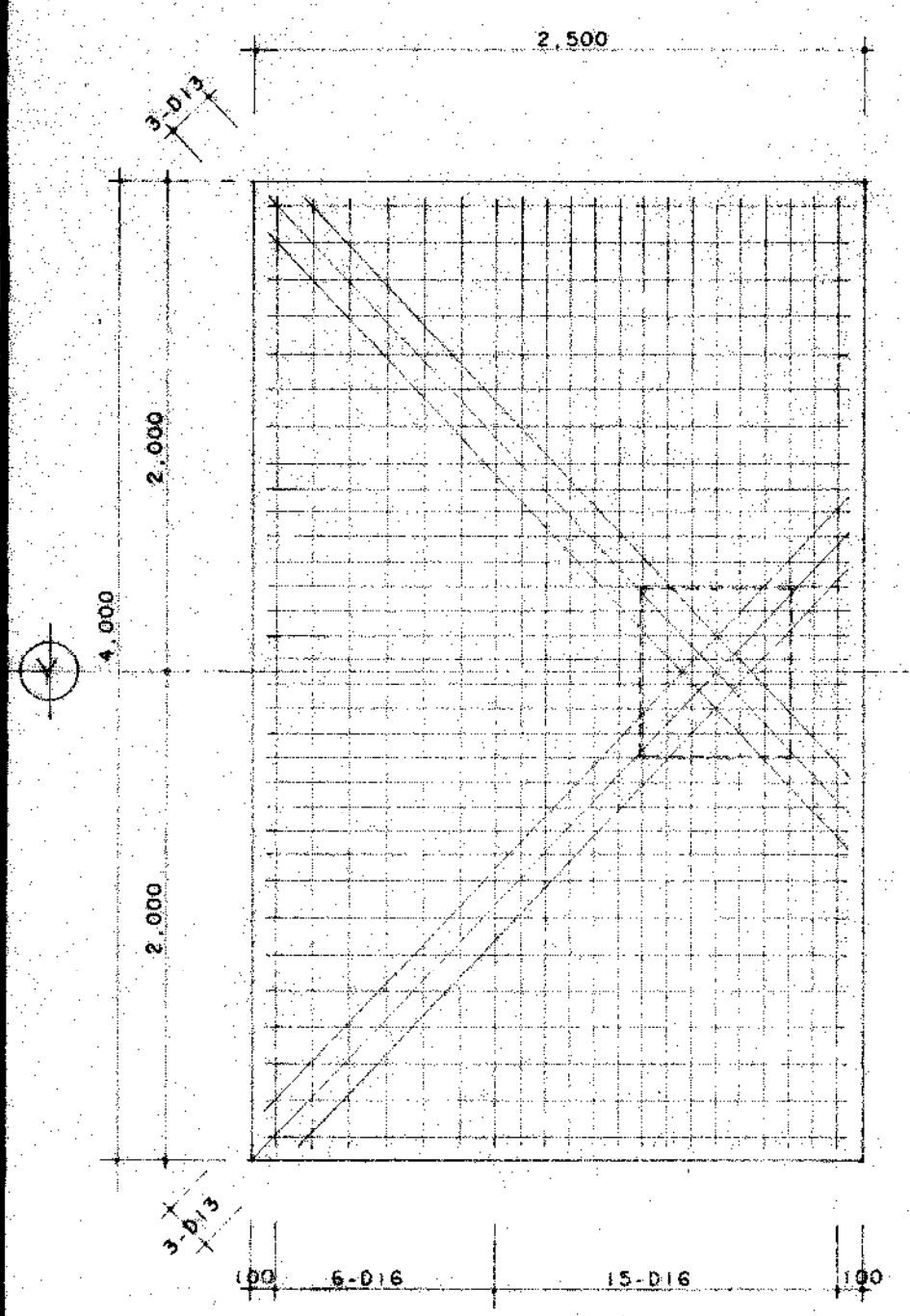
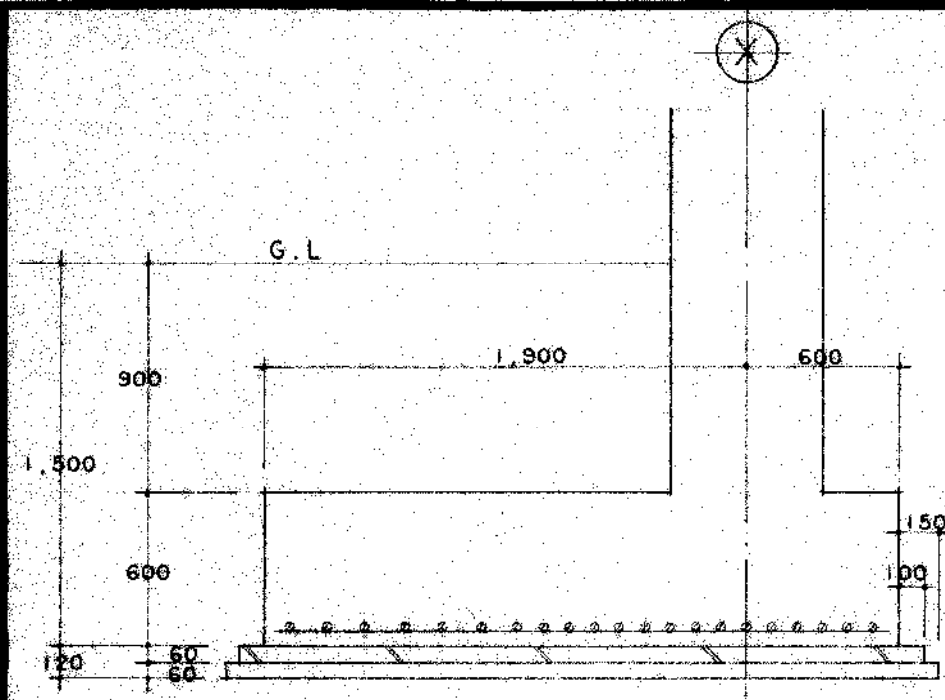
工事設計図

製図

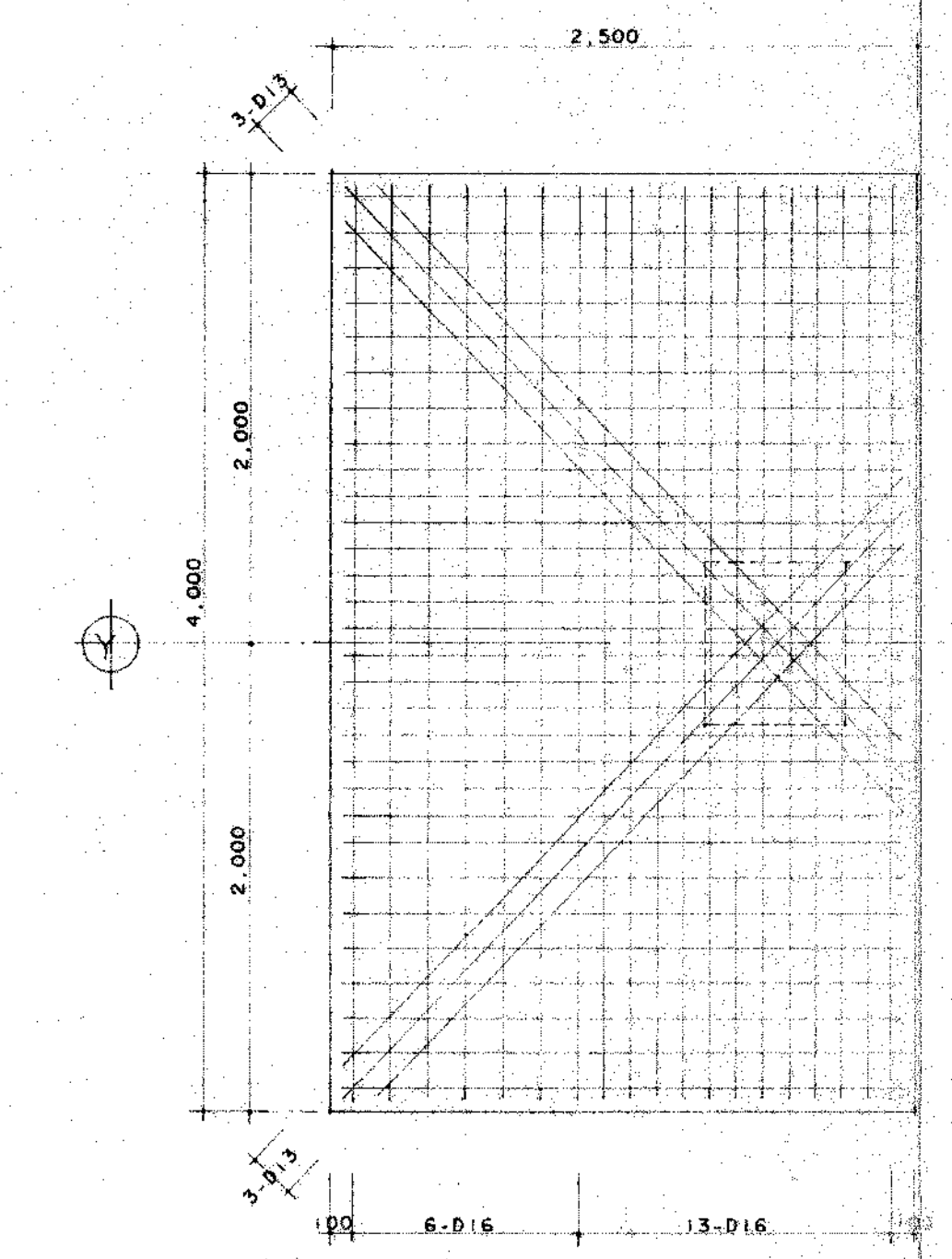
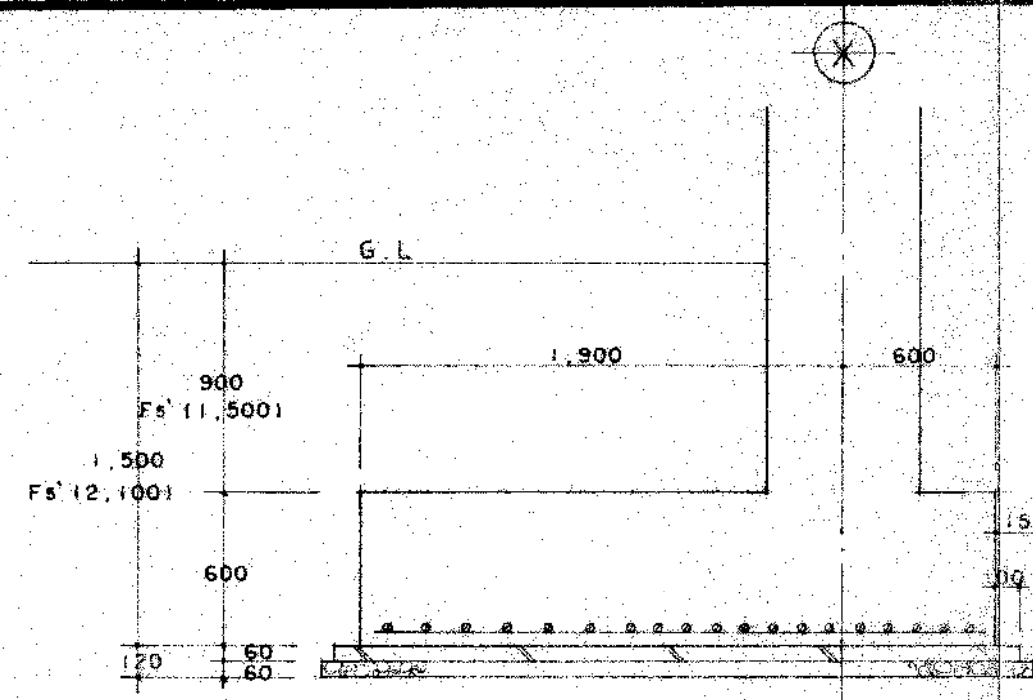
図 梁 配筋リスト (3)

S=1/30

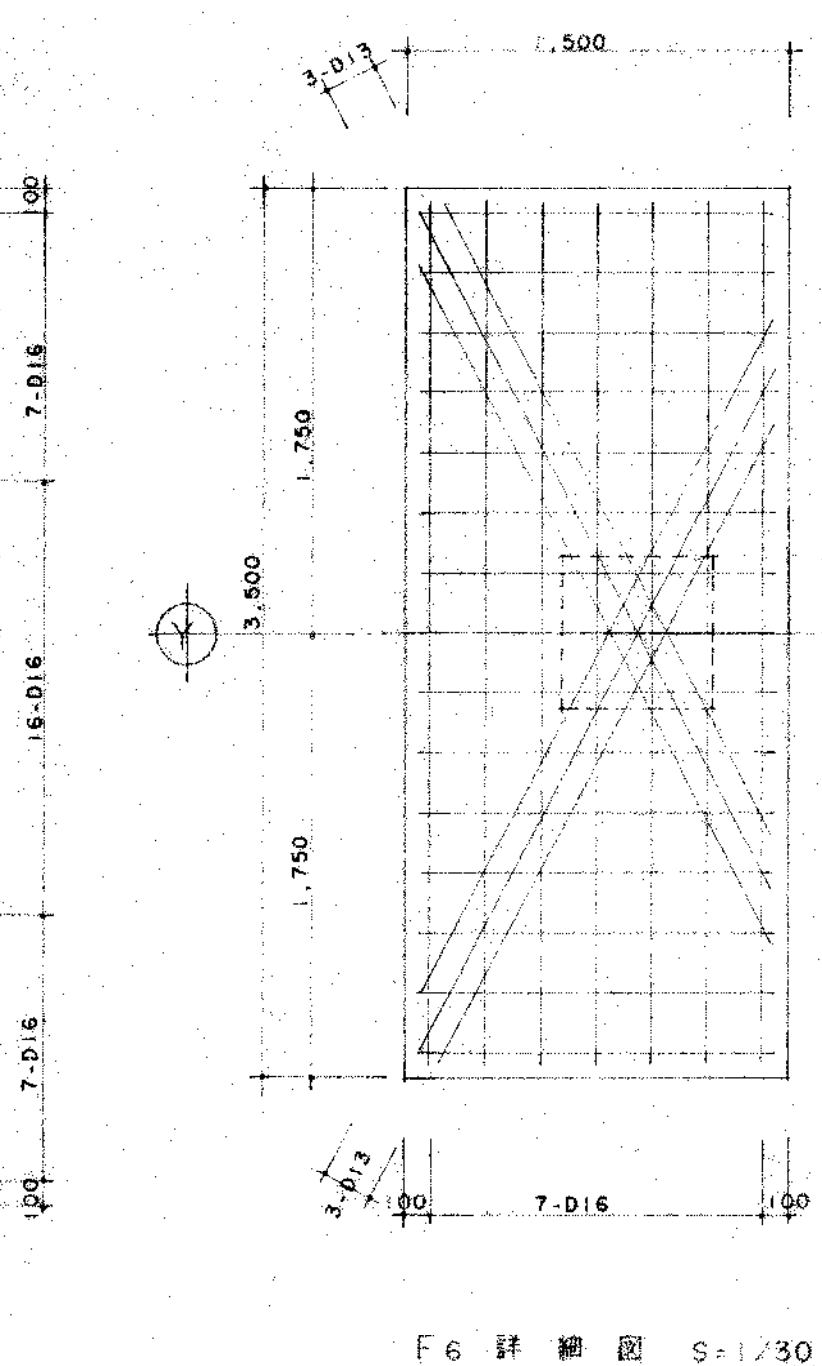
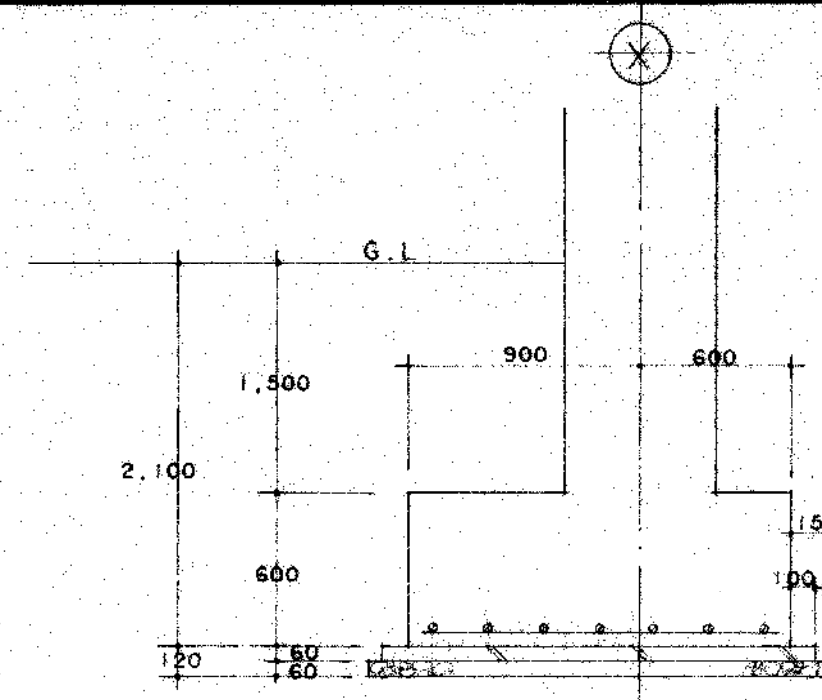
No S-19



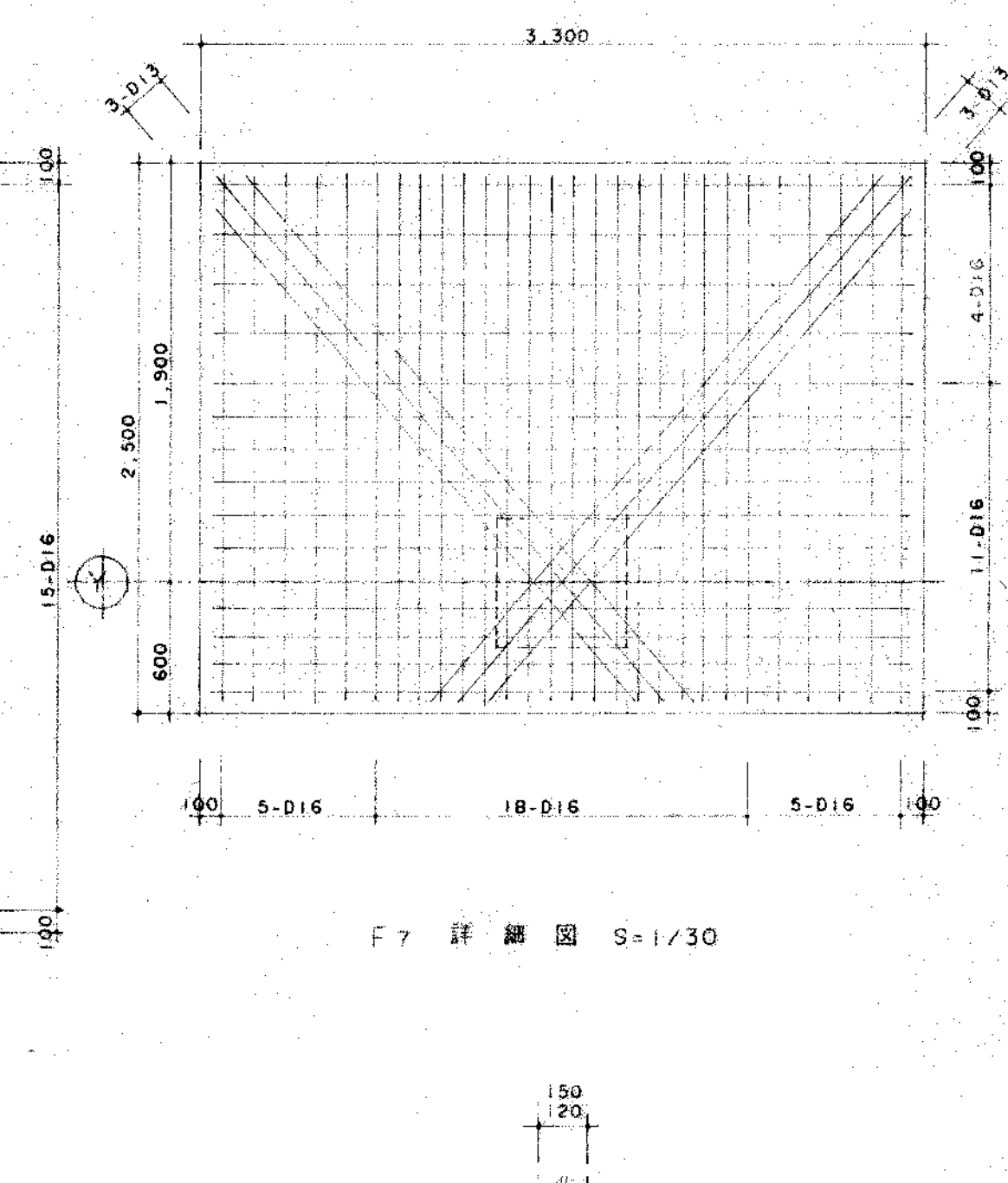
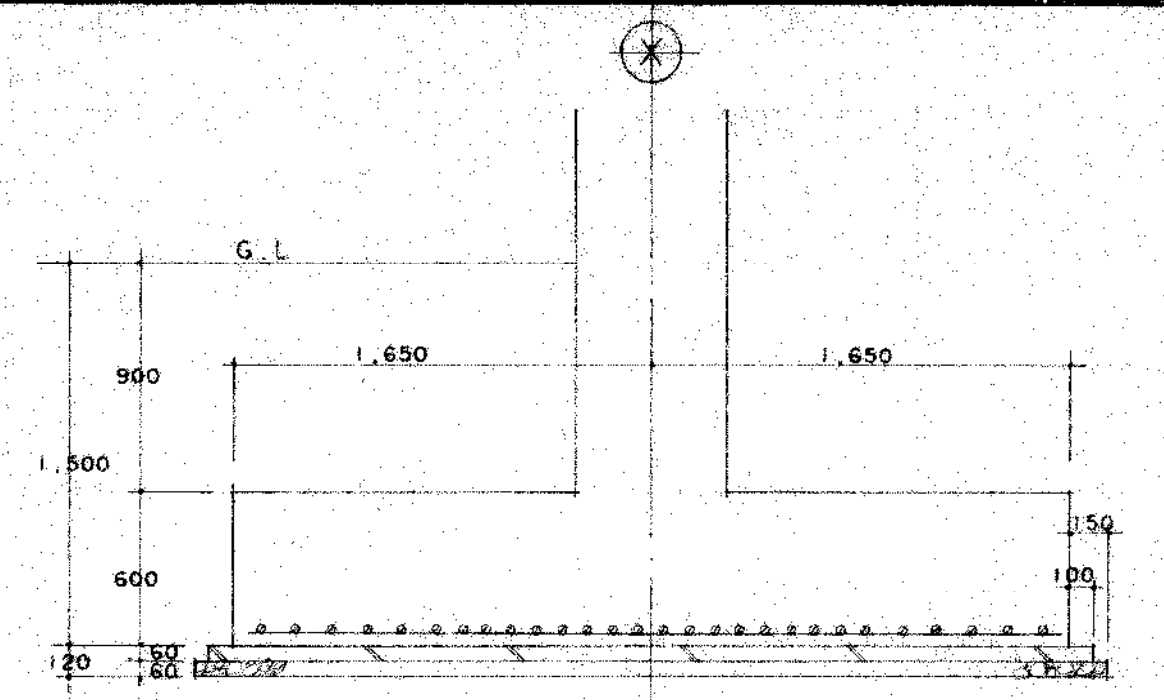
F4 詳細図 S=1/30



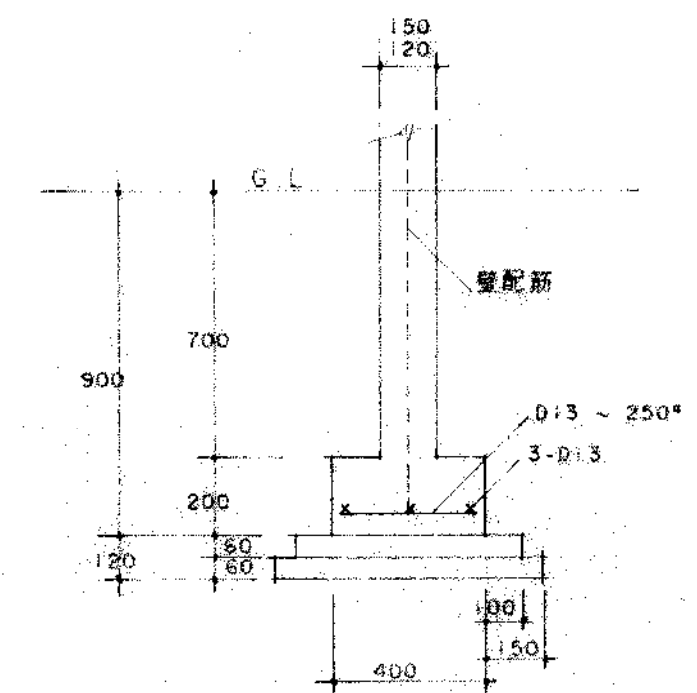
F5, F5' 詳細図 S=1/30



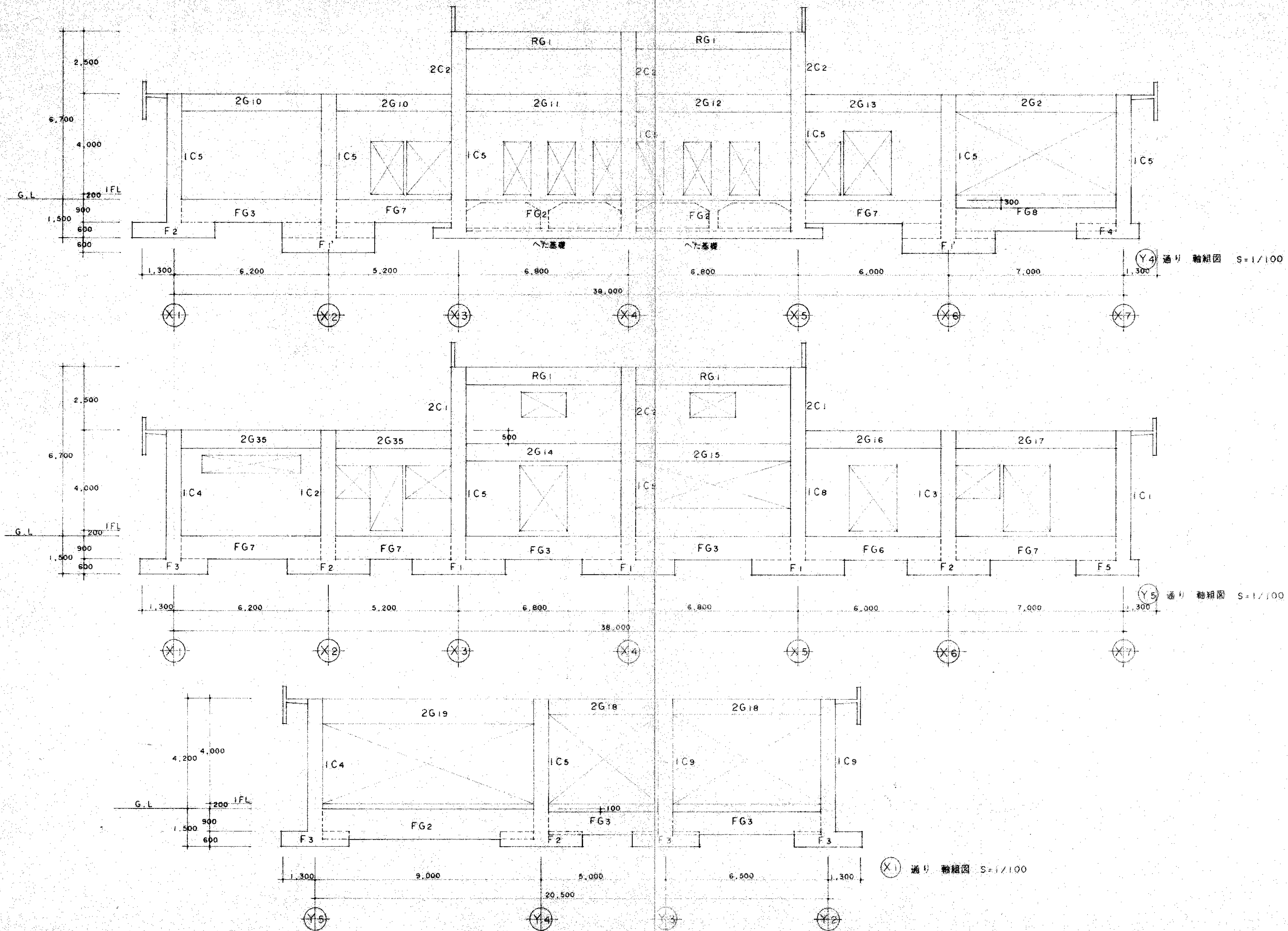
F6 詳細図 S=1/30

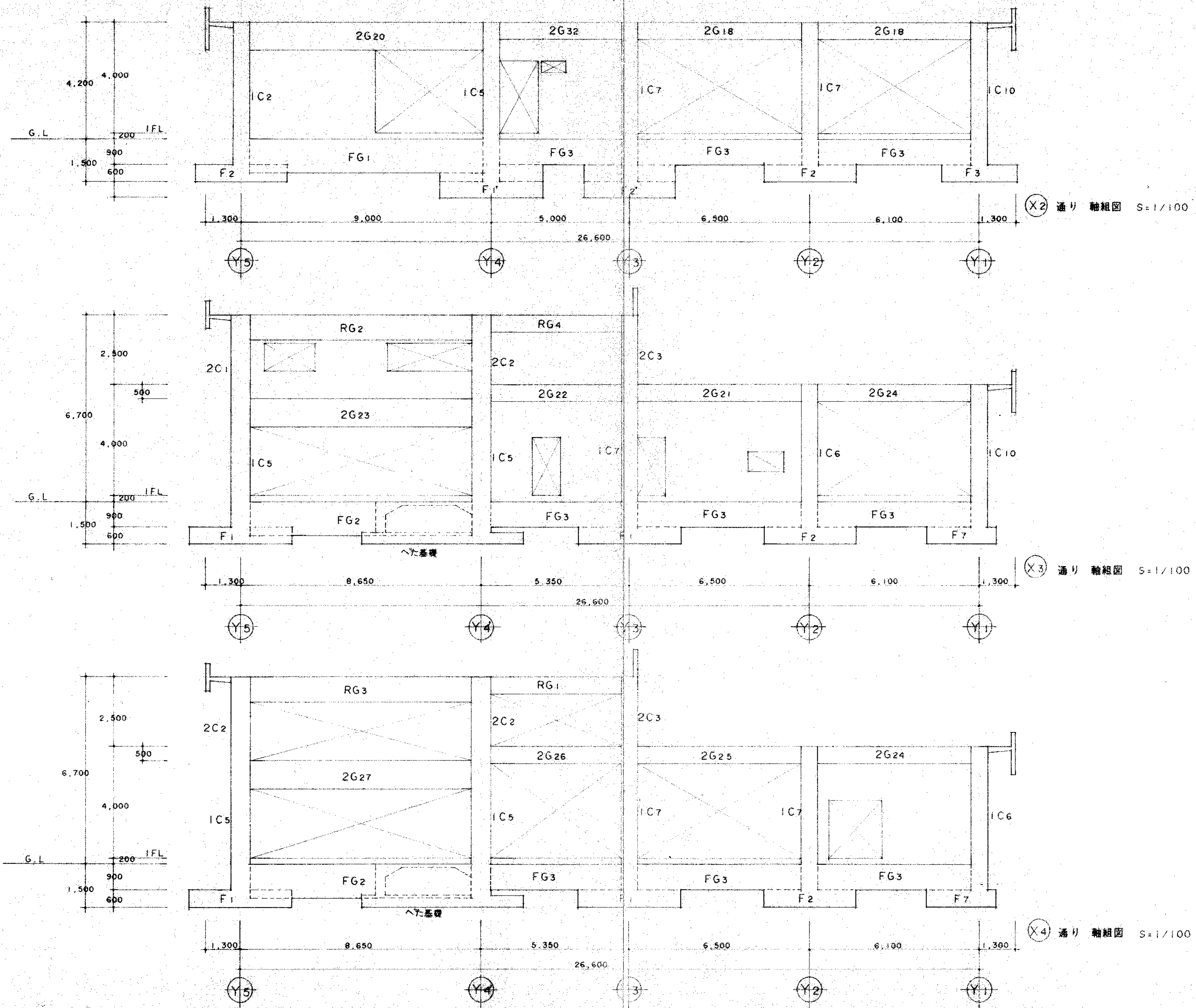


F7 詳細図 S=1/30



FW 詳細図 S=1/20

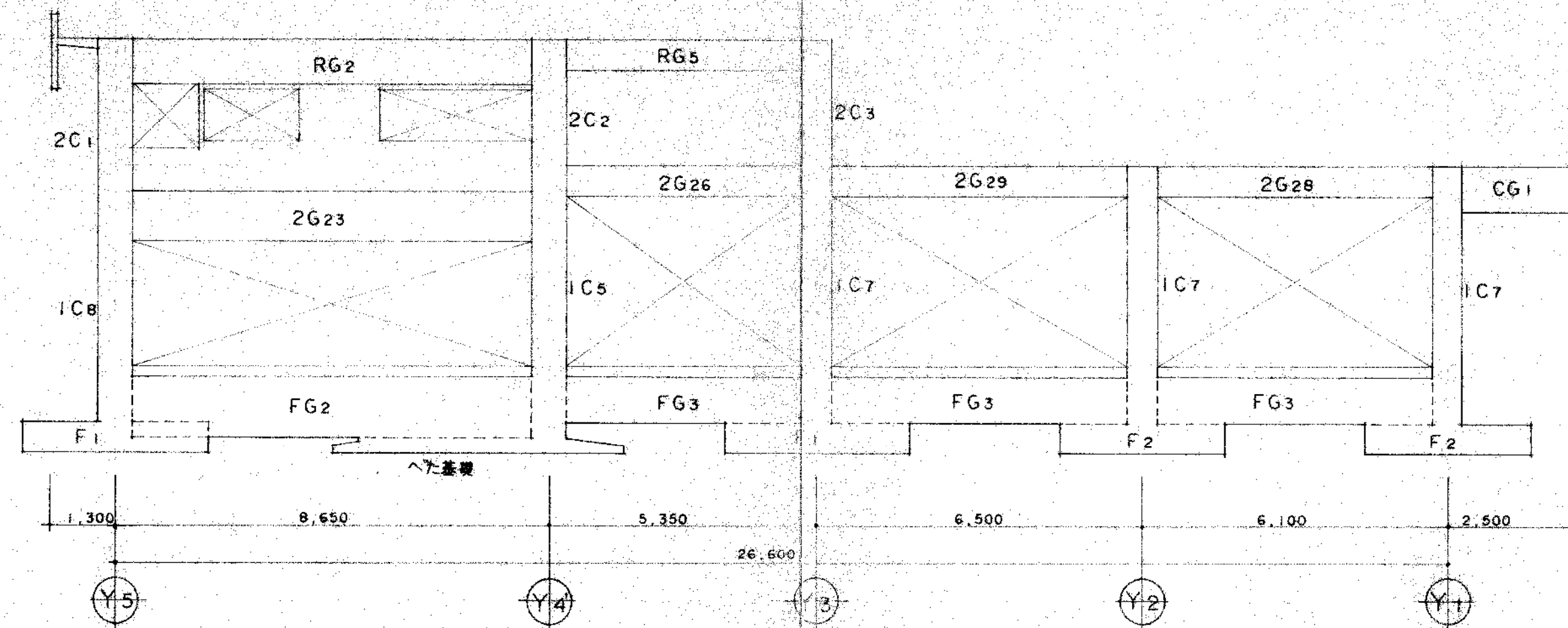
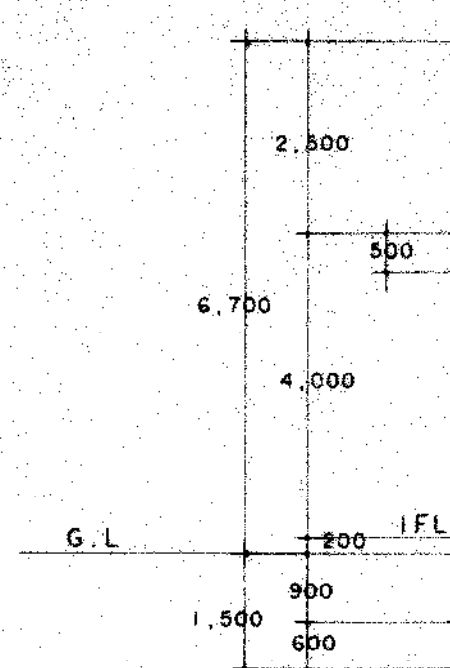




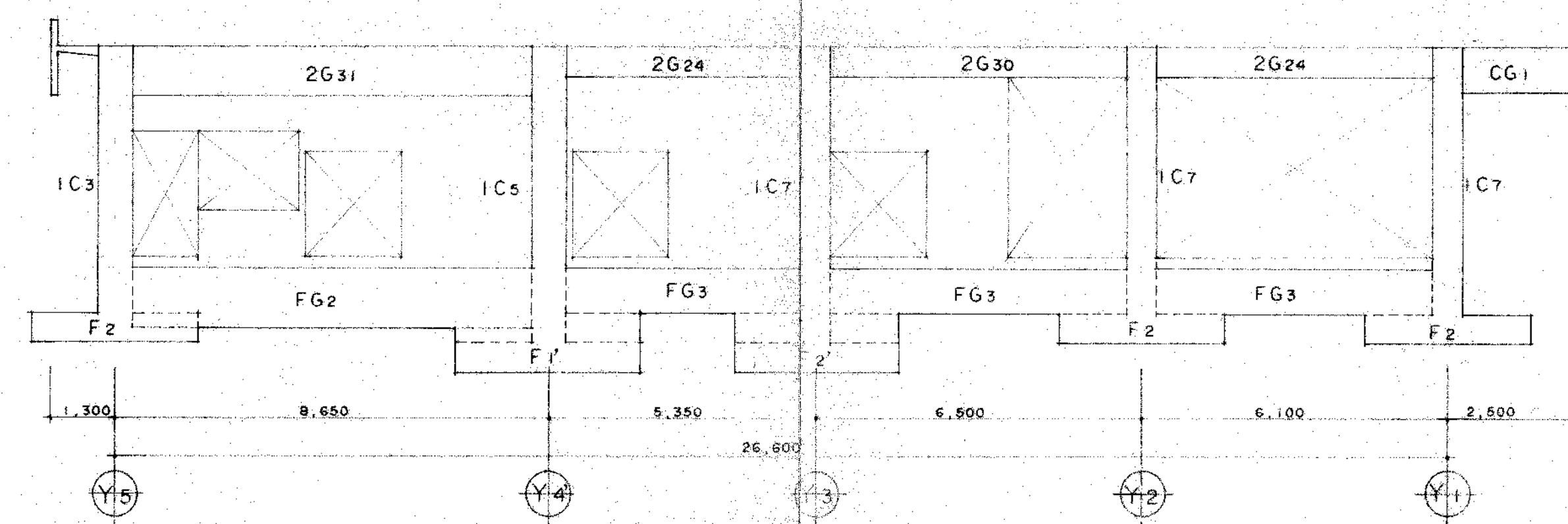
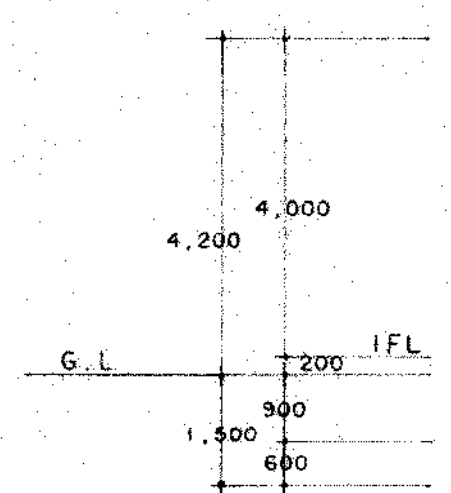
(X2) 通り 軸組図 S=1/100

(X3) 通り 軸組図 S=1/100

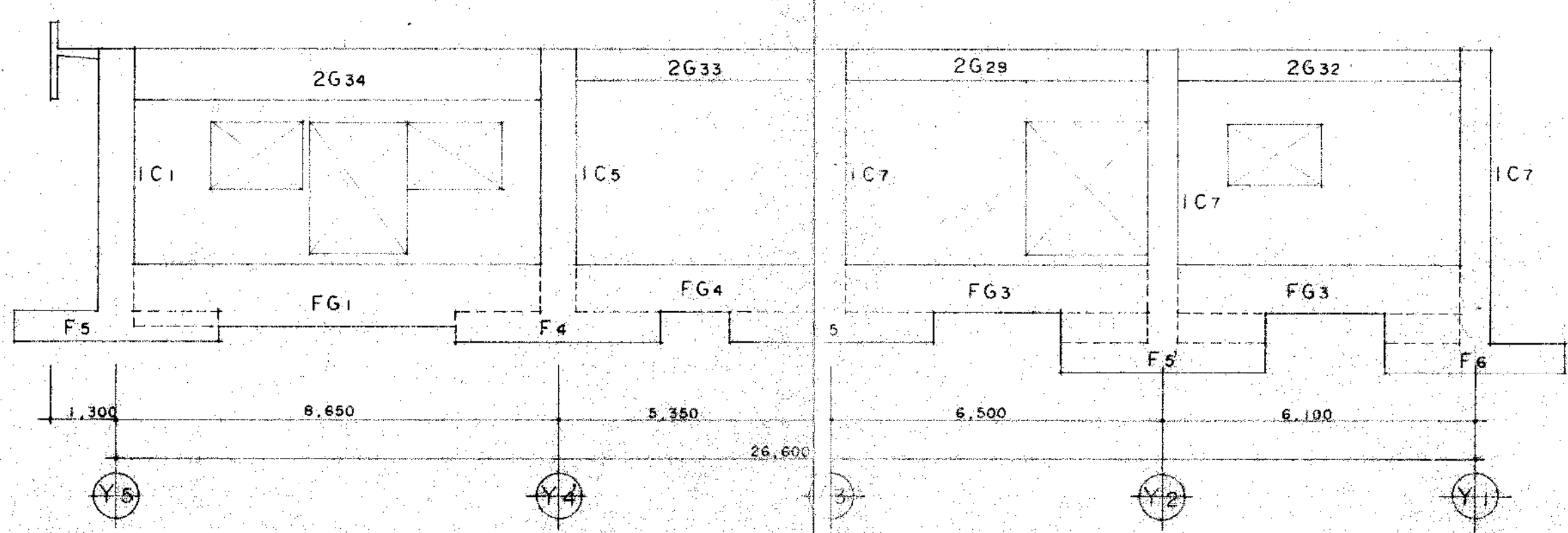
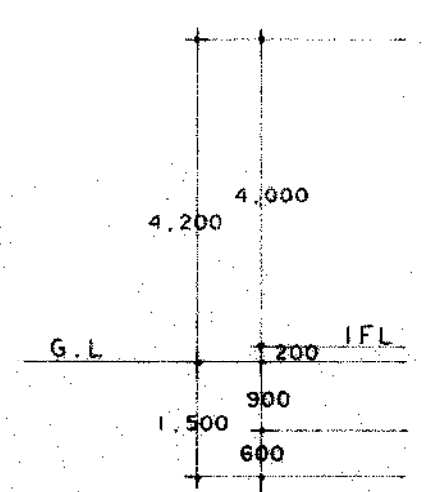
(X4) 通り 軸組図 S=1/100



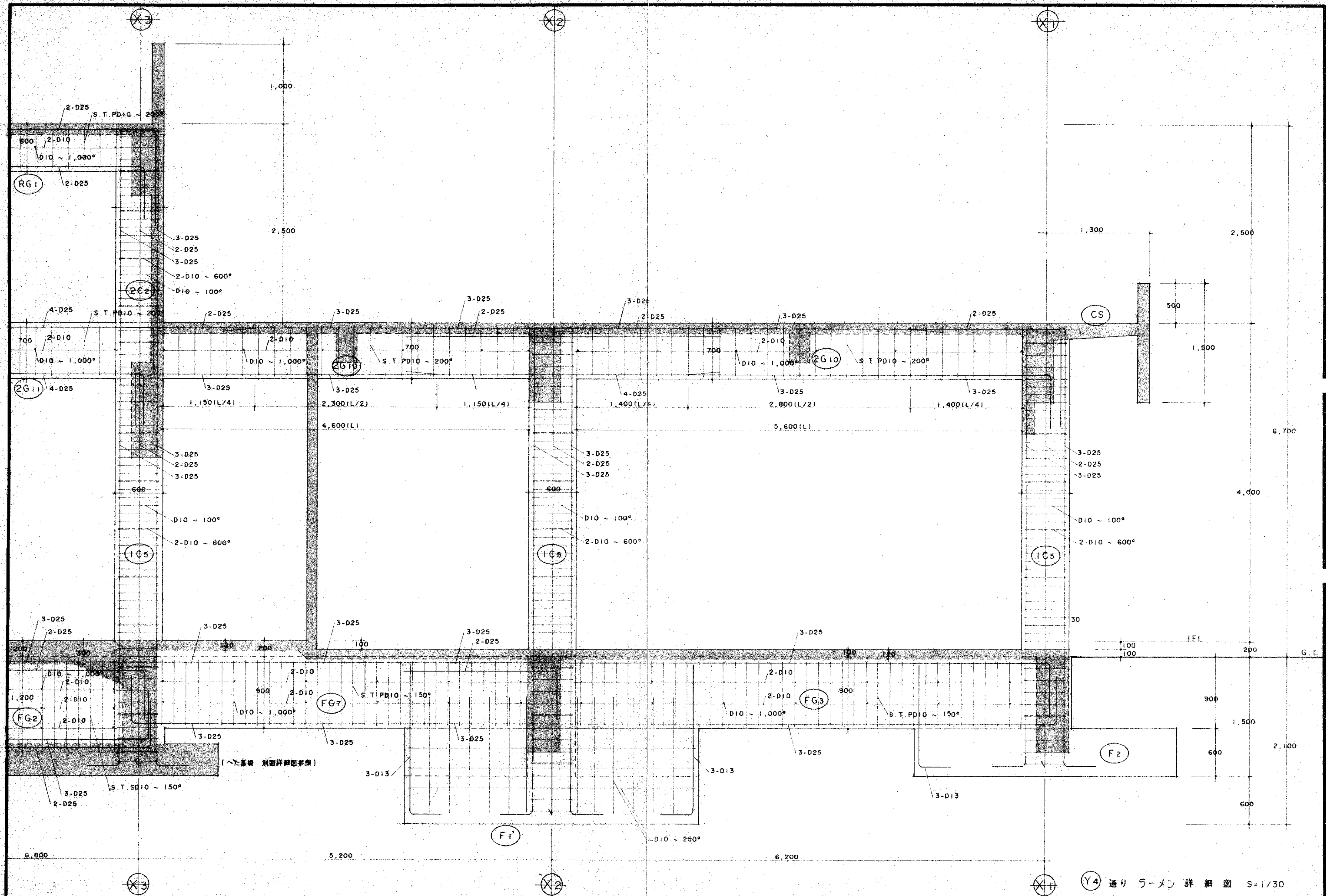
ⓧ5 通り 軸組図 S=1/100



ⓧ6 通り 軸組図 S=1/100

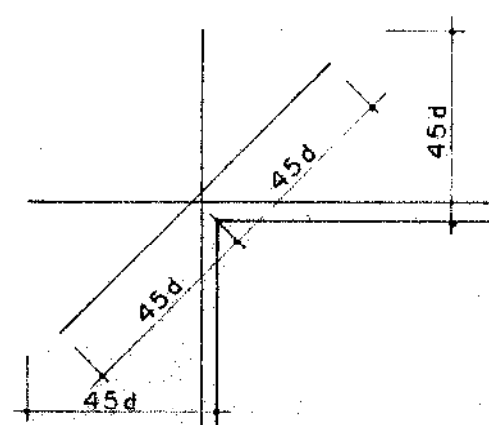


ⓧ7 通り 軸組図 S=1/100



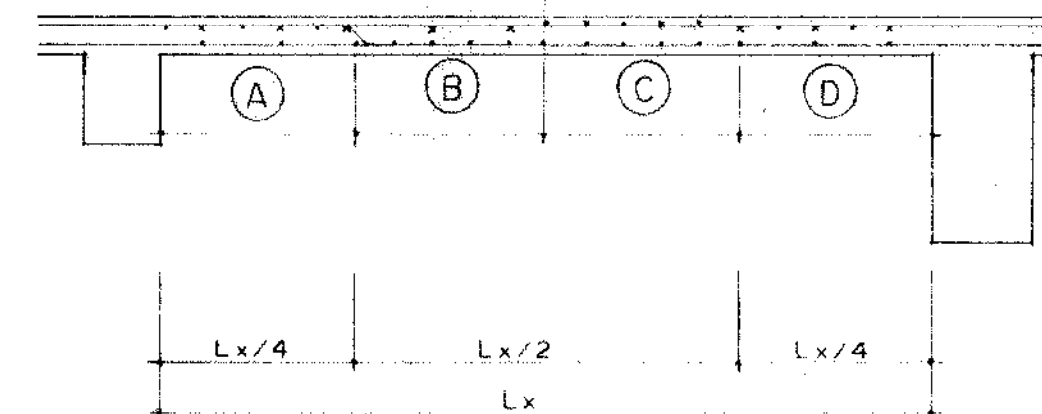
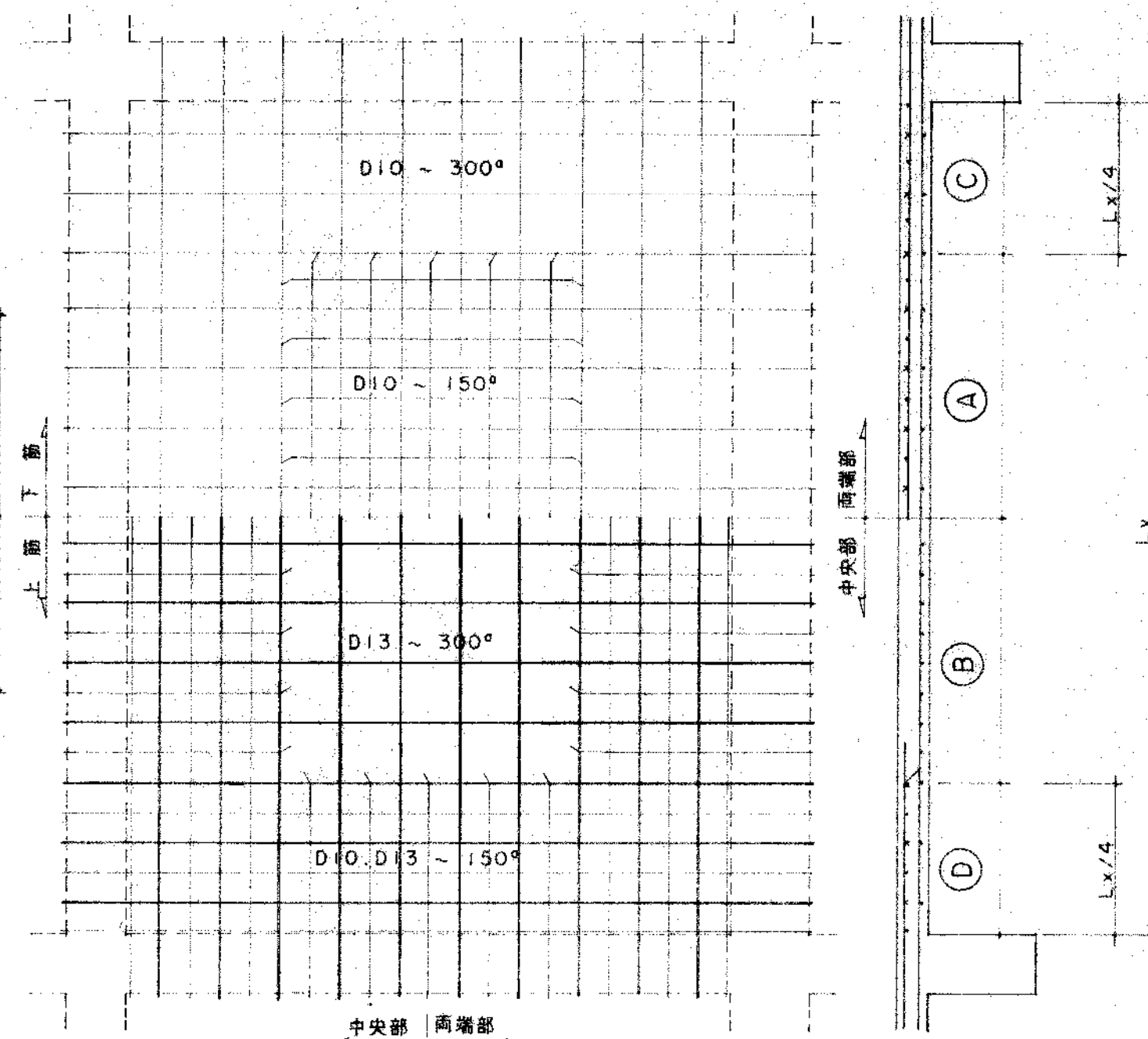
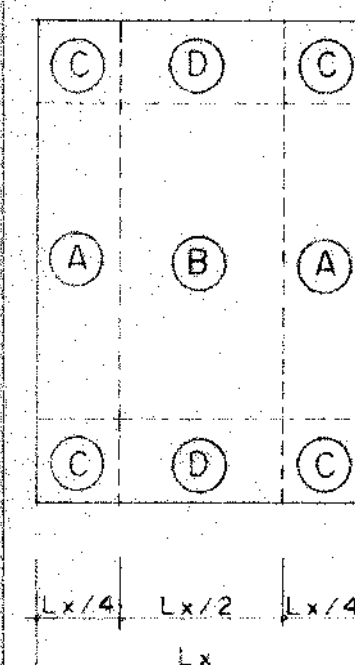
床スラブ 配筋リスト								
記号	厚さ	部位	短辺方向 主筋			長辺方向 配力筋		
			中央部		端部	中央部		端部
			端部 (A)	中央部 (B)	全域 (C)(D)	端部 (D)	中央部 (B)	全域 (A)(C)
(S1)	T=160	上筋	D10.D13 ~ 150°	D13 ~ 300°	D10.D13 ~ 150°	D10.D13 ~ 150°	D13 ~ 300°	D10.D13 ~ 150°
		下筋	D10 ~ 300°	D10 ~ 150°	D10 ~ 300°	D10 ~ 300°	D10 ~ 150°	D10 ~ 300°
(S2)	T=160	上筋	D10.D13 ~ 100°	D13 ~ 200°	D10.D13 ~ 100°	D10.D13 ~ 150°	D13 ~ 300°	D10.D13 ~ 150°
		下筋	D10 ~ 200°	D10 ~ 100°	D10 ~ 200°	D10 ~ 300°	D10 ~ 150°	D10 ~ 300°
(S3)	T=160	上筋	D10.D13 ~ 150°	D13 ~ 300°	D10.D13 ~ 150°	D10.D13 ~ 200°	D13 ~ 400°	D10.D13 ~ 200°
		下筋	D10 ~ 300°	D10 ~ 150°	D10 ~ 300°	D10 ~ 400°	D10 ~ 200°	D10 ~ 400°
(S4)	T=160	上筋	D10.D13 ~ 100°	D13 ~ 200°	D10.D13 ~ 100°	D10.D13 ~ 150°	D13 ~ 300°	D10.D13 ~ 150°
		下筋	D10 ~ 200°	D10 ~ 100°	D10 ~ 200°	D10 ~ 300°	D10 ~ 150°	D10 ~ 300°
(S5)	T=160	上筋	D10.D13 ~ 200°	D13 ~ 400°	D10.D13 ~ 200°	D10.D13 ~ 200°	D13 ~ 400°	D10.D13 ~ 200°
		下筋	D10 ~ 400°	D10 ~ 200°	D10 ~ 400°	D10 ~ 400°	D10 ~ 200°	D10 ~ 400°
(S6)	T=160	上筋	D10.D13 ~ 200°	D13 ~ 400°	D10.D13 ~ 200°	D10.D13 ~ 200°	D13 ~ 400°	D10.D13 ~ 200°
		下筋	D10 ~ 400°	D10 ~ 200°	D10 ~ 400°	D10 ~ 400°	D10 ~ 200°	D10 ~ 400°
(S7)	T=160	上筋	D10.D13 ~ 200°	D13 ~ 400°	D10.D13 ~ 200°	D10.D13 ~ 200°	D13 ~ 400°	D10.D13 ~ 200°
		下筋	D10 ~ 400°	D10 ~ 200°	D10 ~ 400°	D10 ~ 400°	D10 ~ 200°	D10 ~ 400°
(S8)	T=160	上筋	D10.D13 ~ 200°	D13 ~ 400°	D10.D13 ~ 200°	D10.D13 ~ 200°	D13 ~ 400°	D10.D13 ~ 200°
		下筋	D10 ~ 400°	D10 ~ 200°	D10 ~ 400°	D10 ~ 400°	D10 ~ 200°	D10 ~ 400°
(S9)	T=160	上筋	D10.D13 ~ 150°	D13 ~ 300°	D10.D13 ~ 150°	D10.D13 ~ 200°	D13 ~ 400°	D10.D13 ~ 200°
		下筋	D10 ~ 300°	D10 ~ 150°	D10 ~ 300°	D10 ~ 400°	D10 ~ 200°	D10 ~ 400°
(S10)	T=160	上筋	D10.D13 ~ 200°	D13 ~ 400°	D10.D13 ~ 200°	D10.D13 ~ 200°	D13 ~ 400°	D10.D13 ~ 200°
		下筋	D10 ~ 400°	D10 ~ 200°	D10 ~ 400°	D10 ~ 400°	D10 ~ 200°	D10 ~ 400°
(CS)	T=160	上筋		D13 ~ 150°			D10 ~ 200°	
		下筋		D13 ~ 300°			D10 ~ 200°	
(S11)	T=300	上筋	D13.D16 ~ 150°	D16 ~ 300°	D13.D16 ~ 150°	D13.D16 ~ 150°	D16 ~ 300°	D13.D16 ~ 150°
		下筋	D13 ~ 300°	D13 ~ 150°	D13 ~ 300°	D13 ~ 300°	D13 ~ 150°	D13 ~ 300°

壁 配筋 リスト					
W12	120		D10 ~ 200° シングル (縦筋・横筋 共)	補強筋	縦筋 1-D13 シングル 横筋 1-D13 シングル 斜筋 1-D13 シングル
W15	150		D10 ~ 100° シングル (縦筋・横筋 共)	補強筋	縦筋 3-D19 シングル 横筋 2-D19 シングル 斜筋 2-D19 シングル
W10	100		D10 ~ 250° シングル (縦筋・横筋 共)	補強筋	縦筋 1-D13 シングル 横筋 1-D13 シングル 斜筋 1-D13 シングル



壁開口部補強筋

腰壁, 下り壁 配筋リスト				
W12	縦筋	D10 ~ 200° シングル	先端補強筋	2-D13
	横筋	D10 ~ 100° シングル		
W15	縦筋	D10 ~ 150° シングル		
	横筋	D10 ~ 100° シングル		



(S1) 配筋詳細図 S=1/30

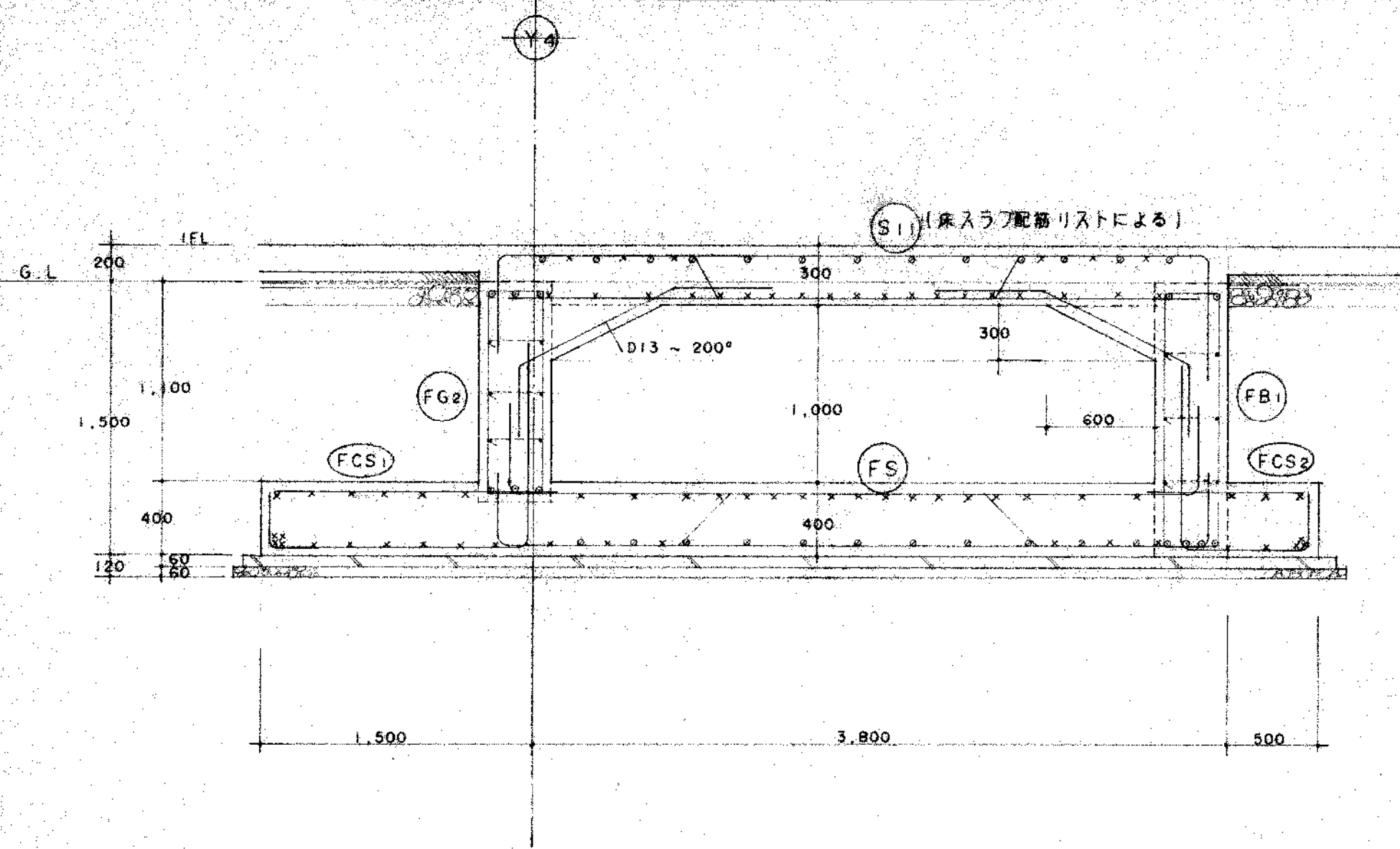
土間配筋リスト	
縦筋	D10 ~ 250° シングル
横筋	D10 ~ 250° シングル

会津若松市斎場新築

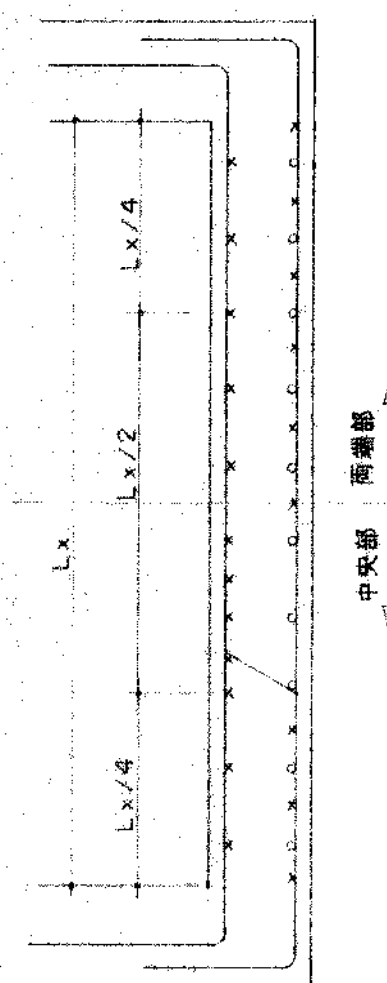
工事設計図

製図 図源 スラブ配筋リスト
図源 壁配筋リスト

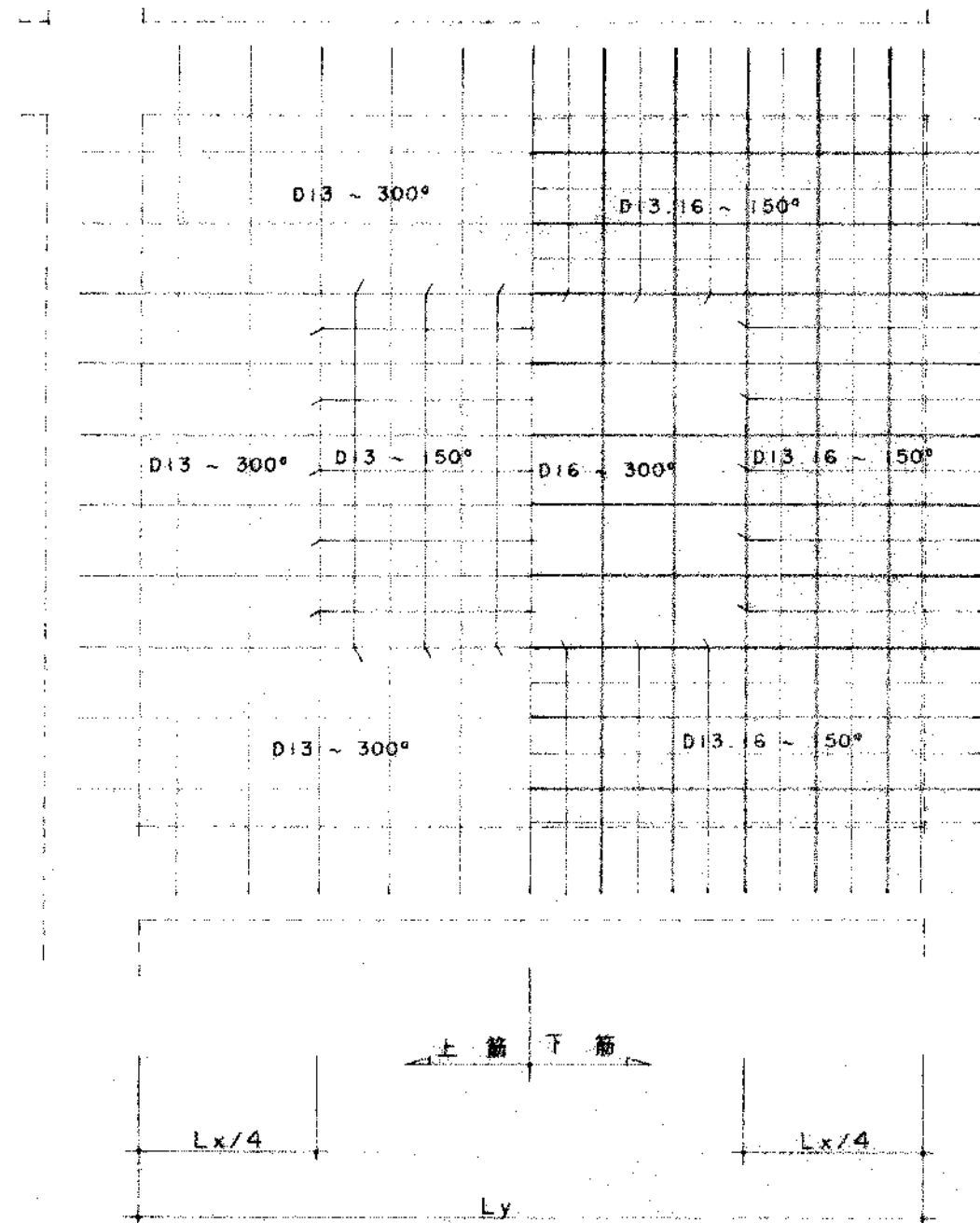
No S-28



へた基礎 詳細図 S-1/30



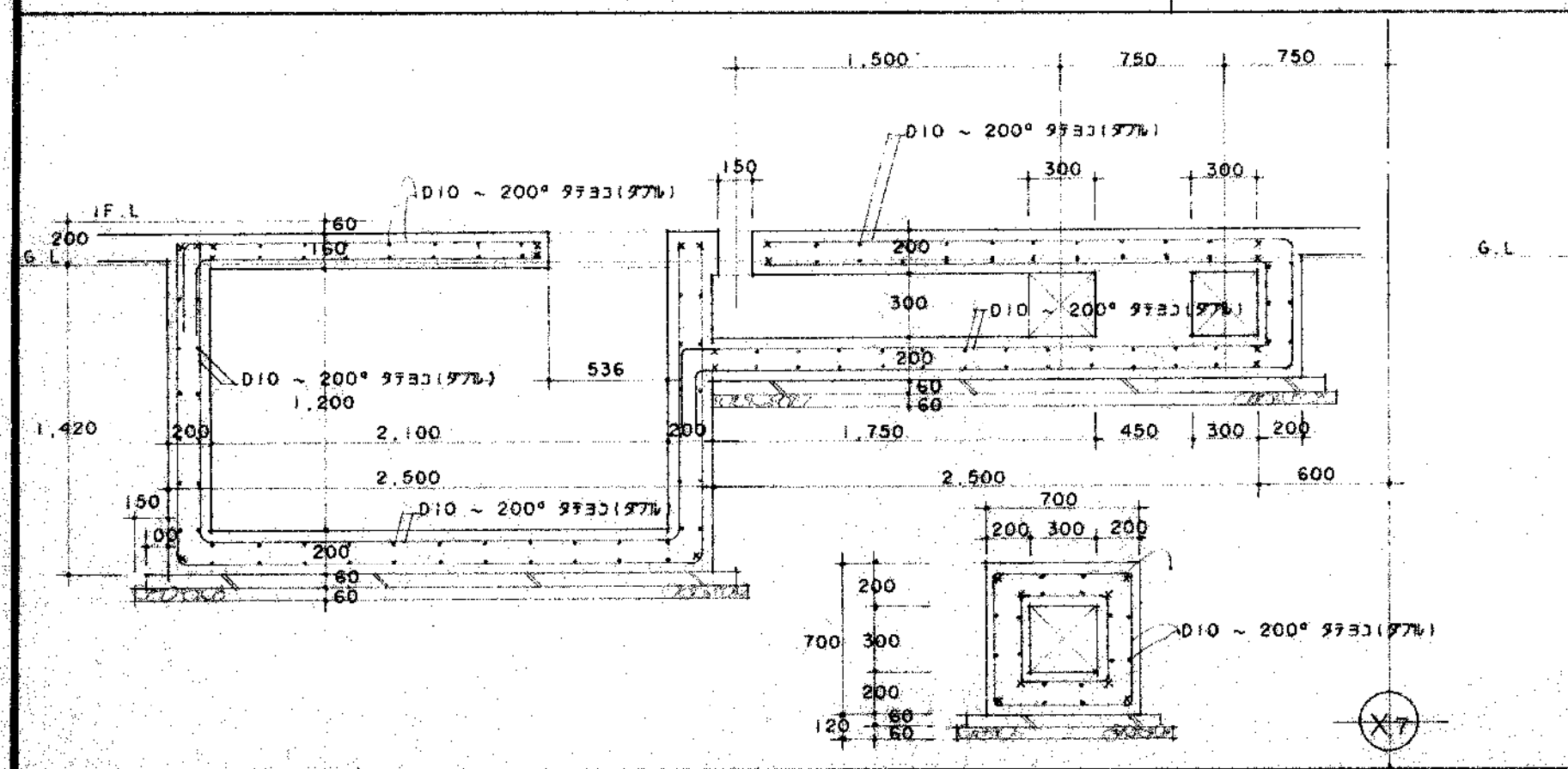
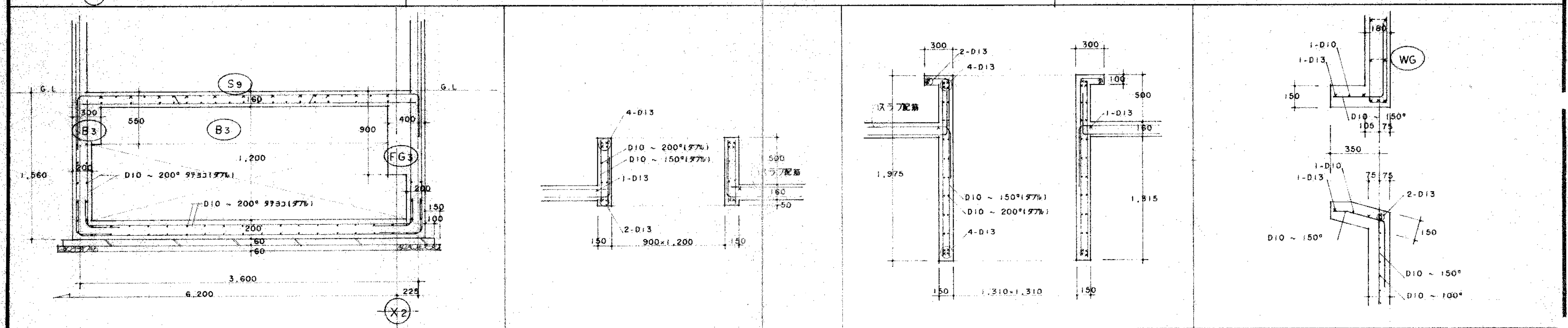
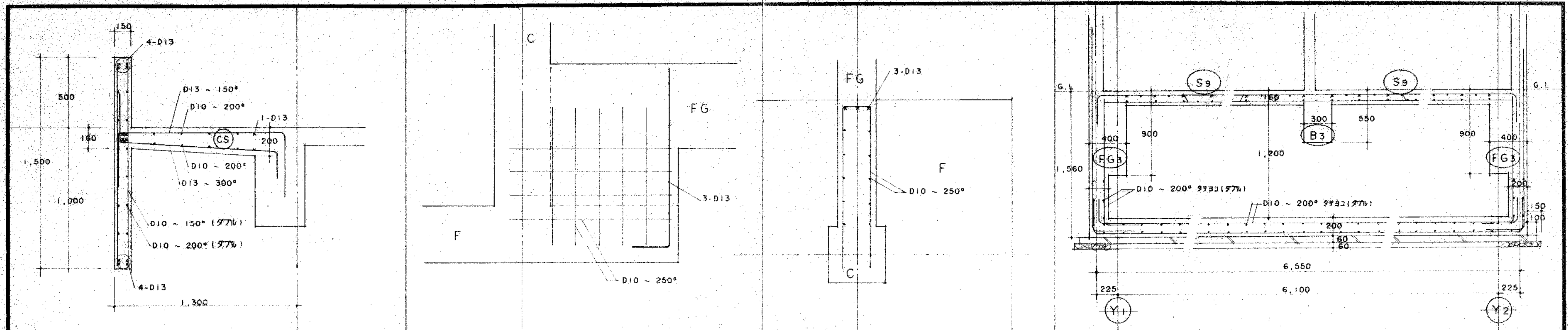
中央部 両端部

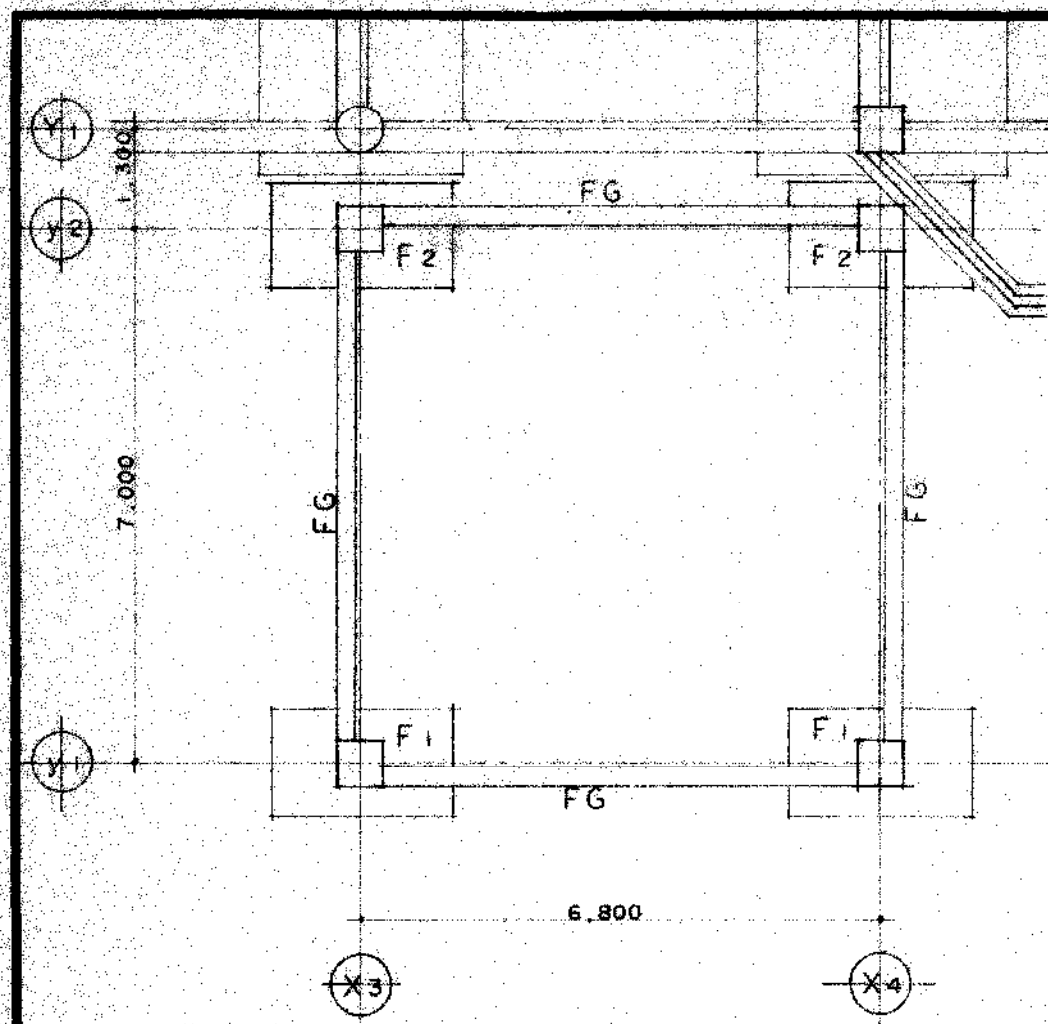


(FS) 配筋詳細図 S-1/30

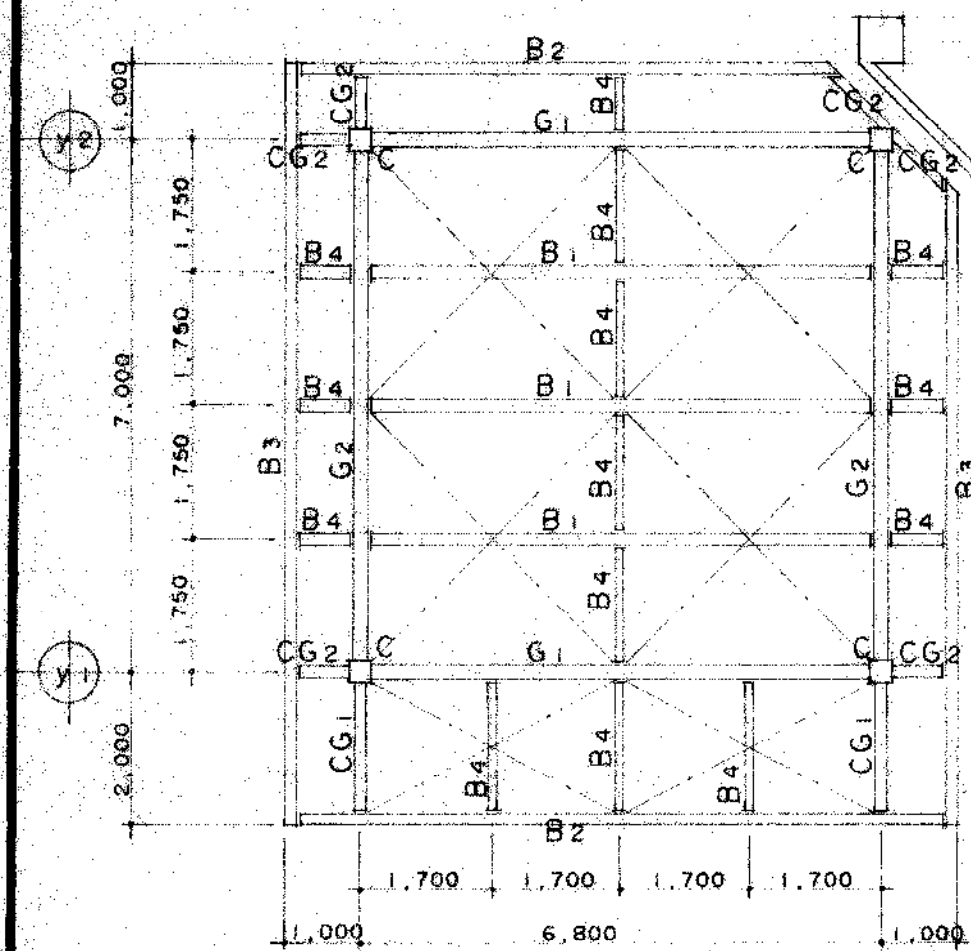
へた基礎スラブ配筋リスト

記号	厚さ	部位	短辺方向 主筋			長辺方向 配力筋		
			中央部		両端部	中央部		両端部
			端部	中央部	全域	端部	中央部	全域
(FS)	T=400	上筋	D13 ~ 300°	D13 ~ 150°	D13 ~ 300°	D13 ~ 300°	D13 ~ 150°	D13 ~ 300°
		下筋	D13.16 ~ 150°	D16 ~ 300°	D13.16 ~ 150°	D13.16 ~ 150°	D16 ~ 300°	D13.16 ~ 150°
(CS1)	T=400	上筋		D16 ~ 100°			D13 ~ 200°	
		下筋		D16 ~ 100°			D13 ~ 200°	
(CS2)	T=400	上筋		D13 ~ 200°			D10 ~ 200°	
		下筋		D13 ~ 200°			D10 ~ 200°	
(CS3)	T=400	上筋		D13 ~ 100°			D10 ~ 200°	
		下筋		D13 ~ 100°			D10 ~ 200°	
		上筋						
		下筋						



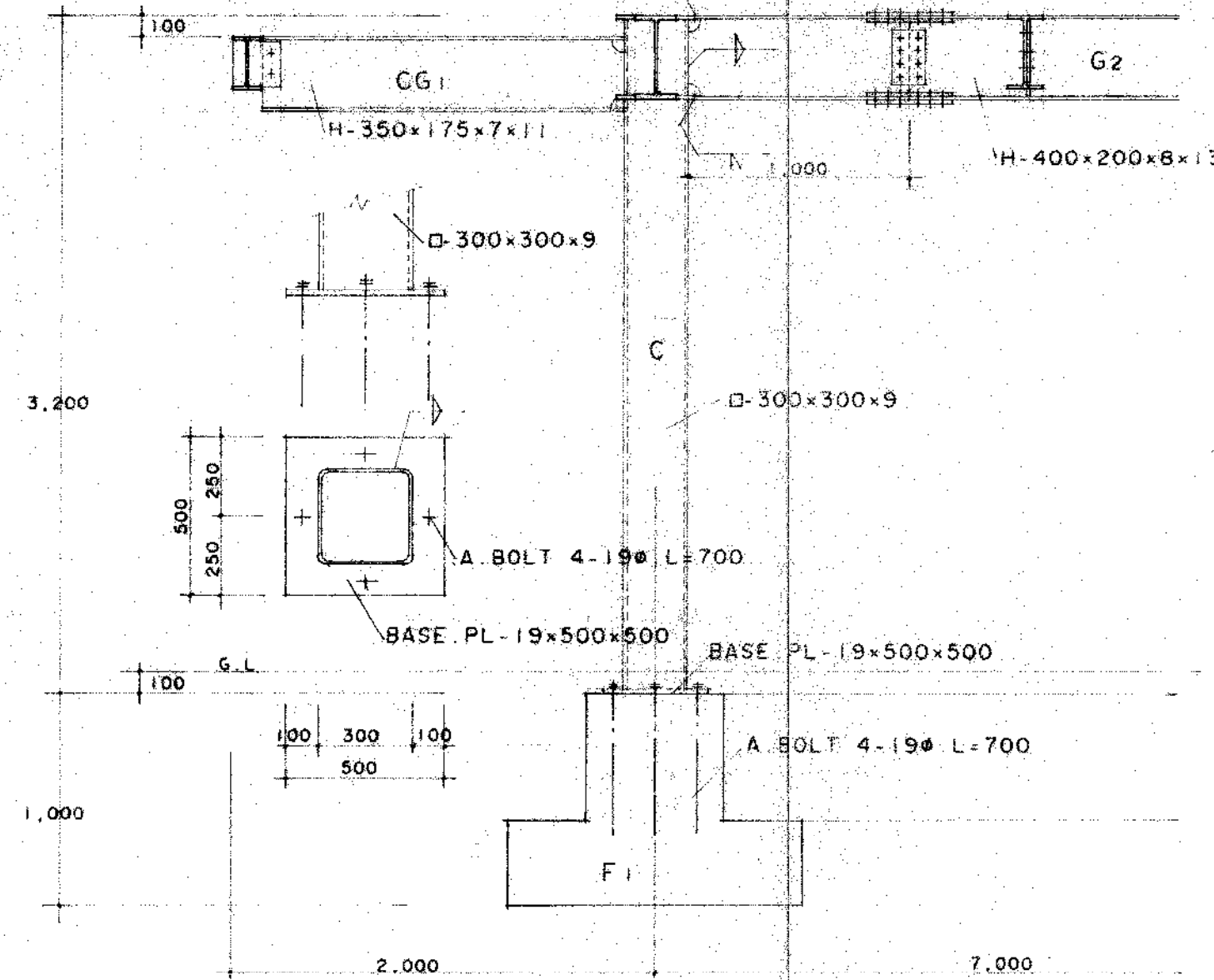


基礎伏図 S=1/100

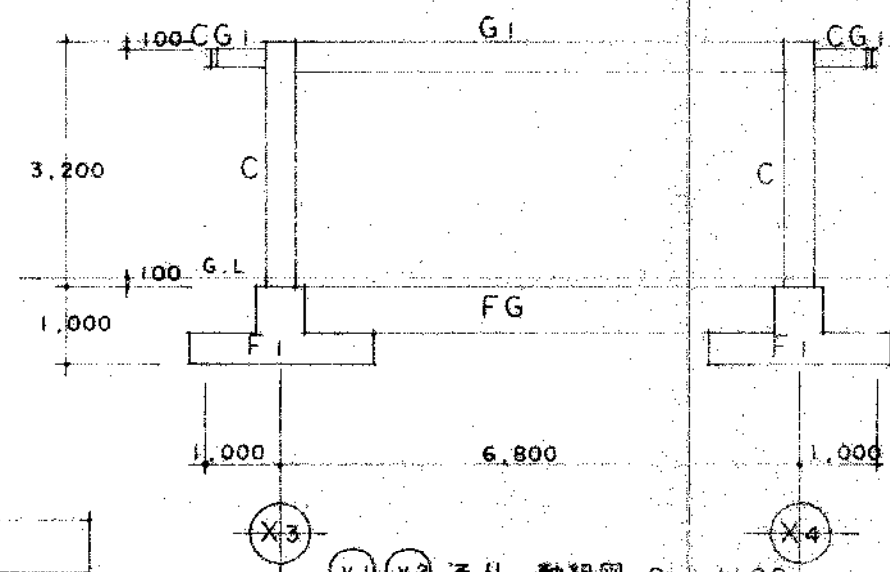


梁伏図 S=1/100

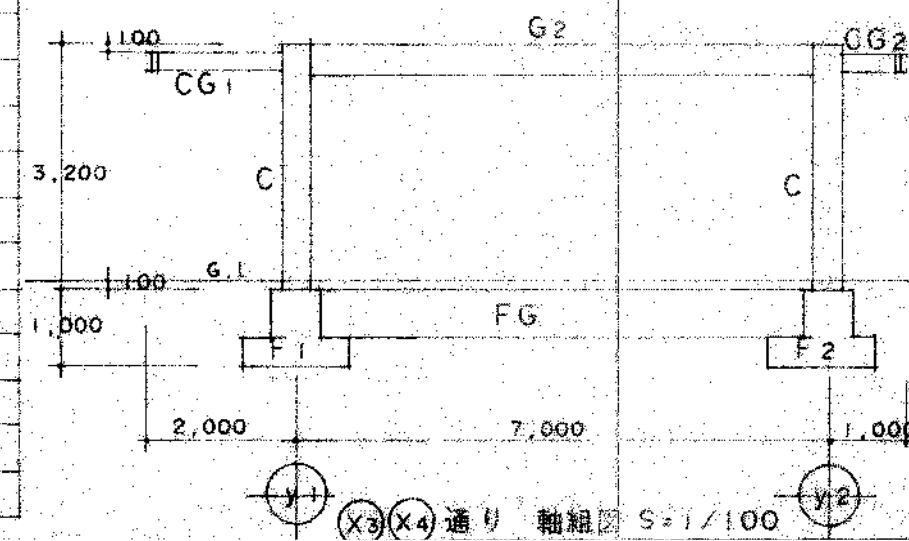
鉄骨断面リスト			
記号	断面	A. BOLT, BASE. PL, 継手, 仕口	備考
C	D-300×300×9	BASE. PL-19×500×500, A. BOLT 4-19φ L=700	
G1	H-396×199×7×11	F-16-M20 2PL-9×194×285 W-8-M20 4PL-9×70×285 2PL-9×165×260	
G2	H-400×200×8×13	F-24-M20 2PL-9×194×405 W-8-M20 4PL-12×70×405 2PL-9×165×250	
B1	H-346×174×6×9	PL-9 3-M16	
B2	H-250×125×6×9	PL-9 2-M16	
B3	H-248×124×5×8	PL-9 2-M16	
B4	H-15×75×5×7	PL-6 2-M16	
CG1	H-350×175×7×11	3-φ7	
CG2	H-250×125×6×9	3-φ7	
主筋	1-16φ	PL-6 2-M16	



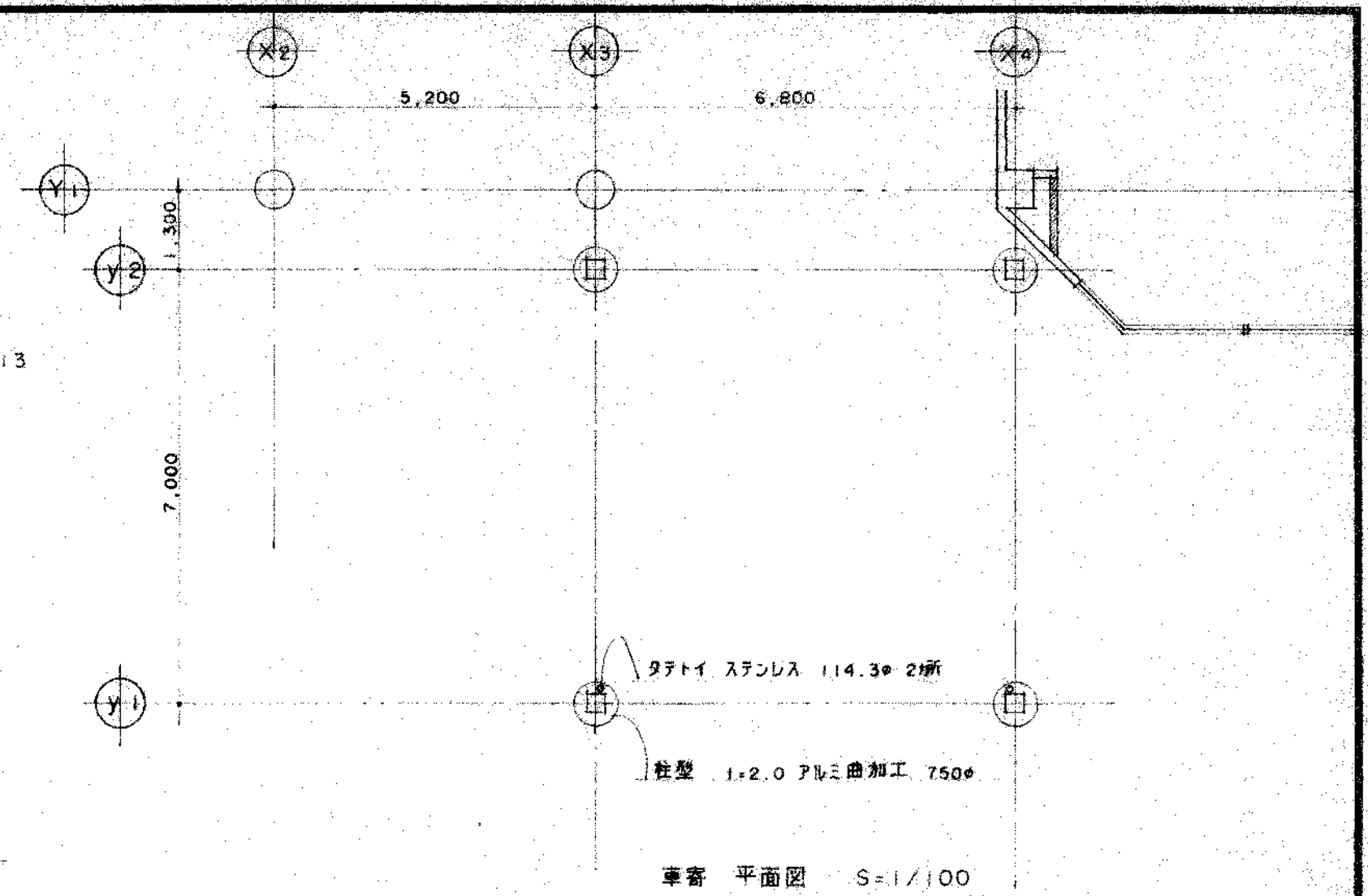
(X3) 通り ラーメン 詳細図 S=1/30



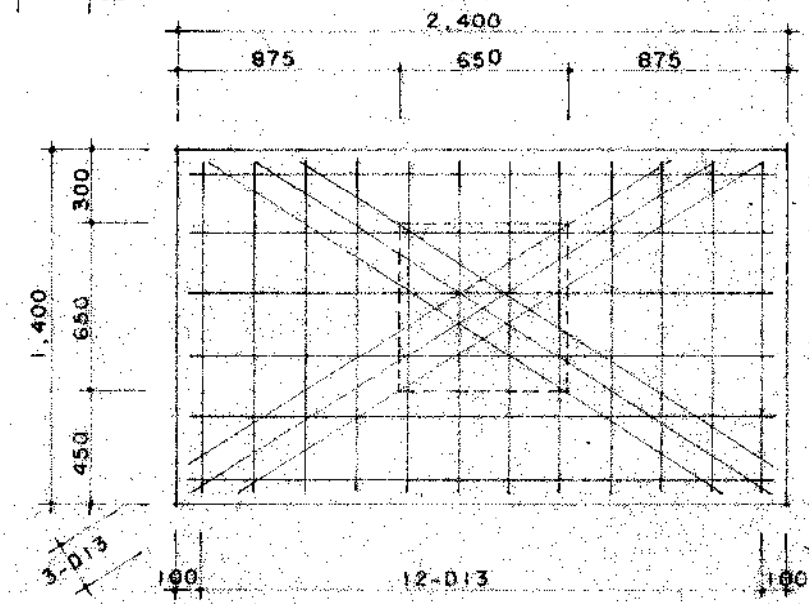
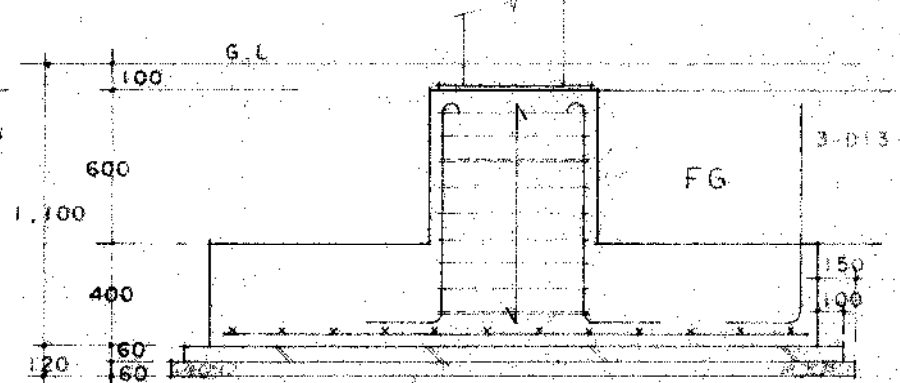
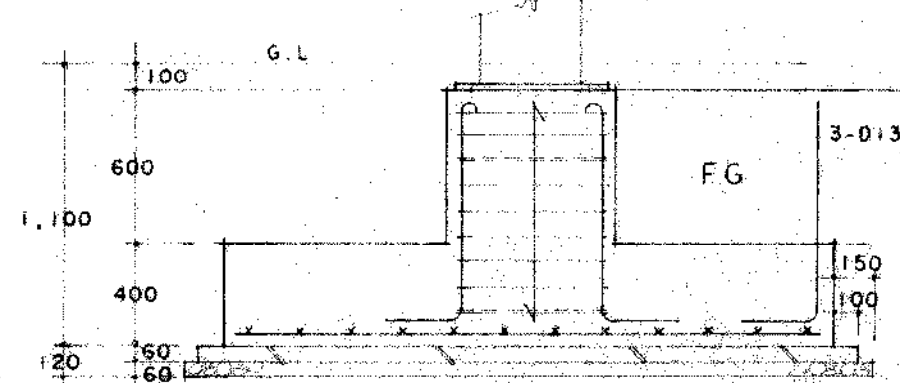
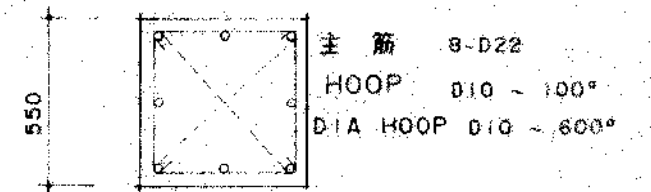
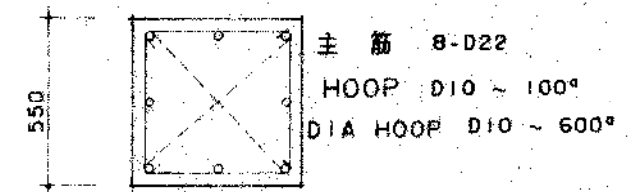
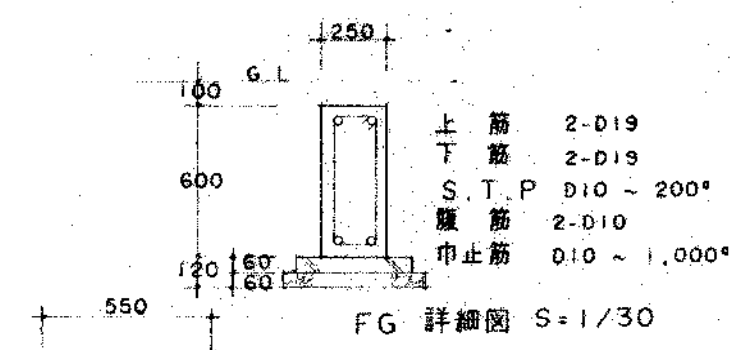
(Y1)(Y2) 通り 軸組図 S=1/100



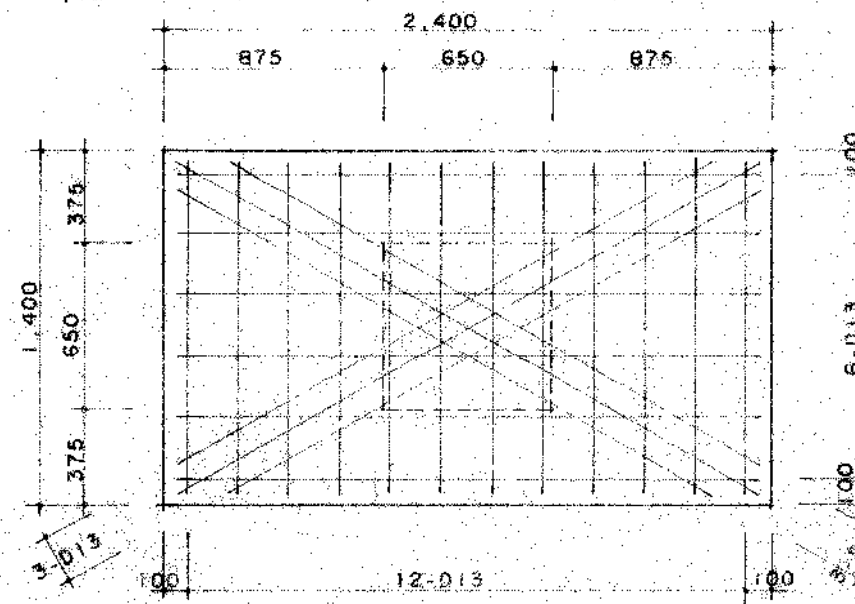
(X3)(X4) 通り 軸組図 S=1/100



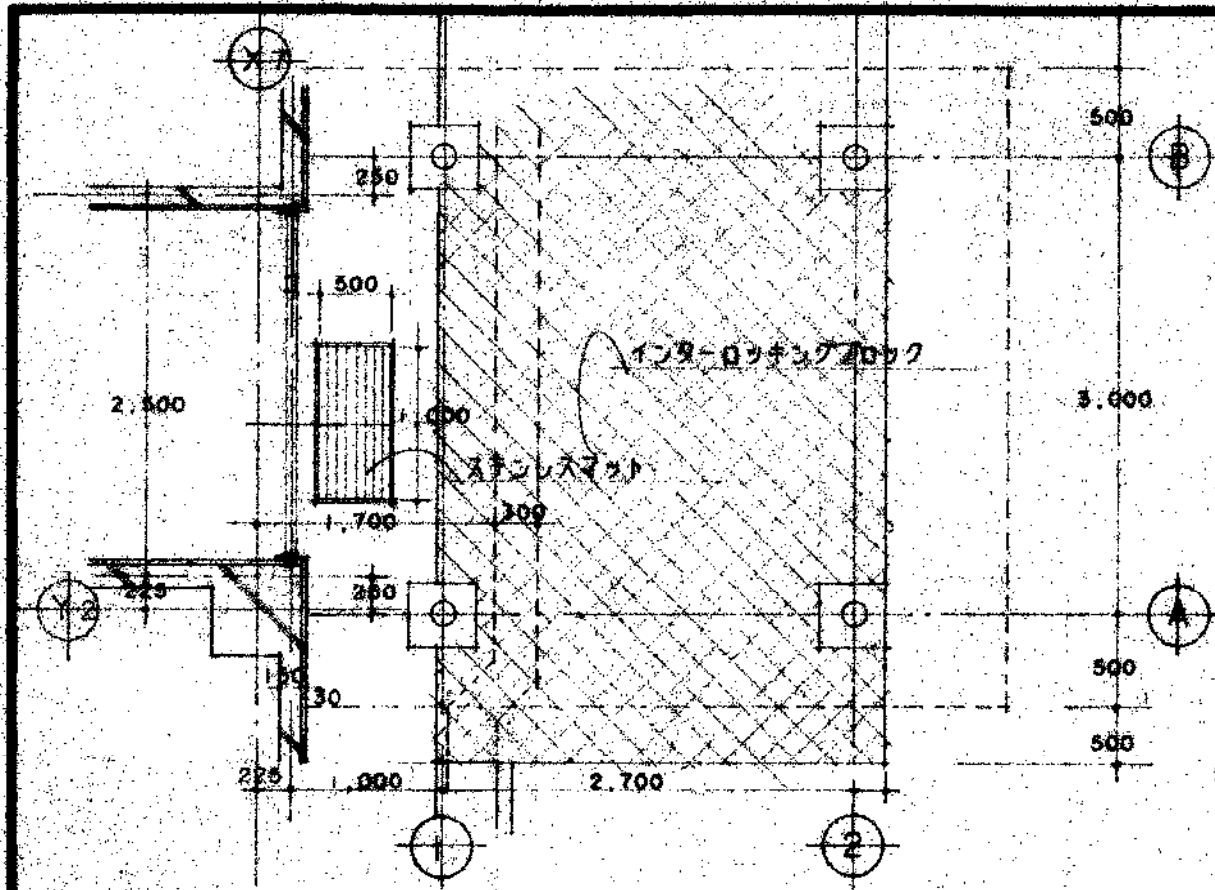
車寄 平面図 S=1/100



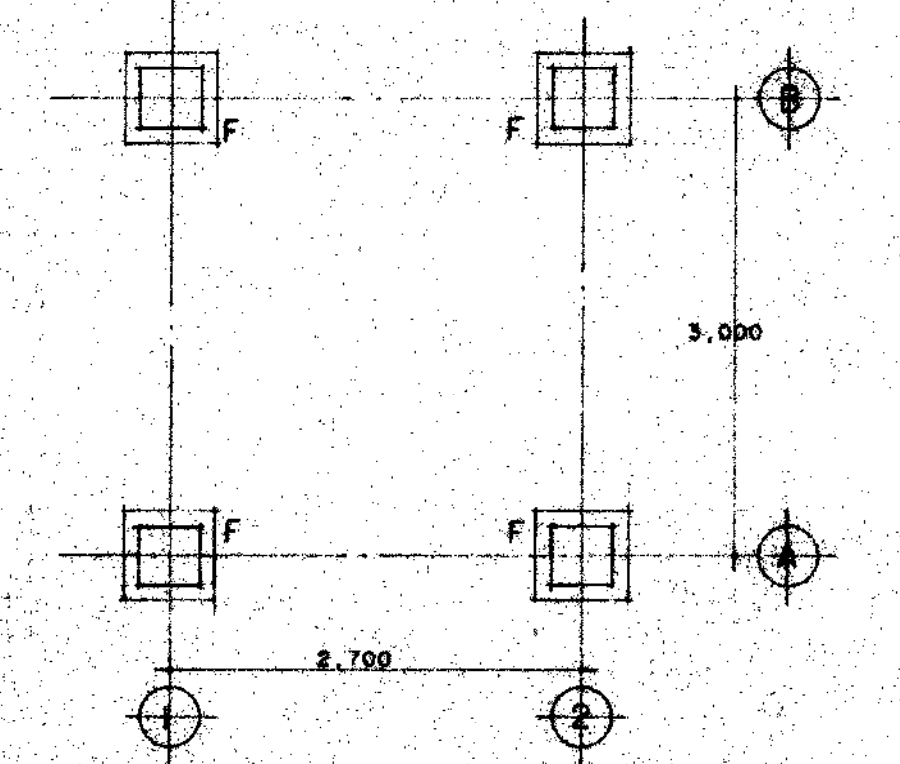
F2 詳細図 S=1/30



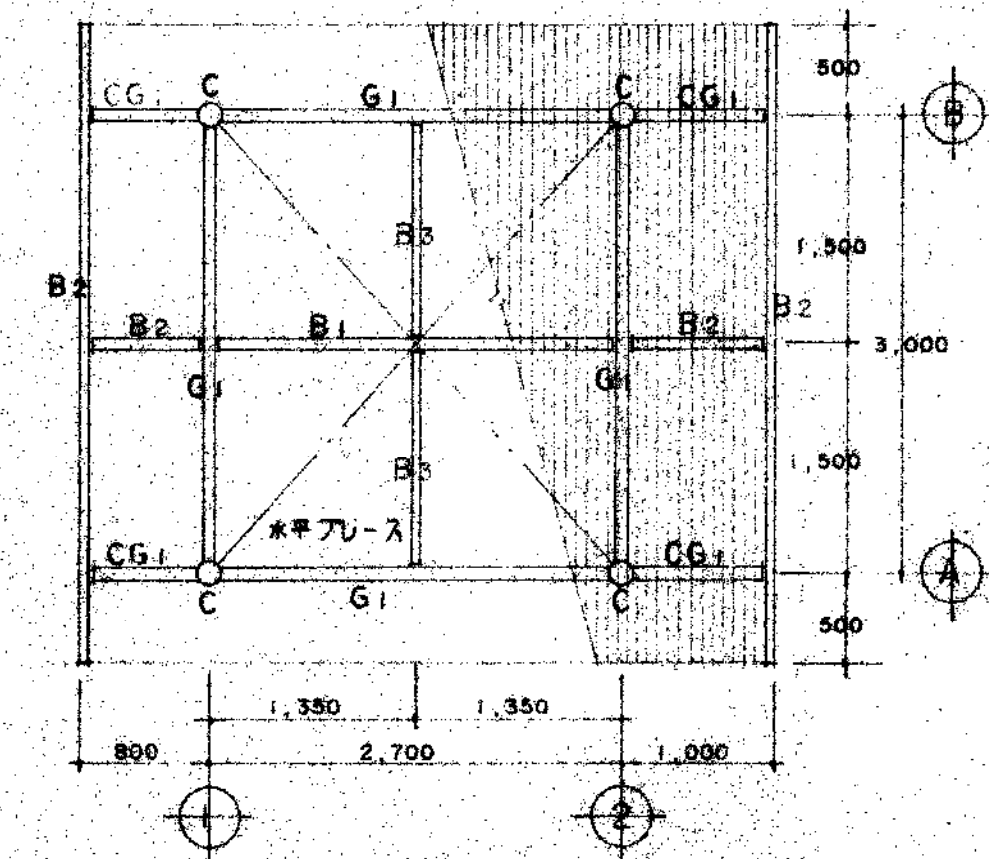
F1 詳細図 S=1/30



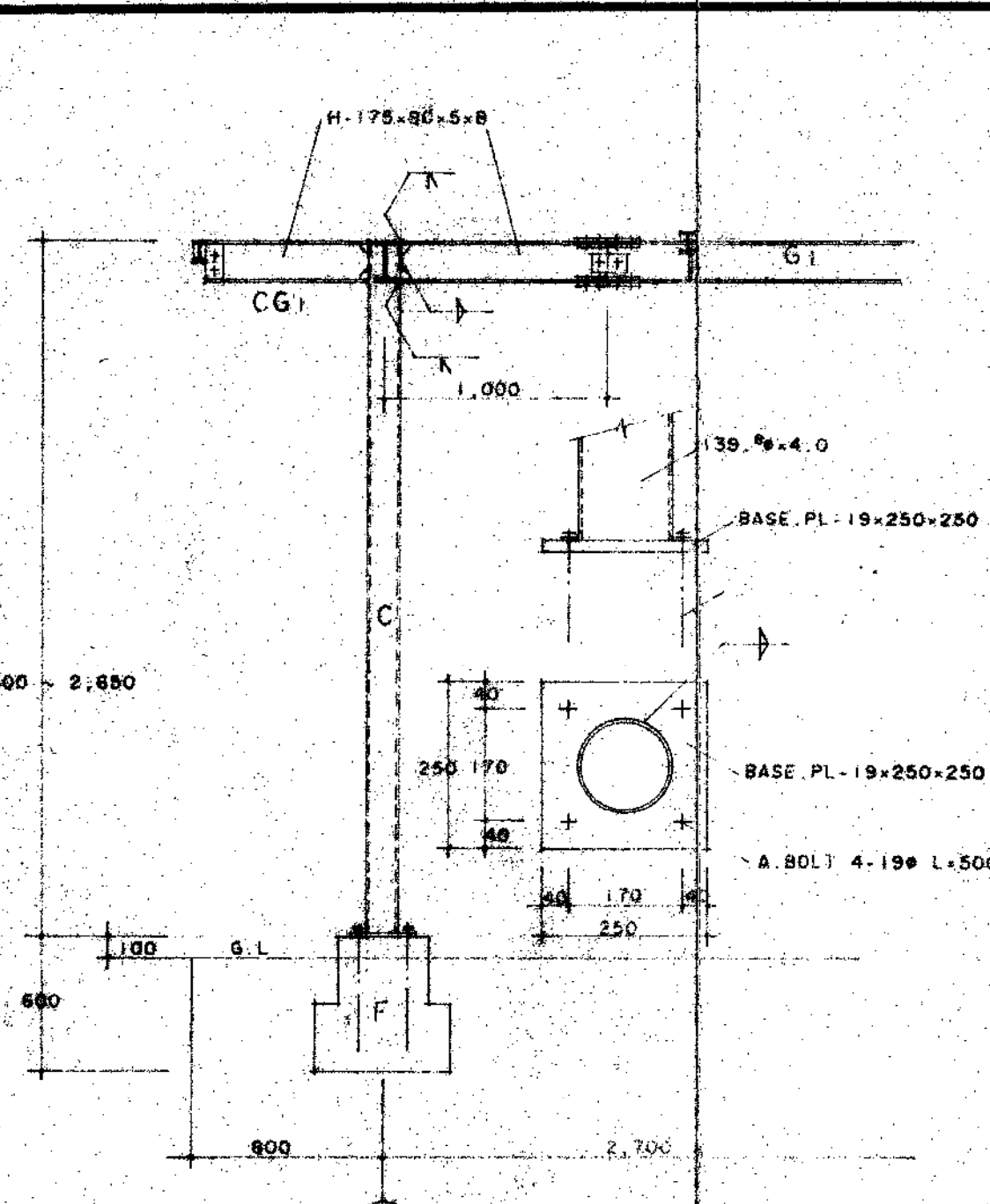
平面図 S=1/50



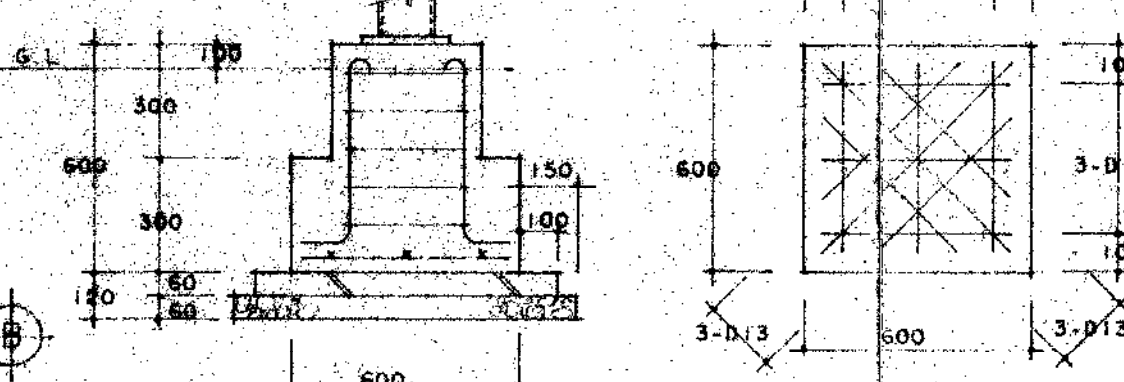
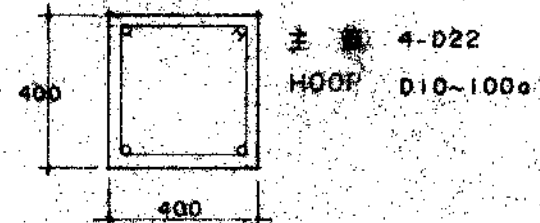
基礎伏図 S=1/50



基礎伏図 S=1/50

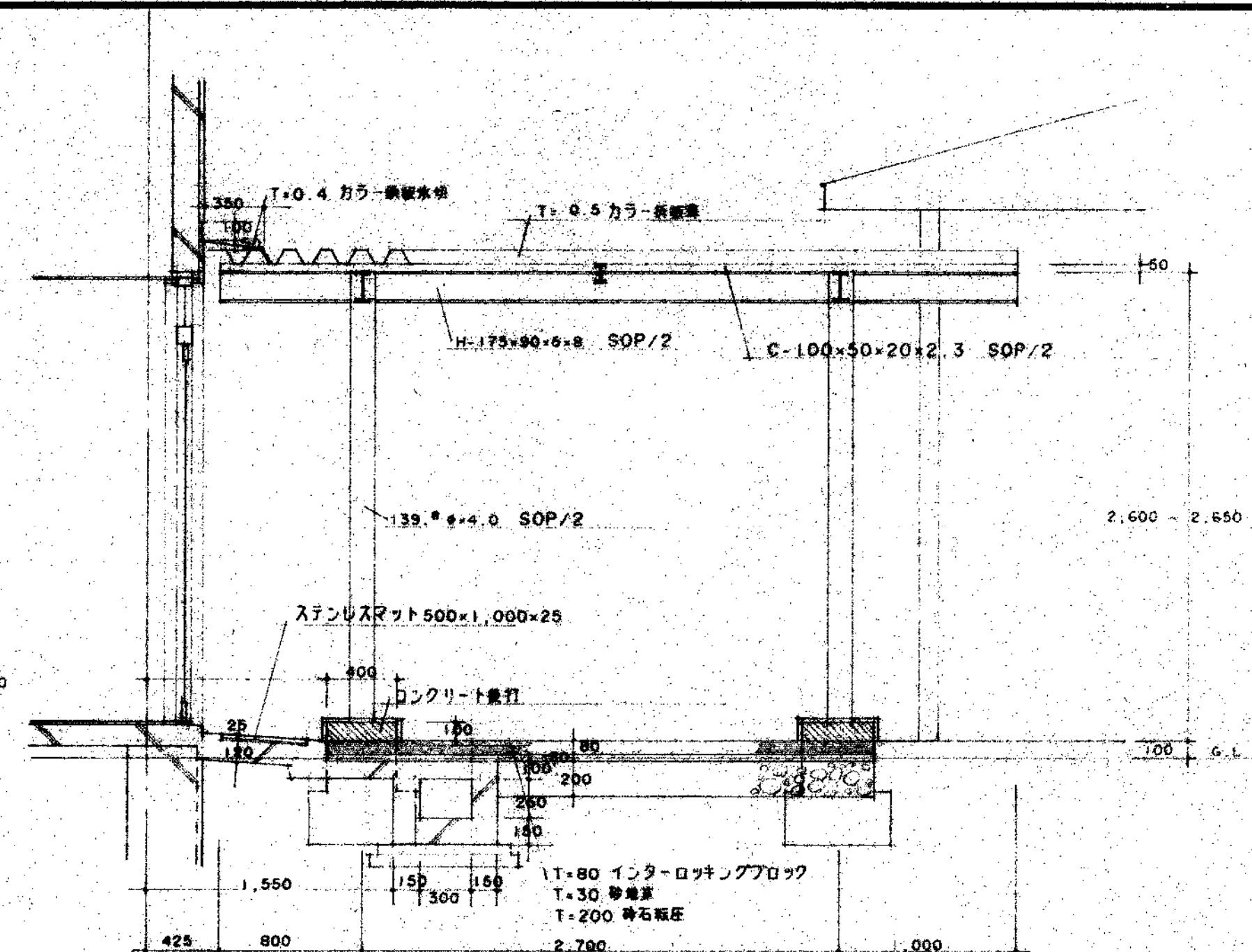


(B) 通り ラーメン詳細図 S=1/30

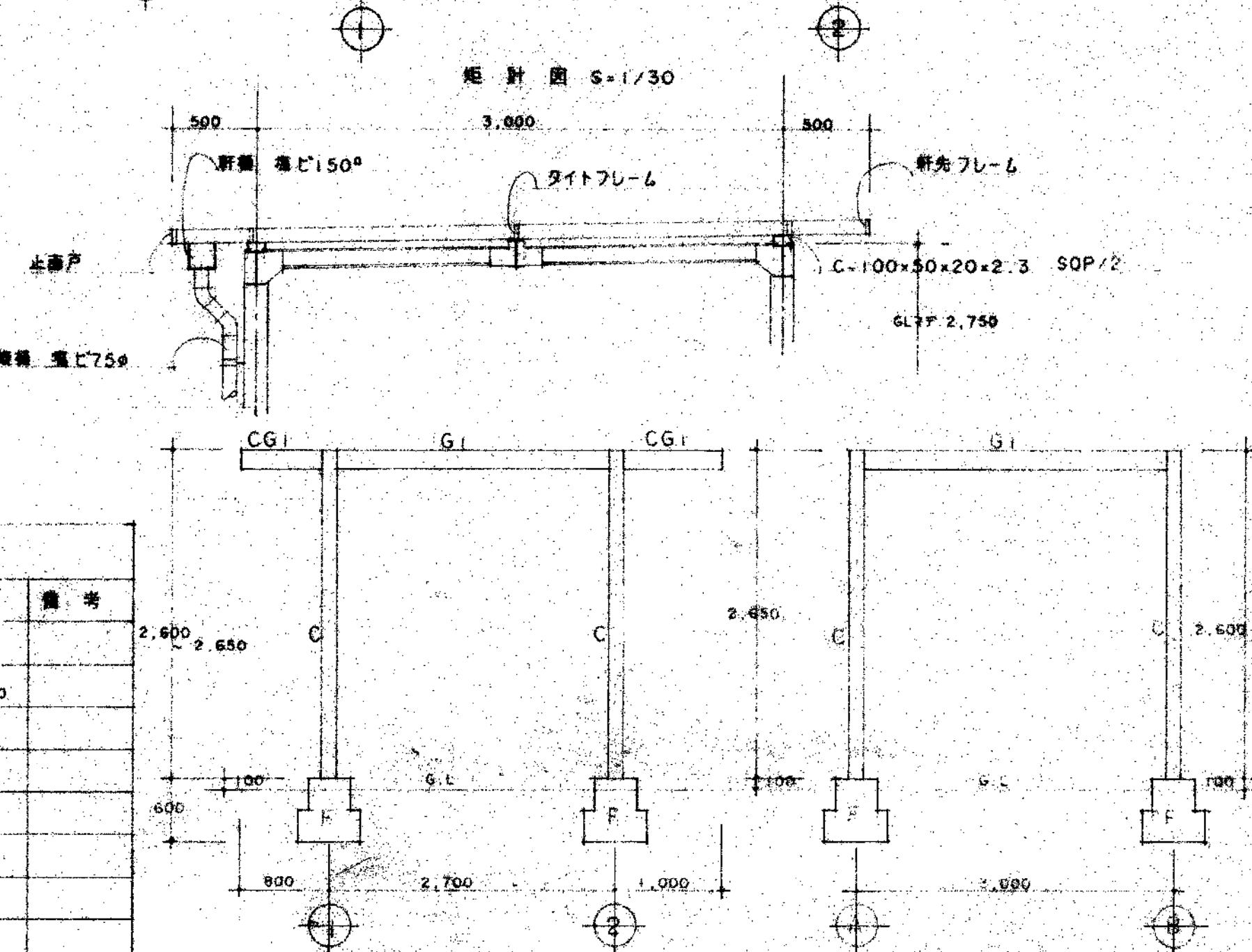


F 詳細図 S=1/20

鉄骨断面リスト				
記号	断面	A. BOLT, BASE PL, 継手, 仕口	備考	
C	H-175x90x5x8	A. BOLT 4-19 L=500 BASE PL-19x250x250		
G1	H-175x90x5x8	F. 16-M16 2PL-6 4PL-6	30x285 W.2-M16 40x285 2PL-6x165x80	
B1	H-150x75x5x7	PL-6 2-M16		
B2	H-100x50x5x7	PL-6 1-M16		
B3	H-100x50x5x7	PL-6 1-M16		
CG1	H-175x90x5x8	継手		
※ 平アール	1-16	PL-6 2-M16		



(A) 通り 軸組図 S=1/50



(1) (2) 通り 軸組図 S=1/50